

令和元年度

病院年報

第43号



伊勢崎市民病院

理 念

誠実で質の高い医療

基本方針

1. 安全な医療サービスに努めます
2. 急性期を中心とした医療を提供します
3. 救急医療の向上を図ります
4. がん診療の充実に努めます
5. 地域医療連携を推進します
6. 医療従事者の育成に努めます
7. 公共性と効率性の確保に努めます

まえがき

令和2年4月1日から伊勢崎市民病院の経営形態は、地方公営企業法の一部適用から全部適用に変わり、私は、令和2年3月31日をもって病院長を退任し、伊勢崎市長から新たに設置された伊勢崎市病院事業管理者に任命され、就任いたしました。

伊勢崎市民病院、介護老人保健施設ひまわり及び訪問看護ステーションいせさきの3事業全てを管理してまいりますので、社会情勢や地域経済を注視し、地域の医療機関、介護施設及び福祉施設などと連携し、市民が安心して生活できるように地域医療体制の充実を目指してまいります。

国においては、2025年、さらには2040年を見据え、地域医療構想、医師の働き方改革及び医師の偏在対策などを推進しております。令和元年9月に厚生労働省は、地域医療構想を促進するため、再編統合等の具体的な対応方針の再検証を要請する424の公立・公的医療機関を公表し、群馬県は4つの病院が対象となりました。

伊勢崎保健医療圏は、地域医療構想調整会議に加えて、他の医療地域に先駆けて医療圏内の11病院による構想部会を設立しており、病院のあり方等を議論した上で結果を地域医療調整会議に報告するという仕組みが来ています。厚生労働省の発表は、寝耳に水であり、11病院が今後も協力して地域医療を守っていきたいと考えております。

当病院は、平成30年度から2か年計画で病棟改修工事を行ってきましたが、令和2年3月に完了しました。臓器別編成を考慮した病床配置となることで、患者さんにとって、より快適な入院生活を過ごすことができると考えております。

診療面では、ハイブリッド手術室が本格的に稼働しており、心臓血管外科のステントグラフト内挿術及び整形外科の脊椎手術等に應用されております。さらに、脊椎手術や耳鼻咽喉科の手術に対しては、ナビゲーション装置を用いた手術も加わり、より安全な手術が可能になり、患者さん及び術者に多大な恩恵をもたらしています。

ダヴィンチを用いたロボット支援手術も泌尿器科の前立腺がん、腎がん、膀胱がん、外科の胃がん、直腸がんに対して行っており、令和元年度は、215件の手術を行いました。年々症例数が増加しているため、令和3年度にダヴィンチの更新を予定しています。今後も安全を担保した高度医療の導入に対して前向きに検討をしてまいります。

令和元年度末から拡大している新型コロナウイルス感染症は、健康を奪うばかりか、経済や病院経営にも大きな負の影響を与えています。今後も、地域の医療機関と協力して、地域の皆様の健康を守り、信頼される病院として頑張っまいりますので、お力添えのほどよろしくお願いいたします。

令和2年12月1日
伊勢崎市病院事業管理者
小林幹男

目 次

まえがき

I 病院の現況

1. 病院の概要	1
2. 位置と案内	6
3. 沿革	7
4. 施設の概要	18
5. 組織図	23
6. 職員の現況	24

II 業務統計

1. 医事統計	30
2. リハビリテーション科	42
3. 中央放射線科	48
4. 中央検査科	50
5. 臨床心理士業務件数	51
6. 分娩件数	53
7. 検診件数	53
8. 内視鏡センター検査、処置件数および生検件数	55
9. 手術件数	57
10. 透析件数	69
11. 中央材料件数	70
12. 薬剤部	71
13. 栄養科	73
14. 看護外来受診者数	74

III 災害拠点病院

1. 指定要件	75
2. 業務概要	75
3. 群馬県内の災害拠点病院	75
4. D M A T 活動	76

IV 地域がん診療連携拠点病院

1. 業務概要	78
2. 院内がん登録件数	79
3. 相談支援センター相談件数	81
4. 啓発事業	83
5. 外来化学療法センター	83
6. 緩和ケアチーム	84

V 地域医療支援病院

1. 地域医療支援病院について	85
2. 紹介患者に対する医療の提供	85
3. 連携登録医療機関	85
4. 地域医療連携業務統計	86

VI 入退院支援センター

1. 業務概要	88
2. 業務統計	88

VII チーム医療

1. 院内褥瘡対策委員会	93
2. N S T 委員会	94

3. 緩和ケアチーム	95
4. クリニカルパス委員会	96
5. 感染対策/抗菌薬適正支援チーム (ICT/AST)	97
6. 認知症ケアチーム	98
7. 排尿ケアチーム	99

VIII 経営状況

1. 損益計算書	100
2. 貸借対照表	101
3. 経営分析	102

IX 業務概要

1. 各科診療業務	104
2. 中央放射線科	114
3. 中央検査科	115
4. 臨床工学科	115
5. 栄養科	116
6. 看護部	116
7. 薬剤部	117
8. 経営企画部	118
9. 地域医療連携室	119
10. 医療安全管理室	120

X 会議・委員会・研究会・研修会等

1. 会議	123
2. 委員会	124
3. 院内外定期研究会および抄読会	129
4. 院内講演会および研修会	131
5. 院内看護部発表会	133
6. 臨床研修および臨地実習指導	134

XI 研究業績

1. 論文	139
2. 学会発表	142
3. 講演	156
4. C.P.C (示説会) 記録	164

XII 介護老人保健施設 ひまわり

XIII 訪問看護ステーション いせさき

XIV 群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室

XV 編集委員名簿

I 病院の現況

I 病院の現況

1. 病院の概要 (令和2年3月31日現在)

- (1) 開設者 伊勢崎市
- (2) 開設年月日 平成17年1月1日(伊勢崎佐波医療事務市町村組合から継承、組合開設 昭和23年5月24日)
- (3) 病院長 小林幹男
- (4) 所在地 〒372-0817 群馬県伊勢崎市連取本町12番地1
- (5) 電話番号 (0270) 25-5022 (代表) F A X (0270) 25-5023
- (6) 診療科目 内科、精神科(心療内科)、神経内科、循環器内科、内視鏡内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔外科、緩和ケア内科、救急科
- (7) 病床数 一般490床、感染症4床、計494床
- (8) 外来受付 午前8時30分～午前11時
- (9) 人間ドック 1日ドック 週5回
- (10) 人工透析 ベッド数 28床
- (11) 救急体制 救急センター、救急指定、第二次救急医療病院群輪番制
- (12) 集中治療室設置 I C U 8床
- (13) がん診断治療施設 MR診断装置(2台)、血管撮影装置(2台)、乳房撮影装置(2台)、全身用マルチスライスCT装置(2台)、SPECT-CT、放射線治療装置(ライナック)
- (14) リハビリテーション施設 理学療法室(心電図セントラルモニタ、プレステップ、エルゴメーター)
作業療法室 電動昇降式訓練用(キッチン、洗面化粧台、トイレット)
言語訓練室
- (15) 未熟児施設 ベッド数 7床、人工呼吸器、生体情報モニター、経皮酸素分圧測定装置
- (16) 病理解剖施設 病理組織検査室、検鏡室、電子顕微鏡室、解剖室、標本室

(17) 専門外来等

内 科	甲状腺・肝臓・消化器・喘息呼吸器・糖尿病
循 環 器 内 科	不整脈
神 経 内 科	もの忘れ
小 児 科	アレルギー・神経発達・慢性疾患・予防接種・乳児健診・内分泌
外 科	乳腺・肝胆膵・大腸肛門・呼吸器・甲状腺・食道胃・下部消化管 がん遺伝カウンセリング
整 形 外 科	股関節・小児股関節・膝関節
心 臓 血 管 外 科	下肢静脈瘤
皮 膚 科	特殊・レーザー

泌 尿 器 科	小線源・排尿機能・CAPD・腎・腎腫瘍・前立腺・前立腺腫瘍 前立腺ホルモン・前立腺パス・前立腺肥大症
産 婦 人 科	特殊
眼 科	特殊
耳 鼻 い ん こ う 科	特殊・補聴器
歯 科 口 腔 外 科	外来小手術
看 護 外 来	乳腺看護・緩和看護・糖尿病フットケア・糖尿病療養指導士・小児糖尿病療養 指導士・ストーマ・ウロストーマ・助産師・母乳
そ の 他	セカンドオピニオン

(18) 診療指定等

病院の指定状況等	
保険医療機関	指定自立支援医療機関（精神通院医療）
労災指定	原爆被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定	群馬県エイズ診療協力病院
指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）	管理栄養士必置指定施設
特定疾患・小児慢性特定疾患医療	指定難病指定医療機関
救急告示	短期人間ドック
第二種感染症指定医療機関	群馬県周産期協力医療機関
地域がん診療連携拠点病院	群馬県臨床検査値標準化施設認証
災害拠点病院（地域災害医療センター）	大腸癌研究会施設会員
国保療養取扱機関	群馬肺癌研究会幹事施設
養育医療機関	ステントグラフト実施施設
生活保護指定医療機関	マンモグラフィ検診施設
地域医療支援病院	NST稼働施設
肝疾患専門医療機関	

(19) 施設基準

基本診療料の施設基準等に関する届出事項	
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）	総合入院体制加算2
臨床研修病院入院診療加算（基幹型）	救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算	妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算2	医師事務作業補助体制加算1（15対1）
急性期看護補助体制加算（50対1）	看護職員夜間配置加算（16対1）
療養環境加算	重症者等療養環境特別加算
重症皮膚潰瘍管理加算	がん拠点病院加算
栄養サポートチーム加算	医療安全対策加算1
医療安全対策地域連携加算1	感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算	抗菌薬適正使用支援加算
患者サポート体制充実加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算	ハイリスク分娩管理加算
総合評価加算	後発医薬品使用体制加算1
病棟薬剤業務実施加算（1・2）	データ提出加算2
入退院支援加算1	入院時支援加算

地域連携診療計画加算	認知症ケア加算 1
特定集中治療室管理料 3	早期離床・リハビリテーション加算
小児入院医療管理料 4	プレイルーム加算
緩和ケア病棟入院料 1	

特掲診療料の施設基準等に関する届出事項	
糖尿病合併症管理料	がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料 (イ・ロ・ハ)	糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	小児科外来診療料
院内トリアージ実施料	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算
外来リハビリテーション診療料	外来放射線照射診療料
ハイリスク妊産婦共同管理料 (I)	がん治療連携計画策定料
がん治療連携管理料	排尿自立指導料
薬剤管理指導料	医療機器安全管理料 (1・2・歯科)
歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医学管理料	持続血糖測定器加算
遺伝学的検査	HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)
検体検査管理加算 (I・IV)	植込型心電図検査
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	ヘッドアップティルト試験
皮下連続式グルコース測定	神経学的検査
小児食物アレルギー負荷検査	画像診断管理加算 1・2
CT撮影及びMRI撮影	冠動脈CT撮影加算
乳房MRI撮影加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1	無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
運動器リハビリテーション料 (I)	呼吸器リハビリテーション料 (I)
がん患者リハビリテーション料	歯科口腔リハビリテーション料 2
エタノールの局所注入 (甲状腺・副甲状腺)	人工腎臓 (慢性維持透析を行った場合 1)
導入期加算 1	透析液水質確保加算 2
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	センチネルリンパ節加算
組織拡張器による再建手術 (一連につき) (乳房 (再建手術) の場合に限る。)	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検 (併用)	乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検 (単独)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後)	経皮的冠動脈形成術
食道縫合術 (穿孔、損傷) (内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、腎 (腎盂) 腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの) 及び膀胱腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)	
経皮的冠動脈ステント留置術	経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)
胸腔鏡下弁形成術	胸腔鏡下弁置換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)
補助人工心臓	胸腔鏡下胃切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	膀胱水圧拡張術

腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
人工尿道括約筋植込・置換術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術	手術の休日加算 1
手術の時間外加算 1	手術の深夜加算 1
輸血管管理料 I	輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	麻酔管理料 (I・II)
放射線治療専任加算	外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療	1 回線量増加加算
画像誘導放射線治療加算 (IGRT)	体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療	定位放射線治療呼吸移動対策加算
クラウン・ブリッジ維持管理料	

食事療養に関する基準	
入院時食事療養 (I)	食堂加算
特別食加算	

(20) 教育指定等

臨床研修病院 (基幹型) (平成 15 年 10 月 30 日厚生労働省指定)	
臨床研修病院 (平成 3 年 4 月 1 日厚生省指定)	
日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本小児科学会小児科専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本神経学会専門医制度准教育施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	日本泌尿器科学会専門医制度基幹教育施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	日本医学放射線学会専門医制度修練機関
日本脳神経外科学会専門医研修プログラム (研修・関連) 施設	日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本呼吸器学会専門医制度認定施設
日本病理学会認定病理専門医制度研修認定施設 B	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 (内科)	日本肝臓学会認定施設
日本消化器外科学会専門医制度修練施設	日本呼吸器外科学会専門医制度連携施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定基幹施設	日本心臓血管外科手術データベース施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	日本大腸肛門病学会専門医認定施設
日本透析医学会専門医制度認定施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 (連携施設)
日本ペインクリニック学会指定研修施設	日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
日本臨床細胞学会認定施設	日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設	日本脈管学会研修指定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本医学教育学会機関会員
日本緩和医療学会認定研修施設	日本人間ドック学会会員施設
認定臨床微生物検査技師制度研修施設	日本消化器がん検診学会認定指導施設
群馬大学産婦人科研修プログラム専門研修連携施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本口腔外科学会認定准研修施設	太田医療技術専門学校臨床工学科実習施設
伊勢崎敬愛看護学院実習施設	桐生大学医療保健学部看護学科実習施設

桐生大学医療保健学部栄養学科実習施設	群馬大学医学部医学科卒前教育臨床実習施設
群馬県立県民健康科学大学看護学部実習施設	群馬パース大学保健科学部看護学科実習施設
群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻実習施設	上武大学看護学部看護学科実習施設
群馬大学医学部保健学科作業療法学専攻実習施設	高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科実習施設
群馬パース大学保健科学部検査技術学科実習施設	高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科実習施設
西武学園医学技術専門学校臨床検査科実習施設	高崎健康福祉大学薬学部実習施設
高崎健康福祉大学健康福祉学部健康栄養学科実習施設	帝京大学医療技術学部臨床検査学科実習施設
高崎健康福祉大学保健医療学部理学療法学科実習施設	東邦大学薬学部実習施設
日本看護協会看護研修学校臨地実習施設	東群馬看護専門学校母性看護・小児看護学実習施設
本庄児玉看護専門学校実習施設	前橋医療福祉専門学校医療秘書学科実習施設
目白大学保健医療学部言語視覚学科実習施設	桐生大学別科助産専攻実習施設
目白大学保健医療学部理学療法学科実習施設	群馬医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科実習施設
群馬県立県民健康科学大学診療放射線学部実習施設	

2. 位置と案内

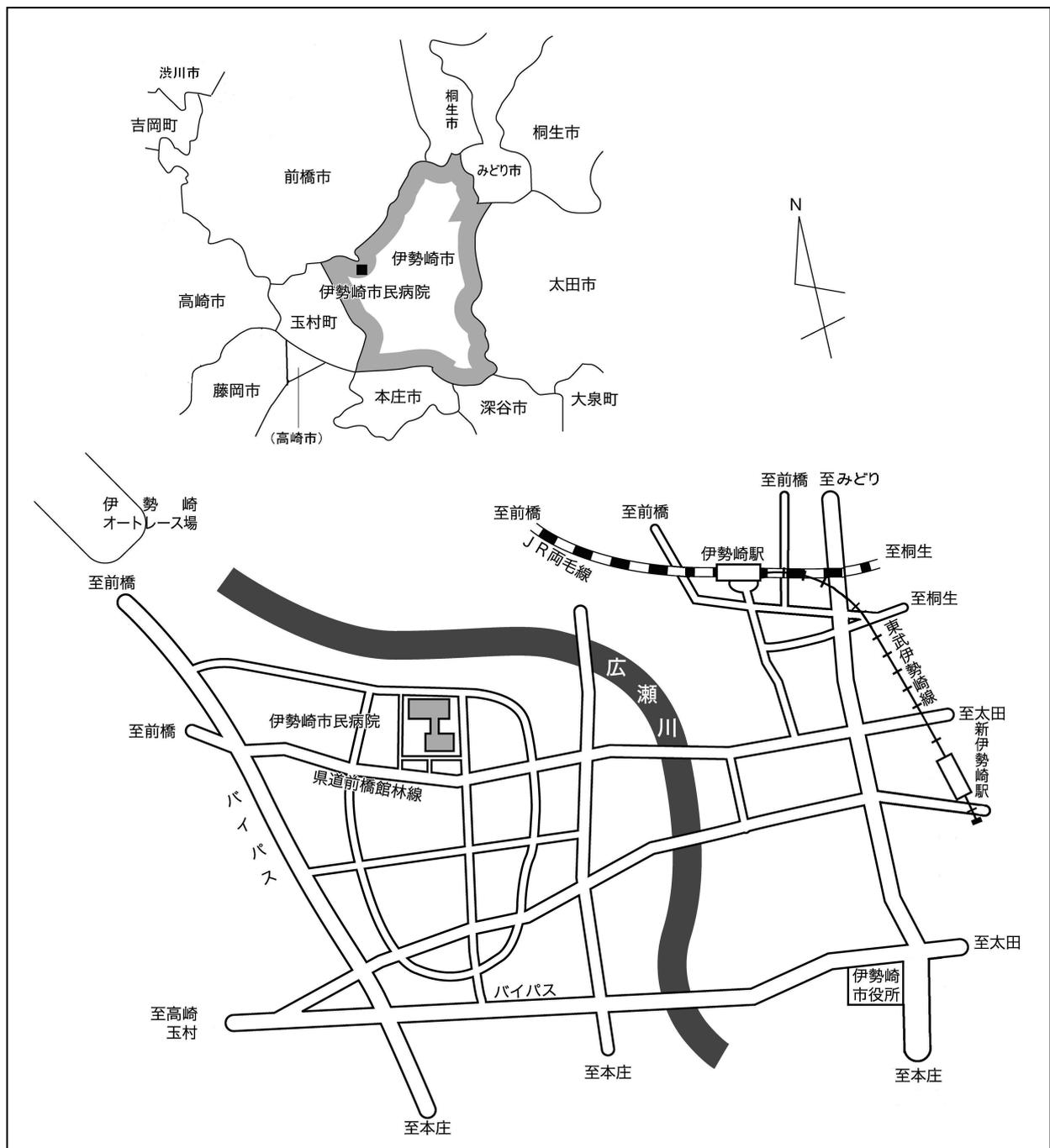
本市は群馬県南東部、関東平野の北西に位置し、前橋市、高崎市、桐生市、太田市、みどり市などの群馬県の主要都市に囲まれ、その中央部に位置しています。また、赤城山麓の南面に位置し、北部に一部丘陵地があるほか、全体はほぼ平坦地であり、南部には利根川が流れ、その支流である広瀬川、粕川、早川、葦川などの河川や沼池があります。

交通はJR両毛線と東武伊勢崎線が結節する鉄道交通の要衝であるとともに、北関東自動車道が東西に横断し、伊勢崎インターチェンジ、波志江PA・スマートインターチェンジが設置されています。また、東部を貫通する国道17号線上武国道、南北を結ぶ国道462号線と県道伊勢崎大間々線、さらに北に国道50号線、南に国道354号線が東西に横断しています。そのほか主要地方道が市の中心部から放射状に伸びており、交通アクセスに恵まれています。

気候は県内では比較的温暖で、雨の日が少なく日照時間が長いという特徴があります。冬季は「上州のからっ風」と呼ばれる寒風が吹きます。

面積は、139.44 km²、東西13.1 km、南北約18.4 kmで南北にやや細長い形状をしています。

人口は、約21万3千人で県内12市中4番目の人口規模を持つ都市です。



3. 沿革

昭和23年	5月24日	佐波伊勢崎医療事務市町村組合を設立し日本医療団より土地建物施設(西町)一切を譲り受ける
	7月20日	佐波伊勢崎国民健康保険団体連合会を設立 名称「伊勢崎病院」
昭和24年	6月10日	幸町小暮病院土地建物買収(23床)
	11月30日	西町(現三光町)より幸町(現中央町)へ病院移転
	12月1日	診療開始
昭和26年	12月23日	病棟、診療棟、レントゲン室、産院増築(計75床)
昭和37年	11月8日	伊勢崎佐波医療事務市町村組合 と改称
昭和38年	7月23日	病院開設許可(200床)
	9月10日	新病院起工
昭和39年	7月14日	救急病院告示
	8月31日	新病院完成(200床)
	9月30日	佐波伊勢崎国民健康保険団体連合会 解散
	10月1日	新病院開設 初代管理者 伊勢崎市長 中澤豊七氏就任 初代病院長 平山圭一郎氏就任 診療科目 内科、神経科、小児科、外科、整形外科、皮膚泌尿器科、産婦人科、眼科、 耳鼻いんこう科、理学診療科、歯科
	10月26日	病院施設使用許可(200床)
昭和40年	1月4日	人間ドック開設
	4月1日	地方公営企業法一部適用(財務規定等)
	9月16日	総合病院の名称承認
昭和41年	12月15日	自治大臣から財政再建団体としての指定を受け、財政健全化のための計画を樹立
昭和42年	3月14日	財政再建計画承認申請の承認
	3月18日	病院開設許可事項一部変更許可(伊勢崎伝染病院市町村組合立伝染病棟(45床)を伊勢崎病院敷地内に併設)
	5月2日	第二代管理者 伊勢崎市長 下城義三郎氏就任
昭和44年	7月1日	第二代病院長 岡村輝彦氏就任
昭和45年	5月7日	第三代管理者 伊勢崎市長 下城雄索氏就任
昭和47年	3月31日	財政再建完了
昭和48年	4月1日	医師陣の群馬大学医学部全面移行 第三代病院長 近藤忠徳氏就任 初代名誉院長 七條小次郎氏就任
昭和49年	4月1日	皮膚科、泌尿器科医師常勤
昭和50年	1月23日	病理医師常勤
	6月16日	病棟増改築工事着工(昭和49年度より昭和51年度まで3ヵ年継続事業)
昭和51年	1月23日	病院開設許可事項一部変更許可(200床増、一般病床計400床)
	9月1日	病院施設使用許可(一般病床計242床)
	11月30日	病棟増改築工事竣工

昭和 52 年	5 月 1 日	病院施設使用許可(一般病床計 284 床)
	6 月 1 日	院内保育所開設(定員 20 名)
昭和 53 年	1 月 1 日	脳神経外科新設、同科医師及び耳鼻いんこう科医師常勤
	4 月 8 日	群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室開設
	5 月 1 日	病院施設使用許可(一般病床計 344 床)
	9 月 1 日	放射線科新設
	11 月 8 日	頭部用 CT 導入
昭和 54 年	3 月 1 日	年報第 1 号発行
	4 月 1 日	病院名を伊勢崎病院から 伊勢崎市民病院 に改称 伊勢崎佐波広域市町村圏振興整備組合から伊勢崎伝染病院の移管をうける(伝染病床 45 床) 群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室を群馬県立東毛養護学校伊勢崎市民病院分教室に名称変更 循環器科新設、同科医師常勤
	5 月 1 日	病院施設使用許可(一般病床計 390 床)
	6 月 11 日	眼科医師常勤
	10 月 1 日	指定出納取扱金融機関の伊勢崎信用金庫が病院内に会計窓口を開設
昭和 55 年	4 月 1 日	群馬県立東毛養護学校伊勢崎市民病院分教室が群馬県立東毛養護学校伊勢崎分校に昇格 群馬県救急医療システムスタート(当病院に特Ⅱ型の端末機設置)
昭和 56 年	2 月 19 日	ガンマカメラ導入
	6 月 2 日	麻酔科新設、同科医師常勤
	9 月 1 日	自治省財政局「公立病院経営改善事例集」(昭和 56 年度分)調査対象(基幹病院 3、地域中核病院 10、地区病院 11、へき地病院 11)のモデル病院として地域中核病院 10 病院の中に選ばれる
昭和 57 年	10 月 1 日	コンピュータ入院診療会計業務開始
	11 月 1 日	コンピュータ外来診療会計業務開始
昭和 58 年	2 月 1 日	老人保健法施行
	3 月 1 日	コンピュータ薬剤管理業務開始
	9 月 16 日	中国研修医受入(研修期間 6 ヶ月) 陝西省西安市西安医学院第二附属医院 李 秀林 病理解剖学教研組付教授 張 彩霞 講師兼内科主治医師
	12 月 25 日	全身用 CT 導入
昭和 59 年	10 月 20 日	開院 20 周年記念式典を伊勢崎市文化会館において挙行
昭和 60 年	4 月 1 日	コンピュータ財務管理、経理業務開始
昭和 61 年	6 月 3 日	病院増改築工事着工(昭和 60 年度より昭和 62 年度まで 3 ヶ年継続事業)
	7 月 1 日	放射線科医師常勤
	8 月 26 日	病院開設許可事項一部変更許可(50 床増、一般病床計 440 床)
	11 月 1 日	患者給食午後 6 時配膳実施
昭和 62 年	3 月 31 日	初代名誉院長 七條小次郎氏退任
	5 月 22 日	自治体立優良病院表彰制度に基づく全国自治体病院開設者協議会会長及び全国自治体病院協議会会長表彰受賞

	6月 22日	病院施設使用許可(南病棟 100 床増、東病棟 50 床減、一般病床計 440 床)
	10月 1日	薬剤師当直開始
昭和 63 年	3月 31日	病院増改築工事竣工
	7月 1日	診療放射線技師、臨床検査技師当直開始
平成 元年	10月 1日	運動療法施設基準実施承認
	10月 21日	開院 25 周年記念式典を伊勢崎市文化会館において挙行
平成 2 年	4月 1日	患者食適温給食実施
	6月 1日	精神神経科医師常勤
	9月 29日	中国研修医受入(研修期間 3 ヶ月) 薛 友麗 陝西省 渭南地区医院 副主任医師 龍 志正 陝西省 西安市蘭田県人民医院 主治医師
	10月 1日	内科外来診療予約制実施
	12月 1日	投薬の施設基準に係る承認 産婦人科外来診療予約制実施
平成 3 年	2月 28日	MR 診断装置 (1.5T) 導入
	4月 1日	臨床研修病院指定
	7月 10日	第 44 回病院管理実地研究会を当病院において開催(全国自治体病院開設者協議会・全国自治体病院協議会共催)
平成 4 年	9月 9日	救急医療・救急業務功労団体として群馬県知事表彰受賞
	9月 14日	全科外来診療予約制実施
	12月 1日	特別管理給食加算承認
平成 5 年	3月 1日	第四代管理者 伊勢崎市長 高橋基樹氏就任
	5月 13日	平成 5 年度自治体立優良病院自治大臣表彰受賞
	6月 1日	無菌製剤処理の施設基準に係る承認
	6月 7日	完全週休 2 日制実施
平成 6 年	4月 1日	院外処方せん発行 (皮膚科、眼科)
	7月 1日	院外処方せん発行 (産婦人科、耳鼻いんこう科)
	9月 1日	脳ドック開始
	10月 1日	骨ドック開始
	10月 22日	開院 30 周年記念式典を伊勢崎市文化会館において挙行
	11月 30日	循環器 X 線診断システム導入
	12月 1日	新看護料 2.5:1 看護(A)加算 看護補助料 13:1 届出受理
平成 7 年	6月 1日	新看護料 2.5:1 看護(A)加算 看護補助料 10:1 届出受理
	6月 6日	選択メニュー 全病棟 毎週火・木曜実施
	10月 1日	歯科口腔ドック開始
平成 8 年	4月 1日	病院改築工事着工 (平成 6 年度より平成 9 年度まで 4 ヶ年継続事業)
	5月 8日	群馬県エイズ診療協力病院指定
	6月 1日	院外処方せん発行(小児科、歯科口腔外科)
	9月 2日	前立腺ドック開始

	9月 13日	中国研修医受入(研修期間3ヵ月) 于 西萍 陝西省婦幼保健院 主治医師 胡 海田 陝西省人民医院 住院医師
	12月 16日	リアルタイムヘリカル CT 導入
平成 9 年	2月 4日	選択メニュー 全病棟 毎週火・水・木曜実施
	3月 31日	病院開設許可事項一部変更許可(一般病床60床増、計500床、伝染病床、30床)
	4月 1日	群馬県立東毛養護学校伊勢崎分校を群馬県立赤城養護学校伊勢崎分校に改称
	7月 29日	腸管出血性大腸菌感染症における透析治療協力医療機関指定
平成 10 年	2月 27日	第2期病院改築工事着工(平成9年度から平成11年度まで3ヵ年継続事業)
	3月 15日	病院改築工事竣工
	3月 30日	放射線治療装置(ライナック)導入
	4月 3日	病院施設使用許可(一般病床500床、伝染病床30床)
	5月 6日	新病院稼働(トータルオーダーリングシステム導入)
	6月 1日	神経内科、形成外科開設、神経内科医師常勤
平成 11 年	1月 4日	検診センター・腎センター稼働
	1月 6日	災害拠点病院(地域災害医療センター)指定
	4月 1日	事務局組織改革 病院建設課廃止 担当制導入 感染症の治療及び患者に対する医療に関する法律施行(感染症4床) 院外処方せん発行(整形外科、泌尿器科)
	5月 1日	形成外科医師常勤
	5月 12日	老人保健施設ひまわり開設 (一般26床、痴呆加算24床)
	6月 1日	院外処方せん発行(放射線科、麻酔科)
	9月 1日	老人訪問看護ステーション開設 、レストラン棟開設
	10月 16日	職員共済会35周年記念事業開催
	10月 28日	心臓血管外科新設
	11月 1日	新看護料2:1、看護(A加算)届出受理
	12月 31日	病院北駐車場借用地返還 伊勢崎市西部第一土地区画整理組合 34,250 m ² 、 伊勢崎市都市計画事業西部土地区画事業(伊勢崎市)5,750 m ²
平成 12 年	1月 11日	病院駐車場機械化整備
	3月 31日	第2期病院改築工事竣工
	4月 1日	介護保険法施行 介護老人保健施設ひまわり(一般50床)及び訪問看護ステーションいせさきと改称
	6月 1日	診療録管理体制加算・脊髄刺激装置植込術・脊髄刺激装置交換術届出受理
	7月 28日	病院施設使用許可申請許可 524床(4階病棟一般20床増、計520床・感染症病床4床)
	7月 31日	4階病棟人間ドック移設、ホームページ開設 (http://www.hospital.isesaki.gunma.jp)
	8月 1日	補聴器適合検査届出受理
	9月 1日	計量管理規定の認可(電子顕微鏡)
	10月 1日	心臓ドック開始
	11月 29日	角度可変型3検出器ガンマカメラ(スペクト)導入

平成 13 年	1 月 1 日	作業療法(Ⅱ)の受理 リハビリテーション科作業療法開始	
	2 月 1 日	院外処方せん発行(外科・脳神経外科・形成外科)	
	2 月 28 日	第五代管理者 伊勢崎市長 矢内一雄氏就任	
	3 月 1 日	院外処方せん発行(内科・循環器科・精神神経科・神経内科・心臓血管外科)	
	4 月 1 日	第四代病院長 荒井泰道氏就任 第二代名誉院長 近藤忠徳氏就任	
平成 14 年	12 月 25 日	全身用マルチスライスCT装置導入	
平成 14 年	1 月 31 日	病院開設許可事項一部変更許可(病院・老人保健施設薬局共用)	
	2 月 15 日	病院施設使用申請許可(病院・老人保健施設薬局共用)	
	4 月 1 日	地域医療連携室開設、肺癌ドック開始	
	7 月 1 日	感染管理室開設	
	10 月 23 日	病院機能評価訪問審査	
平成 15 年	1 月 20 日	病院機能評価認定(一般病院種別B)	
	2 月 1 日	緩和ケア診療加算届出受理 緩和ケアチーム設置	
	10 月 30 日	管理型臨床研修病院指定(厚生労働省)	
	11 月 22 日	病院地番変更(土地区画整理による 連取町 1180 番地から連取本町 12 番地1に変更)	
	12 月 25 日	病院開設許可事項一部変更許可(病院増築工事 1、2、3 階の一部)	
平成 16 年	1 月 5 日	女性総合外来開設	
	3 月 15 日	レセプト電算処理開始届(4 月請求分から)	
	3 月 25 日	病院増築工事竣工(1、2、3 階の一部)	
	3 月 30 日	病院施設使用申請許可(救急外来の一部)	
	4 月 1 日	医療安全管理室設置 褥瘡患者管理加算届出受理	
	5 月 1 日	臨床研修病院入院診療加算届出受理	
	6 月 1 日	外来化学療法届出受理	
	12 月 31 日	伊勢崎佐波医療事務市町村組合解散 (構成団体:伊勢崎市、佐波郡赤堀町、同郡東村、同郡境町及び同郡玉村町) 玉村町を除く 4 市町村の合併により、 新市(伊勢崎市)に承継	
	平成 17 年	1 月 1 日	伊勢崎市を開設者とする 病院開設許可、使用許可 (一般病床 520 床、感染症病床 4 床)、 介護老人保健施設開設許可(50 床)及び訪問看護ステーション開設許可、薬剤管理指導料届出受理
		1 月 31 日	病院開設許可事項一部変更許可(前立腺小線源治療室)
2 月 28 日		第二次病院総合情報システム完了(平成 15 年 9 月からの継続事業)	
3 月 28 日		災害派遣医療チーム(DMAT)資格取得	
3 月 31 日		病院施設使用申請許可(前立腺小線源治療室)	
4 月 26 日		前立腺がん密封小線源療法開始	
5 月 18 日		入院において電子カルテ運用開始	
6 月 1 日		群馬県周産期協力医療機関認定	
10 月 1 日		セカンドオピニオン外来開設	
11 月 1 日		NST(栄養サポートチーム)稼働施設認定(日本静脈経腸栄養学会)	

平成 18 年	1 月 4 日	治験管理室開設
	3 月 3 日	DPC 対象病院として調整係数通知(18 年 6 月から開始)
	3 月 31 日	マルチスライス CT 装置導入、PACS 及び放射線部門情報システム導入
	4 月 1 日	院外処方完全実施
		一般入院基本料 10 対 1、救急医療管理加算、乳幼児救急医療管理加算、栄養管理実施加算、医療安全対策加算、ハイリスク分娩管理加算、運動器リハビリテーション料(Ⅰ)、脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)、小児食物アレルギー負荷検査、コンタクトレンズ検査料 1、単純 CT 撮影及び単純 MRI 撮影、歯科治療総合医学管理料、歯科疾患総合指導料届出受理
	5 月 29 日	病院開設許可事項一部変更許可(一般病床を ICU4 床に変更)
	5 月 30 日	病院施設使用申請許可(一般病床を ICU4 床に変更)
	6 月 23 日	病院開設許可事項一部変更許可(集中治療室増改修工事に伴う ICU8 床外変更)
	7 月 1 日	特定集中治療室管理料(4 床)、呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)届出受理
	8 月 24 日	がん診療連携拠点病院指定(厚生労働省)
	9 月 1 日	がん診療連携拠点病院加算届出受理
	9 月 29 日	病院開設許可事項一部変更許可(言語聴覚療法室)
	10 月 1 日	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)届出受理
	10 月 5 日	病院施設使用申請許可(言語聴覚療法室) 言語聴覚療法開始
	11 月 1 日	輸血管理料Ⅰ届出受理
	12 月 1 日	敷地内禁煙実施
	12 月 26 日	病院施設使用申請許可(集中治療室増改修工事に伴う ICU6 床外)
平成 19 年	1 月 1 日	褥瘡ハイリスク患者ケア管理加算届出受理 集中治療室 6 床運用
	3 月 1 日	エタノール局所注入届出受理
	3 月 15 日	集中治療室増改修工事竣工
	3 月 27 日	病院施設使用申請許可(集中治療室増改修工事に伴う ICU2 床外)
	4 月 1 日	8 階 B 病棟を「循環器センター」化 レセプトオンライン化
	5 月 1 日	緩和ケア診療加算届出受理
	5 月 16 日	輸血システム稼動
	6 月 1 日	特定集中治療室管理料 8 床届出受理
	7 月 1 日	院内保育所土曜日保育開始
	10 月 23 日	病院機能評価訪問審査(更新)
	11 月 1 日	一般入院基本料 7 対 1 届出受理
	12 月 3 日	外来診療の順番表示開始
	12 月 25 日	病院開設許可事項一部変更許可(南棟 2 階の一部構造及び用途等変更) (病床種別病床数の変更、一般病床 17 床の増床)
平成 20 年	1 月 20 日	病院機能評価認定更新(Ver. 5)
	2 月 1 日	生命保険等にかかる診断書作成支援システム稼動

	3月 1日	看護必要度入力支援システム稼動
	3月 31日	FPDパイプラインフルデジタルIVRシステム導入 第二代名誉院長 近藤忠徳氏退任
	4月 1日	院内保育所 24 時間保育開始 超急性期脳卒中加算、妊産婦緊急搬送入院加算、ハイリスク妊婦管理加算、 後期高齢者退院調整加算届出受理
	6月 1日	医師事務作業補助体制加算(75 対 1)届出受理
	8月 1日	伊勢崎市民病院経営検討委員会設置
	9月 1日	小児入院医療管理料 2 届出受理
	11月 1日	伊勢崎市民病院経営検討審議会設置
平成 21 年	1月 1日	入院時医学管理加算届出受理
	1月 23日	第六代管理者 伊勢崎市長 五十嵐清隆氏就任
	3月 16日	伊勢崎市民病院経営検討審議会から伊勢崎市民病院の経営改革、今後のあり方に関する答申書が 提出される
	3月 17日	病院開設許可事項一部変更許可(緩和ケア病棟床面積変更)
	3月 18日	病院開設許可事項一部変更許可(本館棟 17 床減)
	3月 19日	がん診療総合センター(緩和ケア病棟竣工)
	3月 30日	伊勢崎市民病院改革プラン及び伊勢崎市民病院経営健全化計画策定
	3月 31日	病院施設使用申請許可(緩和ケア病棟 17 床)
	4月 1日	小児入院医療管理料 3、プレイルーム加算届出受理 医師事務作業補助体制加算(100 対 1)届出受理
	6月 1日	緩和ケア病棟入院料(17 床)届出受理 褥瘡ハイリスク患者ケア管理加算辞退届出
	7月 1日	災害派遣医療チーム群馬DMA T 病院指定
	8月 31日	がん診療総合センター(内視鏡センター、外来化学療法センター)竣工
	9月 14日	病院施設使用申請許可(内視鏡センター、外来化学療法センター)
	9月 24日	一般撮影(CR・FPD)システム、画像配信(PACS)システム導入
	10月 1日	相談支援センターを 1 階外来棟から 2 階がん診療総合センターに移動 がんサロンオアシス開設 外来化学療法加算 I (31 床)届出受理
	11月 1日	外来化学療法加算 I (20 床)届出受理 医師事務作業補助体制加算(75 対 1)届出受理
平成 22 年	2月 1日	経皮的冠動脈形成術届出受理
	3月 25日	紹介患者専用受付を旧栄養科相談室に移動(栄養科相談室は旧治験管理室に移動)
	4月 1日	救急医療管理加算、乳幼児救急医療管理加算、感染防止対策加算、救急搬送患者地域連携受入加算、 がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者カウンセリング料、がん治療連携計画策定料、 肝炎インターフェロン治療計画料、センチネルリンパ節生検、CT撮影及びMRI撮影、 抗悪性腫瘍剤処方管理加算、透析液水質確保加算、乳がんセンチネルリンパ節加算 1・2、補助人工心臓、 体外衝撃波胆石破碎術、麻酔管理料(I)(II)、運動器リハビリテーション料(I)届出受理

	4月 8日	第二売店(コンビニエンスストア)オープン
	4月 15日	看護師研修室常設
	5月 1日	HPV 核酸同定検査届出受理
	6月 1日	輸血管管理料 I 届出受理
	7月 1日	検体検査管理加算(Ⅱ)届出受理
	8月 1日	急性期看護補助体制加算 2(75 対 1)、医師事務作業補助体制加算(50 対 1) 届出受理 逆紹介専用窓口開設
	8月 24日	総務省経営アドバイザー派遣事業実施
	8月 25日	総務省経営アドバイザー派遣事業実施
	10月 1日	栄養サポートチーム加算届出受理
	11月 1日	院内保育所定員増員(定員 25 名)
	12月 18日	循環器 X 線診断システム更新
平成 23 年	1月 4日	歯科口腔外科で全曜日の紹介型外来を開始
	2月 1日	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術届出受理
	3月 11日	DMAT(災害派遣医療チーム)東日本大震災被災地派遣(福島県・宮城県:隊員ほか計 10 名)
	3月 22日	病院職員定数改正議決(定数 726 名)
	4月 1日	全診療科で火曜日及び金曜日の紹介型外来を開始(歯科口腔外科を除く)
	6月 10日	関東信越厚生局による基本診療科・特掲診療科の施設基準等適時調査
	6月 22日	地域医療支援病院承認(群馬県知事)
	10月 1日	第三次病院総合情報システム電子カルテ等基幹システム稼働開始(平成 23 年度から 3 箇年継続事業)
	11月 1日	医師事務作業補助体制加算(25 対 1) 届出受理
	11月 3日	MR診断装置(1.5T)更新
	12月 9日	伊勢崎市民病院経営検討審議会から伊勢崎市民病院の経営健全化に係る評価意見書が提出される
平成 24 年	3月 31日	外来透析食、食事配膳終了
	4月 1日	第五代病院長 小林幹男氏就任 第三代名誉院長 荒井泰道氏就任 放射線診断科、放射線治療科、緩和ケア内科、救急科新設 一般病棟入院基本料 7 対 1(新基準)、救急管理加算、感染防止対策加算 I、 感染防止対策地域連携加算、救急搬送患者地域連携紹介加算、データ提出加算、 糖尿病透析予防指導管理料、夜間休日救急搬送医学管理料、外来リハビリテーション診療料、 時間内歩行試験、ヘッドアップルティルト試験、CT撮影及びMRI撮影、脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)初期加算、運動器リハビリテーション料(I)初期加算、呼吸器リハビリテーション料(I)初期加算、 輸血管管理料及び輸血適正使用加算、病理診断管理加算届出受理
	5月 1日	内視鏡内科新設 院内トリアージ実施料、外来放射線照射診療料届出受理
	6月 1日	後発医薬品使用体制加算 2、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術届出受理
	6月 13日	病院開設許可事項一部変更許可(本館1階の一部構造及び用途変更)
	8月 1日	入退院支援センター開設 患者サポート充実加算届出受理

	9月 1日	医師事務作業補助体制加算(20対1)届出受理
	10月 1日	外来において電子カルテ運用開始 データ提出加算2届出受理
	11月 1日	先進医療 実物大臓器立体モデルによる手術支援(大腿骨頭置換術における)届出受理
	12月 1日	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算届出受理
平成25年	2月 28日	病院施設使用許可(本館1階診察室、待合廊下、廊下)
	3月 6日	新放射線治療装置(ライナック)稼働
	3月 31日	第三代名誉院長 荒井泰道氏退任
	7月 1日	心大血管疾患リハビリテーション料(I)届出受理
	8月 26日	病院開設許可事項一部変更許可(本館4階の一部構造及び用途変更)
	9月 1日	通院二日ドック開始 医師事務作業補助体制加算(I)届出受理
	10月 1日	検体検査管理加算(IV)届出受理 新CT装置稼働(64列)
	11月 1日	定位放射線治療、画像誘導放射線治療、呼吸性移動対策加算 冠動脈CT撮影加算、CT撮影加算、(128列)届出受理 新CT装置稼働(128列×2管球)
	12月 9日	伊勢崎市民病院の経営改革、今後のあり方に関する答申書(最終答申)
	12月 11日	伊勢崎市民病院中期経営計画策定
平成26年	1月 1日	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 届出受理 小児入院医療管理料4 24床→33床変更届出
	3月 28日	病院開設許可事項一部変更許可(本館4階の廊下及び透析室)
	3月 31日	新腎センター稼働
	4月 1日	病院施設使用許可申請許可504床(4階病棟一般20床減、計500床・感染症病床4床) 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)、 医療機器安全管理料(歯科)、歯科口腔リハビリテーション料2、口腔病理診断管理加算1、 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 胃瘻造設術、経皮的冠動脈形成術、 経皮的冠動脈ステント留置術、がん患者指導管理料2、がん患者指導管理料3、 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術、医療機器安全管理料2 届出受理 内科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
	5月 1日	医師事務作業補助体制加算1 20対1 補助体制加算、体外衝撃波腎石破砕術 届出受理
	7月 1日	透析液水質確保加算2届出受理
	9月 1日	内視鏡手術用支援機器加算 届出受理 手術支援ロボット稼働
	10月 1日	がん患者リハビリテーション料 届出受理
平成27年	3月 1日	特定集中治療室管理料3 届出受理
	3月 1日	ホームページリニューアル
	4月 1日	一日ドックSコース開始
	6月 3日	小児糖尿病療養指導士外来開設

	8月 1日	手術の休日加算1、手術の時間外加算1、手術の深夜加算1 届出受理
	8月 1日	持続血糖測定器加算、皮下連続式グルコース測定 届出受理
	10月 22日	病院機能評価訪問審査
	23日	病院機能評価訪問審査
	12月 1日	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 届出受理
平成 28 年	1月 15日	病院機能評価認定（一般病院 2、緩和ケア病棟）
	3月 7日	新入退院支援センター稼働
	4月 1日	一般病床を 490 床に減床
	4月 1日	下肢末梢動脈指導管理加算 届出受理
	5月 1日	膀胱水圧拡張術、退院支援加算（加算1） 届出受理
	7月 1日	医師事務作業補助体制加算 1 15 対 1 届出受理
	8月 1日	小児入院医療管理料 3 33 床→35 床変更届出、病棟薬剤業務実施加算 1 届出受理
	9月 1日	3-Dマンモグラフィ装置更新
平成 29 年	1月 1日	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）、神経学的検査 届出受理
	1月 31日	SPECT-CT装置更新
	2月 1日	看護職員夜間配置加算（夜間配置加算 16 対 1）、認知症ケア加算 1、排尿自立指導料 届出受理
	3月 16日	伊勢崎市民病院新改革プランおよび新公立病院改革プランに関する事業推進計画（アクションプラン）策定
	4月 1日	総合入院体制加算 2 届出受理
	7月 1日	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後） 届出受理
	9月 1日	新第1駐車場使用開始
	9月 8日	産科医療功労者厚生労働大臣表彰受賞
平成 30 年	1月 26日	MRI装置更新（3 テスラ）
	4月 1日	医療安全対策地域連携加算1、抗菌薬適正使用支援加算、入院時支援加算、夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）、人工腎臓（慢性維持透析を行った場合1）、導入期加算1 届出受理
	5月 1日	胸腔鏡下弁形成術、胸腔鏡下弁置換術、食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） 届出受理
	5月 14日	ハイブリッド手術室稼働
	6月 1日	後発医薬品使用体制加算1、特定集中治療室管理料3（早期離床・リハビリテーション加算）、人工尿道括約筋植込・置換術 届出受理

	8月	1日	乳腺炎重症化予防ケア・指導料 届出受理
	10月	1日	栄養サポートチーム加算 届出受理
	10月	13日	病棟改修(7階A病棟から9階A病棟へ移動)
	12月	15日	病棟改修(6階A病棟から7階A病棟へ移動)
平成31年	2月	1日	病棟薬剤業務実施加算2、1回線量増加加算 届出受理
	3月	1日	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 届出受理
	3月	9日	病棟改修(8階B病棟から6階A病棟へ移動)
令和元年	6月	3日	整形外科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
	6月	29日	病棟改修(9階B病棟から8階B病棟へ移動)
	9月	1日	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 届出受理
	9月	14日	病棟改修(7階B病棟から9階B病棟、8階A病棟から7階B病棟へ移動)
	11月	1日	歯科初診料、歯科外来診療環境体制加算1 届出受理
	11月	30日	病棟改修(7階B病棟から8A病棟、6B病棟から7B病棟へ移動)
	12月	2日	泌尿器科で月曜日から金曜日の紹介型外来を開始
令和2年	1月	1日	総合評価加算、遺伝学的検査 届出受理
	2月	1日	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 届出受理
	3月	7日	病棟改修(7階B病棟から6階B病棟へ移動)

4. 施設の概要

(1) 土地

①敷地及び借用地面積 (伊勢崎都市計画事業西部第一土地区画整理事業に伴い換地処分後面積) (単位 m²)

用途	面積 (換地後)
病院敷地	29,304.85
浄化槽・A駐車場用地	3,275.00
B駐車場用地	476.00
C駐車場用地	1,491.99
第3駐車場用地	3,993.00
第4駐車場用地	2,168.00
第5駐車場用地	2,118.00
計	42,826.84
第1駐車場用地 (市有地)	6,251.61
計	6,251.61
合計	49,078.45

②土地取得の状況 (伊勢崎都市計画事業西部第一土地区画整理事業前面積) (単位 m²)

年 度	用途	面積
昭和38年度	病院敷地	21,682.60
53	第4駐車場用地 (旧第2)	1,906.00
55	病院敷地	983.00
59	B駐車場用地 (旧第3)	476.00
平成元年度	第3駐車場用地 (一部) (旧第1)	240.00
〃	病院敷地	7,545.92
2	〃	3,275.00
7	〃	570.00
9	病院公舎敷地 (連取町)	880.21
10	C駐車場用地	1,490.00
11	第3駐車場用地 (旧第1)	2,902.00
12	用地 (連取町)	74.98
13	第5駐車場用地	2,117.00
14	用地 (連取町)	165.12

(2) 建 物

①建物建設状況

(単位 m²)

建物名称	建築年月	構造	延面積	摘 要
南 棟	(増築) 昭和62. 6	鉄筋コンクリート造 4 階建	6,668.52	
”	(改修) 平成10. 2	”		3. 4階を介護老人保健施設等に改修
”	(改修) 平成21. 3	”		2階を緩和ケア病棟に改修
倉 庫	(増築) 平成 8. 3	軽量鉄骨プレハブ造平家建	145.74	
汚水処理施設	(新築) 平成 8. 7	鉄筋コンクリート造平家建	173.00	(構築物)
病院公舎 (4 棟)	(購入) 平成10. 2	軽量鉄骨造 2 階建	458.17	連取町
病院公舎 (1 棟)	(売却) 平成15. 11	”	113.17	連取町 建物延 345.000
病院公舎 (1 棟)	(売却) 平成16. 5	”	117.51	連取町 建物延 227.49
病院公舎 (2 棟)	(売却) 平成21 .12	”	227.49	連取町 建物2棟売却
病院本館	(改築) 平成10. 3	鉄骨・鉄筋コンクリート造10階建	36,443.70	
”	(改修) 平成12. 7			4階病棟を一部人間ドッグ室に改修
”	(増築) 平成16. 3	鉄骨・鉄筋コンクリート造	605.68	1 階から 3 階増築
”	(増築) 平成19. 3	鉄骨・鉄筋コンクリート造	595.99	集中治療室増改修他
”	(増築) 平成21. 8	鉄骨・鉄筋コンクリート造	1,622.12	がん診療総合センター棟増築
”	(改修) 平成26. 3			4階病棟を一部腎センターに改修
”	(改修) 平成28. 3			1階入退院支援センターを改修
倉 庫	(増築) 平成10. 10	軽量鉄骨プレハブ造平家建	32.76	
”	(増築) 平成20. 1	”	144.59	
透析排水処理槽棟	(増築) 平成11. 2	鉄筋コンクリート造平家建	16.67	(構築物)
車 庫	(移設) 平成10. 10	軽量鉄骨プレハブ造平家建	77.23	
レストラン棟	(増築) 平成11. 8	鉄骨造平家建	252.45	
渡り廊下	(増築) 平成11. 9	”	162.54	
キャノピー (大)	(増築) 平成11. 9	”	486.00	
” (小)	(増築) 平成11. 9	”	17.50	
自転車置場 (本館南)	(増築) 平成11. 9	”	53.82	がん診療総合センター棟増築の為撤去
” (本館北)	(増築) 平成11. 12	軽量鉄骨造	25.36	
” (本館西)	(増築) 平成21. 8	”	49.01	

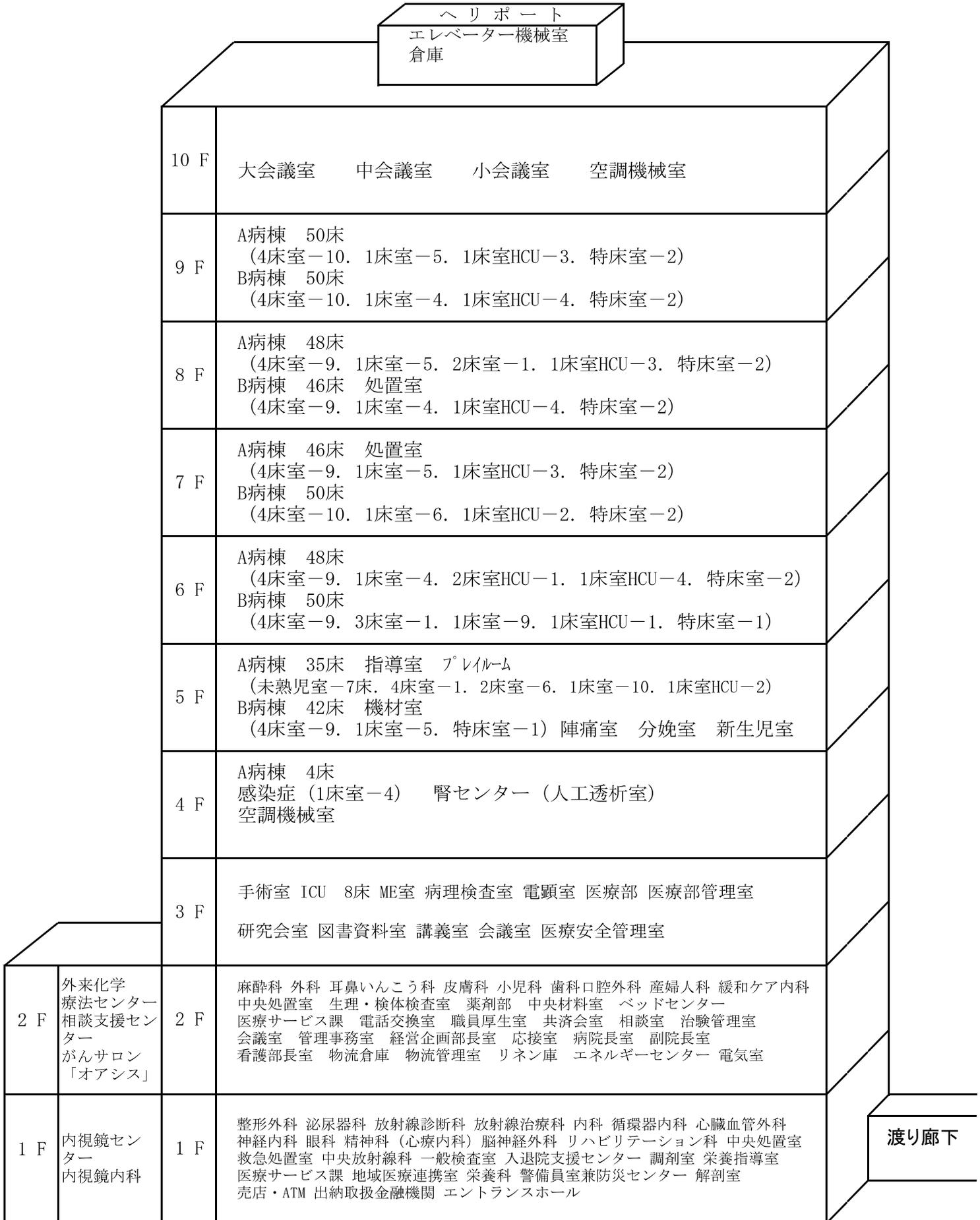
(3) 設 備 (令和元年度 購入分)

①医療機器購入一覧表 (5,000 千円以上)

医 療 機 器 名	製 造 会 社	規 格	数 量
病院総合情報システム (第1期)	富士通(株)		1 式
I C U ・手術室情報システム	富士フィルムメディカル(株)		1 式
高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機(株)	V S C R - G 1 2 W N R	1 式
ウォッシャー・ディスインフェクターダブルドア	ゲティングジャパン(株)	8 8 - 1 0 3 S W - 5 0	1 台
生理検査データ管理システム	フクダ電子(株)	E F S - 8 8 0 0	1 式
内視鏡手術システム	オリンパス(株)		1 式
食器消毒保管庫	日本調理機(株)	ISC-W30、40JW-EF(特)	1 式
筋電図・誘発電位検査装置	日本光電工業(株)	W E B - 2 3 0 6	1 式
ハーグ スリットランプ	ハーグストレイト社	9 0 0 B Q V L E D	1 式
人工呼吸器	ドレーゲルジャパン(株)	E v i t a V 3 0 0	2 台
无影灯 (6室)	山田医療照明(株)	イクシム C J トリエスタ	1 式
多用途透析用監視装置	日機装(株)	D C S - 2 0 0 0 S I	4 台
超音波画像診断装置 (産婦人科)	G Eヘルスケア・ジャパン(株)	V o l u s o n E 8、P 8	1 式
医療用空気除湿装置	(株)セントラルユニ	エアラインスターE2400Dh	1 式

(4)建物配置図
(令和2年3月現在)

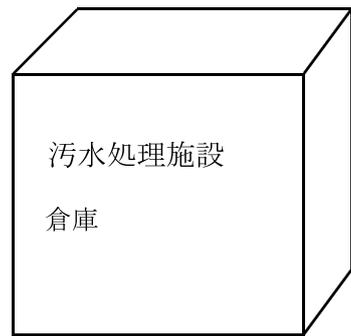
病 院 本 館



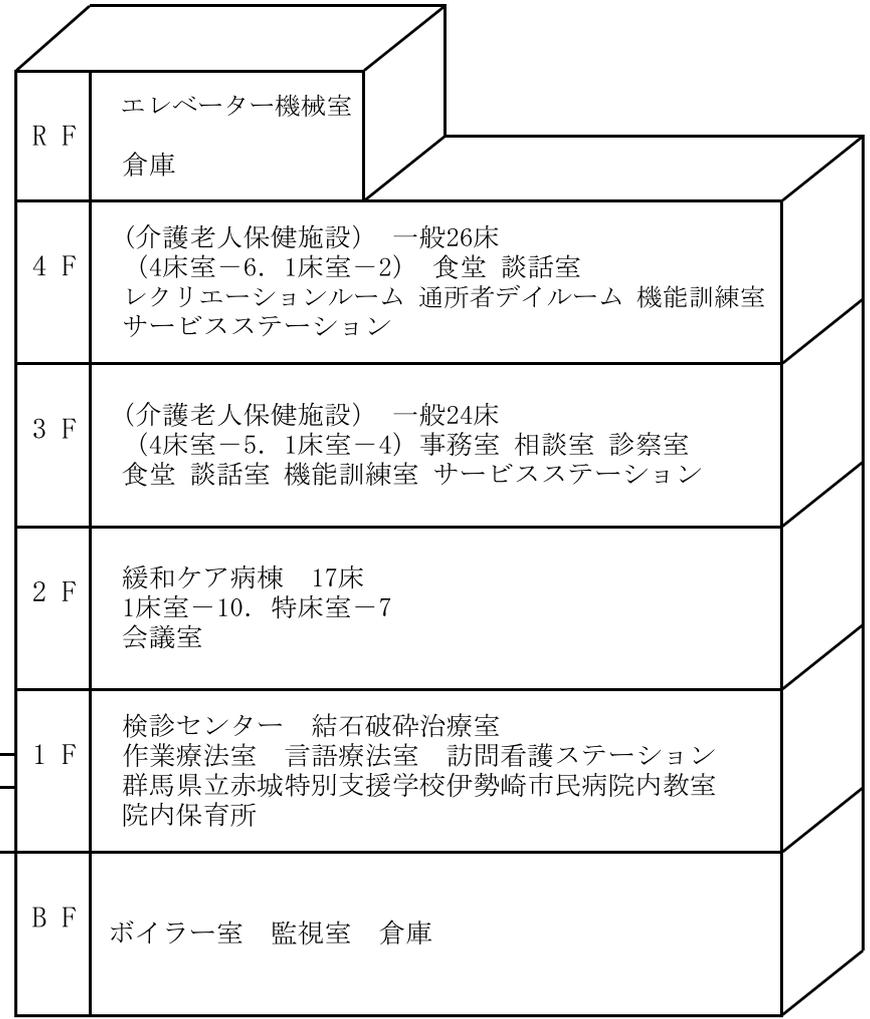


駐車台数	
第1駐車場	177台
第2駐車場	103台
第3駐車場	158台
第4駐車場	62台
第5駐車場	81台
身体障害者用	17台
思いやり駐車場	16台

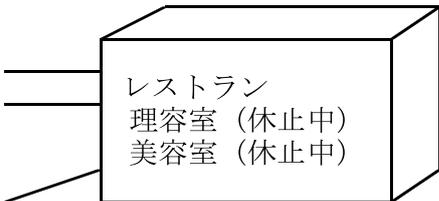
別棟



南棟



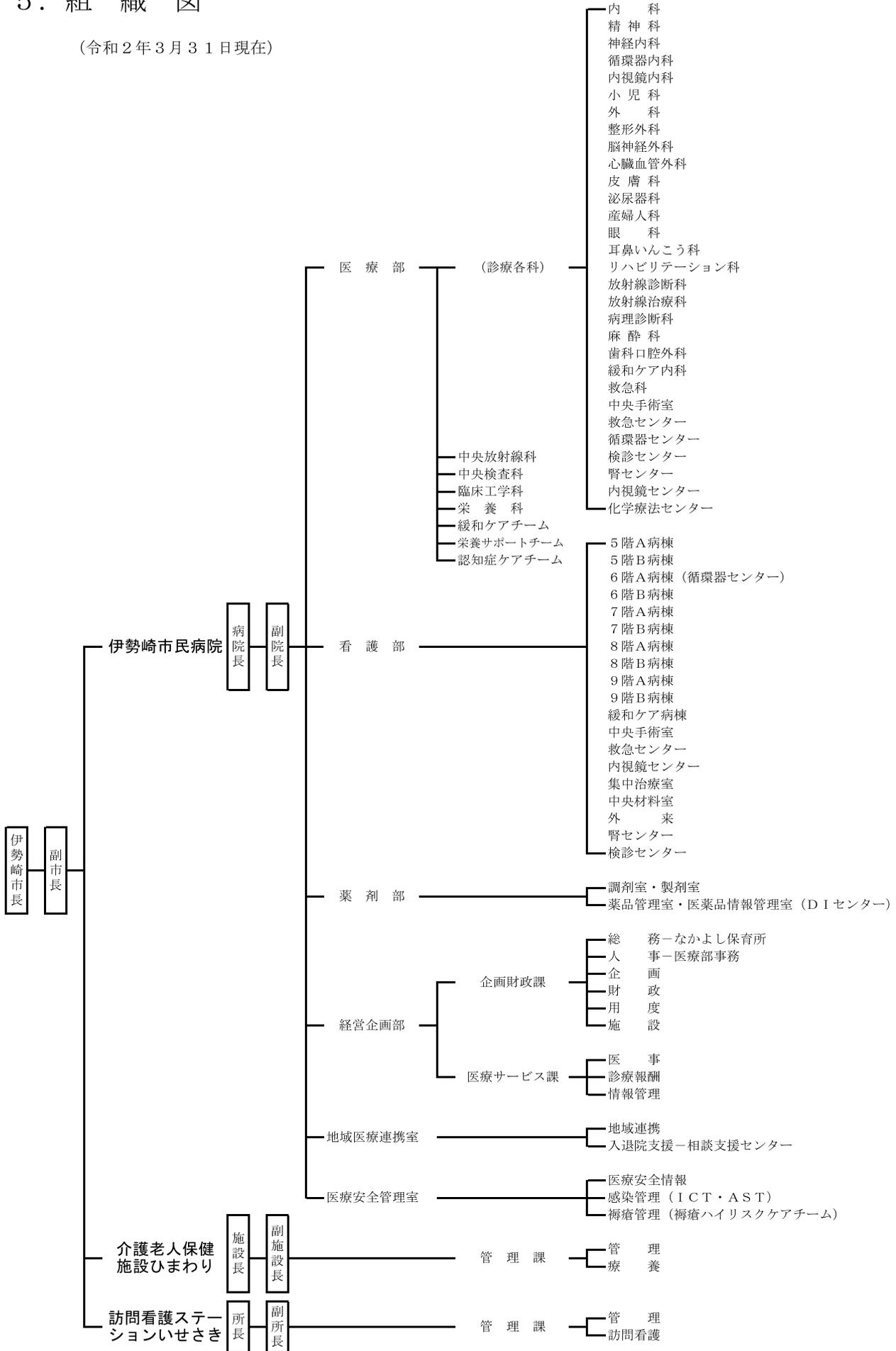
レストラン棟



渡り廊下

5. 組織図

(令和2年3月31日現在)



6. 職員の現況

(1) 職員数の現況

①職員数の年度別推移（職員数は各年度末の人数）

職種別		年度		27		28		29		30		元	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤		
医療部	医師	93	25	94	27	88	20	97	17	98	22		
	歯科医師	1		1		2		2		2			
	事務員	1	2	1	2	1	2	1	2	1	3		
	計	95	27	96	29	91	22	100	19	101	25		
看護部門	保健師	2		2		2		2		2			
	助産師	22	2	23	1	21	2	21	2	22	2		
	看護師	450	38	447	41	450	41	457	40	450	34		
	准看護師	1	2	1	2	1	2	1	2		2		
	看護助手	3	30	3	28	3	29	2	28		26		
	事務員他	1	4	1	4	1	3	1	3	3	2		
	計	479	76	477	76	478	77	484	75	477	66		
専任	緩和ケアチーム	1		1		1		1		1			
	医療安全管理室	4	1	4	2	4	2	4	2	4	1		
	地域医療連携室	看護師	5	2	8	3	7	2	9	3	9	3	
		事務員	3	6	3	5	3	5	3	4	3	8	
		社会福祉士	4	2	5	2	6	1	6	1	6	1	
	計	17	11	21	12	21	10	23	10	23	13		
技術部門	放射線検査	診療放射線技師	22	1	22	2	21	1	22	1	22	1	
		臨床検査技師	25	8	25	9	25	10	27	9	26	12	
	リハビリテーション	事務員		2		2		2		2		2	
		理学療法士	12		13		13		13		14		
		作業療法士	5		6		6		6		6		
		言語聴覚士	3		4		5		5		5		
	薬剤部	事務員		3		3		3		3		3	
		薬剤師	23	1	23	1	22	1	25	1	27	1	
	眼科	事務員		5		5		5		5		5	
		視能訓練士	2		2		2		2		2		
		歯科衛生士	1	2	1	2	2	1	3	1	3		
		臨床工学技士	8	2	10		10		10		10		
		臨床心理士	1		1		1	1	1		1	1	
		栄養	栄養士	7	2	8		7	5	7	5	8	4
			調理師	4		4		4		3		2	
技師補													
	事務員		1		1		1						
	計	113	27	119	25	118	30	124	27	126	29		
事務部門	経営企画部長	1		1		1		1		1			
	経営企画副部長	1		1						1			
	企画課	事務員	19	7	21	5	21	7	21	7	21	7	
		技師	7		7		7		7		7		
		技能労務技士											
	医療サービス課	保育士	1	5	1	5	1	5	1	5	2	5	
		事務員	11	37	11	40	11	42	10	41	10	42	
		診療情報管理士	5		4		4		5		5		
看護師								1					
	社会福祉士												
	計	45	49	46	50	45	54	46	53	47	54		
	合計	749	190	759	192	753	193	777	184	774	187		

(2)主要役職員の現況

役 職 名	氏 名	摘 要
伊勢崎市長	五十嵐 清 隆	
伊勢崎市民病院長	小 林 幹 男	
副院長兼麻酔科部長兼中央手術室長	吉 川 大 輔	
副院長兼小児科部長	前 田 昇 三	
副院長兼内科部長	小 林 裕 幸	
副院長兼経営企画部長	高 尾 貞 治	
医療部長兼心臓血管外科主任診療部長	大 林 民 幸	
看護部長	木 村 恭 子	
薬剤部長	大 和 由美子	
介護老人保健施設ひまわり施設長	小 林 幹 男	
訪問看護ステーションいせさき所長	登 山 寿美江	
○伊勢崎市民病院の部		
病院長	小 林 幹 男	(泌尿器科) (介護老人保健施設長兼務)
副院長兼麻酔科部長	吉 川 大 輔	(中央手術室長兼務) (地域医療連携担当医師兼務)
副院長兼小児科部長	前 田 昇 三	(医療安全管理室担当医師兼務)
副院長兼内科部長	小 林 裕 幸	(研修医教育担当兼務) (介護老人保健施設療養係兼務)
◇医 療 部		
医療部長兼心臓血管外科主任診療部長	大 林 民 幸	(循環器センター長兼務)
医療副部長兼外科主任診療部長	田 中 司 玄 文	
医療副部長兼泌尿器科主任診療部長	竹 澤 豊	(腎センター長兼務)
医療副部長兼皮膚科主任診療部長	田 村 敦 志	(介護老人保健施設療養係兼務)
内 科		
主任診療部長	石 原 真 一	(化学療法センター長兼務) (介護老人保健施設療養係兼務)
診療部長	細 井 康 博	(栄養サポートチーム担当兼務) (医師事務作業補助チーム担当医師兼務) (介護老人保健施設療養係兼務)
診療部長	大 谷 健 一	(研修医教育担当兼務) (介護老人保健施設療養係兼務)
診療部長	増 尾 貴 成	
診療部長	増 田 淳	(検診センター長兼務) (介護老人保健施設療養係兼務)
診療部長	中 林 利 博	
神経内科		
主任診療部長	櫻 井 篤 志	
循環器内科		
主任診療部長兼内科医長	山 岸 高 宏	
診療部長	樋 口 京 介	
小 児 科		
主任診療部長	高 野 洋 子	

役 職 名	氏 名	摘 要
外 科		
診療部長	保 田 尚 邦	
診療部長	富 澤 直 樹	(栄養科長兼務) (栄養サポートチーム長)
診療部長	鈴 木 秀 樹	
診療部長	片 山 和 久	
診療部長	大 澤 秀 信	
診療部長	諸 原 浩 二	
診療部長	家 田 敬 輔	
整形外科		
主任診療部長	田 中 宏 志	(リハビリテーション担当医師兼務)
診療部長	飯 塚 伯	
診療部長	割 田 敏 朗	
心臓血管外科		
診療部長	大 木 聡	
診療部長	安 原 清 光	
診療部長	小此木 修 一	
皮 膚 科		
診療部長	長谷川 道 子	(介護老人保健施設療養係兼務)
泌尿器科		
診療部長	齋 藤 佳 隆	
診療部長	悦 永 徹	
産婦人科		
主任診療部長	六 川 俊 一	
診療部長	狩 野 智	
耳鼻いんこう科		
医 長	川 田 倫 之	
放射線診断科		
主任診療部長	市 川 智 章	
主任診療部長	徳 永 真 理	
放射線治療科		
主任診療部長	樋 口 啓 子	
病理診断科		
医 長	山 崎 文 子	
麻 酔 科		
主任診療部長	富 田 行 成	(臨床工学科長兼務) (集中治療室長補佐兼務)
診療部長	安 齋 健	
歯科口腔外科		
主任診療部長	五 味 暁 憲	
緩和ケア内科		
主任診療部長	押 本 直 子	

役 職 名	氏 名	摘 要
救 急 科		
主任診療部長	鈴木 一 也	
中央手術室		
室長 (兼)	吉 川 大 輔	(副院長兼麻酔科部長)
救急センター		
センター長 (兼)	鈴木 一 也	
検診センター		
センター長 (兼)	増 田 淳	(内科診療部長)
腎センター		
センター長 (兼)	竹 澤 豊	(医療副部長兼泌尿器科主任診療部長)
化学療法センター		
センター長 (兼)	石 原 真 一	(内科主任診療部長)
診療部長	吉 田 武 史	
◇リハビリテーション科		
科 長 (兼)	櫻 井 篤 志	(神経内科主任診療部長)
技師長	丸 橋 俊 弘	
係 長	西 田 和 生	
係 長	後 藤 雄 一	
係 長	松 井 道 浩	
◇中央放射線科		
技師長	武 田 久	
技師長補佐	尾 池 真 弓	
係 長	高 橋 雅 彦	
係 長	杉 山 和 代	
◇中央検査科		
技師長	松 島 秀 子	
係 長	岡 田 きよ子	
係 長	島 村 薫	
係 長	荒 木 和 也	
係 長	新 保 千 春	
◇栄 養 科		
科 長 (兼)	富 澤 直 樹	(外科診療部長)
◇看 護 部		
看護部長	木 村 恭 子	
看護副部長	中 村 小 枝子	
看護副部長	新 井 友 子	
看護副部長	金 井 靖 子	
看護長	高 橋 美 穂子	

役 職 名	氏 名	摘 要
5階A病棟		
看護長	入 澤 のり子	
5階B病棟		
看護長	大 澤 里 美	
6階A病棟		
看護長	下 山 映 子	
6階B病棟		
看護長	安 部 美和子	
7階A病棟		
看護長	加 藤 久美子	
8階A病棟		
看護長	高 橋 ひろみ	
8階B病棟		
看護長	中 野 恵美子	
9階A病棟		
看護長	福 島 加 代	
9階B病棟		
看護長	荒 牧 敦 子	
緩和ケア病棟		
看護長	須 永 知香子	
中央手術室		
看護長	後 藤 恵	
救急室		
看護長	剣 持 いづみ	
内視鏡センター		
看護長	剣 持 いづみ	(救急室看護長兼務)
集中治療室		
看護長	石 山 真寿子	
中央材料室		
看護長	後 藤 恵	(中央手術室看護長兼務)
外 来		
看護長	長 岡 陽 子	
腎センター		
看護長	新 井 静 江	
検診センター		
看護長	小 暮 志 保	
係 長	小保方 京 子	(介護老人保健施設療養係兼務)
◇薬 剤 部		
薬剤部長	大 和 由美子	
薬剤副部長	名 坂 輝 子	
薬剤副部長	下 城 正 明	(介護老人保健施設療養係兼務)
係 長	栗 原 康 弘	(介護老人保健施設療養係兼務)
係 長	須 永 美千代	(介護老人保健施設療養係兼務)

役 職 名	氏 名	摘 要
◇経営企画部		
副院長兼経営企画部長	高 尾 貞 治	
経営企画部副部長	大 和 克 弘	
企画財政課		
課 長	大 和 克 弘	(経営企画部副部長兼務)
総務係長	町 田 潤	
総務係長	高 木 貴 子	
総務係長	井 野 登美子	
人事係長	茂 木 淳	
人事係長	井 野 香代子	
企画係長	桑 名 隆 毅	
企画係長	大 月 剛	
財政係長	高 柳 哲 也	
用度係長	須 永 裕 明	
施設係長	深 町 俊 介	
施設係長	田 村 泰 男	
医療サービス課		
課 長	松 原 弘 和	
医事係長	金 井 輝 明	
医事係長	西 卷 雅 浩	
診療報酬係長	小 島 崇 史	
情報管理係長	須 斎 暁 男	
◇地域医療連携室		
室 長	大 下 洋 美	
地域連携係長	大 和 恭 子	
入退院支援係長	高 橋 博 明	
◇医療安全管理室		
室 長 (兼)	前 田 昇 三	(副院長兼小児科部長)
室長補佐(看護副部長)	塚 原 みどり	
医療安全情報係長	石 原 恵美子	
○介護老人保健施設ひまわりの部		
施設長	小 林 幹 男	
管理課		
課 長 (兼)	大 和 克 弘	(経営企画部副部長兼務)
管理係長	吉 田 良 人	
療養係 (看護長)	飯 塚 敦 子	
○訪問看護ステーションいせさきの部		
所 長	登 山 寿美江	
管理課		
課 長 (兼)	大 和 克 弘	(経営企画部副部長兼務)
係 長 (兼)	吉 田 良 人	(介護老人保健施設管理課係長)

II 業務統計

Ⅱ 業 務 統 計

1. 医 事 統 計

(1) 入院・外来患者の状況

① 診療科別入院患者数

(単位 人)

年度区分	科別	内科	精神科	神経内科	循環器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科	麻酔科	緩和ケア内科	救急科	歯科口腔外科	合計	1日平均	前比%
27	患者数	51,262	0	0	9,187	8,476	15,525	14,618	11,230	8,255	1,662	12,468	10,188	616	3,789	0	29	3,672	303	436	151,716	414.5	97.2
	1日平均	140.1	0	0	25.1	23.2	42.4	39.9	30.7	22.6	4.5	34.1	27.8	1.7	10.4	0	0.1	10.0	0.8	1.2			
28	患者数	54,654	0	1,316	9,091	8,572	14,227	15,753	11,052	8,846	1,747	11,687	9,647	357	4,118	3	16	4,044	222	504	155,856	427.0	103.0
	1日平均	149.7	0	3.6	24.9	23.5	39.0	43.2	30.3	24.2	4.8	32.0	26.4	1.0	11.3	0	0	11.1	0.6	1.4			
29	患者数	50,708	0	4,403	10,538	8,372	14,920	15,198	6,023	9,072	1,412	12,387	8,868	326	3,236	0	4	3,722	34	175	149,398	409.3	95.9
	1日平均	138.9	0	12.1	28.9	22.9	40.9	41.6	16.5	24.9	3.9	33.9	24.3	0.9	8.9	0	0	10.2	0.1	0.5			
30	患者数	50,597	0	6,335	8,988	7,817	16,303	15,773	3,470	8,797	2,672	11,829	7,326	285	3,802	0	2	4,384	122	421	148,873	407.9	99.7
	1日平均	138.6	0	17.4	24.5	21.4	44.7	43.2	9.5	24.1	7.3	32.4	20.1	0.8	10.4	0	0	12.0	0.3	1.2			
元	患者数	50,938	0	6,902	9,295	8,767	17,205	14,378	0	10,056	2,362	12,418	6,935	256	3,315	0	0	4,172	67	330	147,396	402.7	98.7
	1日平均	139.2	0	18.9	25.4	24.0	47.0	39.3	0	27.5	6.5	33.9	18.9	0.7	9.1	0	0	11.4	0.2	0.9			

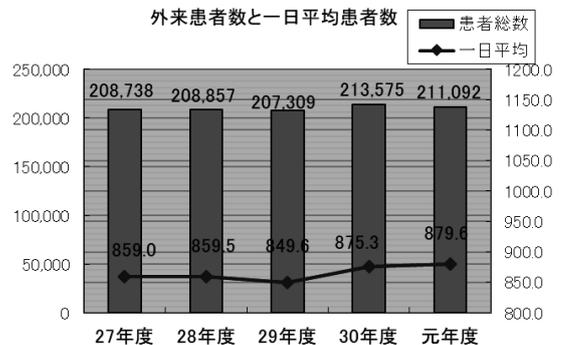
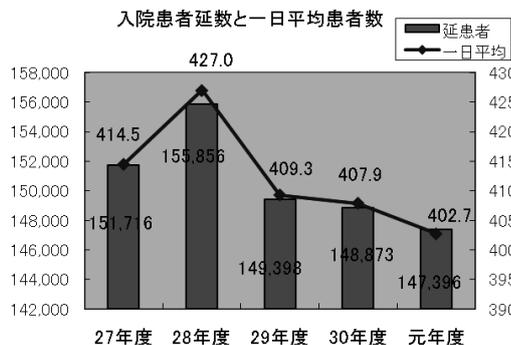
注1：退院数含む 注2：人間ドック除く

② 診療科別外来患者数

(単位 人)

年度区分	科別	内科	精神科	神経内科	循環器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科	麻酔科	緩和ケア内科	救急科	歯科口腔外科	合計	1日平均	前比%
27	患者数	47,523	1,475	902	9,800	18,678	20,114	12,297	5,329	3,533	7,286	27,171	22,899	9,150	6,623	4,561	1,772	936	961	7,728	208,738	859.0	98.8
	1日平均	195.6	6.1	3.7	40.3	76.9	82.8	50.6	21.9	14.5	30.0	111.8	94.2	37.7	27.3	18.8	7.3	3.9	4.0	31.8			
28	患者数	48,297	1,210	1,556	10,058	18,279	19,588	13,806	4,925	3,823	7,161	28,086	20,222	8,074	7,535	4,694	1,764	911	1,043	7,825	208,857	859.5	100.1
	1日平均	198.8	5.0	6.4	41.4	75.2	80.6	56.8	20.3	15.7	29.5	115.6	83.2	33.2	31.0	19.3	7.3	3.7	4.3	32.2			
29	患者数	48,200	383	2,637	9,159	18,987	20,450	13,346	4,245	4,710	7,068	28,265	19,856	7,571	7,767	4,034	1,732	600	782	7,517	207,309	849.6	98.8
	1日平均	197.5	1.6	10.8	37.5	77.8	83.8	54.7	17.4	19.3	29.0	115.8	81.4	31.0	31.8	16.5	7.1	2.5	3.2	30.8			
30	患者数	49,479	186	3,408	8,545	19,489	22,811	13,411	3,698	5,143	8,683	27,453	18,849	6,721	9,389	4,051	1,699	725	974	8,861	213,575	875.3	103.0
	1日平均	202.8	0.8	14.0	35.0	79.9	93.5	55.0	15.2	21.1	35.6	112.5	77.3	27.5	38.5	16.6	7.0	3.0	4.0	36.3			
元	患者数	50,076	138	3,866	8,048	19,465	24,382	12,885	2,258	5,230	8,493	27,389	18,083	4,609	9,258	3,711	1,566	758	991	9,886	211,092	879.6	100.5
	1日平均	208.7	0.6	16.1	33.5	81.1	101.6	53.7	9.4	21.8	35.4	114.1	75.3	19.2	38.6	15.5	6.5	3.2	4.1	41.2			

③ 年度別グラフ



④月別入院患者数

(単位 人, %)

項目	月別	31・4	元・5	6	7	8	9	10	11	12	2・1	2	3	計
対象病床数		494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	494	—
前月繰越患者数		289	345	347	417	331	325	356	344	260	368	333	339	—
新入院患者数		1,018	1,081	1,082	1,191	1,161	1,050	1,120	1,090	1,130	1,087	996	1,074	13,080
退院患者数		1,025	1,025	1,080	1,121	1,247	1,056	1,089	1,102	1,214	979	1,031	1,068	13,037
入院患者延数		11,639	11,676	12,327	12,927	13,005	11,451	11,852	12,555	12,908	12,345	12,235	12,476	147,396
1日平均入院患者数		388.0	376.6	410.9	417.0	419.5	381.7	382.3	418.5	416.4	398.2	421.9	402.5	402.7
平均在院日数		11.2	10.9	11.2	11.0	10.5	10.7	10.6	11.3	10.7	11.9	11.9	11.8	11.1
病床利用率(延患者数)		78.5	76.2	83.2	84.4	84.9	77.3	77.4	84.7	84.3	80.6	85.4	81.5	81.5
病床利用率(24時現在)		71.6	69.6	75.9	77.1	76.8	70.1	70.3	77.3	76.4	74.2	78.2	74.5	74.3

※平均在院日数については計算対象としない患者を除いて算出した。

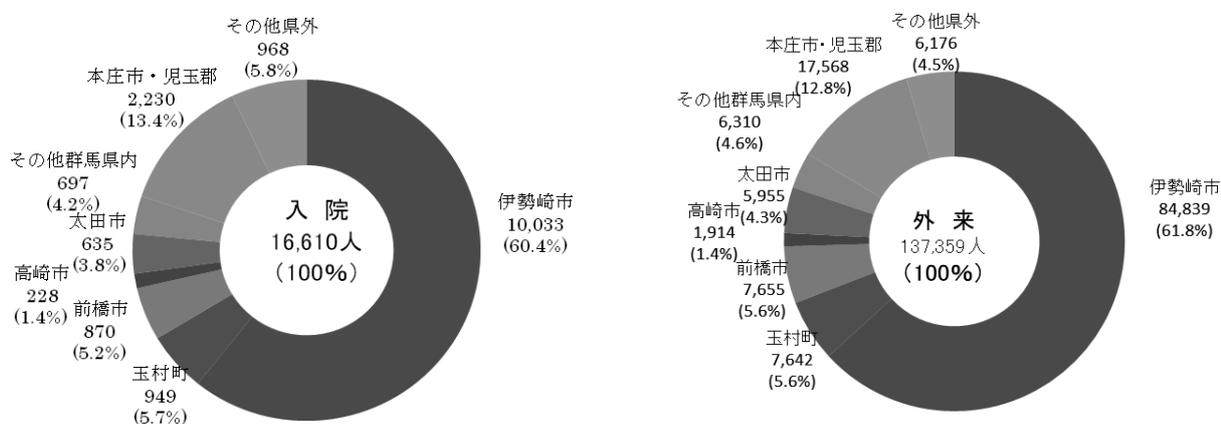
⑤月別外来患者数

(単位 人, %)

項目	月別	31・4	元・5	6	7	8	9	10	11	12	2・1	2	3	計
外来患者延数		17,211	17,319	17,257	19,180	18,333	17,537	18,645	17,732	17,855	17,200	15,811	17,012	211,092
1日平均外来患者数		860.6	911.5	862.9	871.8	873.0	923.0	887.9	886.6	892.8	905.3	878.4	810.1	879.6
新来患者数		1,793	1,869	1,945	2,175	2,080	1,804	1,824	1,801	1,945	2,009	1,425	1,355	22,025
再来患者数		15,418	15,450	15,312	17,005	16,253	15,733	16,821	15,931	15,910	15,191	14,386	15,657	189,067
1日外来患者数	最高	1,041	1,019	970	960	973	958	985	934	927	1,020	1,018	906	—
	最低	689	718	740	716	721	803	744	770	740	709	750	614	—
新来比		10.4	10.8	11.2	11.3	11.3	10.3	9.8	10.2	10.9	11.7	9.0	8.0	10.4
外来・入院比		1.5	1.5	1.4	1.5	1.4	1.5	1.6	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.4

※新来比 = 新来患者数/外来患者延数×100

⑥地区別患者数(実数)



⑦セカンドオピニオン外来患者数

(単位 人)

年 度	27	28	29	30	元
患 者 数	6	14	12	14	11

(2) 病床利用率・平均在院日数

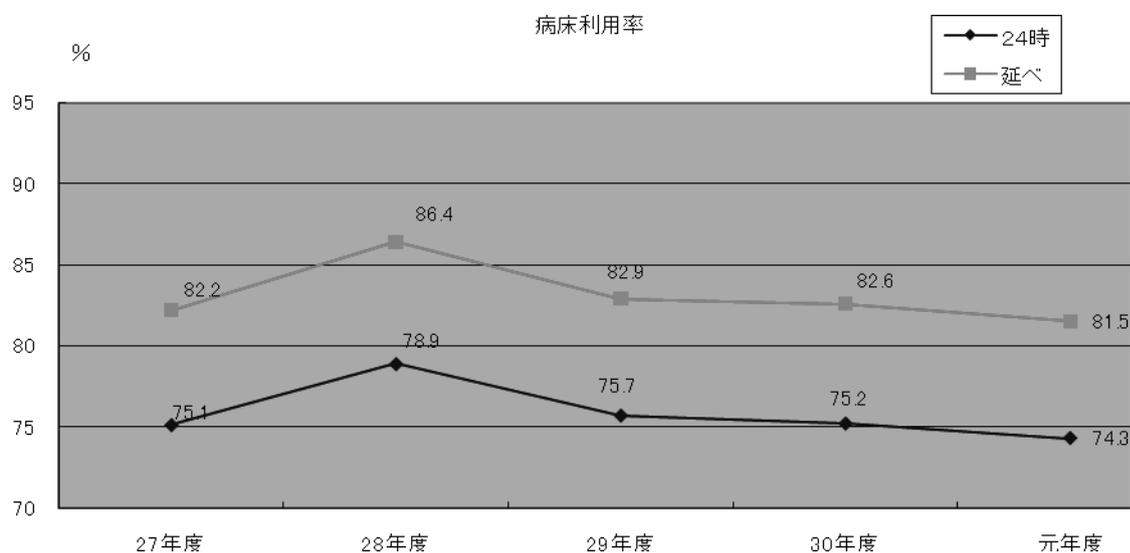
① 病床利用率

(ア) 病棟別

※令和2年3月31日現在

病棟別	病床数	1日平均(人) (24時現在)	利用率(%)		摘 要
			24時現在	延べ	
4A	4	0.1	3.3	4.7	感染症
5A	35	23.0	65.8	79.8	小児科
5B	42	27.2	64.8	73.7	産婦人科・外科(乳腺)・泌尿器科(女性)
6A	48	43.4	94.4	101.2	循環器内科・心臓血管外科
6B	50	32.3	64.7	69.0	整形外科・皮膚科・歯科口腔外科
7A	46	38.4	76.8	84.9	内科・神経内科・眼科・耳鼻いんこう科
7B	50	41.0	82.1	89.4	内科
8A	48	33.8	70.3	78.1	泌尿器科・内科
8B	46	31.9	66.5	71.1	内科
9A	50	44.6	89.2	97.1	外科・内科
9B	50	34.5	75.0	82.2	内科
緩和病棟	17	10.7	63.1	67.1	
ICU	8	6.0	75.0	76.2	
計	494	367.1	74.3	81.5	

(イ) 推移グラフ



②平均在院日数

診療科別

(単位 日)

診療科	年度	27	28	29	30	元
内 科		12.4	11.8	12.1	11.5	11.7
精 神 科		—	—	—	—	—
神 経 内 科		—	15.4	22.5	22.0	24.2
循 環 器 内 科		10.8	10.4	11.4	11.4	10.6
小 児 科		6.1	5.6	5.9	5.3	5.7
外 科		12.1	11.4	11.7	12.4	12.1
整 形 外 科		20.6	19.6	19.9	20.0	18.6
脳 神 経 外 科		22.7	26.9	27.3	31.6	—
心 臓 血 管 外 科		16.8	17.8	15.5	16.2	19.6
皮 膚 科		8.9	9.0	8.9	9.8	8.9
泌 尿 器 科		8.3	7.8	7.9	7.3	8.5
産 婦 人 科		7.5	8.1	9.1	9.0	9.2
眼 科		2.0	2.2	2.0	1.7	5.3
耳 鼻 いんこう科		5.6	5.2	4.8	5.3	5.1
放 射 線 科		—	2.0	—	—	—
麻 酔 科		0.8	0.8	0.3	1.0	—
緩 和 ケア 内 科		13.6	14.7	16.6	18.2	17.3
救 急 科		4.3	5.2	1.8	5.6	2.6
歯 科 口 腔 外 科		8.3	9.5	4.5	2.6	2.4
合 計		11.3	11.1	11.3	11.0	11.1

*平均在院日数 = $\frac{\text{在院患者延数}}{1/2 (\text{入院患者数} + \text{退院患者数})}$

*平均在院日数の計算対象としない患者を除く

*新生児を除く

(3) 診療点数・診療収益の状況

①各科診療実績

(ア) 入院・外来収益

(単位 千円, %)

診療科	年度	27		28		29		30		元	
		収益	前年比	収益	前年比	収益	前年比	収益	前年比	収益	前年比
入院	内科	2,243,095	86.8	2,427,592	108.2	2,305,672	95.0	2,419,470	104.9	2,459,222	101.6
	精神科	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
	神経内科	0	—	57,050	—	195,437	342.6	278,199	142.3	301,560	108.3
	循環器内科	634,150	89.4	655,632	103.4	715,359	109.1	595,854	83.3	667,108	112.0
	小児科	434,460	104.8	493,786	113.7	504,578	102.2	482,462	95.6	536,249	111.1
	外科	1,112,627	103.1	1,063,137	95.6	1,117,107	105.1	1,269,635	113.7	1,364,112	107.4
	整形外科	856,613	103.2	937,200	109.4	878,545	93.7	1,058,922	120.5	1,096,991	103.6
	脳神経外科	515,896	111.7	460,324	89.2	233,563	50.7	133,697	57.2	0	—
	心臓血管外科	1,317,207	107.5	1,234,268	93.7	1,494,327	121.1	1,504,263	100.7	1,522,339	101.2
	皮膚科	65,741	89.9	69,305	105.4	58,648	84.6	110,144	187.8	103,004	93.5
	泌尿器科	893,307	115.0	888,705	99.5	942,635	106.1	954,475	101.3	965,210	101.1
	産婦人科	655,623	95.7	608,932	92.9	563,371	92.5	495,644	88.0	470,190	94.9
	眼科	56,540	117.9	28,536	50.5	26,801	93.9	22,920	85.5	21,112	92.1
	耳鼻いんこう科	238,016	88.8	246,312	103.5	213,135	86.5	234,078	109.8	229,185	97.9
	放射線科	—	—	268	—	0	—	0	—	0	—
	麻酔科	2,041	185.5	793	38.9	287	36.2	85	29.6	0	—
	緩和ケア内科	182,659	96.8	206,122	112.8	186,097	90.3	229,585	123.4	225,939	98.4
	救急科	18,296	362.7	10,952	59.9	2,645	24.2	7,878	297.8	5,502	69.8
	歯科口腔外科	17,339	99.2	21,678	125.0	9,854	45.5	28,796	292.2	22,157	76.9
	合計	9,243,610	98.7	9,410,592	101.8	9,448,061	100.4	9,826,107	104.0	9,989,881	101.7
外来	内科	1,420,435	149.8	1,344,308	94.6	1,237,630	92.1	1,401,418	113.2	1,415,602	101.0
	精神科	7,161	82.6	5,922	82.7	1,834	31.0	845	46.1	581	68.8
	神経内科	28,202	79.5	33,929	120.3	44,195	130.3	50,338	113.9	49,332	98.0
	循環器内科	110,810	99.3	99,486	89.8	97,191	97.7	91,509	94.2	87,591	95.7
	小児科	153,654	115.5	146,414	95.3	152,552	104.2	155,757	102.1	159,806	102.6
	外科	598,153	105.1	558,297	93.3	655,206	117.4	644,984	98.4	745,487	115.6
	整形外科	93,801	100.6	114,079	121.6	103,217	90.5	109,650	106.2	106,977	97.6
	脳神経外科	46,163	101.8	43,925	95.2	33,115	75.4	29,969	90.5	16,697	55.7
	心臓血管外科	45,334	96.8	50,568	111.5	64,420	127.4	71,360	110.8	70,760	99.2
	皮膚科	44,013	106.4	49,891	113.4	52,244	104.7	72,316	138.4	71,176	98.4
	泌尿器科	964,718	119.4	972,468	100.8	1,054,495	108.4	1,045,198	99.1	1,159,807	111.0
	産婦人科	214,685	96.2	184,435	85.9	179,487	97.3	172,422	96.1	173,965	100.9
	眼科	104,833	188.1	113,876	108.6	132,295	116.2	137,105	103.6	129,649	94.6
	耳鼻いんこう科	60,194	104.2	65,826	109.4	60,496	91.9	76,034	125.7	69,416	91.3
	放射線科	111,011	91.9	113,170	101.9	125,312	110.7	117,630	93.9	99,234	84.4
	麻酔科	9,628	89.7	8,869	92.1	10,259	115.7	10,873	106.0	7,605	69.9
	緩和ケア内科	7,803	111.5	7,287	93.4	3,787	52.0	4,722	124.7	4,740	100.4
	救急科	17,296	133.6	20,362	117.7	14,369	70.6	20,016	139.3	21,043	105.1
	歯科口腔外科	31,786	100.2	31,103	97.9	31,551	101.4	47,173	149.5	52,182	110.6
	合計	4,069,680	121.1	3,964,215	97.4	4,053,655	102.3	4,259,319	105.1	4,441,653	104.3
合計	13,313,290	104.6	13,374,807	100.5	13,501,716	100.9	14,085,426	104.3	14,431,530	102.5	

(イ) 年度別・診療科別一人一日当たり診療点数 (入院・外来)

(単位 点,%)

診療科	年度	27		28		29		30		元	
		1日1人当り	前年比%								
入院	内科	4,375.7	97.0	4,441.7	101.5	4,547.0	102.4	4,781.8	105.2	4,827.9	101.0
	精神科	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
	神経内科	0	—	4,335.1	—	4,438.7	102.4	4,391.5	98.9	4,369.2	99.5
	循環器内科	6,902.7	92.4	7,211.9	104.5	6,788.4	94.1	6,666.5	98.2	7,177.1	107.7
	小児科	5,125.8	95.9	5,760.5	112.4	6,027.0	104.6	6,172.0	102.4	6,116.7	99.1
	外科	7,166.7	99.6	7,472.7	104.3	7,487.3	100.2	7,787.7	104.0	7,928.6	101.8
	整形外科	5,860.0	100.4	5,949.3	101.5	5,780.7	97.2	6,713.5	116.1	7,629.6	113.6
	脳神経外科	4,593.9	101.2	4,165.1	90.7	3,877.9	93.1	3,852.9	99.4	0	—
	心臓血管外科	15,656.5	117.3	13,952.8	89.1	16,471.9	118.1	17,099.7	103.8	15,138.6	88.5
	皮膚科	3,955.5	101.2	3,967.1	100.3	4,153.5	104.7	4,122.1	99.2	4,360.9	105.8
	泌尿器科	7,164.8	101.0	7,604.2	106.1	7,609.9	100.1	8,068.9	106.0	7,772.7	96.3
	産婦人科	6,435.3	101.0	6,312.1	98.1	6,352.8	100.6	6,765.6	106.5	6,780.0	100.2
	眼科	9,178.6	101.2	7,993.3	87.1	8,221.2	102.9	8,042.2	97.8	8,247.0	102.5
	耳鼻いんこう科	6,281.8	96.1	5,981.4	95.2	6,586.4	110.1	6,156.7	93.5	6,913.6	112.3
	放射線科	0	—	8,933.3	—	0	—	0	—	0	—
	麻酔科	7,037.9	140.8	4,956.3	70.4	7,182.0	145.0	4,236.5	59.0	0	—
	緩和ケア内科	4,974.4	99.7	5,097.0	102.5	4,999.9	98.1	5,236.9	104.7	5,415.6	103.4
	救急科	6,038.1	135.2	4,933.3	81.7	7,779.6	157.7	6,457.5	83.0	8,212.5	127.2
	歯科口腔外科	3,976.8	72.6	4,301.2	108.2	5,631.1	130.9	6,839.8	121.5	6,714.2	98.2
	平均	6,092.7	101.2	6,038.0	99.1	6,324.1	104.7	6,600.3	104.4	6,777.6	102.7
外来	内科	2,988.9	164.5	2,783.4	93.1	2,567.7	92.3	2,832.3	110.3	2,826.9	99.8
	精神科	485.5	99.1	489.4	100.8	478.9	97.9	454.5	94.9	421.3	92.7
	神経内科	3,126.6	112.4	2,180.5	69.7	1,676.0	76.9	1,477.0	88.1	1,276.1	86.4
	循環器内科	1,130.7	99.8	989.1	87.5	1,061.1	107.3	1,070.9	100.9	1,088.4	101.6
	小児科	822.6	108.0	801.0	97.4	803.5	100.3	799.2	99.5	821.0	102.7
	外科	2,973.8	104.1	2,850.2	95.8	3,203.9	112.4	2,827.5	88.3	3,057.5	108.1
	整形外科	762.8	100.3	826.3	108.3	773.4	93.6	817.6	105.7	830.2	101.5
	脳神経外科	866.3	100.3	891.9	103.0	780.1	87.5	810.4	103.9	739.5	91.3
	心臓血管外科	1,283.2	108.0	1,322.7	103.1	1,367.7	103.4	1,387.5	101.4	1,353.0	97.5
	皮膚科	604.1	107.0	696.7	115.3	739.2	106.1	832.8	112.7	838.1	100.6
	泌尿器科	3,550.5	116.6	3,462.5	97.5	3,730.7	107.7	3,807.2	102.1	4,234.6	111.2
	産婦人科	937.5	99.8	912.1	97.3	903.9	99.1	914.8	101.2	962.0	105.2
	眼科	1,145.7	166.6	1,410.4	123.1	1,747.4	123.9	2,039.9	116.7	2,813.0	137.9
	耳鼻いんこう科	908.9	96.7	873.6	96.1	778.9	89.2	809.8	104.0	749.8	92.6
	放射線科	2,433.9	110.5	2,411.0	99.1	3,106.4	128.8	2,903.7	93.5	2,674.1	92.1
	麻酔科	543.3	97.7	502.8	92.5	592.3	117.8	640.0	108.1	485.6	75.9
	緩和ケア内科	833.7	90.3	799.9	95.9	631.2	78.9	651.3	103.2	625.3	96.0
	救急科	1,799.8	89.8	1,952.3	108.5	1,837.4	94.1	2,055.0	111.8	2,123.5	103.3
	歯科口腔外科	411.3	97.5	397.5	96.6	419.7	105.6	532.4	126.9	527.8	99.1
	平均	1,949.7	123.1	1,898.1	97.4	1,955.4	103.0	1,994.3	102.0	2,104.1	105.5

(4) 救急患者の受入状況

①救急患者診療科別受入状況

(単位 人)

診療科	年度	27			28			29			30			元		
		時間内	時間外	合計												
内科		972	6,674	7,646	1,139	6,455	7,594	1,105	5,863	6,968	1,217	6,021	7,238	1,122	5,560	6,682
精神科		2	0	2	5	1	6	6	0	6	2	0	2	0	0	0
神経内科		4	6	10	33	3	36	74	46	120	83	80	163	73	72	145
循環器内科		188	114	302	165	112	277	177	119	296	135	142	277	152	372	524
小児科		120	3,233	3,353	121	3,087	3,208	124	3,026	3,150	164	2,782	2,946	172	2,825	2,997
外科		95	1,315	1,410	93	1,032	1,125	89	979	1,068	96	926	1,022	103	1,022	1,125
整形外科		178	848	1,026	206	993	1,199	175	987	1,162	138	1,083	1,221	173	978	1,151
脳神経外科		220	672	892	151	645	796	100	249	349	83	159	242	0	0	0
心臓血管外科		41	57	98	51	53	104	52	72	124	54	62	116	51	66	117
皮膚科		15	10	25	8	10	18	6	5	11	16	15	31	15	11	26
泌尿器科		79	1,970	2,049	53	407	460	70	495	565	65	475	540	67	521	588
産婦人科		39	891	930	33	660	693	28	575	603	20	636	656	29	563	592
眼科		7	2	9	2	1	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0
耳鼻いんこう科		70	79	149	62	55	117	50	63	113	38	57	95	27	42	69
放射線科		0	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
緩和ケア内科		26	30	56	24	28	52	23	17	40	9	27	36	22	25	47
救急科		288	330	618	365	304	669	313	152	465	442	206	648	492	181	673
歯科口腔外科		5	11	16	8	12	20	3	10	13	0	21	21	2	11	13
合計		2,349	16,263	18,612	2,519	13,858	16,377	2,395	12,658	15,053	2,563	12,693	15,256	2,500	12,249	14,749

②救急車搬送患者年度別受入状況

(単位 人, %)

診療科	年度	27		28		29		30		元	
		患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科		2,414	100.8	2,351	97.4	2,268	96.5	2,562	113.0	2,375	92.7
精神科		1	100.0	0	-	0	-	0	-	0	-
神経内科		1	-	30	3,000.0	84	280.0	108	128.6	79	73.1
循環器内科		218	100.9	190	87.2	196	103.2	167	85.2	189	113.2
小児科		264	120.0	274	103.8	260	94.9	300	115.4	307	102.3
外科		349	117.5	276	79.1	295	106.9	308	104.4	283	91.9
整形外科		360	105.6	415	115.3	357	86.0	342	95.8	365	106.7
脳神経外科		460	135.7	353	76.7	183	51.8	131	71.6	0	-
心臓血管外科		84	116.7	89	106.0	103	115.7	91	88.4	88	96.7
皮膚科		11	157.1	6	54.5	3	50.0	13	433.4	8	61.5
泌尿器科		151	111.9	139	92.1	142	102.2	153	107.8	134	87.6
産婦人科		99	92.5	90	90.9	57	63.3	60	105.3	66	110.0
眼科		10	83.3	2	20.0	0	-	1	-	0	-
耳鼻いんこう科		90	130.4	76	84.4	61	80.3	45	73.8	35	77.8
放射線科		0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
麻酔科		0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
緩和ケア内科		43	97.7	45	104.7	34	75.6	29	85.3	33	113.8
救急科		360	129.0	441	122.5	364	82.5	509	139.9	536	105.3
歯科口腔外科		8	100.0	9	112.5	3	33.3	0	-	2	-
合計		4,923	108.3	4,786	97.2	4,410	92.1	4,819	109.3	4,500	93.4

(5) 疾病統計

① 疾病統計

(ア) 疾病分類別・診療科別・性別・退院患者数 (期間 2019. 1. 1～12. 31)

(単位 人)

国際疾病大分類	退院患者数	内科	精神科	神経内科	循環器内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	放射線科	麻酔科	緩和ケア内科	救急科	歯科口腔外科
I. 感染症および寄生虫症 (A00～B99)	計 482 男 254 女 228	174 85 89	0 0 0	7 3 4	3 3 0	259 138 121	10 8 2	1 1 0	0 0 0	2 1 1	9 4 5	8 4 4	0 0 0	0 0 0	8 6 2	0 0 0	0 0 0	1 1 0	0 0 0	0 0 0
II. 新生物 (C00～D48)	計 3,375 男 2,154 女 1,221	1,078 717 361	0 0 0	1 1 0	5 2 3	1 322 0	678 5 356	7 5 2	0 0 0	2 1 1	154 78 76	971 859 112	203 0 203	0 0 0	46 29 17	0 0 0	0 0 0	224 139 85	0 0 0	5 0 5
III. 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50～D89)	計 91 男 46 女 45	41 24 17	0 0 0	3 0 3	1 1 0	22 16 6	15 3 12	0 0 0	0 0 0	2 1 1	6 1 0	1 0 6	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
IV. 内分泌、栄養および代謝疾患 (E00～E90)	計 280 男 170 女 110	138 76 62	0 0 0	9 3 6	9 6 3	89 73 16	25 5 20	4 3 1	0 0 0	1 1 0	0 3 0	3 0 0	0 0 0	1 0 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 0 1	0 0 0	0 0 0
V. 精神および行動の障害 (F00～F99)	計 38 男 18 女 20	20 8 12	0 0 0	7 4 3	0 0 1	8 4 4	2 1 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 1 0	0 0 0
VI. 神経系の疾患 (G00～G99)	計 173 男 97 女 76	19 12 7	0 0 0	110 55 55	3 1 2	20 16 4	0 0 0	9 7 2	1 1 0	1 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 6	10 4 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
VII. 眼および付属器の疾患 (H00～H59)	計 89 男 44 女 45	1 0 1	0 0 0	4 3 1	0 0 0	1 0 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	82 40 42	1 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
VIII. 耳および乳様突起の疾患 (H60～H95)	計 127 男 67 女 60	13 2 11	0 0 0	18 10 8	1 0 1	12 7 5	1 0 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	82 48 34	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
IX. 循環器系の疾患 (I00～I99)	計 1,408 男 919 女 489	105 62 43	0 0 0	95 59 36	740 507 233	4 2 2	4 1 6	5 7 4	13 274 158	432 0 0	0 3 0	6 0 3	1 0 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	2 1 1	1 1 0	0 0 0
X. 呼吸器系の疾患 (J00～J99)	計 1,654 男 996 女 658	732 443 289	0 0 0	10 7 3	16 7 9	505 287 218	58 41 17	1 1 0	0 0 0	0 4 3	0 0 0	4 0 1	0 0 0	0 0 0	319 201 118	0 0 0	0 0 0	5 5 0	0 0 0	0 0 0
XI. 消化器系の疾患 (K00～K93)	計 1,329 男 895 女 434	913 591 322	0 0 0	1 1 1	5 3 12	12 222 1	24 0 0	57 335 0	1 0 0	0 0 1	1 0 0	5 0 2	3 0 3	0 0 0	17 7 10	0 0 0	0 0 0	6 5 1	0 0 0	96 48 48
XII. 皮膚および皮下組織の疾患 (L00～L99)	計 129 男 69 女 60	22 10 12	0 0 0	0 0 0	3 3 0	18 11 7	3 2 1	4 2 2	0 3 0	3 31 0	62 2 31	0 0 1	0 0 0	0 0 0	9 4 5	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	2 1 1
XIII. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00～M99)	計 420 男 171 女 249	49 20 29	0 0 0	10 4 6	3 2 1	35 18 17	0 0 0	317 124 193	1 0 1	1 1 0	3 2 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 0 1	0 0 0
XIV. 腎尿路生殖器系の疾患 (N00～N99)	計 820 男 435 女 385	113 39 74	0 0 0	2 1 1	7 4 3	18 10 14	20 10 10	1 0 0	0 2 0	2 0 0	591 370 221	62 0 62	0 0 0	1 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
XV. 妊娠、分娩および産じょく<褥> (O00～O99)	計 520 男 0 女 520	2 0 2	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 0 1	517 0 517	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
XVI. 周産期に発生した病態 (P00～P96)	計 137 男 72 女 65	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	136 72 64	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 0 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
XVII. 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00～Q99)	計 41 男 17 女 24	2 1 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 3 1	0 0 0	4 1 3	0 0 0	2 0 2	0 0 0	5 3 2	1 0 1	0 0 0	19 7 12	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	4 2 2
XVIII. 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00～R99)	計 405 男 228 女 177	171 91 80	0 0 0	15 6 9	18 11 7	124 77 47	7 5 2	3 2 1	1 0 1	5 4 1	2 16 5	21 0 0	0 0 0	0 0 0	38 15 23	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
XIX. 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00～T98)	計 561 男 269 女 292	47 26 21	0 0 0	2 2 0	11 4 7	24 19 5	21 13 8	378 161 217	10 4 6	27 12 15	19 0 0	19 0 4	0 0 0	0 0 0	2 2 0	0 0 0	0 0 0	1 1 1	7 1 8	1 1 0
XX. 傷病および死亡の外因 (V01～Y98)	計 1 男 0 女 1	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	1 0 1
XXI. 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 (Z00～Z99)	計 83 男 53 女 30	0 0 0	0 0 0	0 2 0	2 0 0	2 11 0	16 35 5	52 0 17	0 0 0	2 0 2	0 0 0	0 0 0	2 0 2	7 0 4	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	2 2 0
全 体	計 13,058 男 7,408 女 5,650	4,231 2,529 1,702	0 0 0	296 159 136	830 558 272	1,304 760 544	1,417 758 659	787 344 443	26 12 14	485 301 184	233 118 115	1,638 0 356	796 0 796	90 43 47	552 325 227	0 0 0	1 1 0	244 155 89	18 9 9	111 54 57

(イ)疾病分類別・年齢階層別・性別・退院患者数 (期間 2019. 1. 1~12. 31)

(単位 人)

国際疾病大分類	退院患者数	年 齢 階 層															
		0~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~64歳	~69歳	~74歳	~79歳	~84歳	~89歳	90歳~	
I. 感染症および寄生虫症 (A00~B99)	計	482	197	48	13	14	20	22	16	23	8	24	26	22	17	21	11
	男	254	110	23	5	6	10	10	8	14	4	13	12	13	10	11	5
	女	228	87	25	8	8	10	12	8	9	4	11	14	9	7	10	6
II. 新生物 (C00~D48)	計	3,375	1	0	6	9	21	56	187	291	284	588	649	656	375	184	68
	男	2,154	0	0	4	3	5	22	56	164	191	380	465	476	246	105	37
	女	1,221	1	0	2	6	16	34	131	127	93	208	184	180	129	79	31
III. 血液および造血系の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50~D89)	計	91	8	9	6	0	6	5	7	3	3	3	6	15	11	4	5
	男	46	6	7	3	0	0	1	3	0	1	1	2	10	7	1	4
	女	45	2	2	3	0	6	4	4	3	2	2	4	5	4	3	1
IV. 内分泌、栄養および代謝疾患 (E00~E90)	計	280	15	13	33	30	7	16	23	25	16	24	19	26	12	15	6
	男	170	10	7	28	29	3	4	13	10	7	16	12	18	5	6	2
	女	110	5	6	5	1	4	12	10	15	9	8	7	8	7	9	4
V. 精神および行動の障害 (F00~F99)	計	38	2	0	4	3	5	1	2	3	2	1	7	6	0	2	0
	男	18	2	0	1	1	3	0	0	3	0	1	4	3	0	0	0
	女	20	0	0	3	2	2	1	2	0	2	0	3	3	0	2	0
VI. 神経系の疾患 (G00~G99)	計	173	5	6	8	9	14	6	16	11	15	21	11	24	13	8	6
	男	97	5	5	5	4	3	3	5	4	10	15	7	15	7	4	5
	女	76	0	1	3	5	11	3	11	7	5	6	4	9	6	4	1
VII. 眼および付属器の疾患 (H00~H59)	計	89	0	1	0	0	1	1	0	16	5	6	15	16	23	4	1
	男	44	0	0	0	0	0	1	0	12	3	4	6	6	11	0	1
	女	45	0	1	0	0	1	0	0	4	2	2	9	10	12	4	0
VIII. 耳および乳様突起の疾患 (H60~H95)	計	127	17	6	4	5	3	5	11	10	8	13	15	13	9	5	3
	男	67	9	4	3	2	2	2	8	7	3	5	7	7	5	1	2
	女	60	8	2	1	3	1	3	3	3	5	8	8	6	4	4	1
IX. 循環器系の疾患 (I00~I99)	計	1,408	2	1	1	3	1	15	76	140	94	163	224	290	169	145	84
	男	919	1	0	1	2	1	11	58	118	68	120	156	186	98	72	27
	女	489	1	1	0	1	0	4	18	22	26	43	68	104	71	73	57
X. 呼吸器系の疾患 (J00~J99)	計	1,654	450	77	27	25	85	55	74	63	68	94	121	137	130	161	87
	男	996	253	49	16	19	55	36	45	34	46	67	74	104	79	92	27
	女	658	197	28	11	6	30	19	29	29	22	27	47	33	51	69	60
XI. 消化器系の疾患 (K00~K93)	計	2,224	15	20	28	13	68	93	191	278	183	254	301	365	184	167	64
	男	1,329	5	14	21	3	39	45	112	152	118	178	191	232	102	92	25
	女	895	10	6	7	10	29	48	79	126	65	76	110	133	82	75	39
XII. 皮膚および皮下組織の疾患 (L00~L99)	計	129	13	4	1	4	4	12	15	16	6	7	10	12	7	11	7
	男	69	7	3	0	2	3	6	10	11	5	4	4	6	2	5	1
	女	60	6	1	1	2	1	6	5	5	1	3	6	6	5	6	6
XIII. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00~M99)	計	420	28	5	9	2	3	8	20	54	40	48	60	74	40	19	10
	男	171	14	3	4	2	1	5	10	21	16	13	27	29	17	6	3
	女	249	14	2	5	0	2	3	10	33	24	35	33	45	23	13	7
XIV. 泌尿生殖器系の疾患 (N00~N99)	計	820	12	8	6	12	33	30	66	88	61	77	113	102	95	80	37
	男	435	2	4	6	5	4	10	23	47	41	55	85	67	45	30	11
	女	385	10	4	0	7	29	20	43	41	20	22	28	35	50	50	26
XV. 妊娠、分娩および産じょく<褥> (O00~O99)	計	520	0	0	0	22	178	281	39	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	520	0	0	0	22	178	281	39	0	0	0	0	0	0	0	0
XVI. 周産期に発生した病態 (P00~P96)	計	137	136	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	72	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	65	64	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XVII. 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00~Q99)	計	41	6	8	3	2	4	4	3	4	4	1	2	0	0	0	0
	男	17	5	3	1	1	0	2	2	1	2	0	0	0	0	0	0
	女	24	1	5	2	1	4	2	1	3	2	1	2	0	0	0	0
XVIII. 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00~R99)	計	405	85	21	15	4	10	11	20	16	18	31	35	50	39	31	19
	男	228	55	14	7	1	5	5	9	10	7	21	24	30	20	14	6
	女	177	30	7	8	3	5	6	11	6	11	10	11	20	19	17	13
XIX. 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00~T98)	計	561	14	7	9	16	23	24	40	49	29	52	70	79	60	58	31
	男	269	10	5	7	11	18	15	23	32	21	23	34	27	20	15	8
	女	292	4	2	2	5	5	9	17	17	8	29	36	52	40	43	23
XX. 傷病および死亡の外因 (V01~Y98)	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
XXI. 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 (Z00~Z99)	計	83	1	0	3	5	3	9	11	15	8	9	8	7	3	1	0
	男	53	0	0	2	4	3	5	7	9	6	5	5	4	2	1	0
	女	30	1	0	1	1	0	4	4	6	2	4	3	3	1	0	0
全 体	計	13,058	1,007	234	176	178	489	655	817	1,105	852	1,416	1,692	1,894	1,187	917	439
	男	7,408	566	141	114	95	155	183	392	649	549	921	1,115	1,233	676	455	164
	女	5,650	441	93	62	83	334	472	425	456	303	495	577	661	511	462	275

②死亡統計

(ア) 診療科別死亡数及び剖検数 (期間 2019. 1. 1～12. 31)

(単位 人)

区 分	死亡患者数	うち剖検数
内 科	336	5
精 神 科	0	0
神 経 内 科	10	2
循 環 器 内 科	46	0
小 児 科	1	0
外 科	46	0
整 形 外 科	1	0
脳 神 経 外 科	2	0
心 臓 血 管 外 科	18	0
皮 膚 科	0	0
泌 尿 器 科	22	0
産 婦 人 科	9	0
眼 科	0	0
耳 鼻 い ん こ う 科	1	0
放 射 線 科	0	0
麻 酔 科	0	0
緩 和 ケ ア 内 科	140	0
救 急 科	3	0
歯 科 口 腔 外 科	0	0
合 計	635	7

(イ)死因分類表(期間 2019. 1. 1~12. 31)

(単位 人)

国際疾病大分類	性別	死亡患者数		合計
		入院	外来	
I. 感染症および寄生虫症 (A00~B99)	計	21	1	22
	男	16	1	17
	女	5	0	5
II. 新生物 (C00~D48)	計	282	12	294
	男	171	10	181
	女	111	2	113
III. 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50~D89)	計	1	0	1
	男	1	0	1
	女	0	0	0
IV. 内分泌、栄養および代謝疾患 (E00~E90)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
V. 精神および行動の障害 (F00~F99)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
VI. 神経系の疾患 (G00~G99)	計	1	0	1
	男	1	0	1
	女	0	0	0
VII. 眼および付属器の疾患 (H00~H59)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
VIII. 耳および乳様突起の疾患 (H60~H95)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
IX. 循環器系の疾患 (I00~I99)	計	67	55	122
	男	36	29	65
	女	31	26	57
X. 呼吸器系の疾患 (J00~J99)	計	91	11	102
	男	61	7	68
	女	30	4	34
XI. 消化器系の疾患 (K00~K93)	計	32	0	32
	男	19	0	19
	女	13	0	13
XII. 皮膚および皮下組織の疾患 (L00~L99)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
XIII. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00~M99)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
XIV. 腎尿路生殖器系の疾患 (N00~N99)	計	21	2	23
	男	12	1	13
	女	9	1	10
XV. 妊娠、分娩および産じょく<褥> (O00~O99)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
XVI. 周産期に発生した病態 (P00~P96)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
XVII. 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00~Q99)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
XVIII. 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00~R99)	計	21	9	30
	男	12	5	17
	女	9	4	13
XIX. 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00~T98)	計	2	5	7
	男	1	2	3
	女	1	3	4
XX. 傷病および死亡の外因 (V01~Y98)	計	0	1	1
	男	0	1	1
	女	0	0	0
XXI. 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 (Z00~Z99)	計	0	0	0
	男	0	0	0
	女	0	0	0
全 体	計	539	96	635
	男	330	56	386
	女	209	40	249

③退院患者数

(ア)診療科別・性別・在院日数別 (期間 2019. 1. 1~12. 31)

(単位 人)

診療科	性別	退院患者数	在院日数						
			1日	~3日	~7日	~14日	~30日	~60日	61日~
内科	計	4,231	41	1,017	950	1,182	761	244	36
	男	2,529	23	639	592	686	410	156	23
	女	1,702	18	378	358	496	351	88	13
精神科	計	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
神経内科	計	295	4	34	45	66	69	60	17
	男	159	2	11	24	37	39	36	10
	女	136	2	23	21	29	30	24	7
循環器内科	計	830	14	310	156	175	124	41	10
	男	558	11	227	122	112	63	19	4
	女	272	3	83	34	63	61	22	6
小児科	計	1,304	66	184	777	214	53	8	2
	男	760	64	114	437	110	28	6	1
	女	544	2	70	340	104	25	2	1
外科	計	1,417	5	94	594	425	223	57	19
	男	758	4	42	307	232	127	36	10
	女	659	1	52	287	193	96	21	9
整形外科	計	787	1	105	51	131	404	83	12
	男	344	0	63	32	64	142	39	4
	女	443	1	42	19	67	262	44	8
脳神経外科	計	26	0	0	0	7	10	3	6
	男	12	0	0	0	4	4	2	2
	女	14	0	0	0	3	6	1	4
心臓血管外科	計	485	3	119	34	101	149	66	13
	男	301	1	61	25	73	91	41	9
	女	184	2	58	9	28	58	25	4
皮膚科	計	233	0	27	43	127	30	5	1
	男	118	0	15	19	66	15	2	1
	女	115	0	12	24	61	15	3	0
泌尿器科	計	1,638	6	565	494	441	99	27	6
	男	1,282	4	463	348	370	72	20	5
	女	356	2	102	146	71	27	7	1
産婦人科	計	796	44	72	262	368	32	16	2
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	796	44	72	262	368	32	16	2
眼科	計	90	5	80	5	0	0	0	0
	男	43	4	39	0	0	0	0	0
	女	47	1	41	5	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	計	552	1	115	292	136	6	2	0
	男	325	1	58	179	82	5	0	0
	女	227	0	57	113	54	1	2	0
放射線科	計	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	計	1	0	1	0	0	0	0	0
	男	1	0	1	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケア内科	計	244	4	40	47	58	61	27	7
	男	155	2	25	35	37	36	16	4
	女	89	2	15	12	21	25	11	3
救急科	計	18	0	13	3	2	0	0	0
	男	9	0	7	2	0	0	0	0
	女	9	0	6	1	2	0	0	0
歯科口腔外科	計	111	1	94	12	2	2	0	0
	男	54	0	46	6	1	1	0	0
	女	57	1	48	6	1	1	0	0
全体	計	13,058	195	2,870	3,765	3,435	2,023	639	131
	男	7,408	116	1,811	2,128	1,874	1,033	373	73
	女	5,650	79	1,059	1,637	1,561	990	266	58

2. リハビリテーション科

(1) 管理料、加算、指導料

(単位 件)

区分 \ 年度	27	28	29	30	元
総合計画評価	1,515	1,166	1,311	1,492	2,036
初期加算	27,580	27,661	30,222	32,223	35,113
早期加算	43,544	43,002	46,694	48,148	51,213
退院時指導	871	1,023	1,048	1,145	1,295

(2) 理学療法業務実績

①取得単位数

(単位 単位)

区分 \ 年度	27	28	29	30	元	
入院	脳血管	12,295	14,238	12,781	12,821	11,890
	運動器	13,551	14,601	14,095	14,272	13,154
	呼吸器	5,717	5,484	5,011	5,449	6,370
	心大血管	4,863	4,309	5,885	5,056	5,574
	がん	405	647	1,217	1,518	1,736
	合計	36,831	39,279	38,989	39,116	38,724
外来	脳血管	19	111	158	87	25
	運動器	572	685	603	563	531
	呼吸器	254	251	263	308	283
	心大血管	3	55	10	4	0
	合計	848	1,102	1,034	962	839
合計	37,679	40,381	40,023	40,078	39,563	
緩和ケア病棟リハ	55	137	200	147	288	
総点数(点)	9,116,715	9,966,483	9,957,654	9,988,215	9,913,528	

②科別患者数

(単位 人)

年度		27	28	29	30	元
入 院	内 科	6,158	7,412	6,367	7,129	7,631
	循 環 器 内 科	1,933	1,372	2,265	1,865	1,766
	神 経 内 科	0	332	1,719	2,456	2,510
	小 児 科	26	27	23	24	52
	外 科	2,293	2,561	3,000	4,008	4,117
	整 形 外 科	8,208	8,694	8,476	8,748	8,138
	脳 神 経 外 科	5,317	4,891	2,432	1,486	30
	心 臓 血 管 外 科	3,258	3,544	3,769	3,492	4,257
	泌 尿 器 科	481	579	1,075	914	1,308
	そ の 他	207	322	292	455	467
	計	27,881	29,734	29,418	30,577	30,276
外 来	内 科	8	4	38	18	1
	循 環 器 内 科	2	0	1	23	2
	神 経 内 科	0	0	5	0	8
	小 児 科	0	10	0	10	4
	外 科	128	122	147	168	163
	整 形 外 科	414	563	422	372	351
	脳 神 経 外 科	15	15	14	8	2
	心 臓 血 管 外 科	0	26	5	0	0
	泌 尿 器 科	0	0	0	1	0
	そ の 他	0	0	22	0	0
	計	567	740	654	600	531
合 計	28,448	30,474	30,072	31,177	30,807	

③傷病別患者数

(単位 人)

年度		27			28			29			30			元		
傷病名	区 分	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
		脳 出 血	1,326	0	1,326	1,390	0	1,390	821	0	821	539	0	539	350	0
脳 梗 塞	3,113	0	3,113	2,588	0	2,588	2,485	1	2,486	1,957	16	1,973	1,506	2	1,508	
頭 部 外 傷	81	0	81	132	0	132	15	0	15	18	0	18	12	0	12	
神 経 難 病	141	0	141	119	10	129	298	5	303	274	0	274	281	0	281	
脊 髄 損 傷	401	2	403	298	0	298	130	0	130	139	0	139	67	0	67	
骨 折 (一 般)	3,339	209	3,548	3,951	243	4,194	3,841	145	3,986	3,121	154	3,275	2,581	142	2,723	
靱 帯 損 傷	106	43	149	47	3	50	124	42	166	97	59	156	22	39	61	
大 腿 骨 頸 部 骨 折	863	59	922	536	35	571	768	42	810	644	18	662	1,029	35	1,064	
変 形 性 股 関 節 症	2,900	47	2,947	2,741	106	2,847	2,205	82	2,287	2,834	130	2,964	2,186	118	2,304	
変 形 性 膝 関 節 症	418	6	424	341	14	355	220	2	222	155	0	155	138	0	138	
心 大 血 管 疾 患	4,494	2	4,496	4,382	28	4,410	5,257	5	5,262	4,916	2	4,918	5,431	0	5,431	
呼 吸 器 疾 患	4,054	8	4,062	3,880	2	3,882	3,075	0	3,075	3,456	17	3,473	3,948	3	3,951	
悪 性 新 生 物	1,883	128	2,011	2,969	122	3,091	3,455	140	3,595	3,985	163	4,148	4,459	159	4,618	
廃 用 症 候 群	327	0	327	274	0	274	113	37	150	45	11	56	84	0	84	
そ の 他	4,435	63	4,498	6,086	177	6,263	6,611	153	6,764	8,397	30	8,427	8,182	33	8,215	
合 計	27,881	567	28,448	29,734	740	30,474	29,418	654	30,072	30,577	600	31,177	30,276	531	30,807	

(3) 作業療法業務実績

①取得単位数

(単位 単位)

年度		27	28	29	30	元
入 院	脳血管	9,130	8,810	7,523	7,024	7,337
	運動器	702	1,230	904	2,695	3,142
	が ん	109	125	183	124	64
	合計	9,941	10,165	8,610	9,843	10,543
外 来	脳血管	0	154	57	40	38
	運動器	1,129	1,642	1,203	910	646
	合計	1,129	1,796	1,260	950	684
合計		11,070	11,961	9,870	10,793	11,227
緩和ケア病棟リハ		48	82	138	341	386
総点数(点)		2,961,841	3,076,682	2,554,845	2,734,046	2,912,141

②科別患者数

(単位 人)

年度		27	28	29	30	元
入 院	内科	1,960	2,339	2,346	2,605	3,420
	循環器内科	94	30	72	115	51
	神経内科	0	125	1,148	1,763	2,110
	小児科	11	0	4	12	19
	外科	408	247	311	385	325
	整形外科	384	578	557	1,785	2,033
	脳神経外科	5,285	4,754	2,443	1,353	15
	心臓血管外科	65	15	79	63	140
	泌尿器科	346	103	92	162	254
	その他	116	124	198	396	468
	計	8,669	8,315	7,250	8,639	8,835
外 来	内科	0	0	0	0	0
	循環器内科	0	0	0	0	0
	神経内科	0	0	0	40	20
	小児科	0	0	0	0	0
	外科	6	11	37	15	5
	整形外科	987	1,167	786	709	441
	脳神経外科	0	39	15	0	0
	心臓血管外科	0	0	0	0	0
	泌尿器科	0	0	0	0	0
	その他	0	1	0	0	0
	計	993	1,218	838	764	466
合計		9,662	9,533	8,088	9,403	9,301

③傷病別患者数

(単位 人)

年度 区分 傷病名	27			28			29			30			元		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
脳出血	1,471	0	1,471	1,201	0	1,201	620	0	620	525	0	525	246	0	246
脳梗塞	2,914	0	2,914	2,193	0	2,193	2,017	0	2,017	1,430	0	1,430	1,296	11	1,307
頭部外傷	72	0	72	644	0	644	249	0	249	138	0	138	27	0	27
神経難病	64	0	64	39	0	39	155	0	155	120	0	120	237	0	237
脊髄損傷	338	3	341	361	30	391	190	0	190	6	0	6	0	0	0
変形性股関節症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,118	0	1,118	1,346	1	1,347
骨折(上肢)	351	835	1,186	424	772	1,196	454	679	1,133	394	626	1,020	311	342	653
靭帯損傷	0	36	36	2	226	228	0	10	10	0	0	0	0	0	0
心大血管疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66	0	66	149	0	149
呼吸器疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	381	0	381	824	0	824
悪性新生物	462	7	469	406	2	408	494	0	494	854	0	854	1,092	0	1,092
廃用症候群	2,656	0	2,656	2,746	118	2,864	2,561	42	2,603	1,557	0	1,557	39	0	39
その他	341	112	453	299	70	369	510	107	617	2,050	138	2,188	3,270	103	3,373
合計	8,669	993	9,662	8,315	1,218	9,533	7,250	838	8,088	8,639	764	9,403	8,837	457	9,294

(4) 言語聴覚療法業務実績

①取得単位数

(単位 単位)

年度 区分		27	28	29	30	元
入院	脳血管	8,939	5,837	11,034	10,647	13,869
	がん	-	-	-	40	36
外来	脳血管	17	46	41	40	9
合計		8,956	5,883	11,075	10,727	13,914
摂食機能療法		891	3,904	2,180	2,175	43
緩和ケア病棟リハ		6	29	17	20	4
総点数(点)		2,460,088	2,306,640	3,267,446	3,076,195	3,407,633

②科別患者数

(単位 人)

区分		年度	27	28	29	30	元
入院	内科		3,894	4,155	4,544	5,377	5,145
	循環器内科		490	363	375	351	414
	神経内科		0	260	1,316	1,915	1,829
	小児科		0	1	2	8	18
	外科		183	296	279	504	288
	整形外科		29	136	195	207	403
	脳神経外科		3,228	3,070	1,762	917	14
	心臓血管外科		186	356	372	382	703
	泌尿器科		123	76	91	154	208
	耳鼻いんこう科		7	10	0	2	19
	歯科口腔外科		40	0	0	0	0
	その他		3	16	44	38	102
	計		8,183	8,739	8,980	9,855	9,143
	外来	内科		0	0	1	0
循環器内科			0	0	0	15	0
神経内科			0	0	0	0	0
小児科			8	8	6	6	2
外科			0	0	0	2	0
整形外科			0	0	0	0	0
脳神経外科			0	0	1	0	0
心臓血管外科			0	0	0	0	0
泌尿器科			0	0	0	0	0
耳鼻いんこう科			8	37	28	3	7
歯科口腔外科			1	0	0	0	0
その他			0	0	0	0	0
計			17	45	36	26	9
合計			8,200	8,784	9,016	9,881	9,152

③傷病別患者数

(単位 人)

年度 区分 傷病名	27			28			29			30			元		
	入院	外来	合計												
脳 出 血	999	0	999	1,023	0	1,023	571	0	571	508	0	508	318	0	318
脳 梗 塞	2,122	0	2,122	1,927	0	1,927	2,263	0	2,263	1,717	12	1,729	1,071	0	1,071
頭 部 外 傷	55	0	55	233	0	233	104	0	104	86	0	86	23	0	23
神 経 難 病	125	0	125	37	0	37	273	0	273	240	0	240	177	0	177
脊 髓 損 傷	29	0	29	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	2
骨 折	8	0	8	89	0	89	13	0	13	10	0	10	211	4	215
心 大 血 管 疾 患	0	0	0	232	0	232	38	0	38	337	0	337	650	0	650
呼 吸 器 疾 患	610	0	610	1,986	0	1,986	747	0	747	2,186	0	2,186	2,882	0	2,882
悪 性 新 生 物	153	0	153	252	0	252	166	0	166	283	0	283	280	0	280
廃 用 症 候 群	3,732	8	3,740	1,230	7	1,237	3,352	6	3,358	2,281	9	2,290	0	2	2
そ の 他	350	9	359	1,730	38	1,768	1,452	30	1,482	2,207	5	2,212	3,509	10	3,519
合 計	8,183	17	8,200	8,739	45	8,784	8,980	36	9,016	9,855	26	9,881	9,123	16	9,139

3. 中央放射線科

(1) 年間業務量

①画像診断（単純撮影、透視、血管撮影、CT、MRI）

人数 95,726 人

②核医学（シンチグラム、SPECT）

人数 1,100 人

③放射線治療（ライナック）

人数 4,865 人 照射門数 17,826 門

(2) 画像診断件数

(単位 人)

年 度	項 目	患 者 人 数	
		総 合 計	1 日 平 均
27		88,473	362.6
28		91,977	377.0
29		90,734	371.9
30		95,916	393.0
元		95,726	392.3

(3) 画像診断・項目別件数

(単位 件)

項 目		年 度	27	28	29	30	元		
単	純	撮	影	42,781	43,705	43,250	44,354	43,586	
ポ	ー	タ	ブ	10,999	12,054	12,262	12,354	13,172	
乳	房	撮	影	3,564	3,717	3,066	3,593	3,689	
パ	ノ	ラ	マ	454	96	155	1,392	1,298	
C		T		18,861	20,018	20,278	22,067	22,288	
M		R	I	6,380	6,927	6,527	6,952	6,559	
骨		密	度	922	943	1,019	1,163	1,228	
消	化	管	造	2,717	2,442	2,077	1,952	1,781	
一	般	造	影	642	963	906	1,017	1,073	
血	管	造	影	頭 頸 部	12	0	12	0	0
				胸 腹 骨 盤	269	316	269	298	269
				四 肢	26	32	26	30	13
				小 計	307	348	307	328	282
心	臓	心 カ テ	509	537	509	495	514		
		P C I	205	221	205	172	208		
		ペースメーカー	46	40	46	35	51		
		一時ペースィング	16	27	16	21	15		
		そ の 他	29	21	29	21	8		
		小 計	805	846	805	744	796		
合	計		88,165	88,473	91,977	90,734	95,752		

※CD、フィルム コピー・取込みの件数は含みません。

※平成29年度：MRI装置等の更新・工事のため、4カ月半稼働中断

(4) 核医学・項目別件数

(単位 人)

核 医 学 検 査			人 数
シンチ	全身シンチ	骨シンチ	697
		Gaシンチ	13
		MIBG・ ²⁰¹ Tl・ ¹²³ I	11
	動 態	唾液腺・レノグラム	62
	静 態	その他	137
	小 計		920
SPECT	心筋血流	安 静	32
		負 荷	53
	脳血流	安 静	95
		負荷 (RVR)	0
	腫 瘍	²⁰¹ Tl・ ⁶⁷ GA	0
	小 計		180
合 計		1,100	

(5) 放射線治療件数

(単位 人・門)

年 度	項 目	人 数		照 射 門 数	
		総合計	1日平均	総合計	1日平均
27		4,172	17.1	15,295	62.7
28		4,399	18.1	18,816	77.1
29		3,416	14.0	14,674	60.1
30		4,697	19.3	15,125	62.0
元		4,865	19.9	17,826	73.1

(6) 放射線治療患者数

外 部 照 射		組 織 内 照 射	合 計
新規患者数	再来患者数	新規患者数 (前立腺)	
190 人	14 人	28 人	232 人

(7) 原発巣別新規患者

(単位 人)

部 位	人 数	部 位	人 数
1. 脳・脊髄 腫瘍	0	8. 婦人科腫瘍	4
2. 頭頸部腫瘍 (甲状腺を含む)	2	9. 泌尿器系腫瘍 (うち前立腺癌)	73 (55)
3. 食道癌	9	10. 造血管リンパ系腫瘍	0
4. 肺癌・気管・縦隔腫瘍 (うち肺癌)	50 (47)	11. 皮膚・骨・軟部腫瘍	1
5. 乳癌	63	12. その他 (悪性腫瘍)	1
6. 肝・胆・膵臓	5	13. 良性疾患	1
7. 胃・小腸・結腸・直腸癌	9	14. 15歳以下の小児例	0

4. 中央検査科

(1) 項目別検査件数

(単位 件)

項目 \ 年度	27	28	29	30	元
一般	436,045	478,220	486,143	487,228	483,458
血液	935,502	954,129	949,751	984,139	1,013,785
生化	1,532,184	1,599,795	1,608,931	1,675,771	1,731,219
免疫(血清)	151,716	156,486	165,594	174,510	180,576
細菌	32,331	35,798	33,843	40,399	39,615
生理	67,147	69,976	69,822	70,980	70,333
病理	23,536	24,423	25,447	26,289	26,783
計	3,178,461	3,318,827	3,339,531	3,459,316	3,545,769
前年比(%)	102.04	104.41	100.62	103.58	102.50

(2) 採血件数

(単位 件)

項目 \ 年度	27	28	29	30	元
採血	347,466	344,533	318,659	330,419	336,790
前年比(%)	96.45	99.16	92.49	103.69	101.93

(3) 循環器系及び超音波検査件数

(単位 件)

項目 \ 年度	27	28	29	30	元
UCG	5,449	5,889	5,957	6,231	6,030
心電図	25,266	25,859	25,873	25,337	25,181
ホルター心電図	336	356	330	310	268
トレッドミル	122	88	54	81	76
超音波	16,857	17,575	18,325	19,386	18,412
計	48,030	49,767	50,539	51,345	49,967
前年比(%)	101.06	101.06	101.55	101.59	97.32

(4) 輸血用血液管理

(単位 単位)

項目(1単位) \ 年度	27	28	29	30	元
赤血球(RCC+LR) 【140ml】	2,827	3,040	2,756	3,037	3,680
新鮮凍結血漿(FFP) 【120ml】	854	808	820	844	1,140
濃厚血小板 【20ml】	1,415	1,390	1,305	1,200	1,840
計	5,096	5,238	4,881	5,081	6,660
自己血 【200ml】	653	536	616	674	562

5. 臨床心理士業務件数

(1) 相談件数

(単位 件, %)

年度	27					28					29					30					元				
	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比	入院	外来	その他	合計	前年比
新規	608	133	16	757	138.6	510	100	8	618	81.6	144	145	8	297	48.1	700	140	17	857	288.6	759	153	8	920	107.4
継続	193	23	4	220	102.8	176	9	0	185	84.1	30	15	2	47	25.4	203	24	4	231	491.5	216	49	4	269	116.5
計	801	156	20	977	128.6	686	109	8	803	82.2	174	160	10	344	42.8	903	164	21	1,088	316.3	975	202	12	1,189	109.3
延べ件数	1,629	174	24	1,827	110.0	1,366	119	8	1,493	81.7	355	228	13	596	39.9	2,123	274	24	2,421	406.2	2,503	298	15	2,816	116.3

※ [その他] は受診せず相談のみを示す。

(2) 診療科別

(単位 件, %)

年度	27		28		29		30		元	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
内科	253	85.5	214	84.6	86	40.2	347	403.5	366	105.5
精神科	0	皆減	2	皆増	0	皆減	0	-	0	-
神経内科	0	-	2	皆増	2	100.0	9	450.0	5	55.6
循環器内科	2	100.0	1	50.0	0	皆減	2	皆増	4	200.0
小児科	13	100.0	1	7.7	0	皆減	8	皆増	4	50.0
外科	132	111.9	77	58.3	29	37.7	118	406.9	124	105.1
整形外科	7	700.0	10	142.9	3	30.0	9	300.0	6	66.7
脳神経外科	15	115.4	19	126.7	1	5.3	2	200.0	0	皆減
心臓血管外科	12	1,200.0	2	16.7	0	皆減	3	皆増	4	133.3
皮膚科	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
泌尿器科	78	121.9	68	87.2	18	26.5	95	527.8	117	123.2
産婦人科	64	108.5	79	123.4	18	22.8	67	372.2	67	100.0
眼科	0	-	1	皆増	0	皆減	0	-	0	-
耳鼻 いんこう科	2	33.3	3	150.0	1	33.3	2	200.0	5	250.0
放射線科	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
麻酔科	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
緩和ケア内科	370	229.8	306	82.7	174	56.9	404	232.2	474	117.3
歯科口腔外科	9	900.0	8	88.9	0	皆減	0	-	0	-
救急科	0	皆減	2	皆増	2	100.0	1	50.0	1	100.0
その他	20	125.0	8	40.0	10	125.0	21	210.0	12	57.1
合計	977	128.6	803	82.2	344	42.8	1,088	316.3	1,189	109.3

※ [その他] は受診せず相談のみを示す。

(3) 新規相談の紹介者

(単位 件, %)

年 度	27		28		29		30		元	
区 分	件 数	前年比								
紹介者										
医 師	726	140.2	600	82.6	276	46.0	822	297.8	900	109.5
看 護 師	8	53.3	10	125.0	13	130.0	16	123.1	11	68.8
本人・家族	13	108.3	4	30.8	0	皆減	4	皆増	4	100.0
他 職 員	9	900.0	3	33.3	8	266.7	14	175.0	5	35.7
院 外 機 関	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
そ の 他	1	皆増	1	100.0	0	皆減	1	皆増	0	皆減
計	757	138.6	618	81.6	297	48.1	857	288.6	920	107.4

(4) 相談内容

(単位 件, %)

年 度	27		28		29		30		元	
区 分	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
内 容										
精神科心理検査	0	皆減	5	-	0	皆減	0	-	0	-
精 神 科 カウンセリング	0	皆減	0	-	0	-	0	-	0	-
精神科・その他	0	皆減	0	-	0	-	0	-	0	-
緩和患者面接	312	73.2	258	82.7	307	119.0	709	231.0	911	128.5
緩和家族面接	7	41.2	4	57.1	23	575.0	33	143.5	163	493.9
緩和心理検査	1	皆増	0	皆減	0	-	0	-	1	皆増
緩和カンファレンス	1,410	131.9	1,180	83.7	172	14.6	1,548	900.0	1,671	107.9
緩和ケア病棟 入 棟 相 談	12	92.3	0	皆減	0	-	0	-	0	-
他科心理検査	14	700.0	1	7.1	2	200.0	1	50.0	0	皆減
他科カウンセリング	33	34.0	28	84.8	60	203.6	70	116.7	45	64.3
他科カンファレンス	0	-	0	-	0	-	10	皆増	2	20.0
コンサルテーション	20	166.7	11	55.0	19	172.7	25	131.6	4	16.0
職 員 相 談	18	163.6	6	33.3	11	183.3	19	172.7	15	78.9
そ の 他	0	-	0	-	2	皆増	6	300.0	4	66.7
計	1,827	110.0	1,493	81.7	596	39.9	2,421	406.2	2,816	116.3

(5) 援助手段

(単位 件, %)

年 度	27		28		29		30		元	
区 分	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
手 段										
面 接	386	67.7	302	78.2	406	134.4	834	205.4	1,138	136.5
心 理 検 査	15	375.0	6	40.0	2	33.3	1	50.0	1	100.0
電 話	16	100.0	5	31.2	12	240.0	12	100.0	8	66.7
文 書	0	-	0	-	0	-	1	皆増	0	皆減
カンファレンス	1,410	131.8	1,180	83.7	176	14.9	1,572	893.2	1,669	106.2
そ の 他	0	-	0	-	0	-	1	皆増	0	皆減
計	1,827	110.0	1,493	81.7	596	39.9	2,421	406.2	2,816	116.3

6. 分娩件数

(単位 人, %)

項目		年度		27		28		29		30		元		
		件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比			
分娩件数		612	100.7	527	86.1	478	90.7	445	93.1	420	94.4			
内訳	単胎	601	100.3	512	85.2	467	91.2	436	93.4	405	92.9			
	双胎	10	111.1	15	150.0	11	73.3	9	81.8	15	166.7			
	三胎	1	皆増	0	皆減	0	—	0	—	0	—			
児胎数		624	101.1	542	86.9	489	90.2	454	92.8	435	95.8			
内訳	生産	598	102.6	527	88.1	476	90.3	439	92.2	415	94.5			
	死産	22週未満	22	78.6	13	59.1	13	100.0	15	115.4	19	126.7		
		22週以降	4	80.0	2	50.0	0	皆減	0	—	1	皆増		

7. 検診件数

(1) ドック検診

(単位 人, %)

項目		年度		27		28		29		30		元	
		件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比		
2日人間ドック		—	皆減	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1日人間ドック		6,884	103.8	6,967	101.2	6,736	96.7	6,614	98.2	6,363	96.2		

※平成27年3月で通院2日型ドック終了

(2) 人間ドック年齢別 (令和元年度)

(単位 人)

項目		年齢								
		10-20	21-30	31-40	41-50	51-60	61-70	71-80	81-	計
1日人間ドック	計	2	46	472	1,452	1,609	1,718	939	125	6,363
	男	0	19	306	872	934	971	552	84	3,738
	女	2	27	166	580	675	747	387	41	2,625

(3) 人間ドックオプション

(単位 人, %)

項目	27		28		29		30		元	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
脳ドック	566	105.4	702	124.0	564	80.	553	98.0	561	101.4
骨ドック	89	125.4	106	119.1	80	75.5	93	116.3	74	79.6
歯科口腔ドック	14	100.0	10	71.4	10	100.0	11	110.0	8	72.7
前立腺ドック	1,015	96.8	1,234	121.6	1,097	88.9	1,216	110.8	1,300	106.9
乳腺ドック	1,646	100.4	1,869	113.5	1,730	92.6	2,010	116.2	2,075	103.2
心臓ドック	34	100.0	23	67.6	24	104.3	24	100.0	24	100.0
肺がんドック	99	86.8	128	129.3	117	91.4	109	93.2	107	98.2
ピロリペプシ検診	165	52.2	117	70.9	85	72.6	31	36.5	44	141.9
ピロリ検診	135	皆増	411	304.4	344	83.7	222	64.5	181	81.5
C A 1 2 5	143	皆増	173	121.0	143	82.7	132	92.3	136	103.0
子宮頸がん検診	1,652	皆増	1,589	96.2	1,415	89.0	1,344	95.0	1,315	97.8
胃カメラ	—	—	—	—	—	—	4,581	皆増	4,494	98.1
計	5,558	147.3	6,362	114.5	5,609	88.2	10,413	185.6	10,319	99.1

(4) 一般検診

(単位 人, %)

項目	27		28		29		30		元	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
胃がん検診・胃透視(二次)	28	52.8	35	125.0	25	71.4	22	88.0	6	27.2
大腸がん検診(二次)	296	117.0	285	96.2	257	90.1	297	115.6	348	117.1
オート検診	70	92.1	94	132.4	89	94.7	90	101.1	—	皆減
乳児検診	564	101.3	531	94.1	466	87.7	413	88.6	408	98.7
特定健診・後期高齢者健診	201	91.4	177	88.0	163	92.0	142	87.1	139	97.8
計	1,159	100.0	1,122	96.8	1,000	89.1	964	96.4	901	93.4

(5) 特定保健指導

(単位 人)

支援別	27	28	29	30	元
特定健診当日情報提供	1,414	1,395	1,277	1,200	1,146
動機付け支援	22	32	42	54	35
積極的支援	26	17	18	31	24
継続支援	172	154	156	175	183

8. 内視鏡センター検査、処置件数および生検件数

(1) 検査、処置件数

(単位 人)

項目	年度	27	28	29	30	元
気管支内視鏡検査		148	163	139	158	171
胸腔鏡		4	8	6	13	6
胃・十二指腸内視鏡検査 (一般診療)		2,996	3,234	3,231	3,121	3,151
〃 (一日ドック)		4,426	4,610	4,658	4,578	4,494
〃 (二日ドック 経口)		0	0	0	0	0
〃 (二日ドック 経鼻)		0	0	0	0	0
小腸内視鏡検査 (経口)		6	8	2	27	4
部EUS		118	108	106	81	64
胆膵EUS		114	173	149	141	69
ERCP		24	19	33	18	23
大腸内視鏡検査 (一般診療)		2,488	2,508	2,395	2,533	2,480
〃 (二日ドック)		0	0	0	0	0
小腸内視鏡検査 (経肛門)		9	11	4	5	5
下部EUS		3	4	5	9	7
食道静脈瘤結紮術		30	14	18	20	14
食道静脈瘤硬化療法		45	37	26	27	34
上部消化管止血術		85	70	87	90	99
上部ポリペク・EMR		7	3	8	9	10
上部ESD		46	63	58	71	72
上部腫瘍治療のEMCT・APC		7	2	4	2	4
上部異物摘出術		10	7	9	17	11
上部拡張術		10	4	9	23	36
上部金属ステント留置術		10	2	8	6	5
イレウス管挿入術 (経鼻)		75	81	55	69	78
乳頭切開術		9	10	25	13	8
胆道結石除去術		87	112	141	118	117
胆道ドレナージ術		130	214	221	216	216
膵管ドレナージ術		8	17	8	10	12
胆管金属ステント留置術		12	7	27	30	21
胆道拡張術		0	2	0	0	0
下部消化管止血術		45	46	46	62	68
下部ポリペク・EMR		441	456	450	577	587
下部ESD		1	5	42	44	48
下部腫瘍治療のEMCT・APC		5	2	1	1	2
下部異物除去術		0	2	2	3	0
下部拡張術		13	13	7	3	6
下部金属ステント留置術		19	15	21	16	26
イレウス管挿入術 (経肛門)		9	14	14	8	3
胃瘻造設術		23	20	16	19	39
胃瘻ボタン交換		35	27	24	26	45
透視室使用		55	56	32	21	46
カプセル内視鏡		11	17	17	21	22
PTCD		8	1	14	14	9
合計		11,572	12,165	12,118	12,220	12,112

(2) 生検件数

(単位 件)

項 目	年 度				元
	27	28	29	30	
気管支	121	127	107	155	158
上部	823	852	827	660	782
下部	327	354	364	399	333
合 計	1,271	1,333	1,298	1,214	1,273

※本表は、内視鏡室において実施した件数である。

9. 手術件数

(1) 科別手術件数 (手術室)

(単位 件)

科名	27	28	29	30	元
内科	83	73	80	53	61
循環器内科	0	0	0	0	0
外科	919	896	900	1,019	1,108
整形外科	564	718	641	640	646
脳神経外科	47	38	0	0	0
心臓血管外科	444	420	484	481	456
皮膚科	290	290	306	420	416
泌尿器科	1,238	1,308	1,381	1,307	1,324
産婦人科	426	411	386	322	300
眼科	197	127	119	99	92
耳鼻いんこう科	330	360	309	332	366
麻酔科	17	10	3	1	2
歯科口腔外科	36	33	24	97	78
小児科	0	1	0	0	0
合計	4,591	4,685	4,633	4,771	4,849

(2) 手術麻酔別件数 (手術室)

(単位 件)

区分	27	28	29	30	元
全身麻酔(吸入・気管内)	2,398	2,434	2,383	2,633	2,694
脊髄麻酔	1,125	1,224	1,247	1,195	1,211
硬膜外麻酔	11	9	8	11	6
局所麻酔	827	657	655	665	698
静脈麻酔	0	0	0	0	0
神経ブロック	132	212	180	127	154
その他	98	149	160	140	86
合計	4,591	4,685	4,633	4,771	4,849

(3) 科別手術麻酔別件数 (手術室)

(単位 件)

区分	内科	外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	麻酔科	歯科口腔外科	小児科	合計
全身麻酔(吸入・気管内)	0	989	454	0	330	23	317	144	4	357	0	76	0	2,694
脊髄麻酔	0	101	128	0	0	7	862	113	0	0	0	0	0	1,211
硬膜外麻酔	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
局所麻酔	61	12	22	0	16	384	60	43	88	9	1	2	0	698
神経ブロック	0	0	42	0	110	2	0	0	0	0	0	0	0	154
その他	0	0	0	0	0	0	85	0	0	0	1	0	0	86
合計	61	1,108	646	0	456	416	1,324	300	92	366	2	78	0	4,849

(4) 手術支援ロボットダヴィンチ手術件数 (再掲)

(単位 件)

	27	28	29	30	元	合 計
前立腺癌	100	125	122	122	137	606
腎 癌		17	27	43	32	119
膀胱癌				4	8	12
胃 癌				11	16	27
直腸癌				4	22	26
合 計	100	142	149	184	215	790

※腎 癌 平成28年5月開始

※膀胱癌 平成30年9月開始

※胃 癌 平成30年4月開始

※直腸癌 平成30年10月開始

(5) 手術内容及び件数 (全体)

手術名	件数
皮膚、皮下組織	
創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの・長径5 cm未満)	205
創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの・長径5 cm未満・真皮縫合)	3
創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの・長径5 cm以上10 cm未満)	45
創傷処理 (筋肉、臓器に達するもの・長径5 cm以上10 cm未満)	22
創傷処理 (筋肉、臓器に達するもの・長径5 cm未満)	65
創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの・長径10 cm以上)	9
創傷処理 (筋肉、臓器に達するもの・長径10 cm以上) (その他)	11
小児創傷処理 (筋肉、臓器に達するもの・長径2.5 cm未満)	3
小児創傷処理 (筋肉、臓器に達するもの・長径2.5 cm以上5 cm未満)	2
小児創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの・長径2.5 cm未満)	18
小児創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの・長径2.5 cm以上5 cm未満)	6
皮膚切開 (長径10 cm未満)	64
皮膚切開 (長径10 cm以上20 cm未満)	4
皮膚切開 (長径20 cm以上)	1
デブリードマン (100>未満)	1
皮下血管腫摘出術 (露出部・長径3 cm未満)	2
粘膜下血管腫摘出術 (露出部・長径3 cm未満)	1
皮膚血管腫摘出術 (露出部・長径3 cm未満)	19
皮下血管腫摘出術 (露出部以外・長径3 cm未満)	1
皮膚血管腫摘出術 (露出部以外・長径3 cm未満)	7
皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径2 cm未満)	29
皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径2 cm以上4 cm未満)	32
皮膚腫瘍摘出術 (露出部) (長径4 cm以上)	3
皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径4 cm以上)	11
皮膚腫瘍摘出術 (露出部) (長径2 cm未満)	93
皮膚腫瘍摘出術 (露出部) (長径2 cm以上4 cm未満)	9
皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3 cm未満)	42
皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3 cm以上6 cm未満)	15
皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径6 cm以上12 cm未満)	10
皮膚腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3 cm未満)	39
皮膚腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3 cm以上6 cm未満)	7
皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径12 cm以上)	2
皮膚悪性腫瘍切除術 (単純切除)	63
形成	
癒痕拘縮形成手術 (その他)	1
分層植皮術 (100 cm ² 以上200 cm ² 未満)	1
全層植皮術 (25 cm ² 未満)	12
全層植皮術 (25 cm ² 以上100 cm ² 未満)	1
皮弁作成術, 移動術, 切断術, 遷延皮弁術 (25>未満)	29
皮弁作成術, 移動術, 切断術, 遷延皮弁術 (25>~100>未満)	1
筋 (皮) 弁術	2
組織拡張器による再建手術 (一連につき) (乳房 (再建手術) の場合)	5
筋膜、筋、腱、腱鞘	
股関節内転筋切離術	6
腱鞘切開術 (指)	2
筋肉内異物摘出術	2
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 (前腕)	1
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 (下腿)	1
腱縫合術 (切創等の創傷により)	1
腱縫合術	1
アキレス腱断裂手術	5
四肢骨	
骨折非観血的整復術 (上腕)	8
骨折非観血的整復術 (前腕)	35
骨折非観血的整復術 (下腿)	8
骨折非観血的整復術 (手)	21
骨折非観血的整復術 (足, その他)	3

手術名	件数
骨折経皮的鋼線刺入固定術（上腕）	2
骨折観血の手術（下腿）	23
骨折観血の手術（大腿）	85
骨折観血の手術（前腕）	24
骨折観血の手術（上腕）	9
骨折観血の手術（足）	5
骨折観血の手術（指（手，足））	4
骨折観血の手術（肩甲骨）	1
骨折観血の手術（鎖骨）	13
骨折観血の手術（膝蓋骨）	1
観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの）（大腿）	3
一時的創外固定骨折治療術	2
難治性骨折超音波治療法（一連につき）	2
超音波骨折治療法（一連につき）	6
骨内異物（挿入物）除去術（上腕）	7
骨内異物（挿入物）除去術（大腿）	10
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	16
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	17
骨内異物（挿入物）除去術（鎖骨）	2
骨内異物（挿入物）除去術（膝蓋骨）	1
骨内異物（挿入物）除去術（手）	2
骨内異物（挿入物）除去術（足）	4
骨内異物（挿入物）除去術（指（手，足））	1
骨内異物（挿入物）除去術（その他）	2
骨部分切除術（指（手，足））	1
骨切り術（下腿）	1
大腿骨近位部（転子間を含む）骨切り術	1
骨移植術（同種骨移植、生体）	7
骨移植術（自家骨移植）	43
軟骨移植術（自家骨移植）	6
骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他）	46
四肢関節、靭帯	
関節脱臼非観血的整復術（肩）	9
関節脱臼非観血的整復術（肘）	4
関節脱臼非観血的整復術（股）	6
関節脱臼非観血的整復術（膝）	1
関節脱臼非観血的整復術（手）	2
関節脱臼非観血的整復術（足）	1
関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	34
関節脱臼非観血的整復術（指・手）	2
先天性股関節脱臼非観血的整復術（両側）（リーメンビュージェル法）	1
先天性股関節脱臼観血的整復術	1
関節鏡下関節内異物（挿入物を含む）除去術（膝）	1
関節鏡下関節滑膜切除術（膝）	1
関節鏡下半月板切除術	1
関節内骨折観血の手術（股）	1
関節内骨折観血の手術（肘）	4
関節内骨折観血の手術（足）	1
関節内骨折観血の手術（指・手）	1
靭帯断裂縫合術（指（手，足））	1
靭帯断裂縫合術（その他の靭帯）	1
観血的関節固定術（足）	1
靭帯断裂形成手術（その他の靭帯）	1
人工骨頭挿入術（肩）	2
人工骨頭挿入術（股）	36
人工関節置換術（股）	142
人工関節置換術（膝）	10
人工関節抜去術（股）	1
人工関節再置換術（股）	16

手術名	件数
直達牽引（左下肢）	2
直達牽引（右下肢）	1
直達牽引（躯幹）	1
四肢切断、離断、再接合	
四肢切断術（足・指）	3
四肢切断術（足）	2
四肢切断術（下腿）	11
四肢切断術（大腿）	2
断端形成術（骨形成を要す）（手・指）	3
断端形成術（骨形成を要す）（足・指）	2
断端形成術（骨形成を要す）（その他）	1
手、足	
爪甲除去術	1
ひょう疽手術（軟部組織）	2
陥入爪手術（複雑なもの）	8
手根管開放手術	12
脊柱、骨盤	
腸骨窩膿瘍搔爬術	1
骨盤骨折非観血的整復術	1
脊椎内異物（挿入物）除去術	3
椎間板摘出術（後方摘出術）	22
寛骨臼移動術	3
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）	71
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	26
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（前方椎体固定）	5
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方又は後側方固定）	28
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定）	38
脊椎側彎症手術（固定術）	5
脊髓、末梢神経、交感神経	
神経剥離術（その他のもの）	1
脊髓ドレナージ術	2
脊髓腫瘍摘出術（髄外）	2
涙道	
涙点プラグ挿入術、涙点閉鎖術	2
眼瞼	
霰粒腫摘出術	1
結膜	
結膜縫合術	1
結膜下異物除去術	3
眼房、網膜	
網膜光凝固術（その他特殊なもの・一連につき）	21
網膜光凝固術（通常のもの・一連につき）	16
水晶体、硝子体	
水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合・その他のもの）	93
水晶体再建術（眼内レンズを挿入しない場合）	1
後発白内障手術	20
外耳	
耳介血腫開窓術	2
外耳道異物除去術（単純なもの）	16
外耳道異物除去術（複雑なもの）	2
先天性耳瘻管摘出術	16
耳介腫瘍摘出術	7
外耳道腫瘍摘出術（外耳道真珠腫手術を含む）	1
耳介悪性腫瘍手術	6
耳介形成手術（耳介軟骨形成を要しないもの）	1
中耳	
鼓膜切開術	20
乳突削開術	6
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	33

手術名	件数
鼓膜形成手術	9
鼓室形成手術（耳小骨温存術）	6
鼓室形成手術（耳小骨再建術）	3
鼻	
鼻腔粘膜焼灼術	37
鼻内異物摘出術	1
鼻前庭嚢胞摘出術	1
粘膜下鼻甲骨骨切除術	73
鼻茸摘出術	6
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅱ型（副鼻腔単洞手術）	11
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	114
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型（汎副鼻腔手術）	21
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	2
経鼻腔的翼突管神経切除術	8
鼻中隔矯正術	42
副鼻腔	
鼻外前頭洞手術	1
咽頭、扁桃	
咽頭異物摘出術（簡単）	5
咽頭異物摘出術（複雑）	3
アデノイド切除術	47
中咽頭腫瘍摘出術（経口腔）	3
口蓋扁桃手術（摘出）	215
喉頭、気管	
深頸部膿瘍切開術	1
気管切開術	21
喉頭・声帯ポリープ切除術（直達喉頭鏡）	1
声帯ポリープ切除術（直達喉頭鏡）	27
喉頭蓋嚢腫摘出術	6
喉頭腫瘍摘出術（直達鏡）	11
歯、歯肉、歯槽部、口蓋	
拔牙手術（埋伏歯）	2
口腔前庭、口腔底、頬粘膜、舌	
頬粘膜腫瘍摘出術	1
舌腫瘍摘出術（その他のもの）	30
舌小帯形成手術	6
顔面	
口唇腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	2
口唇腫瘍摘出術（その他）	14
口唇悪性腫瘍手術	2
頬腫瘍摘出術（その他のもの）	1
頬腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	4
顔面骨、顎関節	
下顎骨折観血的手術（両側）	1
顎関節脱臼非観血的整復術	3
顎骨腫瘍摘出術（長径3cm未満）	2
唾液腺	
唾石摘出術（一連につき）（表在性のもの）	5
がま腫摘出術	1
顎下腺腫瘍摘出術	2
顎下腺摘出術	8
耳下腺腫瘍摘出術（浅葉）	10
耳下腺腫瘍摘出術（深葉）	4
甲状腺、副甲状腺（上皮小体）	
甲状腺腫摘出術（両葉）	8
甲状腺部分切除術（片葉）	17
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	5
甲状腺悪性腫瘍手術（全摘）（頸部外側区域郭清を伴わないもの）	4
副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術（摘出術）	2

手術名	件数
その他の頸部	
頸嚢摘出術	3
乳腺	
乳腺腫瘍摘出術（長径 5 cm未満）	14
乳腺腫瘍摘出術（長径 5 cm以上）	4
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（マンモグラフィ又は超音波装置によるもの）	219
乳房切除術	1
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除併施しない）	29
乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（内視鏡下によるものを含む）	2
乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	41
乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの））	1
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・腋窩部郭清を伴わないもの）	49
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	2
胸壁	
肋骨切除術（その他の肋骨）	1
胸骨切除術	1
胸壁悪性腫瘍摘出術（その他）	1
胸壁腫瘍摘出術	1
胸腔、胸膜	
胸腔鏡下試験切除術	1
膿胸胸膜切除術（1肺葉に相当する範囲以内のもの）	1
胸腔鏡下膿胸胸膜切除術	7
膿胸腔有茎筋肉弁充填術	1
膿胸腔有茎大網充填術	3
胸郭形成手術（膿胸手術）（胸膜肺底切除を併施）	1
縦隔	
縦隔悪性腫瘍手術（広汎摘出）	1
気管支、肺	
肺切除術（楔状部分切除）	1
胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの））	22
胸腔鏡下肺切除術（部分切除）	19
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	1
胸腔鏡下肺縫縮術	3
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	12
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	3
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	44
食道	
食道狭窄拡張術（内視鏡による）	1
食道狭窄拡張術（拡張用バルーンによるもの）	36
食道ステント留置術	2
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜切除術）	1
内視鏡的食道粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	11
食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（胸部・腹部の操作）	1
食道・胃静脈瘤硬化療法（内視鏡によるもの、一連として）	34
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	14
心、心膜、肺動静脈、冠血管等	
心腔内異物除去術	2
心房内血栓除去術	1
心腫瘍摘出術（単独）	2
経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞に対するもの）	2
経皮的冠動脈形成術（その他のもの）	15
経皮的冠動脈形成術（不安定狭心症に対するもの）	6
経皮的冠動脈形成術（高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの）	7
経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞に対するもの）	14
経皮的冠動脈ステント留置術（その他のもの）	108
経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症に対するもの）	56
冠動脈バイパス移植術（1吻合）	5
冠動脈バイパス移植術（2吻合以上）	32
冠動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの）（1吻合）	2

手術名	件数
冠動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの）（2吻合以上）	4
左室形成術（単独）	1
心室中隔穿孔閉鎖術（単独）	1
弁形成術（1弁のもの）	15
弁形成術（2弁のもの）	7
胸腔鏡下弁形成術（1弁のもの）	3
弁置換術（1弁のもの）	18
弁置換術（2弁のもの）	6
弁置換術（3弁のもの）	3
大動脈瘤切除術（上行大動脈・その他のもの）	6
大動脈瘤切除術（上行大動脈・大動脈弁置換術又は形成術を伴うもの）	3
大動脈瘤切除術（腹部大動脈・分枝血管の再建を伴うもの）	3
大動脈瘤切除術（上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術・その他のもの）	19
大動脈瘤切除術（弓部大動脈）	3
大動脈瘤切除術（上行大動脈・人工弁置換術を伴う大動脈基部置換術）	4
大動脈瘤切除術（上行及び弓部同時手術・大動脈弁置換又は形成術を伴う）	3
大動脈瘤切除術（上行及び弓部同時手術・人工弁置換を伴う大動脈基部置換術）	1
オープン型ステントグラフト内挿術（上行・弓部同時、その他）	1
ステントグラフト内挿術（胸部大動脈）	58
ステントグラフト内挿術（腹部大動脈）	57
ステントグラフト内挿術（腸骨動脈）	6
バルサルバ洞動脈瘤手術（単独）	1
右室二腔症手術	1
不整脈手術（メイズ手術）	8
体外ペースメーカー術	28
ペースメーカー移植術（経静脈電極）	38
ペースメーカー交換術	14
大動脈バルーンパンピング法（初日）	22
大動脈バルーンパンピング法（2日目以降）	42
人工心肺（初日）	122
経皮的な心肺補助法（初日）	4
経皮的な心肺補助法（2日目以降）	6
動脈	
血管縫合術（簡単）	5
上腕動脈表在化法	1
動脈塞栓除去術（その他）（観血的）	2
動脈形成術（その他の動脈）	1
内シャント設置術	34
抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	1
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	57
血管移植術（腹腔内動脈）	1
血管移植術（その他の動脈）	3
バイパス移植術（大動脈）	1
バイパス移植術（頸部動脈）	10
バイパス移植術（その他の動脈）	16
バイパス移植術（下腿動脈）	7
血管移植術（下腿動脈）	2
血管塞栓術（腹腔内）（止血）	11
血管塞栓術（腹腔内血管等）（その他のもの）	3
血管塞栓術（腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	145
四肢の血管拡張術	55
四肢の血管拡張術・血栓除去術	1
経皮的なシャント拡張術・血栓除去術（初回）	8
静脈	
下肢静脈瘤手術（抜去切除術）	13
下肢静脈瘤手術（硬化療法）	24
静脈瘤切除術（下肢以外）	1
下肢静脈瘤血管内焼灼術	159
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	3

手術名	件数
静脈血栓摘出術（開腹）	2
下大静脈フィルター留置術	2
静脈吻合術（その他の静脈）	1
リンパ管、リンパ節	
リンパ節摘出術（長径3cm未満）	6
リンパ節摘出術（長径3cm以上）	1
リンパ節群郭清術（腋窩）	2
腹壁、ヘルニア	
腹壁瘻手術（腹腔に通ずるもの）	1
腹壁腫瘍摘出術（形成手術を必要とする）	1
ヘルニア手術（臍ヘルニア）	2
ヘルニア手術（腹壁瘻ヘルニア）	2
ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	130
ヘルニア手術（大腿ヘルニア）	6
ヘルニア手術（骨盤部ヘルニア・閉鎖孔ヘルニア）	1
ヘルニア手術（内ヘルニア）	1
腹腔鏡下ヘルニア手術（腹壁瘻ヘルニア）	2
腹腔鏡下ヘルニア手術（大腿ヘルニア）	1
腹腔鏡下ヘルニア手術（臍ヘルニア）	1
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	19
腹膜、後腹膜、腸間膜、網膜	
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	65
試験開腹術	6
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	20
骨盤腹膜外膿瘍切開排膿術	1
急性汎発性腹膜炎手術	3
腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術	2
大網切除術	1
腹腔鏡下大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術	1
後腹膜悪性腫瘍手術	2
骨盤内臓全摘術	2
胃、十二指腸	
胃縫合術	2
腹腔鏡下胃・十二指腸潰瘍穿孔縫合術	1
内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	3
内視鏡的十二指腸ポリープ・粘膜切除術（その他のポリープ・粘膜切除術）	8
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術）	62
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（その他のポリープ・粘膜切除術）	1
内視鏡的胃内異物摘出術	6
内視鏡的食道異物摘出術	4
内視鏡的胃、十二指腸狭窄拡張術	4
内視鏡的消化管止血術	114
胃局所切除術	1
腹腔鏡下胃局所切除術（その他のもの）	2
胃切除術（悪性腫瘍）	17
腹腔鏡下胃切除術（単純）	1
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍）	16
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍）（内視鏡手術用支援機器使用）	16
胃全摘術（悪性腫瘍）	11
腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍）	4
胃腸吻合術（ブラウン吻合を含む）	8
腹腔鏡下胃腸吻合術	1
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	40
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	2
胆嚢、胆道	
胆嚢摘出術	34
腹腔鏡下胆嚢摘出術	183
胆管形成手術（胆管切除術を含む）	1
胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に限局する）	1

手術名	件数
胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（亜区域切除以上）を伴うもの）	1
胆管悪性腫瘍手術（その他のもの）	1
経皮的胆管ドレナージ術	28
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（ENBD）	1
超音波内視鏡下瘻孔形成術（腹腔内膿瘍に対するもの）	1
内視鏡的胆道結石除去術（胆道碎石術を伴うもの）	19
内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	69
内視鏡的胆道拡張術	9
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	15
内視鏡的乳頭切開術（胆道碎石術を伴う）	19
内視鏡的胆道ステント留置術	228
肝	
肝縫合術	1
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	4
肝切除術（部分切除）（単回の切除によるもの）	5
肝切除術（亜区域切除）	2
肝切除術（外側区域切除）	1
肝切除術（1区域切除（外側区域切除を除く））	2
肝切除術（2区域切除）	3
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）（2cm以内のもの）（その他）	37
肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（一連として）（2cmを超えるもの）（その他）	24
脾	
脾体尾部腫瘍切除術（脾尾部切除術）（脾温存）	1
脾体尾部腫瘍切除術（脾尾部切除術）（脾同時切除）	4
脾体尾部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）	1
脾頭部腫瘍切除術（脾頭十二指腸切除術）	1
脾頭部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う）	7
内視鏡的脾管ステント留置術	10
脾	
脾摘出術	1
空腸、回腸、盲腸、虫垂、結腸	
腸管癒着症手術	8
腹腔鏡下腸管癒着剥離術	10
腸重積症整復術（非観血的なもの）	5
小腸切除術（その他のもの）	22
腹腔鏡下小腸切除術（その他のもの）	4
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	52
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴うもの）	15
結腸切除術（小範囲切除）	18
結腸切除術（結腸半側切除）	6
結腸切除術（亜全切除）	1
結腸切除術（悪性腫瘍手術）	31
腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	5
腹腔鏡下結腸切除術（全切除、亜全切除）	3
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	51
内視鏡的大腸ポリープ切除術（長径2cm以上）	39
内視鏡的大腸ポリープ切除術（長径2cm未満）	554
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	47
小腸結腸内視鏡的止血術	60
腸吻合術	4
人工肛門造設術	15
腹腔鏡下人工肛門造設術	2
結腸瘻閉鎖術（腸管切除を伴わない）	1
人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴わない）	10
人工肛門閉鎖術（腸管切除を伴う）（その他のもの）	16
小腸・結腸狭窄部拡張術（内視鏡）	9
下部消化管ステント留置術	26
直腸	
直腸異物除去術（開腹によるもの）	1

手術名	件数
直腸腫瘍摘出術（経肛門）	3
低侵襲経肛門的局所切除術（MITAS）	1
直腸切除・切断術（切断術）	2
直腸切除・切断術（低位前方切除術）	5
直腸切除・切断術（切除術）	6
腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）	11
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）	2
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）	15
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）（内視鏡手術用支援機器使用）	5
腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）（内視鏡手術用支援機器使用）	16
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）（内視鏡手術用支援機器使用）	1
直腸脱手術（経会陰）（腸管切除を伴うもの）	5
肛門、その周辺	
痔核手術（結紮術）	1
痔核手術（根治手術（硬化療法（四段階注射法によるもの）を伴わないもの））	1
痔核手術（根治手術（硬化療法（四段階注射法によるもの）を伴うもの））	5
肛門周囲膿瘍切開術	2
痔瘻根治手術（複雑）	5
肛門ポリープ切除術	1
肛門拡張術	1
肛門形成手術（直腸粘膜脱形成手術）	1
毛巣洞手術	3
副腎	
腹腔鏡下副腎摘出術	1
腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	1
腎、腎盂	
経皮的尿管拡張術（経皮的腎瘻造設術を含む）	7
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）	35
経皮的腎嚢胞穿刺術	1
腎摘出術	1
腎（尿管）悪性腫瘍手術	7
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	39
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	32
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	10
尿管	
経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	120
経尿道的尿管狭窄拡張術	7
経尿道的尿管ステント留置術	227
経尿道的尿管ステント抜去術	97
膀胱	
膀胱破裂閉鎖術	1
膀胱結石摘出術（経尿道的手術）	22
経尿道的電気凝固術	4
膀胱水压拡張術	1
腹腔鏡下膀胱部分切除術	1
膀胱悪性腫瘍手術（全摘・回腸又は結腸導管利用し尿路変更を行う）	1
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術・電解質溶液利用のもの）	195
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘・腸管等利用し尿路変更なし）	1
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（全摘・回腸結腸導管利用し尿路変更あり）	1
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（回腸等導管利用し尿路変更あり・手術用支援機器）	8
腹腔鏡下尿膜管摘出術	4
膀胱瘻造設術	3
尿道	
外尿道腫瘍切除術	2
尿道狭窄内視鏡手術	1
尿道狭窄拡張術（尿道バルーンカテーテル）	2
陰茎	
陰茎尖圭コンジローム切除術	2
包茎手術（環状切除術）	4

手術名	件数
包茎手術（背面切開術）	1
陰囊、精巣、精巣上体、精管、精索	
精巣摘出術	9
精巣悪性腫瘍手術	9
陰嚢水腫手術（その他）	5
停留精巣固定術	1
精索捻転手術（その他のもの）	4
精索捻転手術（対側精巣固定術を伴う）	1
精嚢、前立腺	
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用のもの）	9
経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術（ホルミウム又は倍周波数レーザー）	35
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	137
外陰、会陰	
バルトリン腺膿瘍切開術	1
処女膜切開術	1
バルトリン腺嚢胞腫瘍摘出術（造袋術を含む）	2
女子外性器腫瘍摘出術	5
膣	
膣壁腫瘍摘出術	1
膣ポリープ切除術	4
膣壁尖圭コンジローム切除術	7
子宮	
子宮内膜搔爬術	10
子宮脱手術（膣壁形成手術・子宮全摘術）	4
子宮頸管ポリープ切除術	29
子宮頸部（膣部）切除術	24
子宮息肉様筋腫摘出術（膣式）	8
子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）	1
子宮筋腫摘出（核出）術（膣式）	1
子宮全摘術	67
子宮悪性腫瘍手術	7
子宮附属器	
卵管結紮術（両側，開腹）	3
子宮附属器腫瘍摘出術（両側，腹腔鏡）	13
子宮附属器腫瘍摘出術（両側，開腹）	61
子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	6
産科手術	
骨盤位娩出術	1
吸引娩出術	35
会陰（陰門）切開及び縫合術（分娩時）	152
会陰（膣壁）裂創縫合術（分娩時・筋層に及ぶ）	86
帝王切開術（緊急切開）	36
帝王切開術（選択切開）	77
子宮内反症整復手術（膣式・非観血的）	2
子宮頸管縫縮術（マクドナルド法）	2
流産手術（妊娠11週を超え21週まで）	1
流産手術（妊娠11週まで）（その他のもの）	20
子宮内容除去術（不全流産）	1
胞状奇胎除去術	2
異所性妊娠手術（開腹）	9
新生児仮死蘇生術（仮死第1度）	7
新生児仮死蘇生術（仮死第2度）	3
※ 手術名、件数は診療報酬算定データから抽出	
※ 手術加算は除く	

10. 透 析 件 数

(1) 透析患者数

(単位 人)

項目 \ 年度	27	28	29	30	元
入院患者延数	2,007	2,633	2,502	2,355	2,366
外来患者延数	8,228	8,332	7,870	7,239	6,613
計	10,235	10,965	10,372	9,594	8,979
透析開始者数	51	39	40	38	34
死亡者数	16	13	20	16	11
中止者数	11	9	1	13	4
転出者数	145	176	193	199	176
転入者数	120	147	152	184	178
年度末透析患者数	63	73	62	58	57

(2) アダカラム患者数

(単位 人)

項目 \ 年度	27	28	29	30	元
入院患者延数	39	69	23	31	23
外来患者延数	106	49	106	66	64
計	145	118	129	97	88
アダカラム開始者数	13	13	13	11	10

(3) CAPD患者数

(単位 人)

項目 \ 年度	27	28	29	30	元
CAPD年度末患者数	(透析と併用) 3	(透析と併用) 4	(透析と併用) 4	(透析と併用) 4	(透析と併用) 4
CAPD開始患者数	0	0	0	0	0
死亡者数	0	0	0	0	0
透析へ移行者数	0	0	0	0	0

11. 中央材料件数

(1) 滅菌装置及び洗浄装置運転回数

(単位 回)

項目	年度	27	28	29	30	元
旧オートクレーブ	1号缶	406				
新オートクレーブ	1号缶		649	772	904	862
旧	2号缶	551	175			
新	2号缶		554	711	845	821
旧オートクレーブ	3号缶	1,375	866	714	515	145
新オートクレーブ	3号缶					495
ハイスピード		584	585	494	581	424
E O G (3M社)		272	266	258	247	254
ステラッド 100NX滅菌器		1,028	1,109	1,256	1,470	1,616
真空超音波洗浄装置		365	439	416	498	262
蛇管洗浄器		292	293	289	295	281
ジェットウォッシャー1号機		733	650	779	1,070	734
ジェットウォッシャー2号機		930	935	1,265	1,631	1,273
ウォッシャーディスインフェクタ1号		2,106	1,970	1,741	1,853	1,773
ウォッシャーディスインフェクタ2号						1,059
内視鏡洗浄消毒器		140	171	158	198	54
新内視鏡洗浄消毒器						92
ベッド洗浄器		1,033	888	747	129	10

※平成28年7月旧オートクレーブ2台撤去・低温プラズマ滅菌器撤去・平成28年7月新オートクレーブ2台設置

※令和元年7月新オートクレーブ3号缶設置・(平成10年購入オートクレーブ3号缶撤去)

※令和元年8月ウォッシャーディスインフェクタ設置(2号)・(平成22年購入ジェットウォッシャー1号機撤去)

※令和元年11月新内視鏡洗浄消毒器設置(平成14年購入内視鏡洗浄消毒器撤去)

12. 薬剤部

(1) 院内処方せん

年度	枚数			件数(処方数)			剤数		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
27	45,556	14,133	59,689	85,197	28,717	113,914	770,659	274,345	1,045,004
28	48,204	14,521	62,725	89,494	31,402	120,896	769,112	315,338	1,084,450
29	49,174	14,002	63,176	93,109	30,316	123,425	739,923	300,671	1,040,594
30	49,079	14,063	63,142	96,780	30,576	127,356	786,566	291,390	1,077,956
元	50,080	14,116	64,196	101,513	30,038	131,551	819,175	289,492	1,108,667

(2) 院外処方せん

項目	年度	27	28	29	30	元
枚数		81,613	81,763	83,108	87,004	86,007
発行率(%)		85.2	84.9	85.6	86.1	85.9

(3) 注射薬処方せん

項目	年度	27	28	29	30	元
枚数		82,843	89,182	84,007	80,761	74,887
件数		189,885	208,472	195,650	240,006	248,823
剤数		294,960	323,212	303,508	413,211	422,289

(4) 製剤状況

年度	一般製剤		滅菌製剤		注射剤		軟膏類		点眼、点耳、点鼻	
	品目数	製剤量	品目数	製剤量	品目数	製剤量	品目数	製剤量	品目数	製剤量
27	10	6.59L	8	69.53L	4	0.49L	7	7.9kg	7	6,125個
28	10	6.53L	7	47.57L	4	0.40L	7	13.4kg	7	5,306個
29	10	7.30L	7	20.18L	4	0.69L	7	12.3kg	7	4,717個
30	9	7.09L	7	18.93L	3	0.72L	7	13.8kg	7	3,568個
元	9	7.24L	7	16.02L	3	1.09L	5	14.1kg	7	723個

(5) 無菌製剤処理業務

(単位 件)

項目	年度	27	28	29	30	元
T P N		559	831	451	716	756
外来化学療法(抗がん剤調製)		4,295	4,719	5,773	6,684	7,532
入院化学療法(抗がん剤調製)		1,867	2,196	1,992	1,577	1,742

(6) 服薬指導業務

(単位 件)

項目 \ 年度	27	28	29	30	元
薬剤管理指導料請求件数	11,444	12,366	12,810	12,475	13,401
退院時服薬指導加算件数	652	1,162	1,344	1,093	1,174
麻薬管理指導加算件数	36	61	95	146	196
がん患者指導料3算定件数	162	241	269	270	305
糖尿病教室指導件数	102	94	92	64	72
外来窓口相談件数	763	540	540	344	247

(7) 医薬品情報業務

(単位 件)

項目 \ 年度	27	28	29	30	元
薬剤便り	4	4	4	4	4
D I ニ ュ ー ス	6	10	12	9	8
質問件数	45	59	69	34	35
薬剤鑑別件数	10,726	11,441	11,368	11,975	12,398

※薬剤鑑別件数：H24年度～病棟業務における持参薬確認を含むICM集計

(8) 治験・市販後調査件数

(単位 件)

項目 \ 年度	27	28	29	30	元
治験等	10	14	8	7	6
市販後調査	44	51	58	56	37

13. 栄養科

(1) 食事別延食数

(単位 食)

区分 \ 年度	27	28	29	30	元
常食	107,904	88,765	77,892	85,826	78,726
軟食	59,981	82,515	82,148	82,781	84,241
流動食	7,514	7,240	7,017	6,652	6,132
特別食	160,592	160,856	160,617	150,285	151,190
調乳	7,711	8,236	8,158	7,475	7,270
その他(感染症)	0	0	0	0	194
計	343,702	347,612	335,832	333,019	327,753

(2) 特別食延食数

(単位 食)

区分 \ 年度	27	28	29	30	元
腎臓食	60,889	65,039	67,565	59,906	61,376
肝臓食	17,166	15,600	12,470	11,706	11,984
糖尿食	40,275	38,851	41,033	43,992	39,744
術後食	3,465	3,338	4,704	3,550	4,608
濃厚流動食	13,960	14,849	9,608	7,721	8,545
幼児食・離乳食	9,656	9,896	9,702	8,888	10,900
胆石食	6,340	7,378	8,167	7,079	8,040
その他(胃潰瘍食含む)	8,841	5,905	7,368	7,443	5,993
計	160,592	160,856	160,617	150,285	151,190

(3) 栄養指導件数

①個人指導

(単位 人)

区分 \ 年度	27	28	29	30	元
腎臓食 (高血圧食・心臓食含む)	257	272	306	285	382
肝臓食	15	22	8	8	13
糖尿食	644	561	604	574	604
その他 (肥満・高脂血症・その他)	270	270	288	348	361
計	1,186	1,125	1,206	1,215	1,360

②集団指導

(単位 人)

区分 \ 年度	27	28	29	30	元
糖尿病教室	102	97	98	69	78
母親学級	75	131	166	136	100
腎臓病教室	19	12	9	22	12
骨ドック	0	0	0	0	0
肝臓病教室	7	4	13	2	2
計	203	244	286	229	192

(4) 計画立案件数

(単位 人)

区分 \ 年度	27	28	29	30	元
入院患者数(人)	13,132	13,668	12,886	13,209	13,087
作成件数(人)	4,893	6,034	5,858	6,301	6,231
立案率(%)	37.26	44.15	45.46	47.70	47.61

14. 看護外来受診者数

(1) 受診者数

(単位 人)

項目 \ 年度	開設	27	28	29	30	元
乳腺看護外来	平成16年度	234	279	342	479	474
緩和看護外来	平成20年度	181	299	172	99	101
糖尿病フットケア外来	平成17年度	133	137	193	182	161
糖尿病療養指導士外来	平成16年度	786	721	803	865	813
小児糖尿病療養指導士外来	平成27年度	32	58	65	40	29
糖尿病地域連携パス外来	平成20年度	299	272	240	214	208
ストーマ看護外来	平成14年度	213	247	208	256	331
ウロストーマ看護外来	平成20年度	100	111	140	165	153
助産師外来	平成17年度	1,041	868	780	737	697
母乳外来	平成14年度	839	760	838	816	827
合計		3,647	3,858	3,752	3,853	3,794

Ⅲ 災害拠点病院

Ⅲ 災害拠点病院

1. 指定要件

当病院は平成 11 年 1 月 6 日から災害拠点病院の指定を受けており、群馬県内では、令和 2 年 3 月末現在で 17 病院が災害拠点病院となっている。

災害拠点病院は、災害が発生し、通常の医療体制では適切な医療確保が困難な場合に、都道府県知事の要請により傷病者の受け入れや医療救護班の派遣等を行う病院である。平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災を契機として、災害拠点病院の整備、広域災害・救急医療情報システム（EMIS）の整備、災害派遣医療チーム（DMAT）の養成等が行われてきた。平成 23 年 3 月の東日本大震災後、「災害時における医療体制の充実強化について」（平成 24 年 3 月 21 日 厚生労働省医政局長通知）により、災害指定病院の指定要件も見直しされ、災害医療体制の強化が図られている。

2. 業務概要

防火防災管理委員会の下部組織として、平成 22 年 12 月から DMAT 隊員及び関係部署員を構成員とする災害医療活動ワーキングチームを立ち上げ、災害訓練の企画実施や災害マニュアルの進行管理など、救急医療活動の基盤強化を進めている。平成 23 年 2 月からは災害医療プロバイダーの養成に着手し、令和 2 年 3 月末現在で 196 人の養成を数えた。今後は、大規模災害を見据え、更なる増員を図るとともに、フォローアップ講習を開催するなど、習熟度の向上に努めていく。

東日本大震災の発生直後には、医師・看護師等 10 人が伊勢崎市民病院 DMAT として福島県および宮城県へ出動し医療支援を行った。

今後も、関係機関との連携を図り、災害拠点病院としての使命を果たしていきたい。

3. 群馬県内の災害拠点病院

病院名	指定	病院名	指定	病院名	指定
前橋赤十字病院	H8	公立藤岡総合病院	H8	伊勢崎市民病院	H10
群馬県済生会前橋病院	H8	公立富岡総合病院	H8	伊勢崎佐波医師会病院	H10
日高病院	H8	原町赤十字病院	H8	桐生厚生総合病院	H8
高崎総合医療センター	H23	沼田病院	H10	太田記念病院	H8
渋川医療センター	H28	利根中央病院	H10	館林厚生病院	H23
群馬中央病院	H24	群馬大学医学部附属病院	H24		

※「指定」欄は年度表記

4. DMA T活動

(1) 設置目的

DMA T (Disaster Medical Assistance Team) とは主として超急性期の災害現場において、迅速性や機動性をもって医療活動ができる能力を持った医療チームであり、災害拠点病院は設置が義務づけられている。チームは医師・看護師・調整員の4～5名で活動することになっており、当病院は現在4チームが存在している。

東日本大震災の際には震災当日にいち早く被災地に出動し、被災地域の災害医療活動をサポートした実績を有し、また技能維持向上の目的で県内外の災害医療訓練に積極的に参加しており、群馬県の災害医療分野でその存在感は増している。

災害時にあっても市民・県民に医療サービスを途絶えることなく提供でき、安心安全を担保すること、これがDMA T活動の目的である。

(2) 活動の概要

① 出動実績

平成 23 年

- 3月 11～14日 東日本大震災に出動（福島県及び宮城県）
- 3月 24日 福島県大町病院より広域医療搬送に出動（前橋市）

平成 28 年

- 5月 9～13日 平成 28 年熊本地震に出動（熊本県）

平成 30 年

- 1月 23日 本白根山噴火災害に出動（吾妻郡）

令和元年

- 9月 11～13日 千葉県風水害（台風 15 号）に出動（千葉県）
- 10月 13日 栃木県風水害（台風 19 号）に出動（栃木県）
- 10月 14～15日 長野県風水害（台風 19 号）に出動（長野県）

② 訓練実績

平成 24 年

- 9月 16日 ビッグレスキューかながわ（神奈川県横須賀市）
- 11月 9、10日 DMA T 関東ブロック実働訓練（茨城県日立市）
- 11月 29日 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（埼玉県入間市）
- 12月 8日 第 8 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院）

平成 25 年

- 7月 10日 伊勢崎市 3 病院合同災害救護（伊勢崎市）
- 8月 31日 政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練（愛知県）
- 9月 7日 群馬県総合防災訓練（伊勢崎市）

平成 26 年

- 3月 9日 第 9 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院）
- 8月 30日 政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練（熊本県～大分県）
- 11月 14日 群馬県等関越自動車道等消防連絡協議会訓練（伊勢崎市）
- 11月 29日 DMA T 関東ブロック実働訓練（群馬県）

平成 27 年

- 9月 1日 平成 27 年度大規模地震時医療活動訓練（埼玉県）
- 10月 3、4日 第 12 回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院及び群馬県消防学校）

平成 28 年

- 1月 14日 自衛隊航空機を使用したDMA T 広域医療搬送実機研修（群馬県）
- 1月 30日 DMA T 関東ブロック実働訓練（東京都）
- 2月 10日 自衛隊航空機を使ったDMA T 広域医療搬送実機研修（埼玉県）

8月	6日	政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（静岡県）
10月	1、2日	第13回群馬県災害医療研修（前橋赤十字病院及び群馬県消防学校）
11月	9、10日	上越新幹線救出救護活動合同訓練（群馬県）
平成29年		
1月	15日	搜索救助等連携訓練（渋川市）
3月	4日	伊勢崎市消防本部・総合演習（伊勢崎市）
7月	29日	政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（大阪府）
9月	29、30日	第2回合同野営訓練（群馬県消防学校）
10月	22、24日	第14回群馬県災害医療研修（日本赤十字社群馬県支部）
平成30年		
2月	10、11日	DMA T関東ブロック実働訓練（栃木県）
8月	4日	政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練（熊本県）
9月	22、23日	第15回群馬県災害医療研修（日本赤十字社群馬県支部）
10月	19、20日	第3回合同野営訓練（群馬県消防学校）
12月	8、9日	DMA T関東ブロック実働訓練（千葉県）
平成31年		
3月	2日	伊勢崎市消防本部・総合演習（伊勢崎市）
令和元年		
9月	7日	政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練（埼玉県）
令和2年		
1月	23日	自衛隊航空機を使ったDMA T広域医療搬送実機研修（群馬県）

（3）今後の目標

災害は、東日本大震災のような巨大規模のものから、高速道路の多重事故のようなものまであり、いつ何時災害医療のニーズが発生してもおかしくない状況である。「災害に対する備えを怠ることは、既に災害が起きていることと同じである。」という格言もある。

今後も我々の活動を通して、災害医療活動の重要性が認知され病院全体が災害医療に取り組むマインドを創っていきたいと考えている。

IV 地域がん診療連携拠点病院

IV 地域がん診療連携拠点病院

1. 業務概要

(1) がん診療連携拠点病院の概要

がん診療連携拠点病院とは、質の高いがん医療を全国で等しく提供できるようにするため、わが国に多いがん（肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がんなど）について、地域におけるがん診療の連携、支援を推進するため、国が二次医療圏に1箇所程度の整備を進めてきたものであり、当病院は平成18年8月24日付けで厚生労働省から「地域がん診療連携拠点病院」に指定された。

当病院では平成21年度に緩和ケア病棟、内視鏡センター、外来化学療法センターで構成される「がん診療総合センター」が完成し、診断から治療、さらに緩和医療に至るまでの一貫したがん医療を提供できる体制が整った。

これからも地域がん診療連携拠点病院として、より質の高い医療を提供するとともに、がん医療従事者の研修や市民への啓発活動、がん患者の相談支援体制をさらに充実させ、伊勢崎保健医療圏におけるがん医療水準の向上を図っていきたい。

(2) 業務内容

- ① 地域の医療機関と連携した質の高い医療の提供
- ② セカンドオピニオンの提示
- ③ 緩和医療の提供体制の充実
- ④ 専門的な医療従事者の確保
- ⑤ 患者、ご家族、地域の医療機関からの相談に対応する体制整備
- ⑥ 院内がん登録の実施

2. 院内がん登録件数

(1) 腫瘍部位別・年齢別・性別・登録件数(期間 2019. 1. 1~12. 31)

(単位 件)

腫瘍部位別	性別	登録件数	年齢階層																		
			0-4才	5-9才	10-14才	15-19才	20-24才	25-29才	30-34才	35-39才	40-44才	45-49才	50-54才	55-59才	60-64才	65-69才	70-74才	75-79才	80-84才	85-89才	90才以上
1、口唇・口腔及び咽頭	計	22	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3	6	2	3	3	2	0
	男	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	2	3	3	2	0
	女	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0
2、消化器	計	608	0	0	0	0	1	1	1	6	5	14	15	31	41	92	103	119	117	53	9
	男	403	0	0	0	0	1	1	1	4	2	8	9	22	29	60	71	81	73	38	3
	女	205	0	0	0	0	0	0	0	2	3	6	6	9	12	32	32	38	44	15	6
3、呼吸器系及び胸腔内臓器	計	185	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	6	15	24	45	52	18	13	5
	男	140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	8	20	35	45	11	10	3
	女	45	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	2	7	4	10	7	7	3	2
4、骨・関節・関節軟骨	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5、造血系・細網内皮系	計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
6、皮膚	計	71	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	6	7	11	14	10	9	9
	男	34	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3	5	5	8	5	2	3
	女	37	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	2	6	6	5	7	6
7、後腹膜・腹膜	計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
8、結合組織・皮下組織・軟部組織	計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9、乳房	計	155	0	0	0	0	0	1	1	8	9	17	9	13	11	21	30	20	9	4	2
	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	154	0	0	0	0	0	1	1	8	9	17	9	13	11	21	30	20	8	4	2
10、女性性器	計	49	0	0	0	0	0	2	1	3	4	5	4	3	5	7	4	7	2	0	2
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	49	0	0	0	0	0	2	1	3	4	5	4	3	5	7	4	7	2	0	2
11、男性性器	計	303	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	3	13	32	52	72	76	34	13	2
	男	303	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	3	13	32	52	72	76	34	13	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12、尿路	計	176	0	0	0	0	0	0	1	1	1	5	9	9	7	31	33	30	25	17	7
	男	129	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	4	5	4	25	24	27	18	11	4
	女	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	4	3	6	9	3	7	6	3
13、眼・脳・中枢神経系	計	7	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	
	男	5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14、甲状腺・その他の内分泌腺	計	15	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	2	0	2	4	0	0	1	1	1
	男	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	女	12	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	2	3	0	0	1	1	1
15、その他・不明な部位	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16、リンパ節	計	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	3	1	1	1	1
	男	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3	0	1	0	0
	女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1
17、原発部位不明	計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
全 体	計	1,609	1	0	0	0	1	7	5	25	25	49	48	77	124	247	303	324	221	113	39
	男	1,045	0	0	0	0	1	2	2	10	6	18	22	46	78	169	212	241	147	76	15
	女	564	1	0	0	0	0	5	3	15	19	31	26	31	46	78	91	83	74	37	24

1、本表は、2020年9月15日現在の登録済データで作成

2、腫瘍一種類につき登録件数として計上

(2) 腫瘍部位別・年別・性別・登録件数 (各年とも1. 1～12. 31) (単位 件)

腫瘍部位別	性別	登録件数				
		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
1、口唇、口腔及び咽頭	計	22	18	5	12	22
	男	10	15	3	7	17
	女	12	3	2	5	5
2、消化器	計	507	544	539	623	608
	男	347	378	352	393	403
	女	160	166	187	230	205
3、呼吸器系及び胸腔内臓器	計	156	181	170	158	185
	男	110	138	123	122	140
	女	46	43	47	36	45
4、骨・関節・関節軟骨	計	2	0	0	1	0
	男	0	0	0	1	0
	女	2	0	0	0	0
5、造血系・細網内皮系	計	3	4	4	3	2
	男	1	3	3	3	1
	女	2	1	1	0	1
6、皮膚	計	41	45	39	57	71
	男	21	25	23	28	34
	女	20	20	16	29	37
7、後腹膜・腹膜	計	2	1	2	0	2
	男	1	0	0	0	1
	女	1	1	2	0	1
8、結合組織・皮下組織・軟部組織	計	3	2	3	3	1
	男	3	1	2	2	1
	女	0	1	1	1	0
9、乳房	計	124	168	128	160	155
	男	1	1	0	2	1
	女	123	167	128	158	154
10、女性性器	計	81	78	63	46	49
	男	0	0	0	0	0
	女	81	78	63	46	49
11、男性性器	計	294	309	301	249	303
	男	294	309	301	249	303
	女	0	0	0	0	0
12、尿路	計	161	148	205	199	176
	男	119	117	152	154	129
	女	42	31	53	45	47
13、眼・脳・中枢神経系	計	7	12	9	17	7
	男	3	6	7	3	5
	女	4	6	2	14	2
14、甲状腺・その他の内分泌腺	計	17	23	24	23	15
	男	4	11	7	6	3
	女	13	12	17	17	12
15、その他・不明確な部位	計	2	0	0	0	0
	男	1	0	0	0	0
	女	1	0	0	0	0
16、リンパ節	計	8	4	10	2	11
	男	5	0	6	1	7
	女	3	4	4	1	4
17、原発部位不明	計	7	5	6	11	2
	男	3	1	1	7	0
	女	4	4	5	4	2
全 体	計	1,437	1,542	1,508	1,564	1,609
	男	923	1,005	980	978	1,045
	女	514	537	528	586	564

1、2019年は2020年9月15日現在の登録済データを基に作成

2、腫瘍一種類につき登録件数として計上

3. 相談支援センター相談件数

(1) がん診療相談内容

(単位 件)

区分 \ 年度	29	30	元
治療	256	276	154
検査	45	36	22
症状・副作用・後遺症	288	283	203
セカンドオピニオン（受入）	0	1	0
セカンドオピニオン（紹介）	3	2	3
治療実績	1	2	0
臨床試験・先進医療	4	2	1
受診方法・入院	3	2	3
転院	3	8	2
医療機関の紹介	4	1	1
予防・検診	9	54	66
在宅医療	1	0	1
ホスピス・緩和ケア	7	8	44
食事・服薬・入浴・運動・外出など	17	27	15
介護・看護・教育	5	2	3
社会生活（仕事・就労・学業）	55	71	43
医療費・生活費・社会保障制度	16	13	25
補完代替療法	0	0	3
生きがい・価値観	92	133	72
不安・精神的苦痛	415	518	583
告知	10	27	26
医療者との関係・コミュニケーション	21	34	76
患者・家族間の関係・コミュニケーション	43	73	64
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	9	16	25
患者会・家族会（ピア情報）	17	6	8
不明	0	0	0
その他	4	6	12
合計	1,328	1,601	1,455

(2) 対応内容

(単位 件)

区 分	年 度	29	30	元
傾聴・語りの促進・支援的な対応		639	634	624
助 言 ・ 提 案		20	13	17
情 報 提 供		23	7	14
自 施 設 受 診 の 説 明		0	0	2
他 施 設 受 診 の 説 明		0	0	0
自 施 設 他 部 門 へ の 連 携		3	0	3
他 施 設 へ の 連 携		1	0	0
ピアサポート機能の紹介		0	0	0
そ の 他		0	0	2
合 計		686	654	662

(3) がんの種類別

(単位 件)

区 分	年 度	29	30	元
脳 ・ 神 経 ・ 眼		0	0	0
耳 鼻 咽 喉 ・ 口 腔		0	1	1
胃		53	33	23
食 道		3	4	0
大 腸		125	147	107
小 腸 ・ 肛 門		0	0	2
肝 ・ 胆		14	16	12
膵		48	27	63
肺		54	70	89
縦 隔 ・ 心 臓		0	0	0
乳 房		224	172	191
卵 巢 ・ 膣 ・ 外 陰 部		51	91	55
子 宮		10	8	23
精 巢		0	0	0
前 立 腺		18	25	14
腎 ・ 尿 管 ・ 膀 胱		29	25	23
甲 状 腺		6	5	3
副 腎		0	0	0
血 液 ・ リ ン パ		2	3	2
皮 膚		1	1	0
骨 ・ 軟 部 組 織		0	0	0
後 腹 膜 ・ 腹 膜		1	5	17
中 皮 腫		0	0	0
原 発 不 明		0	1	0
不 明		3	1	1
そ の 他		2	0	0
合 計		644	635	626

4. 啓発事業（講演会）

年月日	項目	講師名	場所	参加者数
元.11.30	市民公開講演会 「がんと共に生きる」	田中 司玄文 塚越 律子	緋の郷円形交流館	144人
元.12.4	公開講座 「前立腺がんの早期発見・適正治療・地域連携」 ～早期発見から治療・経過観察まで～	竹澤 豊	10階大会議室	43人

5. 外来化学療法センター

（1）点滴実施件数

※婦人科「腹膜がん」 泌尿器科「膀胱がん」は平成26年7月から統計開始

（単位 件）

診療科名	疾患名	27	28	29	30	元
内 科	肺 が ん	346	524	417	398	572
	胃 が ん	46	112	204	140	78
	大 腸 が ん	187	186	308	283	258
	胆・膵が ん	181	304	317	265	228
	食 道 が ん	2	0	13	19	5
外 科	肺 が ん	176	107	160	209	173
	乳 が ん	732	714	850	791	806
	胃 が ん	122	139	201	151	125
	大 腸 が ん	301	229	261	567	720
	食 道 が ん	0	0	0	1	2
婦 人 科	胆・膵が ん	73	141	193	222	180
	子 宮 が ん	11	20	16	14	13
	卵 巢 が ん	130	81	75	92	113
泌 尿 器 科	腹 膜 が ん	2	4	0	0	3
	前立腺が ん	46	76	82	62	76
	腎 が ん	63	66	166	207	376
	膀 胱 が ん	112	164	79	96	144
	尿路上皮が ん	35	28	10	26	34
合 計		2,565	2,895	3,352	3,543	3,906

（2）皮下注射実施件数

（単位 件）

診療科名	疾患名	27	28	29	30	元
外 科	乳 が ん	260	270	309	315	385
泌 尿 器 科	前立腺が ん	3,036	2,885	3,006	2,873	2,978
合 計		3,296	3,155	3,315	3,188	3,363

6. 緩和ケアチーム

(1) 緩和ケアチーム依頼（依頼人数、実人数、初回依頼）

（単位 件、人）

区分 月	のべ件数	依頼人数	実人数	初回依頼
4月	535	31	42	17
5月	497	36	44	23
6月	690	40	61	22
7月	629	43	64	16
8月	660	41	62	25
9月	698	33	54	16
10月	706	45	60	22
11月	618	35	57	19
12月	601	37	54	16
1月	562	34	51	18
2月	709	46	63	25
3月	796	42	70	19
合計	7,701	463	682	238

V 地域医療支援病院

V 地域医療支援病院

1. 地域医療支援病院について

『地域医療支援病院』の役割は、「かかりつけ医」からの紹介患者に対する医療の提供、医療機器の共同利用、救急医療の提供及び医療従事者の研修を行うことであり、群馬県内では、令和2年3月末現在で13病院が『地域医療支援病院』となっている。

2. 紹介患者に対する医療の提供

区 分		27	28	29	30	元
紹介患者に対する 医療の提供	紹介率	78.6%	82.1%	81.1%	83.8%	88.1%
	逆紹介率	86.5%	94.3%	92.0%	93.2%	99.3%
医療機器の共同利用 (CT・MRI・RI)		760件	690件	685件	680件	466件
救急医療の提供		20,372人	18,216人	16,721人	16,862人	16,283人
医療従事者の研修	研修回数	37回	37回	43回	40回	33回
	参加人数	1,911人	1,814人	2,292人	2,575人	1,438人

3. 連携登録医療機関

区 分	27	28	29	30	元
登録医療機関数	535施設	534施設	543施設	572施設	579施設
登録医師数	652人	629人	648人	678人	688人

4. 地域医療連携業務統計

(1) 紹介の状況

①診療科別紹介患者数

(単位 人, %)

診療科	27		28		29		30		元	
	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	4,505	97.1	4,629	102.8	4,437	95.9	4,770	107.5	5,059	106.1
精神科	7	116.7	5	71.4	3	60.0	1	33.3	1	100.0
神経内科	9	90.0	117	1,300.0	211	180.3	298	141.2	310	104.0
循環器内科	979	109.8	954	97.4	980	102.7	978	99.8	991	101.3
小児科	2,001	117.8	2,137	106.8	2,202	103.0	2,165	98.3	2,180	100.7
外科	1,147	105.2	1,091	95.1	1,211	111.0	1,235	102.0	1,349	109.2
整形外科	1,071	105.2	1,156	107.9	1,263	109.3	1,487	117.7	1,417	95.3
脳神経外科	378	102.7	370	97.9	274	74.1	219	79.9	126	57.5
心臓血管外科	528	96.5	541	102.5	695	128.5	691	99.4	682	98.7
皮膚科	560	100.7	611	109.1	662	108.3	817	123.4	866	106.0
泌尿器科	2,089	103.9	2,181	104.4	2,366	108.5	2,432	102.8	2,649	108.9
産婦人科	1,305	92.6	1,082	82.9	1,005	92.9	986	98.1	891	90.4
眼科	583	123.0	431	73.9	455	105.6	406	89.2	302	74.4
耳鼻いんこう科	1,478	98.9	1,535	103.9	1,451	94.5	1,624	111.9	1,454	89.5
放射線科	788	100.6	745	94.5	724	97.2	712	98.3	481	67.6
麻酔科	30	85.7	17	56.7	22	129.4	18	81.8	22	122.2
歯科口腔外科	1,052	103.8	1,075	102.2	1,081	100.6	1,399	129.4	1,531	109.4
緩和ケア内科	55	119.6	47	85.5	50	106.4	44	88.0	45	102.3
救急科	28	121.7	46	164.3	31	67.4	34	109.7	33	97.1
合計	18,593	102.7	18,770	101.0	19,123	101.9	20,316	106.2	20,389	100.4
1日平均	76.5		77.2		78.4		83.3		85.0	
紹介率	78.6		82.1		81.1		83.8		88.1	

※紹介率算定式

$$\frac{\text{紹介患者数}}{\text{初診患者数}-\text{救急車搬送患者数}-\text{休日・夜間受診患者数}} \times 100$$

(2) 逆紹介の状況

①診療情報提供書作成数の状況

(単位 人, %)

診療科	27		28		29		30		元	
	逆紹介数	前年比								
内科	4,145	87.6	4,188	101.0	3,750	89.5	3,841	102.4	4,215	109.7
精神科	40	108.1	173	432.5	66	38.2	38	57.6	46	121.1
神経内科	55	64.0	178	323.6	399	224.2	551	138.1	508	92.2
循環器内科	736	100.1	841	114.3	846	100.6	837	98.9	782	93.4
小児科	481	176.8	409	85.0	357	87.3	505	141.5	388	76.8
外科	1,625	97.9	1,383	85.1	1,236	89.4	1,362	110.2	1,496	109.8
整形外科	1,197	99.2	1,239	103.5	1,340	108.2	1,487	111.0	1,540	103.6
脳神経外科	657	96.3	714	108.7	514	72.0	485	94.4	320	66.0
心臓血管外科	366	103.4	414	113.1	577	139.4	609	105.5	551	90.5
皮膚科	517	103.6	493	95.4	486	98.6	703	144.7	656	93.3
泌尿器科	1,840	102.0	2,133	115.9	2,387	111.9	2,545	106.6	2,646	104.0
産婦人科	451	90.6	614	136.1	552	89.9	461	83.5	474	102.8
眼科	477	109.4	608	127.5	568	93.4	738	129.9	416	56.4
耳鼻いんこう科	546	77.3	764	139.9	624	81.7	840	134.6	679	80.8
放射線科	865	105.1	763	88.2	751	98.4	727	96.8	514	70.7
麻酔科	9	64.3	11	122.2	16	145.5	12	75.0	9	75.0
歯科口腔外科	800	101.5	856	107.0	1,062	124.1	927	87.3	1,364	147.1
緩和ケア内科	25	156.3	23	92.0	10	43.5	19	190.0	25	131.6
救急科	328	130.2	339	103.4	252	74.3	222	88.1	298	134.2
合計	15,160	97.2	16,143	106.5	15,793	97.8	16,909	107.1	16,927	100.1
1日平均		62.4		66.4		64.7		69.3		70.5
逆紹介率		86.5		94.3		92.0		93.2		99.3

※逆紹介率算定式

$$\frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数} - \text{救急車搬送患者数} - \text{休日・夜間受診患者数}} \times 100$$

②地域連携クリニカルパスの状況

(単位 人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大腸がん (新規)	5	5	3	7	10	3	2	4	6	2	5	7	59
乳がん (新規)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前立腺がん (新規)	10	12	15	16	19	14	13	11	15	10	11	13	159
腎臓がん (新規)	3	2	1	6	3	2	6	5	3	1	8	5	45
大腿骨	0	1	0	1	3	4	1	2	0	2	2	1	17
脳卒中	6	6	2	3	2	1	1	1	1	1	1	1	26

VI 入退院支援センター

VI. 入 退 院 支 援 セ ン タ ー

1. 業 務 概 要

入退院支援センターは、入院する患者及びその家族に入院前から関わり退院を見据えた相談支援を行うことで、安心して入院生活を送ってもらえるように患者サービスの向上に努めている。また、入院・外来を問わず疾病に関する医学的な質問並びに生活上及び入院上の不安等様々な相談を受けている。相談のために、医療ソーシャルワーカー、看護師、事務員等多職種の職員を配置している。

2. 業 務 統 計

(1) 入院支援業務

①患者数

(単位 人, %)

区分	年度	27		28		29		30		元	
		人 数	人 数	前 年 比	人 数	前 年 比	人 数	前 年 比	人 数	前 年 比	
新 規		1,623	3,073	189.3	3,572	116.2	4,734	132.5	7,791	164.6	
継 続		1,866	4,102	219.8	4,779	116.5	1,726	36.1	1,981	114.8	
合 計		3,489	7,175	205.6	8,351	116.4	6,460	77.4	9,772	151.3	
延べ人数		7,065	10,474	148.3	11,206	107.0	8,634	77.0	12,015	139.2	

②援助内容別件数

(単位 件, %)

区 分	年 度		
	30	元	前 年 比
術 前 支 援	8,273	9,110	110.1
入 院 時 間 診	4,680	5,236	111.9
褥 瘡 に 関 す る 危 険 因 子 の 評 価	2,545	5,203	204.4
栄 養 状 態 の 評 価	4,603	5,201	113.0
服 薬 中 の 薬 剤 の 確 認	6,461	7,808	120.8
退 院 困 難 な 要 因 の 評 価	3,872	5,212	134.6
在 宅 サ ー ビ ス 利 用 の 把 握	3,956	4,526	114.4
治 療 ・ 検 査 説 明 (パ ス 説 明)	4,175	5,705	136.6
入 院 生 活 の 説 明 (オ リ エ ン テ ー シ ョ ン)	4,701	7,562	160.9
合 計	43,266	55,563	128.4

③加算件数

(単位 件, %)

区 分	年 度		
	30	元	
	件 数	件 数	前 年 比
入 院 時 支 援 加 算	171	294	171.9

④科別件数

(単位 件, %)

診療科	年度		27		28		29		30		元	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
内科	0	皆増	53	皆増	853	1,609.4	1,039	120.6	2,249	216.5		
精神科	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—		
神経内科	0	—	0	—	0	—	17	皆増	95	558.8		
循環器内科	0	—	0	—	0	—	108	皆増	414	383.3		
小児科	0	—	0	—	0	—	0	—	53	皆増		
外科	1,743	91.1	1,588	91.1	1,675	105.5	1,255	74.9	1,649	131.4		
整形外科	285	224.2	639	224.2	590	92.3	635	107.6	734	115.6		
脳神経外科	1	皆減	0	皆減	0	—	0	—	1	皆増		
心臓血管外科	13	2846.2	370	2846.2	531	143.5	460	86.6	488	106.1		
皮膚科	0	—	0	—	0	—	68	皆増	191	280.9		
泌尿器科	772	389.5	3,007	389.5	3,278	109.0	1,792	54.7	2,298	128.2		
産婦人科	0	皆増	616	皆増	647	105.0	293	45.3	553	188.7		
眼科	0	—	0	—	0	—	1	皆増	52	520.0		
耳鼻いんこう科	675	133.6	902	133.6	777	86.1	618	79.5	814	131.7		
放射線科	0	—	0	—	0	—	0	—	2	皆増		
麻酔科	0	—	0	—	0	—	0	—	1	皆増		
歯科口腔外科	0	—	0	—	0	—	174	皆増	145	83.3		
緩和ケア内科	0	—	0	—	0	—	0	—	6	皆増		
救急科	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—		
不 明	0	—	0	—	0	—	0	—	27	皆増		
合 計	3,489	205.6	7,175	205.6	8,351	116.4	6,460	77.2	9,772	151.3		

(2) 相談窓口業務

業務内容別件数

(単位 件, %)

区分	年度		27		28		29		30		元	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
限度額認定証説明	1,092	146.1	1,595	146.1	1,445	90.6	1,614	111.7	5,825	360.9		
介護保険説明	35	160.0	56	160.0	35	62.5	39	111.4	24	61.5		
入院に関すること	25	20.0	5	20.0	9	180.0	10	111.1	18	180.0		
退院に関すること	29	55.2	16	55.2	7	43.8	14	200.0	12	85.7		
経済問題に関すること	81	108.6	88	108.6	59	67.0	65	110.2	39	60.0		
在宅療養に関すること	30	96.7	29	96.7	32	110.3	35	109.4	38	108.6		
治療等に関すること	91	41.8	38	41.8	31	81.6	35	112.9	20	57.1		
各種制度に関すること	297	119.2	354	119.2	480	135.6	523	109.0	77	14.7		
接遇に関する要望等	8	62.5	5	62.5	75	1,500.0	41	54.7	39	95.1		
その他・案内等	354	137.6	487	137.6	217	44.6	224	103.2	90	40.2		
合 計	2,042	130.9	2,673	130.9	2,390	89.4	2,600	108.8	6,182	237.8		

(3) 退院支援業務

①相談件数

(単位 件, %)

年度 区分	28		29		30		元	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	
新規	4,367	5,467	125.2	6,010	109.9	5,976	99.4	
延べ件数	8,378	9,939	118.6	10,786	108.5	10,622	98.5	

②診療科別件数

(単位 件, %)

年度 診療科	28		29		30		元	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	
内科	1,795	2,015	112.3	2,348	116.5	2,341	99.7	
精神科	4	3	75.0	4	133.3	0	皆減	
神経内科	61	257	421.3	408	158.8	387	94.9	
循環器内科	271	390	143.9	355	91.0	330	93.0	
小児科	49	85	173.5	141	165.9	132	93.6	
外科	327	377	115.3	455	120.7	467	102.6	
整形外科	662	955	144.3	991	103.8	1,029	103.8	
脳神経外科	464	327	70.5	219	67.0	10	4.6	
心臓血管外科	226	328	145.1	270	82.3	285	105.6	
皮膚科	15	12	80.0	27	225.0	34	125.9	
泌尿器科	215	341	158.6	354	103.8	413	116.7	
産婦人科	94	173	184.0	195	112.7	243	124.6	
眼科	0	0	—	3	皆増	5	116.7	
耳鼻いんこう科	25	13	52.0	22	169.2	21	95.5	
放射線科	0	0	—	0	—	0	—	
麻酔科	3	0	皆減	2	皆増	3	150.0	
歯科口腔外科	15	1	6.7	3	300.0	1	33.4	
緩和ケア内科	134	180	134.3	209	116.1	261	124.9	
救急科	7	7	100.0	4	57.1	13	325.0	
その他	0	3	皆増	0	皆減	1	皆増	
合計	4,367	5,467	125.2	6,010	109.9	5,976	99.4	

※「その他」は受診せず相談のみを示す。

③加算等算定件数

(単位 件, %)

年度 区分	28		29		30		元	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	
入退院支援加算1	1,705	1,899	111.4	1,929	101.6	1,942	100.7	
介護支援連携指導料	618	568	91.9	574	101.1	430	74.9	
退院前訪問指導料	—	—	—	6	皆増	6	100.0	

④援助内容件数

(単位 件, %)

年度 区分	28		29		30		元	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	
退院援助	4,793	5,960	124.3	6,443	108.1	6,128	95.1	
在宅療養援助	720	625	86.8	492	78.2	518	105.3	
経済的問題援助	165	200	121.2	250	125.0	146	58.4	
制度利用援助	1,409	1,271	90.2	1,395	109.8	1,140	81.7	
特定妊婦に関する援助	—	388	皆増	408	105.2	428	104.9	
要保護児童及び虐待に関する援助	—	436	皆増	441	101.1	268	60.8	
その他	573	552	96.3	602	109.1	452	75.1	
合計	7,660	9,432	123.1	10,031	106.4	9,080	90.5	

⑤転院先内訳

(単位 件, %)

年度 区分	28		29		30		元	
	件数	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	
一般病床	78	127	162.8	171	134.6	171	100.0	
回復期リハビリテーション病棟	216	202	93.5	196	97.0	259	132.1	
地域包括ケア病床	56	166	296.4	154	92.8	172	111.7	
療養病床	97	83	85.6	85	102.4	57	67.1	
精神科病床	13	8	61.5	13	162.5	11	84.6	
緩和ケア病床(他院)	1	3	300.0	0	皆減	2	皆増	
介護老人保健施設	88	100	113.6	82	82.0	77	93.9	
施設(老健以外)	84	163	194.0	157	96.3	109	69.4	
合計	633	852	134.6	858	100.7	858	100.0	

(4) 外来患者支援ボランティア活動状況

①活動人数等

(単位 人、日)

区 分	27		28		29		30		元		
	人数	前年比 増減									
新規活動登録者	4	2	1	△3	7	6	4	△3	7	3	
活動中止者	3	△8	1	△2	6	5	6	0	8	2	
年度末現在登録者数	33	△2	33	0	34	1	32	△2	31	△1	
男女別	男	5	0	5	0	6	1	5	△1	7	2
	女	28	1	28	0	28	0	27	△1	24	△3
平均年齢(歳)	66.8	0.7	69.1	2.3	68.1	△1.0	68.1	0	70.9	2.8	
ボランティア活動日数	242	△2	245	3	240	△5	244	4	217	△27	
平均(人/日)	4.4	△0.3	4.5	0.1	4.1	△0.4	4.3	0.2	4.1	△0.2	

②活動内容

(単位 回、%)

区 分	27		28		29		30		元	
	回数	前年比	回数	前年比	回数	前年比	回数	前年比	回数	前年比
車椅子提供	3,664	91.4	4,046	110.4	4,015	99.2	3,585	89.3	3,029	84.5
介 助	1,252	77.0	1,458	116.5	1,881	129.0	1,687	89.7	1,356	80.4
受付支援	1,506	60.5	1,886	125.2	2,177	115.4	1,903	87.4	1,639	86.1
そ の 他	2,142	92.4	1,992	93.0	1,846	92.7	1,947	105.5	1,706	87.6
合 計	8,564	82.1	9,382	109.6	9,919	105.7	9,122	92.0	7,730	84.7

※「その他」は車椅子の点検やカートの貸し出し等を示す。

③研修会等

日 時	内 容	参加者
元.10.21	ボランティア院外研修会	19名

VII 于一ム医療

Ⅶ チーム医療

1. 院内褥瘡対策委員会

(1) 設置目的

当病院における褥瘡の発生及び悪化を予防するための適切な評価とケアを提供することが目的である。

(2) 活動の概要

「院内褥瘡対策マニュアル」に基づいて、院内褥瘡対策を実践している。入院時に危険因子の評価を行い、圧迫やずれの排除を行いながら予防に努めている。また、医師、看護師、薬剤師、栄養士で構成する褥瘡対策チームが、毎月、第 2、4、5 火曜日に全病棟の褥瘡回診を行っている。除圧方法、体圧分散寝具の確認、栄養状態、スキンケア方法、リハビリテーションの確認を行って治療方針を決定するとともに、DESIGN 分類に基づいた褥瘡の評価を実施している。毎月開催する院内褥瘡対策委員会および院内褥瘡対策小委員会においては、適宜、褥瘡対策・予防に関する調査、勧告、分析や情報提供を行っている。さらに、褥瘡対策の基本的な考え方について職員の周知徹底を図ることを目的に、新規採用職員の就職時初期研修、DESIGN-R についての研修や全職員対象の研修を開催している。また、必要に応じて、院内褥瘡対策マニュアルの改訂、褥瘡委員会ニュースの発行を行い、全職員に対しての啓発活動を行っている。体圧分散寝具および体圧分散クッションは一部中央管理とし、使用状況の確認を行いながら各病棟での過不足を解消するようにアレンジを行い、故障時や破損時の対応も委員会で行っている。

(3) 今後の目標

褥瘡ケアの質の向上をはかるために、各自が専門家として自己研鑽を行い、褥瘡推定発生率・有病率の低下を目指すとともに、予防的スキンケアの定着、DESIGN-R の普及、院内褥瘡対策マニュアルの改訂、体圧分散寝具および体圧分散クッションの整備に努め、褥瘡予防を的確に行えるような体制の構築に努めていく。

(田村 敦志)

2. NST委員会

(1) 設置目的

平成24年4月から、すべての入院患者に栄養管理を行う事が必須となった。その中で栄養状態に課題がある人を特別な栄養管理が必要として、栄養士を中心に特に重点的に管理するようになった。NSTは、さらに栄養状態に問題がある人を対象として、多職種で最善の策を考えるものである。

(2) 活動の概要

NSTは、平成16年12月から活動を開始し、平成17年10月に日本静脈経腸栄養学会「NST稼働施設認定」、平成18年9月に日本栄養療法推進協議会「NST稼働施設認定」を取得。

メンバーは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士で構成されており、栄養状態の改善が必要な患者を対象に、週2回のカンファレンスや回診を行い、栄養評価を実施し主治医へ報告・栄養管理方法の提案をしている。また、勉強会などを開催して、栄養管理に関する新しい知識の紹介や啓発を行っている。栄養管理という治療の土台を理解し実践することで、患者さんの治癒に貢献できるよう努めている。

(3) 今後の目標

当病院の栄養管理をさらに充実させるべく、新しい栄養管理の情報を効率よく集めて院内に伝達普及し、また、院内での経験を蓄積し、定期的に院外の研究会等で報告する活動を行っていききたい。

(富澤 直樹)

3. 緩和ケアチーム

(1) 設置目的

当病院では平成 14 年 12 月に緩和ケア推進委員会が発足し、平成 15 年 2 月から緩和ケアチームの活動を開始した。

何らかの疾患を有して、身体的、精神的、社会的苦痛やスピリチュアルペインを有する入院中の患者を対象としている。

それらの患者やその家族に組織横断的に介入することで、患者、家族、医療スタッフの抱える問題を解決するための援助を行う事が目的である。

また、その活動を通じて院内の緩和ケア知識、技術の均てん化も図っている。

(2) 活動の概要

緩和ケアチームの活動は 17 年目を迎え、スタッフは身体面担当医師（廣野）、専従看護師（五十嵐）、専任薬剤師（馬郡）、臨床心理士（神山）の 4 名となった。

平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月までの緩和ケアチームへの依頼はのべ 463 人（前年度 459 人）であった。

チーム活動としては医師、専従看護師、薬剤師、栄養士、MSW、臨床心理士の 7 人で行ってきた。

毎週月・水・木曜日に一般病棟をチームで訪問する多職種合同カンファレンスを行っており、年間 1,038 件（前年度 984 件）実施した。

緩和看護外来は年間で 101 件（前年度 99 件）の相談に対応した。

病棟主催のデスカンファレンスには緩和ケアチームとして 4 回（前年度 5 回）参加した。

(3) 今後の目標

これまでと同様、病院内外の緩和ケアのレベルアップに尽力する。

（廣野 正法）

4. クリニカルパス委員会

(1) 設置目的

医療の標準化の重要性が見直されている今日、患者へのケアの質向上と効率化という、ある面で相反する目標を追求する効果的な医療手段としてクリニカルパスがある。

クリニカルパスとは、患者の状態と診療行為の目標、評価および記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法である。

クリニカルパスを効果的に運用するためには医師・看護師・管理栄養士・理学療法士等、患者も含めた全ての医療に関わる人がチームとして一体となった医療が最も必要とされ、現在は地域の医療機関との連携も非常に重要になっている。

チーム医療によるクリニカルパス手法の更なる普及を目指し、患者中心の医療・ケアにさらに貢献したいという願いから設置された。

(2) 活動の概要

①クリニカルパスの確認、承認

②院内講演会・院内クリニカルパス大会の開催

③日本クリニカルパス学会、日本医療マネジメント学会および群馬クリニカルパス研究会などの各種学会・研究会への発表・参加

これらの活動を通してクリニカルパスに関する院内の啓発活動、院内におけるパスの推進を図っている。

地域の医療機関とも連携し、内科・外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科で地域連携クリニカルパスの運用を行っている。

(3) 今後の目標

紙パスの運用も行われているため、これらの電子化が課題である。スタッフの負担を軽減し、患者により良い医療を提供できるパスの作成を目指したい。今後も研究を重ね、地域連携クリニカルパスを充実させ、地域の医療機関との連携にも努めていきたい。

(竹澤 豊)

5. 感染対策／抗菌薬適正支援チーム（ICT／AST）

（1）設置目的

伊勢崎市民病院会議設置要綱に則し、病院および地域の感染管理活動推進を目的に設置。医師1名、看護師4名（うち感染管理認定看護師2名）、薬剤師2名（うち認定感染制御薬剤師1名）、検査技師2名（うち感染制御認定微生物検査技師2名）の感染管理の知識・技術を習得したスペシャリスト9名で構成されている。

（2）活動の概要

耐性菌分離率、医療関連感染発生率等のサーベイランスやラウンド等を行う事で医療関連感染に関する情報を収集し、抗菌薬適正使用を含む感染症診療の援助、職員教育、マニュアル整備・見直し、職業感染対策、ファシリティマネジメント、コンサルテーション等の感染対策を推進している。ICT活動の中心は、毎日の細菌等情報を検討するミーティングや毎週水曜日に行われるカンファレンス、目的別に行われるラウンド、定期開催の地域カンファレンスである。多職種が各々の専門性を発揮し参加している。

2015年5月に世界保健機関（WHO）総会で薬剤耐性に関する国際行動計が採択された。日本でも2016年～2020年の5年間で薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが計画され、2018年4月より抗菌薬適正使用支援チームが新設された。医療分野の成果指標のひとつに黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率があり、2020年の政府目標値は20%以下である。当病院の値は、2016年は27.1%、2017年は24.1%、2018年度は20.0%、2019年度は24%であった。MRSAを含む耐性菌の多くが市中での保菌であり、目標達成には地域全体での抗菌薬適正使用の推進が必要である。その活動の一端として、伊勢崎地域感染対策地域カンファレンス（IICC）を開催している。伊勢崎佐波及び本庄より計9病院および伊勢崎保健福祉事務所が参加し、地域での抗菌薬適正使用に取り組んでいる。また、感染対策の遵守状況を評価する相互ラウンドを継続して実施している。今後も参加医療機関の拡大を目指しながら感染対策の地域連携を強化していく。

2019年11月末に中国湖北省武漢市で非定型肺炎の新興感染症の報告がされた。これを受け、日本でも水際対策が行われている。保健福祉事務所や近隣施設と協働し地域発生に対する取り組みと共に院内感染を防ぐシステムを構築、現場指導に取り組んでいる。

（3）今後の目標

チームメンバーの各自が専門家として自己研鑽を行い、能力を発揮し、様々な感染対策をバランス良く行う事で医療関連感染と薬剤耐性菌の低減を目指す。また、他医療チームや部門、地域との連携を推進する事で病院内外の感染対策の質を高めていく。

（上野 敬史）

6. 認知症ケアチーム

(1) 設置目的

高齢者は認知症の有無にかかわらず、入院による環境の変化から容易に不穏状態に陥ることで、異常行動・意思疎通困難などが出現し得る。こうした状況により適切な医療処置や看護が困難になることがしばしば生じる。本チームは精神状態や異常行動などを把握・評価し、適切な対処を行うことで、患者・スタッフが安心して入院生活を送れるよう支援することを目的に平成 29 年 2 月に設置された。

(2) 活動の概要

本チームのスタッフは、認知症に関する専門的な研修を受けた医師、看護師、作業療法士、管理栄養士、薬剤師、社会福祉士などで構成されている。

精神・行動異常を呈する患者を対象に週 1 回の回診とカンファレンスを行うことで最善の対処法を関係職員に提供している。さらに、週 4 回の集団レクリエーションも実施している。

また、年 1 回の病院全体研修のほか、看護師のみを対象とした研修を行い、認知症患者のケアに対する知識と理解を深める取組を継続して行うことで、安心・安全な入院生活の質の向上を図っている。

(3) 今後の目標

認知症や高齢患者に対するケア・治療について院内職員に適切なアドバイスができるよう、チーム各自が研鑽を重ねる。

院内職員に定期的な研修を行うことで認知症について理解を深め、病院全体で安心・安全な入院生活を患者に提供できる体制の構築に努める。

(櫻井 篤志)

7. 排尿ケアチーム

(1) 設置目的

排尿に関するケアに係る専門的知識を有した多職種からなるチームであり、医師及び看護師等が連携し、患者の排尿自立の可能性及び下部尿路機能の評価に合わせた排尿誘導等の保存療法、リハビリテーション、薬物療法等を組み合わせ、下部尿路機能の回復のための包括的なケアを実施することを目的とする。

(2) 活動の概要

排尿ケアチームは、手術、もしくは何らかの理由により尿道留置カテーテルが挿入となった患者に対し、早期の排尿自立を目指し活動している。尿路感染症対策や残尿測定、患者が在宅で行う自己導尿の指導、排尿ケアに関する排尿ケアマニュアルの整備及び見直しを行い職員への周知を図っている。また、職員の排尿ケアへの意識・知識の向上に繋がるよう、年1回、病院全体に対しての研修会を開催している。

メンバーは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士で構成されており、排尿ケアが必要な患者を対象に週1回のカンファレンスと回診を行い、2ヶ月に1回、看護師を中心として排尿ケアに関するミーティングを行っている。

(3) 今後の目標

排尿ケアの質の向上をはかるために各自が専門家として自己研鑽を行い、様々な症例への対応を重ね、患者にとって的確な排尿ケアを行える体制を維持し、充実していくことを目指す。

患者が安心して日常生活が送れるよう、チームのみならず病院全体としても排尿ケアに対する知識、意識の向上を図り、的確なケア体制の構築に努めていく。

(竹澤 豊)

VIII 經營狀況

VIII 経 営 状 況

1. 損 益 計 算 書

(単位 千円, %)

科 目 \ 年 度	27		28		29		30		元	
	金 額	前年比								
医業収益	13,696,051	104.1	13,849,310	101.1	13,890,935	100.3	14,477,057	104.2	14,846,739	102.6
入院収益	9,188,742	98.2	9,409,449	102.4	9,409,151	100.0	9,766,882	103.8	9,964,387	102.0
外来収益	4,015,116	121.5	3,922,621	97.7	3,977,695	101.4	4,192,251	105.4	4,376,999	104.4
その他医業収益	492,193	99.7	517,240	105.1	504,089	97.5	517,924	102.7	505,353	97.6
医業外収益	538,997	95.6	557,056	103.4	489,237	87.8	461,181	94.3	475,732	103.2
他会計補助金	363,402	98.2	353,112	97.2	343,059	97.2	330,207	96.3	322,481	97.7
その他医業外収益	175,595	90.8	203,944	116.1	146,178	71.7	130,974	89.6	153,251	117.0
特別利益	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
収入計	14,235,048	103.7	14,406,366	101.2	14,380,172	99.8	14,938,238	103.9	15,322,471	102.6
医業費用	13,850,608	107.2	13,731,403	99.1	14,380,172	99.8	14,380,341	103.6	14,905,874	103.7
給与費	7,106,340	103.9	7,208,707	101.4	14,380,172	99.8	7,419,818	103.2	7,699,849	103.8
材料費	3,818,584	119.0	3,781,907	99.0	14,380,172	99.8	4,205,223	106.4	4,467,242	106.2
経費	1,912,260	100.3	1,757,696	91.9	14,380,172	99.8	1,853,261	104.7	1,854,555	100.1
減価償却費	943,997	105.6	917,079	97.1	14,380,172	99.8	836,125	98.7	831,692	99.5
その他医業費用	69,427	102.6	66,014	95.1	14,380,172	99.8	65,914	52.4	52,536	79.7
医業外費用	769,853	108.9	697,105	90.6	14,380,172	99.8	742,320	105.9	814,896	109.8
支払利息及び 企業債取扱諸費	244,055	92.6	223,936	91.8	14,380,172	99.8	187,178	91.6	169,895	90.8
その他医業外費用	525,798	118.6	473,169	90.0	14,380,172	99.8	555,142	111.8	645,001	116.2
特別損失	0	皆減	0	—	0	—	0	—	0	—
支出計	14,620,461	102.6	14,428,508	98.7	14,584,667	101.1	15,122,661	103.7	15,720,770	104.0
収支差引	△385,413	72.5	△22,142	5.7	△204,495	923.6	△184,423	90.2	△398,299	216.0

2. 貸借対照表

(単位 千円, %)

科 目	27		28		29		30		元	
	金 額	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比	金 額	前年比
固 定 資 産	13,658,544	95.7	13,100,350	95.9	12,852,717	98.1	12,765,382	99.3	12,626,993	98.9
有形固定資産	12,029,495	95.2	11,571,132	96.2	11,251,499	97.2	11,164,164	99.2	11,025,775	98.8
土 地	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0	1,454,320	100.0
償却資産	31,940,120	99.6	32,006,339	100.2	31,927,939	99.8	32,274,473	101.1	32,741,099	101.4
減価償却累計額 (△)	21,393,500	102.3	21,924,332	102.5	22,159,315	101.1	22,593,184	102.0	23,198,199	102.7
建設仮勘定	0	-	6,250	皆増	0	皆減	0	-	0	-
その他有形固定資産	28,555	100.0	28,555	100.0	28,555	100.0	28,555	100.0	28,555	100.0
無形固定資産	1,108	100.0	1,108	100.0	1,108	100.0	1,108	100.0	1,108	100.0
投資その他の資産	1,627,941	100.0	1,528,110	93.9	1,600,110	104.7	1,600,110	100.0	1,600,110	100.0
流 動 資 産	8,869,590	101.2	8,983,484	101.3	9,176,902	102.2	8,904,431	97.0	8,969,959	100.7
現金預金	6,230,162	96.2	6,488,403	104.1	6,789,300	104.6	6,433,284	94.8	6,430,257	100.0
未収金	2,495,601	115.7	2,359,785	94.6	2,261,863	95.9	2,341,433	103.5	2,405,393	102.7
貯蔵品	120,938	107.2	113,800	94.1	103,215	90.7	108,257	104.9	112,878	104.3
有価証券	3,000	100.0	3,000	100.0	3,000	100.0	3,000	100.0	3,000	100.0
前払金	19,889	146.6	18,496	93.0	19,524	105.6	18,457	94.5	18,431	99.9
資 産 合 計	22,528,134	97.8	22,083,834	98.0	22,029,619	99.8	21,669,813	98.4	21,596,952	99.7
固 定 負 債	11,256,217	91.8	10,550,983	93.7	9,947,139	94.3	9,271,128	93.2	8,697,546	93.8
企業債	9,662,511	89.6	8,766,516	90.7	8,042,042	91.7	7,300,405	90.8	6,601,214	90.4
リース債務	19,756	60.0	19,517	98.8	10,147	52.0	5,773	56.9	1,382	23.9
引当金	1,573,950	109.0	1,764,950	112.1	1,894,950	107.4	1,964,950	103.7	2,094,950	106.6
退職給付引当金	1,560,000	109.1	1,751,000	112.2	1,881,000	107.4	1,951,000	103.7	2,081,000	106.7
修繕引当金	13,950	100.0	13,950	100.0	13,950	100.0	13,950	100.0	13,950	100.0
流 動 負 債	2,697,738	110.8	2,345,524	86.9	2,541,041	108.3	2,502,081	98.5	2,856,178	114.2
企業債	1,124,414	99.5	895,994	79.7	824,474	92.0	841,637	102.1	899,191	106.8
リース債務	13,156	100.9	17,259	131.2	10,838	62.8	4,374	40.4	4,391	100.4
未払金	1,128,321	129.2	968,939	85.9	1,217,105	125.6	1,159,441	95.3	1,453,489	125.4
引当金	370,414	103.4	401,321	108.3	430,236	107.2	439,465	102.1	441,678	100.5
その他流動負債	61,434	102.8	62,011	100.9	58,388	94.2	57,164	97.9	57,429	100.5
繰 延 収 益	34,838	77.6	23,240	66.7	12,136	52.2	15,034	123.9	11,884	79.0
資 本 金	11,220,821	106.0	11,867,709	105.8	12,437,420	104.8	12,974,110	104.3	13,522,183	104.2
自己資本金	11,220,821	106.0	11,867,709	105.8	12,437,420	104.8	12,974,110	104.3	13,522,183	104.2
借入資本金			0	-	0	-	0	-	0	-
企業債			0	-	0	-	0	-	0	-
剰 余 金	△2,681,481	△116.8	△2,703,622	100.8	△2,908,117	107.6	△3,092,540	106.3	△3,490,839	112.9
資本剰余金			0	-	0	-	0	-	0	-
利益剰余金	△2,681,481	△116.8	△2,703,622	△100.8	△2,908,117	107.6	△3,092,540	106.3	△3,490,839	112.9
負 債 資 本 合 計	22,528,134	97.8	22,083,834	98.0	22,029,619	99.8	21,669,813	98.4	21,596,952	99.7

3. 経営分析

(1) 経営分析

項 目		年 度					
		27	28	29	30	元	
財 務 比 率	(1) 流動比率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	328.8	383.0	361.1	355.9	314.1
	(2) 自己資本比率 (%)	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本 (負債資本合計)}} \times 100$	49.8	53.7	56.5	59.9	62.6
	(3) 負債比率 (%)	$\frac{\text{他人資本}}{\text{自己資本}} \times 100$	0	0	0	0	0
	(4) 固定比率 (%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$	121.7	110.4	103.3	98.4	93.4
	(5) 現金比率 (%)	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	230.9	276.6	267.2	257.1	225.1
	(6) 自己資本構成比率 (%)	$\frac{\text{自己資本金+剰余金}}{\text{総資本 (負債資本合計)}} \times 100$	37.9	41.5	43.3	45.6	46.4
	(7) 固定資産構成比率 (%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産+流動資産+繰延勘定}} \times 100$	60.5	59.3	58.3	58.9	58.4
収 支 比 率	(8) 総収支比率 (%)	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	97.4	99.8	98.6	98.8	97.5
	(9) 経常収支比率 (%)	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	97.4	99.8	98.6	98.8	97.5
	(10) 医業収支比率 (%)	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	98.9	100.9	100.1	100.7	99.6
	(11) 給与費比率 (%)	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	51.9	52.1	51.8	51.3	51.9
	(12) 材料費比率 (%)	$\frac{\text{材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	27.9	27.3	28.4	29.0	30.1
	(13) 経費比率 (%)	$\frac{\text{経費}}{\text{医業収益}} \times 100$	14.0	12.7	12.7	12.8	12.5
	(14) 減価償却費比率 (%)	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{医業収益}} \times 100$	6.9	6.6	6.1	5.8	5.6
生 産 性 指 標	(15) 入院患者1人1日当たり 診療収入 (円)	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$	60,565	60,373	62,980	65,605	67,603
	(16) 外来患者1人1日当たり 診療収入 (円)	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$	19,235	18,781	19,187	19,629	20,735
	(17) 100床当たり職員数 (人)	$\frac{\text{年度末職員数 (非常勤含む)}}{\text{一般病床数 (490床)}} \times 100$	187.8	194.1	192.9	192.9	192.4
	(18) 100床当たり医師数 (人)	$\frac{\text{年度末医師数 (非常勤含む)}}{\text{一般病床数 (490床)}} \times 100$	23.8	24.9	22.4	22.4	24.9
	(19) 100床当たり看護師数 (人)	$\frac{\text{年度末看護師数 (非常勤含む)}}{\text{一般病床数 (490床)}} \times 100$	105.8	108.8	108.8	108.8	105.9

※平成27年度までは一般病床500床。平成28年度からは一般病床490床

(2) 医業収益に対する費用の割合

(単位 千円, %)

年度 科目	27		28		29		30		元	
	金額	率								
医業収益	13,696,051	100.0	13,849,310	100.0	13,890,935	100.0	14,477,057	100.0	14,846,739	100.0
病院事業費用	14,620,461	106.7	14,428,508	104.2	14,584,667	105.0	15,122,661	104.5	15,720,770	105.9
医業費用	13,850,608	101.1	13,731,403	99.1	13,883,817	99.9	14,380,341	99.3	14,905,874	100.4
給与費	7,106,340	51.9	7,208,707	52.1	7,188,579	51.8	7,419,818	51.3	7,699,849	51.9
材料費	3,818,584	27.9	3,781,907	27.3	3,950,957	28.4	4,205,223	29.0	4,467,242	30.1
経費	1,912,260	14.0	1,757,696	12.7	1,770,874	12.7	1,853,261	12.8	1,854,555	12.5
減価償却費	943,997	6.9	917,079	6.6	847,543	6.1	836,125	5.8	831,692	5.6
その他医業費用	69,427	0.5	66,014	0.5	125,864	0.9	65,914	0.5	52,536	0.4
医業外費用	769,853	5.6	697,105	5.0	700,850	5.0	742,320	5.1	814,896	5.5
特別損失	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-

Ⅸ 業務概要

Ⅸ 業 務 概 要

1. 各科診療業務

内 科

1. スタッフ

副院長1名、主任診療部長1名、診療部長3名、医長11名、医員7名 計23名。

2. 業務の現況

- (1) 外来：一般内科、および専門外来（消化器、肝臓、喘息・呼吸器、甲状腺、糖尿病）を設け診療している。
- (2) 入院：8B（主に呼吸器、肝臓病、内分泌・代謝）、9B（主に消化器）病棟に各専門分野の医師を配置した。
- (3) 救急：内科は救急医療における中核的な役割を担っている。通常勤務時間は救急当番を配置。夜間・休日の宿日直は1、2年次研修医に指導医として3年次以上の内科医が加わり、3人体制で診療を行った。
- (4) 内視鏡センター：経鼻内視鏡、小腸内視鏡、カプセル内視鏡、NBI内視鏡を導入している。内視鏡的早期胃癌切除術、ポリープ切除術、胆管結石除去術など内視鏡的治療も積極的に行っている。消化器内視鏡年間実績は観察+処置で計22,358件であった。呼吸器では超音波気管支内視鏡（EBUS）を導入している。気管支内視鏡年間実績は171件であった。
- (5) 外来化学療法センター：肺癌、膵癌、胃癌、大腸癌を中心に外来化学療法を行っている。

(6) 研修：初期臨床研修における内科系研修では、循環器、内分泌・代謝、消化器、肝臓、呼吸器の各分野をローテーション。プライマリーケアから専門分野まで幅広く研修できるようにした。また、全人的な診療を身につけてもらうために、患者のすべての問題点を抽出できるよう指導した。内科専攻医を対象とした内科専門研修カリキュラムでは、総合内科専門医を目標に、内科疾患をくまなく研修できるよう配慮した。また、専門的な検査・治療手技の研修も積極的に指導した。

3. 今後の目標

- (1) 地域の基幹病院として他の医療機関との連携を推進し、役割分担を図る。
- (2) 確実に安全な救急医療を提供する。
- (3) 適切で効率的な医療のために、evidenceに基づいた医療を実践し、各種ガイドライン、クリニカルパスの活用を図る。
- (4) 臨床研修の根幹をなすのは内科である。研修指導を通して診療レベルの向上を目指すとともに、地域医療に貢献できる医師を育成したい。
- (5) シニアレジデントの教育に力を注ぎ、学会発表や論文執筆を積極的に指導する。

(石原 真一)

精神科

1. スタッフ

非常勤医師3名（火・水・木曜日に各1名ずつ）、看護師1名の計4名。

2. 業務の現況

他科からの院内コンサルトの増加傾向および、長期的な常勤医師不在を鑑み、院内コンサルトを中心に対応している。

(1) コンサルテーション・リエゾン：当院他診療科の入院患者について、院内紹介への対応を行っている。主な依頼内容は下記のとおりであった。

- ・せん妄や認知症への対応、神経疾患に付随する精神症状

への対応

- ・がんの告知や積極的治療の中止に際したメンタルサポートに代表される、身体疾患の罹患・進行に伴う不安、不眠、抑うつ等への対応

- ・精神疾患合併ケースの身体加療中の併診、周術期の薬物調整

- ・精神疾患の有無についての評価

(2) 外来：令和元年度の再診患者数は137人であった。外来初診の受け入れは停止している。

(3) 研修：臨床研修医に対して、研修1年目に1ヶ月間の精神科研修を協力病院にて行った。また、当院で開催される緩

和ケア研修会でファシリテーターを務めている。

3. 今後の目標

(1)業務を院内コンサルトに特化し当院他科入院中の精神症状・精神疾患に対する治療的介入および心理ケアに注力することで、身体加療が滞りなく進むよう図る。

(2)精神症状を呈する患者のケアにあたるスタッフに対して支援者支援を行う。特に、緩和ケアや小児、周産期などの領域でスタッフとの連携に努める。

(3)令和2年度の医師臨床研修制度改定で、精神科研修が必修化される。新制度では精神科リエゾン研修が推奨されるため、1ヶ月間の研修の間、週1日のリエゾン研修を開始する。精神科研修を通して、患者を生物学的・心理的・社会的側面から多面的にとらえるという精神科診療の特性を経験してもらい、全人的医療の視点を養う一助となるよう努める。

(松川 幸英)

神経内科

1. スタッフ

令和元年度は諸般の事情で群馬大学脳神経内科からの非常勤医師派遣が困難になったため、常勤医師3名で外来、病棟業務さらには研修医の指導などを行った。

2. 業務の現況

外来診療：平日の午前中に行っている。紹介患者を原則とするが、可能な限り紹介状をお持ちにならない患者にも対応するよう心がけている。さらに月曜日の午後には物忘れ外来を開設している。

入院診療：3名の常勤医師が担当している。週1回のカンファレンスのほか、診断、治療に関する偏りや漏れを防ぐため、毎朝ミーティングを行うことで各患者の診療方針を確認している。

脳血管障害を中心に、てんかん、中枢神経感染症、自己免疫性神経疾患、神経変性疾患など、バリエーションに富んだ入院患者に対応している。

特に末梢神経や筋を対象にした電気生理学的検査は他施設と比較しても件数が多い。

3. 今後の目標

- (1) 病診連携を積極的に進め、神経救急疾患を積極的に受け入れる。
- (2) 外来では特に変性疾患患者およびその家族に対して十分な診療時間を確保したい。
- (3) 研修医の診療能力向上に寄与する。
- (4) 積極的に症例報告を行う。

(櫻井 篤志)

循環器内科

1. スタッフ

令和元年度も常勤医師5名体制に変更はなかった。主任診療部長1名、診療部長1名、医長3名で外来診療、病棟診療、検査業務を行った。また、金曜日午前中の再診外来と木曜日の午後の不整脈外来を、非常勤医師（群馬大学循環器内科より）にお願いしている。

2. 業務の現況

外来診療は月曜日から金曜日まで午前中に再診と初診の外来を行っている。（ただし、水曜日は初診外来なし）また、木曜日の午後には不整脈外来を行っている。

入院患者は5名の常勤医師で担当している。主治医制をとっているが、カンファレンス等を通して、できるだけ全員

が全患者を把握するように努めている。

循環器内科として施行している、特殊検査・治療として、心臓カテーテル検査、冠動脈や末梢動脈のカテーテル治療、ペースメーカーの植え込みなどがある。令和元年度は、血管造影室を用いた検査および治療の総数が、773件（前年度692件）であった。内訳は、心臓カテーテル検査が514件（同485件）、冠動脈の血管内治療が208件（同172件）、ペースメーカー植え込みが51件（同35件）であった。また冠動脈内の高度石灰化病変を切削するロータブレードを導入し、その恩恵を受けた患者が多数存在した。

3. 今後の目標

- (1) 令和2年度は放射線科で対応していたシャントPTAを循

循環器内科で担うこととなった。MRI 対応ペースメーカー植え込み患者の MRI 撮像施設基準を取得し、院内で試行可能となった。引き続き患者に必要で適切な検査や治療を、過不足なく行うことを心がけたい。

また心臓血管外科を院内に有する、県内では数少ない施設のひとつであり、外科的治療も含めたうえで、 balan

スの良い診療・治療を行っていくことを目標としている。
(2) 研修医の教育はもちろんであるが3~6年目ぐらいの若い循環器内科医の教育にも力を注いでいく。臨床医としての能力を向上させるだけでなく、臨床研究や学会発表、論文作成などを行う素養も育てていきたい。

(樋口 京介)

小児科

1. スタッフ

常勤医師6名・非常勤医師2名

2. 業務の現況

外来業務は、午前中は主に一般診療を、午後には専門外来を行っている。小児科の一般診療としては、開業医からの紹介患者、学校健診や乳児健診等で問題となった児を中心に、急性疾患も含めて診療にあたっている。専門外来としては、喘息アレルギー外来を前田、今井、神経発達外来を荒木（非常勤医師）と緒方（非常勤医師）、内分泌外来を高野と小針、その他慢性疾患外来を平形と田端が担当し、多種の疾患に対応した。さらに、予防接種外来を水曜日に、パピズマブ投与を木曜日に、乳児健診を金曜日に実施し、予防医療にも努めた。平均外来患者数は一日80名前後であった。

入院業務は、未熟児新生児室と小児一般病棟とに分けられる。入院患者数は、未熟児新生児が年間約150名、疾患とすると1,500g~2,300g前後の低出生体重児、呼吸障害や黄疸、初期嘔吐などである。一般小児病棟は年間約1,050名で、肺炎、気管支炎、喘息、胃腸炎、尿路感染症などの急性疾患が多数を占めている。そのため在院日数は平均6日前後と非常に短い。一方、長期入院を必要とする疾患は、川崎病やネフローゼ症候群、神経疾患、糖尿病などがあり、3週間以上の入院を必要とする学齢期の患者は、院内の赤城特別支援学校伊勢崎分校に転校し、勉強の遅れを心配せず治療に専念できる体制ができています。院内学級は、3週間以内の入院患者についても、床上学習で対応可能である。

小児科診療は、感染症の流行により、患者数がかかり変動するのが特徴である。令和元年度は、RSウイルス感染症が最近の傾向通り7月下旬から流行し始め、9月から11月に入院を要する患者が多かった。年末からはヒトメタニューモウイルスとインフルエンザA型の入院が増加した。川崎病は、年間を通してみられた。

3. 今後の目標

平成19年度末から当病院小児科が中心となり、伊勢崎佐波子ども健康増進研究会を設立した。この会を中心に、養護教諭や保育士、保護者に対する啓発活動として、年1回の講演会を実施している。その他、毎年、保育園等に出張し、感染症、救急、アレルギー等についての講演を行っている。今後も、子どもの病気に関して、市民向けに積極的に公開講演会を開催していく予定である。

また、当病院は小児の内分泌代謝疾患を専門とする医師が2名いて、県内の小児内分泌疾患の中核病院となっている。新生児先天性代謝異常等の検査で異常値を認めた場合の精査加療依頼にも対応しており、今後もこの体制を維持していく。予防医学に関しては、定期接種ワクチンに加え、任意接種となっているロタ・ムンプスのワクチンも積極的にやっている。年々ワクチンが増えて、予防可能な疾患が増えていくことは喜ばしいことである。ただ、それとともに接種スケジュールがとて難しくなっているため、複数ワクチンの同時接種を行っている。今後も積極的に予防接種を進めていくつもりである。

(高野 洋子)

外科

1. スタッフ

8人の診療部長を含む12人の常勤医師と2人の非常勤医師で診療を行った。

2. 業務の現況

外来は紹介型外来である。外来業務は、午前中3-4診の専門外来と1診の予約初診外来、午後には2-4診の専門外来を行っている。またストーマや乳腺における心身の諸問

題に対して看護外来を設け患者 QOL の向上を図っている。

手術は水曜日の午後以外は全日手術を行っており、年間の手術件数は 1,000 件を超えている。従来の開腹・開胸手術から最近では内視鏡手術が増加しており、さらにロボット手術を導入しており、最新の治療法を常に提供するように努めている。

水曜日午後には全員で術前カンファレンスを行い、全症例の検討を行っている。また、毎日当番医により回診/包交が行われているが、月曜日と水曜日には主任部長が回診/包交を行っている。

外科ではチーム医療やクリニカルパスを推進しており、多職種とともに周術期管理を行う、カンサーボードで治

療方針を決める、地域連携を推進するなど、安全で適切な医療が提供できるように努めている。

3. 今後の目標

- (1) 最新の治療法や手技を学び、高度で安全な外科診療を行う。特に胃がんや直腸がんに対してはロボット手術を積極的にを行い、今後は肺がん症例も導入したい。
- (2) 紹介や逆紹介を通して地域医療機関との連携を強化し、地域医療に貢献する。
- (3) 外科系医師の減少を鑑みて、若い外科医の育成に努める。

(保田 尚邦)

整形外科

1. スタッフ

常勤医師 6 名、非常勤医師 2 名で診療を行った。

手術は月、火、水、金に定期手術を行い、救急患者に対する手術は適宜この枠に割り振り対応した。

2. 業務の現況

四肢と脊椎の外傷、四肢と脊椎の変性疾患の治療を行った。変性疾患に対しては特殊外来にて対応した。

特殊外来

小児股関節外来 (荻原、田中)

成人股関節外来 (田中、割田、藤田)

膝関節外来 (佐藤)

脊椎外来 (飯塚、小林、伊藤)

3. 今後の目標

- (1) 新たな診断法、治療法を展開していくこと。
- (2) 予約患者は、ほぼ予約時間通りに診察を開始することができるようになった。紹介患者の待ち時間も短縮されてきたが、さらに短くする工夫が必要である。
- (3) 病診・病病連携をより充実させていくこと。

(田中 宏志)

脳神経外科

1. スタッフ

群馬大学からの非常勤医師で診療を行った。

3. 今後の目標

引き続き、他科や地域医療機関と連携して外来診療にあたる。

2. 業務の現況

外来診療は群大医師が火曜日の午後、水曜日の午前と金曜日の午後に行った。

(堀口 桂志)

心臓血管外科

1. スタッフ

医療部長兼主任診療部長 1 名、診療部長 3 名、医長 2 名と医員 1 名の総勢 7 名体制にて診療にあたったが、大分大学からの交換留学中の梅野君が 5 月一杯で大分大学に戻り 1 名減員となった。幸いなことに 12 月には新潟大学から研修のため長澤君が赴任して 7 名体制に戻った。臨床工学技士 6 名で

体外循環や人工呼吸器および血液浄化等の業務を担当した。

2. 業務の現況

再診外来は原則火曜日の午後週 1 回で 4 診体制 (大林、大木、安原、小此木、三木または長澤)、初診と術前は大林が月、水、金曜日の午前中に診察にあたった。また静脈瘤外来

を月曜日午後と水曜日午前に平井が専任で担当した。術前自己血貯血は可能な限り外来で実施している。

入院患者は全て循環器センター（6A病棟）に入院した。定期手術は月、水、木、金の週4日で、体外循環心大血管手術や冠動脈バイパス術は主に月・木曜日に実施し、水、金曜日はその他の開心術またはステントグラフト治療を主とする大動脈血管内治療を始めとした動脈疾患の手術日とした。静脈瘤手術は全例TLA麻酔のため、他の手術とは独立して月・火の午前中に2例ずつ施行した。手術患者総数は年間416例となった。体外循環手術と心拍動下冠動脈バイパス手術および胸部大動脈手術の合計は186例であった。開心術の内訳は虚血性心疾患が34例、弁膜症手術は51例で少し減少した。自己心膜を用いた大動脈弁形成術は順調に手術数が増加し累積75例となり良好な成績を収めた。胸部大動脈瘤の手術は81例と増加した。ステントグラフト治療では胸部および

腹部の総数122例行い、胸部（TEVAR）は59例で、腹部（EVAR）は63例であった。下肢静脈瘤の血管内焼灼術は112例施行した。術後管理は、ICU入室中は当科でICU管理を行い、土・日曜日にも全て病棟回診に引き続き重症管理を行った。

3. 今後の目標

手術総数は少し減少傾向であった。近隣総合病院に心臓血管外科が乱立している現状では、カテーテルによる大動脈弁置換術やロボット支援心臓手術など他院との差別化を図る新たな術式の採用などが課題として上がって来るかもしれない。

（大林 民幸）

皮膚科

1. スタッフ

常勤医師3名で診療を行った。外来看護師は1名である。

2. 業務の現況

外来診療は、毎週月曜日から金曜日の午前中に一般外来を行い、初診、予約外、一般予約患者の診療を行った。午後は院内往診、特殊検査（皮膚生検、パッチテストなど）、術前説明を行い、手術を火曜日、水曜日、金曜日に、そしてレーザー外来（しみ、青あざ、茶あざなど）を木曜日にそれぞれ行った。また、褥瘡回診を第2、4、5火曜日に行った。

入院は6階B病棟（整形外科・皮膚科混合）を中心として、

診療を行った。

3. 今後の目標

スタッフが患者の信頼に応えられるよう、新たな知識や技術の向上に努め、よりよい医療を提供できるようにしたい。また、病院の性格上、開業医からの紹介患者も多い。地域における連携を密にして、入院外来問わず、皮膚疾患の診断や治療をおこなえるように、さらに努力していきたい。

（田村 敦志）

泌尿器科

1. スタッフ

病院長、医療副部長兼主任診療部長1名、診療部長2名、医長2名、医員1名の7名で診療にあたった。

2. 業務の現況

外来診療は従来、午前には新患予約外、再診の2診で診療にあたった。しかし、患者の増加に対応し火曜、木曜、金曜は3診でおこなった。午後は、排尿機能性機能外来、腎外来、前立腺外来、CAPD（持続携帯腹膜透析）外来、術前説明外来、地域連携バス外来などの専門外来を行っている。1日平均で外来患者は114.1人、入院患者は33.9人、平均在院日数は6.7日であった。小児手術、結石破碎、前立腺生検は当日入院、翌日退院として在院日数の短縮に努力してい

る。平均在院日数は13年連続で10日を切っている。

腎センターでは28台の透析装置を移動している。持続携帯腹膜透析は2人に施行している。

手術件数は1,324件であった。患者への負担が少ない腹腔鏡手術を積極的に行っている。腹腔鏡下での副腎摘除術3件、腎摘除術、腎尿管全摘術を行った。腹腔鏡下膀胱全摘除術を2件施行した。前立腺癌に対する密封小線源療法も28件施行した。レーザー前立腺摘出術（HOLEP）も33件施行した。開放の悪性腫瘍手術も十分行っており、下大静脈重傷血栓除去を2件行った。内視鏡による結石破碎を117件行った。

また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しロボット支援前立腺全摘除術を137件、ロボット支援腎部分切除術を32件行った。腎癌術後の地域連携バスを開始した。

3. 今後の目標

コメディカルスタッフとともに入院前から退院後を含めた途切れのない良質な診療を提供したい。

地域連携パスの導入をすすめ、地域の先生方と共に患者

の診療にあたりたいと考えている。

(竹澤 豊)

産婦人科

1. スタッフ

常勤医師4名、非常勤医師4名で診療を行った。

2. 業務の現況

日常勤務は、外来診療、病棟回診、分娩、手術、人間ドックに分けられる。外来は、午前産科外来・婦人科外来として3診で行い、午後の月、火、木曜日に特殊外来、金曜日に産科外来を行った。また、助産師外来を午前に、母乳外来を午後に行った。病棟回診は曜日毎に病棟担当医を決めて行い、さらに医師全員で夕方に回診を行った。

令和元年度の分娩件数は416件だった。また、他施設からのハイリスク妊娠の紹介や母体搬送もあり、緊急帝王切開も多く行っているのが現状である(元年度帝王切開113件、

緊急帝王切開37件)。

予定手術は、月曜日の午後と水・木・金曜日の午前・午後に行い、それ以外の緊急手術も多数あった。令和元年度の手術件数は266件で、そのうち子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌などの悪性腫瘍手術は19件であった。

人間ドックは12時前後に検診センターで行った。

3. 今後の目標

産婦人科は女性にとって受診しにくい科の一つであるが、気軽にかかる産婦人科、安心してかかる産婦人科をめざして努力していきたい。

(狩野 智)

眼 科

1. スタッフ

非常勤医師、看護員1名、視能訓練士2名で診療にあっている。

2. 業務の現況

令和元年度は、月曜日から水曜日まで週3日外来を行い、月曜日の午後に手術を行っている。外来の人数は1日平均は20~30人であり、2診体制で診療を行っている。

白内障、糖尿病網膜症、緑内障、網膜動脈閉塞症、網膜裂孔などの治療、その他全身疾患に合併した眼病の治療を行っている。

進行した糖尿病網膜症に対してはレーザー光凝固療法による治療を行っている。治療時期を逸すると予後不良であるため、早期発見が重要であり、糖尿病と診断されたら眼症状がなくても定期検査を受けるよう説明している。

人間ドックや市町村による検診の普及により、緑内障の疑いで来院する患者数の増加が目立つ。緑内障の視野障害は慢性に経過し自覚症状に乏しいものがあるが、視神経の詳細な評価、光干渉断層計による神経菲荷化の評価、自動視野計による精密な視野検査を行うことで早期発見、治療を目指している。

白内障手術に関しては、超音波による、小切開の安全で侵襲の少ない手術ができるようになった。そのため、手術を受ければ短期間で必ず視力が劇的に向上すると思われやすくなったことは事実である。したがって術後の経過が思わしくないと思われぬトラブルを引き起こしやすいため術前の説明には十分に時間をかけるよう心がけている。

近年、I P S細胞に関連して加齢黄斑変性が認知されるようになり、その治療として抗VEGF薬の硝子体注射が広く普及するようになってきた。黄斑部浮腫などの漿液性変化を抑えることにより、視力予後の改善が見込まれる。適応症例も網膜静脈閉塞症、近視性脈絡膜新生血管、糖尿病黄斑浮腫が追加され、その有用性が証明されつつある。当科でもこの治療を導入し、診療にあっている。

斜視弱視に関してはベテランの視能訓練士2名を擁しており、きめ細かいフォローを行っている。

また、非常勤のため、症状が落ち着いている方は地域の眼科医へ経過観察を積極的にお願している。

地域の中核病院であるため開業医からの紹介も含め入院治療の必要な疾患にも出来る限り対応しているが、非常に進行した糖尿病網膜症や緑内障、重症な網膜剥離などは早急にしかるべき治療の出来る病院に紹介している。

3. 今後の目標

医療の質を高めるとともに均質なものにしていけるよう心掛けているが、常勤医師不在のため限界がある。大学および

地域医療機関との連携をさらにはかかっていきたいと思う。

(斉藤 千真)

耳鼻いんこう科

1. スタッフ

常勤医師3名で診療を行っている。看護スタッフは看護師3名で、患者介助や器械整備などの業務を行っている。また、医療事務員が2名おり、カルテや書類の処理を行っている。

2. 業務の現況

月・火・水・金曜日の午前中に一般外来を行っている。全て紹介状持参の患者のみの受付である。

火・水曜日の午後、木曜日の午前・午後は手術を行っている。火曜日の午前、外来で手術説明を行っている。

月・金曜日の午後は特殊外来としており、生理検査や小手術等を行っている。特殊外来の枠で、穿刺吸引細胞診、AB

Rなどが行われている。

補聴器外来は、補聴器の適応、機種を選択・調整などを行っている。

主な手術は、慢性副鼻腔炎に対する内視鏡手術や慢性扁桃炎に対する扁桃摘出など、良性疾患に対する手術を行っている。

3. 今後の目標

地域の医師との連携を強化し、入院治療の充実・手術件数の増加および、外来診療密度の増加を図りたい。

(川田 倫之)

リハビリテーション科

1. スタッフ

科長（神経内科医、）1名、リハビリ処方医16名（整形外科医、内科医、外科医、心臓血管外科医、循環器内科医、神経内科医）、理学療法士14名、作業療法士6名（老健勤務1名含む）、言語聴覚士5名（老健勤務1名含む）、臨時事務3名、計45名。

2. 業務の現況

平成31年4月に病院の理学療法士1名が新入職員として増員となった。また作業療法士1名・言語聴覚士1名が老人保健施設と同職種1名ずつと勤務交代となり、また病院の作業療法士1名の老人保健施設への半日兼務については令和元年度も継続となる。そのため、実質の病院リハビリスタッフ数は、理学療法士14名、作業療法士4.5名、言語聴覚士4名であり、併設の老人保健施設ひまわりは、理学療法士1名、作業療法士2.5名（非常勤0.5人×2名を含む）、言語聴覚士1名の勤務体制でリハビリ業務を行った。

当院は公立の急性期病院であるが、前年度の病院全体の在院日数平均は11.0日であり、その短い入院期間の中で効果的なリハビリを行うには効率的で無駄のないリハビリの実施が必須となる。

超急性期よりリハビリが開始となり、廃用症候群・合併症の予防を行いながら離床を進め、患者さんに順調な経過で予定通りの退院・転院をして頂くことが、リハビリテーション

科の使命となっている。

処方されたその日からリハビリ介入となり、また連休等で、リハビリが途切れることなく実施され、そして医師、看護師と情報を共有し安全で効果的なリハビリを提供できる勤務体制を敷く必要がある。

現在は、病状によりリハビリが開始できないケース以外は、ほとんどが、入院翌日もしくは手術翌日よりリハビリが処方されリハビリが開始されている。

また勤務表により毎週土曜日に、理学療法士4名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の計6名の日直者により、土曜日にもリハビリを提供している。

そして各病棟で開催されているカンファレンスにも積極的に参加し随時、スタッフステーションにいる医師、看護師と頻りに情報の共有がなされ、病棟と一致した目標に向けて廃用の予防改善や病棟ADL動作の拡大などを図っている。

また転院時に、地域の転院先病院に向けて各担当療法士がリハビリ経過報告書を作成しており、転院先でも同じ目標に向けた継続性のあるリハビリが引き続き行なわれるよう情報の提供がなされている。

3. 今後の目標

病棟の医師、看護師と担当患者の情報を円滑に綿密に共有するには療法士の病棟担当を決め、病棟配置様の業務体制をとることが望ましい。これにより担当患者の情報のみだけで

はなく、病棟入院中のリハビリ未介入患者の情報も共有することができ、リハビリ実施が必要かどうかリハビリ介入必要性の検索も可能となる。

この病棟担当性と各病棟の主疾患を元にして組んだリハビリ疾患区分チームを関連づけることにより、各病棟のリハビリ管理とリハビリ連続性の効率化が可能となる。それには疾患区分チーム内の患者情報の共有が不可欠であり、これにより効果的で安全なリハビリの提供も得られるようになる。

またリハビリ手順や手法などをチーム内ごとに検討することもでき、若手の療法士の成長にも繋がる。

病棟担当性と疾患別チーム編成をすすめ、業務の安全性、効率性、患者満足度の向上、働きやすい職場の体制づくりに今後とも取り組んでいきたい。

(丸橋 俊弘)

放射線診断科

1. スタッフ

常勤医師4名(1名は放射線診断専門医)、非常勤医師3名

2. 業務の現況

国内では放射線診断医が常駐する医療機関は全体の20%以下、また放射線科専門医総数は6,500人程度で医師全体の2%である。一方、日本のCTとMRIの保有台数は世界1位である。また、CTの検査数だけでも15年間で5倍に増加しており、放射線科医1名あたりの読影件数は世界1位になっている。さらにCT多列化による画像枚数増加、特殊撮影数の増加もあり、より負担は増している。当院は群馬県でも数少ない画像管理加算2を算定している施設であり、年末年始、連休や土日休日の検査についても翌診療日までに読影報告書を作成しているが、令和元年度は専門医1名に対し、年間読影総数は30,365件であり、これは国内平均の年間8,100件をも遙かにしのぐ過重労働であった。

このような背景の下、画像検査での病変の見逃し、画像診断報告書の確認ミスによる医療事故が全国的に報告され、我々も対応を迫られている。幸い、令和2年度より専門医が1名増員され、腹部領域の画像診断では国内トップレベルの市川医師を招聘できた。これにより、画像診断報告書を専門医が二重にチェックするなど画像診断の質を担保する体制が整えられた。また、各科とのカンファレンスもこれまで以上に密に行えるようになり、診療レベルの向上にも寄与している。

基幹病院として各診療科がその実力を存分に発揮できるよう、画像診断装置の充実を図り、画像検査の質を担保することも大切な役割である。平成25年度にはCTが2台とも最新型高性能機種に更新され、心臓冠動脈CT、高エネルギー外傷の全身CT、臓器血流評価など高度な画像検査が可能となり、がん診療連携拠点病院としてばかりでなく、脳血管障害や循環器疾患などの救急領域でも貢献できるようになった。平成28年度には、トモシンセシス対応マンモグラフィー、

SPECT-CT撮影可能な核医学診断装置、平成29年度にはMRIを2台更新。1台は3TのMRIとなった。全身拡散強調画像撮影などの特殊撮影への対応も可能になった。

CTガイド下生検/ドレナージ、CVポート挿入、血栓溶解術、外傷、術後出血、消化管出血、産後出血、シャントPTAなどのIVRも当科の業務である。IVRはパート医師に対応を依頼しているが、伊勢崎佐波医療圏ではIVRに対応できる施設は当院のみであり、現状では緊急対応が困難である。これも早急に解決しなければならない課題である。

今後は、画像診療としては、2管球の高性能CTの特性を生かしたmonochromatic imaging法の肝臓領域での実践、MRI全身拡散強調画像による骨転移病変の評価など、高性能医療機器を保有する強みを生かしたハイレベルな診療を目指す。放射線診断科は病院機能の中央部門として画像検査の管理も求められている。今年度は、電子カルテ更新事業に平行して画像診断報告書の既読管理システムも導入した。画像診断報告書の見落としによる医療事故を防ぐ体制を整えたい。また令和元年より医療法が改正され、医療被ばくの管理がより厳格化された。これを実践するのも当科の役割であり、今年度より画像検査で受ける被ばく線量を管理するためのシステムの導入を予定している。X線を使用した画像検査の線量適正化によりいっそう努めたい。

3. 今後の目標

- (1) 画像診断報告書既読管理システム導入
- (2) 医療放射線被ばく管理ツールの導入。診療用放射線安全管理委員会の発足。
- (3) 子育て医師の在宅勤務補助、災害時や感染症による出勤停止時の業務補完のため、テレワークを推進する。具体的には、在宅読影できるよう端末整備。

(徳永 真理)

放射線治療科

1. スタッフ

常勤医師 1 名、非常勤医師 4 名、診療放射線技師 4 名、看護師 1 名で診療を行った。

2. 業務の現況

種々の悪性腫瘍と一部の良性疾患に対して、X線による外部照射および小線源治療を行った。令和元年度の患者数は 233 人であった。

原発巣別の患者数としては、脳・脊髄腫瘍 0 人、頭頸部腫瘍(甲状腺を含む) 2 人、食道がん 9 人、肺がん・気管・縦隔腫瘍 55 人、乳がん 66 人、肝・胆・膵臓 10 人、胃・小腸・結腸・直腸がん 9 人、婦人科腫瘍 6 人、泌尿器系腫瘍 74 人、造血器リンパ系腫瘍 0 人、皮膚・骨・軟部腫瘍 1 人、その他 0 人、良性疾患 1 人であった。

泌尿器科とともに前立腺がんに対する I-125 小線源療法を行い、令和元年度の治療患者数は 29 人であった。

高精度放射線治療導入にむけて、令和元年度に医学物理士資格を治療部門スタッフが取得することができた。患者の苦痛に対する支援要望率が高いため、令和元年から、がん看護

専門・認定看護師の介入した看護体制になり、苦痛の軽減と円滑な照射が行えるようになってきている。

平成 29 年 4 月 14 日公布の RI 規制法(旧：放射線障害防止法の改正)にともない、原子力規制委員会の指定するスケジュールに従って、関連する体制の整備や強化を順次おこなう指定期限内に当施設の予防規定を国に提出した。

3. 今後の目標

令和 2 年度は、外照射では高精度治療の導入にむけての準備をすすめるとともに、小線源治療も含め放射線治療の安全管理・品質精度管理の継続とその向上を引き続き行うことを目標とする。

安全かつ高精度の放射線治療を推進することを目的として策定された認定施設制度において、当施設は日本放射線学会認定施設として平成 30 年度に認定されている。令和 2 年度は施設認定更新時期にあたり、施設要件をみたく体制等を維持し施設認定更新の申請を行う。

(樋口 啓子)

病理診断科

1. スタッフ

常勤病理医師 1 名、非常勤病理医師 7 名と常勤臨床検査技師 4 名(うち細胞検査士の有資格者 2 名)、非常勤臨床検査技師 4 名。

2. 業務の現況

2019 年度については、細胞診：6,825 件、組織診：6,510 件、術中診：135 件、剖検：8 件であった。CPC は 3 回開催され、合計 8 症例を示説・検討した。

各臓器の悪性病変は「臓器別取り扱い規約」に準じて検索・診断を行っている。ホルマリンによる過固定を防ぐため、検体を平日毎日適切に処理している。検体を標本化した後に診断しており、必要に応じて免疫染色・特殊染色を追加して検索している。また、診断困難症例に関しては日本病理学会のコンサルテーションシステムなども利用し、

広い知見が得られるようにしている。臨床各科からの学会及び論文発表時の組織写真作成依頼や、過去の症例の再検討依頼などにも適宜応じている。

3. 今後の目標

地域がん診療連携拠点病院の指定を堅持するため、正確かつ遅滞の少ない病理診断報告に努めるほか、院内研修医教育や CPC の開催、剖検数の確保に尽力する。また、近年治療法の進歩に伴い、過去の症例を検索することが増えており、病理関連資料と記録の保存・管理の充実を図るとともに、患者の個人情報保護には十分に注意したいと考えている。

(高山 佳泰)

麻酔科

1. スタッフ

副院長 1 名、主任診療部長 1 名、診療部長 1 名、医長 1 名、

医員 4 名、計 8 名の体制で麻酔科の業務を行った。業務内容は手術麻酔、ICU 管理、ペインクリニック外来、病棟診療

と多岐にわたる。

資格は日本麻酔科学会指導医 4 名、日本ペインクリニック学会専門医 2 名、日本集中治療医学会専門医 1 名である。

麻酔・救急の基本的な手技の研修を目的に、常時 1~2 名の研修医を教育している。

2. 業務の現況

令和元年度の総手術件数は 4,849 件、麻酔科管理症例は 3,916 件であった。このうち全身麻酔件数は 2,672 件、脊椎麻酔は 1,211 件、硬膜外麻酔（単独および全麻併用）は 577 件であった。手術件数は年々増加しており麻酔科医の負担も増加している。

ペインクリニック外来は平日の午前に行っている。腰部交感神経ブロック、神経根ブロック、椎間関節ブロック、三叉神経ブロックなどの透視下ブロックは 1 泊入院で施行している。がん性疼痛に対しても神経ブロックを積極的に行っている。最近では超音波診断装置を用いたエコーガイド下神経ブ

ロックを手術室や外来で行っている。

今後麻酔業務はさらに多忙化すると思われる。

3. 今後の目標

手術枠を効率的に運用することで、時間外手術の減少を図り、手術室スタッフ、麻酔科の業務の効率化を推進していきたい。

新しい手技、器械、薬剤を積極的に取り入れて安全で円滑な麻酔の施行ならびに患者の満足度の高い周術期管理が行なえるよう努力していきたい。

麻酔科の 3 本の柱である、「麻酔」「ICU」「ペインクリニック」をしっかりとバランスよく行っていくことにより地域社会に貢献するとともに、麻酔専門医をめざす若手麻酔科医に魅力のある麻酔科となることを目指していきたい。

（富田 行成）

歯科口腔外科

1. スタッフ

歯科医師 4 名（常勤 2 名、非常勤 2 名）、歯科衛生士 4 名（常勤 3 名、非常勤 1 名）が診療に当たった。外来看護師の配置が認められ、円滑な診療、患者の全身管理、安全確保等に貢献している。

2. 業務の現況

令和元年度の初診患者数は 1,819 人、再診患者数は 8,067 人であった。また入院患者数は延べ 330 人であった。

中央手術室での手術枠は火曜午前・午後であり、1 日 3 件程度の全身麻酔下手術を実施してきた。令和元年度の中央手術室での手術件数は 84 件であった。

外来初診患者数は増加し、再診を合わせると 1 日の受診患者数は 70 名に至る日もあり、医療安全上の懸念があった。12 月から初診枠を予約制とし、紹介患者は早期に紹介元に戻すなど、1 日あたりの患者数が適切となるよう努めた。

3. 今後の目標

地域歯科・口腔診療に携わる二次医療機関としての役割を果たすべくソフト面、ハード面の改善、充実を引き続き目指したい。

昨年度から継続している診療室の改善であるが、各部署の協力のもと、診療器材の滅菌業務を中央材料室に移すことになり、診療に専念できるようになった。また、診療室内にパーテーションが設置され、患者の導線がシンプルとなり、プライバシーへの配慮ができるようになった。老朽化した診療ユニット 1 台は来年度に更新する予定である。今後も継続してよりよい環境となるよう整えていきたい。

院内歯科として、入院患者の口腔衛生管理、加療は積極的に行ってきた。また摂食・嚥下サポートチームが立ち上がり、われわれもチームの一員として口腔の評価を担当している。これら院内の活動が発展、充実したものとなるようにしたい。そのためには、確実な時間、人員の確保が必要であり、スタッフ間での密な連携を保持していきたい。

当科は 10 月 1 日に日本口腔外科学会専門医制度の准研修施設として認定された。認定施設となることで若手口腔外科医の育成に貢献できると考えている。また、本年度から歯科衛生士の育成にも貢献すべく、実習施設として受け入れを開始した。看護部など関係部署と連携して進めたい。

（五味 暁憲）

緩和ケア内科

1. スタッフ

緩和ケア内科は、常勤医師2名と臨床心理士2名(常勤1名・非常勤1名)で診療にあたった。

2. 業務の現況

(1) 外来：令和元年度に施行した、新たに緩和ケア病棟の利用を希望している患者、家族との初回面談数は192件、このうち緩和ケア病棟エントリーとなったのは175件(91%)だった。

また、緩和ケア病棟エントリーとなった患者のみを対象とした外来診療も例年通り施行、訪問看護、介護保険サービスと連携し、緩和ケアの質の向上、在宅療養期間の延長を図った。

(2) 入院：緩和ケア病棟に入院している患者を診療した。

令和元年度の入院患者総数は264人、退院患者総数262名(生存退院患者は46.1%)、平均在院日数は17.7日で昨年より若干短縮した。また、在棟日数別生存退院患者割合は、1週間以内が48%・2週間～30日以内が41.3%と昨年同様だった。

また、全生存退院患者のうち10名(8%)が老人ホー

ムに転所した。今後、家族の構成員数の減少・更なる高齢化に伴い介護施設の役割はより大きくなることが予測され、施設との適切な連携を更に勧めることが当地域での緩和ケアの充実に与するものと思われた。

一般病棟入院中の患者に対しては緩和ケアチームが臨床心理士等を含めた多職種で対応し、患者の生活の質の向上を目指して診療にあたった。初回依頼数は238名で例年通りであった。

3. 今後の目標

(1) 緩和ケア病棟・緩和ケア専門外来・緩和ケアチームいずれもが、より質の高い緩和ケアを提供できるよう努力を続け、患者、家族の生活の質を高めていきたい。

(2) 緩和ケア診療所、往診医、訪問看護ステーション、ケアマネージャー、介護施設等、地域との連携をさらに強化し、より質の高い在宅療養生活の実現を目指したい。

(3) 様々なリソースを用い地域への緩和ケアに対する啓発を行っていきたい。

(押本 直子)

救急科

1. スタッフ

救急科主任診療部長1名で診療にあたった。

2. 業務の現況

平日の昼間は必ず救急センターに在駐し、救急初期に携わっている。状態の安定化、診断、専門科への紹介を行っている。

3. 今後の目標

(1) できるだけ多くの診療の求め、救急搬送の求めに応じること。

(2) 素早く確実な診断に辿り着くこと。

(3) 素早く苦痛を取り除く手段を講じること。

以上を目標に診療を受けて良かったと思っただけの救急外来を運営していきたい。

(鈴木 一也)

2. 中央放射線科

1. スタッフ

技師長1名、技師長補佐1名、係長2名、係長代理2名、主査7名、主任4名、技師6名、(再任用1名)、看護員10名(救急外来所属)、事務員3名(委託)、計36名。

2. 業務の現況

画像診断部門：前年度比単純撮影1.7%減、ポータブル6.6%増、乳房撮影2.7%増、CT1%増、MRI5.6%減、骨密度5.6%増、RI_センチ0.2%増、RI_SPECT12.2%減、デジタイズ関連6.1%増、合計で0.7%の増加であった。

3. 今後の目標

- (1) 画像診断と放射線治療精度の向上。
- (2) 放射線の安全な運用と医療被ばくの低減。
- (3) 施設機器の有効利用。
- (4) 危機管理を徹底し医療事故の防止。

- (5) チーム医療の一員として責任を果たす。
以上の事について更なる努力をしていきたい。

(武田 久)

3. 中央検査科

1. スタッフ

検査管理者1名、技師長1名、係長4名、係長代理2名、主査3名、主任3名、技師16名(再任用3名含む)、非常勤技師8名、臨時技師1名、非常勤事務員2名、事務員2名、計40名。

2. 業務の現況

(1) 生化学検査部門：測定の正確度維持を目的に多項目実用参照物質(MaCRM)を使用し、年3回の正確度の確認を継続している。また、HbA1c測定装置を更新し結果報告の迅速化と変異ヘモグロビン存在下での測定も可能となった。

(2) 血液検査部門：全自動赤血球沈降速度測定装置の老朽化に伴い、コストや操作性等を踏まえて装置の検討を開始した。

(3) 免疫輸血検査部門：免疫検査では、新規項目としてサイログロブリン、抗サイログロブリン抗体、抗TSHレセプター抗体を導入した。

輸血検査では、輸血製剤管理として、血液製剤の適正使用、損耗削減等に努め、安全で適正な輸血業務に寄与している。

(4) 一般検査部門：尿一般定性・尿沈渣検査における目

視判定基準の再検討を行った。上記から鏡検件数が増え、より正確な検査結果を提供することが可能となった。

(5) 細菌検査部門：尿中レジオネラ抗原の迅速キットを変更し、血清型1から15まで検出が可能となった。また、感染制御チーム(ICT)や抗菌薬適正使用支援チーム(AST)、伊勢崎感染対策カンファレンス(IICC)などチーム医療に参画して感染対策に貢献している。

(6) 生理検査部門：皮膚灌流圧(SPP)測定と乳房超音波検査の総合判定を始める。今後とも診療側の要望に応えられるよう努めていく。引き続き技師の育成を行う。

3. 今後の目標

(1) 適正な人員配置および新規検査機器の導入により更なる効率化を実現する。

(2) 救急医療の実現に貢献したい。

(3) 診療側の要望、患者サービスに応えていきたい。

(4) 各種認定資格の取得および学会、研修会に参加し、最新の知識および技術の習得を図りたい。

(松島 秀子)

4. 臨床工学科

1. スタッフ

常勤10名でME業務を行った。スタッフは以下の認定資格を有している。体外循環技術認定士5名、透析技術認定士4名、医療安全管理者認定1名、呼吸療法士2名、医療ガス保安管理技術者1名。

2. 業務の現況

MEの業務場所は主に手術室、集中治療室、透析室、病棟である。

手術室では主に手術や麻酔に関連した機器の維持管理、

心臓血管外科手術時の人工心肺業務を行っている。今年度の人工心肺症例数は126例であった。

集中治療室では主に人工呼吸器の維持管理および設定、血液浄化を行っている。今年度はIRRT(間歇的腎代替療法)130件、CRRT(持続的血液濾過透析)45件、アフエレス療法10件、PCPS4件であった。

透析室では8,979件の血液透析と89件の潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着療法を行った。また、病棟では71件の往診血液透析と65件の腹水濃縮濾過再静注法を行った。

現在、MEが管理している主な機器は麻酔器11台、人工

呼吸器 29 台、除細動器 8 台、AED12 台、輸液ポンプ 152 台、シリンジポンプ 142 台、経管栄養ポンプ 19 台、そのほかに院内各部署の様々な医療機器を管理している。

近年は、循環器内科でのペースメーカー植え込み業務や、術中ナビゲーションを用いた整形外科、耳鼻咽喉科領域での業務が新たに加わり業務が拡大している。

3. 今後の目標

臨床工学技士をさらに増員し、院内医療機器の中央管理化、医療安全業務の強化、各種認定資格の取得によるME業務のレベル向上に努めたい。

(富田 行成)

5. 栄養科

1. スタッフ

科長 1 名 (兼任外科診療部長)、主任管理栄養士 2 名、管理栄養士 6 名 (老健兼任 1 名)、非常勤管理栄養士 3 名、調理師 3 名 (老健兼任 2 名)、委託職員 49 名 (栄養士 12 名、調理師 9 名、給食調理補助員 9 名、下膳・食器洗浄員 19 名)。

2. 業務の現況

令和元年度の患者給食数は 327,753 食、前年度比 98.4%、特別食の占める割合は 46.1%であった。

介護老人保健施設ひまわりの給食数は 48,466 食、前年度比 103.2%、特別食の占める割合は 20.9%であった。

栄養食事指導件数は個人指導 1,360 件、集団指導開催数 49 回で 192 件、計 1,552 件であった。個人栄養指導は前年度比 111.9%であった。集団栄養指導の内訳は糖尿病教室 23

回、腎臓病教室 2 回、母親学級 23 回、肝臓病教室 1 回であった。個人栄養指導は 1 日 8 枠で行っている。また、多職種で糖尿病透析導入予防指導を行っている。

栄養管理は病棟担当制を設け、病棟の栄養管理を行っている。

3. 今後の目標

多職種と連携し、病態に合わせた栄養管理を行っていく。また、委託業者と連携し、患者給食の充実のため、メニューの改善や調理方法など、より良い患者給食に取り組んでいく。

(齋藤 克哉)

6. 看護部

1. スタッフ

看護部長 1 名、看護副部長 3 名、看護長 17 名、看護副長 28 名、看護師 425 名 (臨時 38 名)、看護助手 2 名 (臨時 26 名)、他 6 名 (臨時 3 名)、計 482 名 (臨時 67 名)。

看護部組織以外に、看護副部長 2 名、看護長 3 名、看護副長 3 名、他 20 名 (臨時 3 名)。その配属部署は、地域医療連携室に 9 名 (臨時 3 名)、医療安全管理室に医療安全係 2 名、感染管理係 1 名、褥瘡管理係 1 名、緩和ケアチームに 1 名の計 14 名 (臨時 3 名)。併設の介護老人保健施設ひまわりに 8 名、訪問看護ステーションいせさきに 6 名。

2. 業務の現況

(1) 看護実践

① デイパートナーク看護方式

看護の伝承・伝授、安全・安心な看護実践、人材育成を図るために、看護方式の検討を重ね、平成 29 年 2 月から平日

日勤は 1 人の患者を 2 名の看護師で受け持つデイパートナーを導入し、3 年が経過した。看護副長が中心となって現状を把握し評価した結果、様々な課題が明確になった。パートナーシップの考え方は残しながら、患者の安心・安全、責任ある看護の実践をめざし、現状にあった看護方式について、今後も検討していく。

② 病棟における化学療法時の血管確保開始

医師の負担軽減策の一つとして、病棟における化学療法時の血管確保ができる看護師を育成するために研修を実施した。令和元年度は 45 名が研修を受講し、計 123 名の看護師が実施できるようになり、医師の負担軽減に繋がった。今後も増員に向けて取り組んでいく。

③ チーム医療の推進

平成 30 年に摂食・嚥下障害看護認定看護師が誕生し、平成 31 年 4 月から摂食嚥下サポートチームの活動が開始され

た。耳鼻咽喉科医師、言語聴覚士をはじめとする多職種でチームを組み、1回/週のラウンドや嚥下機能検査を行っている。それぞれが専門性を発揮し、誤嚥の予防・経口摂取への移行などを支援している。

(2) 看護師教育

①新人看護職員研修制度

令和元年度で10年目を迎えた。24名の新卒新人看護師に対し、概ね例年通りに約3ヶ月間の研修プログラムを企画し、実施した。各期の研修目標に到達するまでに例年より時間を要したものの、1年間の達成度はほぼ例年通りであった。群馬県看護協会からの委託を受けて研修の一部を公開講座としている。災害看護の研修に近隣の施設から11名が受講し好評を得た。

②現任教育

院内集合研修は、専門的知識や技術を持つ院内の看護師が講師を務めるとともに、平成26年度から導入したe-ラーニングを活用した。

コース研修として、退院支援職員育成研修、臨地実習指導者講習会、フィジカルアセスメント研修、がん看護研修を実施した。臨地実習指導者講習会の一部のみ公開講座とし、院外より2名が参加した。

(3) 専門・認定看護師

がん看護専門看護師2名、認定看護師は14分野20名である。専門・認定看護師は、関連する部署での看護実践と、患者やスタッフへの指導・相談を行い看護の質の向上に努めている。今後も育成に努めていく。

(4) 看護外来

現在、10の看護外来を実施している。緩和看護外来、ストーマ看護外来、母乳外来は前年度より受診者数が増加した。一方で、乳腺看護外来、糖尿病フットケア外来、糖尿病療養指導士外来、小児糖尿病療養指導士外来、糖尿病地域連携パス外来、ウロストーマ看護外来、助産師外来は前年度より受診者数が減少した。令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、外来受診キャンセルがあり、受診者数が減少した外来が多かった。

3. 今後の目標

- (1) 安全で質の高い看護の提供
- (2) ヘルシーワークプレイスの推進と業務改善の実施
- (3) 看護の専門性を高める人材育成

(木村 恭子)

7. 薬 剤 部

1. スタッフ

部長1名、副部長2名、係長2名、主査1名、主任10名、薬剤師(院内職名)10名、非常勤薬剤師1名、非常勤事務員5名 計32名。

2. 業務の現況

令和元年度は、病棟薬剤業務実施加算1を算定継続、薬剤管理指導件数を増やすことができた。平成31年2月よりICU病棟薬剤業務実施加算2の算定を開始することができた。

院外処方せん発行率は85.9%と減少した。院内処方せんの枚数は、外来は増加し、入院も増加した。注射薬処方箋は減少した。製剤室の製剤量は、滅菌製剤・点眼・点耳は減少、一般製剤・注射剤・軟膏類は増加であった。注射抗がん剤調製は、外来は増加し、入院も増加した。抗がん剤は、レジメンチェックや調製、調製後の監査と何段階にも薬剤師が複数で関わることで安全性向上や適正使用につながり安全・安心な医療に寄与できた。また、薬剤部で一元的に調製することで薬剤の効率的な使用に結びつき、経済的にも十分貢献でき

た。TPNは前年度より増加した。地域がん診療連携拠点病院として抗がん剤および麻薬の適正使用に努めていきたい。また、薬連携を推進するための新薬や麻薬等の勉強会等も開催している。薬剤管理指導件数は前年度比107.4%と増加、退院指導数も107.4%と増加し、がん患者指導料3算定件数は113.0%と増加した。

治験業務の処方箋数は増加した。治験業務は、外部SMOの協力を得て運営している。市販後調査は減少した。薬品管理室における発注・検収・在庫管理・出庫業務は、現行のシステムでは、GS1コードとロットと期限に対応できていない。令和2年7月末から特生物より対応予定である。注射薬処方箋による払い出しは、個人別、施用別払い出しで対応している。後発医薬品加算取得のため、要件を満たす様、後発化と使用を推進していく。手術前中止薬の中止を的確に実施する必要がある。手術前中止薬の指導は薬剤部調剤室で行っていたが、令和元年7月より、入退院支援センターに薬剤師が出向いて、行うこととなった。持参薬鑑別件数は増加している。調剤支援システムにより、医薬品のデータベースが一元化され、注射・内服・外用薬が処方時・調剤時にチェッ

クが掛かり、薬物療法の安全性が向上した。調剤もバーコードを利用することにより、別物調剤過誤が減少し、患者安全に貢献できた。

3. 今後の目標

- (1) 病棟薬剤業務実施算1とICU病棟薬剤業務実施算2を維持し、薬の適正使用に貢献したい
- (2) 薬剤管理指導件数を維持し、より多くの患者さんが安心して安全に薬物療法が受けられるよう努めていきたい
- (3) 薬剤師関与診療報酬の積極的取得
- (4) DPC算定病院としての適正な薬剤の選択と後発医薬品採用の推進

- (5) チーム医療の一員として麻薬、向精神薬、ハイリスク薬への十分な関与
- (6) 地域の薬薬連携推進
- (7) 人材確保と人材育成、認定取得維持支援
- (8) 職員満足度の向上の取り組みが患者満足度の向上に繋がる。(職員が積極的に仕事に参加でき、より良い医療を提供できる職場環境を整える。)
- (9) 新型コロナウイルス関連の薬品の確保と汎用される高額薬品の適正な在庫管理に努めていきたい

(大和 由美子)

8. 経営企画部

1. スタッフ

副院長兼経営企画部長1名。

2. 業務の現況

平成28年度に策定した「新公立病院改革プラン」に基づき、令和2年4月からの地方公営企業法の全部適用に向け、関係条例や規則、企業管理規程等の整備を行った。また、2カ年計画で進めてきた病棟改修工事が終了し、入院患者の療養環境の向上を図った。

3. 今後の目標

令和2年4月から地方公営企業法の全部適用となり、より機動的な運営ができるようになることから、職員の意識改革

を高め、収入の安定的確保と経費等削減の努力を継続し、社会情勢の変化に対応できる効率的な病院運営に努める。また、令和2年度で対象期間が終了となる新公立病院改革プランに基づく事業推進計画(アクションプラン)の達成状況の検証や進行管理を行うとともに、新たな改革プランの策定が求められることも想定されるため、BSC(バランススコアカード)を活用し、各所属の取組の進捗状況を把握する。

各種事務事業においては、病院総合情報システム更新事業、長年の懸案となっている救急センター改修事業を遅滞なく推進し、医療の質の担保と救急受入態勢の整備を行い、患者サービスの向上を図る。

(大和 克弘)

企画財政課

1. スタッフ

課長(兼)1名、総務係14名(再任用職員1名、非常勤職員7名含む)、人事係10名(非常勤職員4名含む)、企画係5名(再任用職員1名含む)、財政係4名、用度係6名(非常勤職員2名含む)、施設係7名計47名。

2. 業務の現況

企画財政課の主な業務としては、法規管理、人事・給与、各種事業計画の策定、財務管理、医療機器等の購入および施設の維持管理業務などである。

総務係は、条例・規則および文書管理の総括、議会対応、災害対策、病院警備、施設の運用・管理、院内保育所の管理

運営等の業務を行っている。今年度もDMAT体制の強化、災害医療活動訓練等を実施し、災害に強い病院体制の構築に努めた。

人事係は、病院職員の人事・給与、福利厚生および衛生管理、職員研修、医療部事務、年末調整業務等を行っており、今年度は、会計年度任用職員制度の導入に伴い、事務処理の見直しや関係規定の整備を図った。

企画係は、病院経営に関する中・長期計画の策定、経営改革の進行管理、病院事業の企画調整、院内会議および委員会の調整、開設許可の申請、広報業務等を行っている。今年度は、新公立病院改革プランに掲げた指標の達成状況の進捗管理や経営戦略に係る検討組織の見直しを行った。

財政係は、予算および決算、財務経理、財政計画・資金計画の策定、建物・医療機器の財産管理、企業債手続等の業務を行っている。また、年度末には決算の調製を行い、病院事業の財務諸表等の決算報告書を作成している。今年度は、利用者のサービス向上のため、自動精算機の導入準備を行った。

用度係は、薬品、診療材料、備品、消耗品等の契約・購入業務、医療機器等の修繕・保守契約業務を行っている。今年度は病院総合情報システム（第1期）、医療用空気除湿装置の購入など医療提供環境の充実を図った。

施設係は、各設備の効率化に努め、高度医療を支える地域医療の拠点病院として各種設備の維持管理業務を行っている。今年度は、第2次病棟改修工事、冷温水設備の更新工事

などを行ったほか、各所修繕を実施し施設設備の充実と保全を図った。

3. 今後の目標

消費税引き上げに伴う令和元年度の診療報酬改定は、診療報酬本体と薬価改定等を併せ、全体でマイナス0.07%となり、医療機関にとっては厳しい状況が続いている。

平成28年度に策定した新伊勢崎市民病院改革プランに掲げた目標の達成に向けた取組を推進することで、長期的に安定した病院経営が持続できるよう努めたい。また、社会情勢の変化に的確に対応しながら、地域の公立病院としての責務である良質で安全な医療を安定的に提供していきたい。

(小此木 聡)

医療サービス課

1. スタッフ

課長1名、医事係45名(非常勤職員40名含む)、診療報酬係5名、情報管理係7名(非常勤職員2名含む)、計59名。

2. 業務の現況

2年ごとに行われる診療報酬改定に向けた情報収集及び分析、次期病院総合情報システム再構築事業の契約事務を行い第1期事業を実施、病棟再編や改修などを行った。

医事係は、診療報酬調定、自費未収金管理、交通事故相談、公衆衛生活動に関する調整、医事業務契約、人間ドックなどの健診事務のほか、医師の事務負担軽減を目的とした医師事務作業補助業務を担当している。今年度は、質の高い医療サービスを安定的に供給するため、プロポーザルによる医事業務委託受注業者の選定を実施して最優秀提案者と複数年度契約を行った。

診療報酬係は、入院および外来の受付業務から診療報酬請求までを一貫して行うほか、診療報酬上の施設基準の申請や

管理などを担当している。今年度は、重症度、医療・看護必要度Ⅱへ移行を行った。また、新たな施設基準取得や各種加算の届出等を積極的に行い、一定の医業収益を確保できた。

情報管理係は、病院総合情報システムの管理、病歴管理、がん登録、診療録開示及び診療統計抽出業務を担当している。今年度からの2カ年事業である次期病院総合情報システム再構築については、10月31日付けで事業者と契約を行い、第1期事業であるサーバ室環境整備、各システムの設計・構築を実施。令和2年7月末の新システム稼働に向けて計画どおり準備をすることができた。

3. 今後の目標

病院総合情報システム再構築第2期事業、自費未収金の削減に向け回収強化及び発生抑制、診療報酬における新たな施設基準の取得などを目標に実施していきたい。

(松原 弘和)

9. 地域医療連携室

1. スタッフ

室長(看護副部長)1名、地域連携係8名(事務員3名、臨時看護員1名、非常勤事務職員4名)、入退院支援係20名(看護員8名、社会福祉士6名、非常勤看護員2名、非常勤社会福祉士1名、非常勤事務職員3名) 計29名。

2. 業務の現況

地域医療連携室は、年々活動の幅が広がっている。

地域支援病院の役割である関係機関との連携強化を目的とした「地域連携対策委員会」と入退院患者の支援体制及び業務の効率化を図ることを目的とした「入退院支援委員会」を合併し「地域医療連携室運営委員会」とした。委員会では患者が、外来予約した時から退院までの支援が充実することを目的に多職種による協議を行っている。

地域連携係は、紹介患者、関係機関との連携、苦情相談、地域の医療従事者等に対する研修、がん診療連携拠点病院事業、室の庶務等に関する業務を行っている。予約患者の待ち時間短縮のために、市の健康診断・集団検診の結果から、要精査・要治療の患者の外来予約を取れるように予約枠の見直しを行った。

入退院支援係は、入退院支援に関する業務を行っている。入院支援は、全診療科の支援が開始となった。さらに業務拡大により、薬剤師による内服薬の確認、中止薬の説明が開始となった。

退院支援は、退院後に医療・介護が必要となる患者・家族を対象に、医師会の在宅医療を担う医師による在宅医療相談会を月1回、開始した。在宅復帰の患者・家族の不安

の軽減が図れ、在宅退院に結びついている。

今後も、紹介患者の確保のために、地域医療機関と連携し、患者や家族が安心して入院生活を送れるように入院前から関わるとともに、退院後の不安を軽減できるように在宅復帰や転院に向けた支援を行っていく。

3. 今後の目標

- (1) 地域医療機関および介護事業所との連携推進
- (2) 地域連携クリニカルパスの推進
- (3) 患者支援の充実

(大下 洋美)

10. 医療安全管理室

1. スタッフ

副院長兼室長（医師）、室長補佐（看護副部長）、専従医療安全管理者（看護師）1名、専従感染管理係（看護師）1名、専従褥瘡管理係（看護師）1名、事務1名の6名体制。

<医療安全>

2. 業務の現況

- (1) インシデント・アクシデントレポートの収集・分析、再発予防のための対策の検討
- (2) 医療安全に関する啓発および知識の普及
- (3) 医療安全管理委員会の開催
- (4) リスクマネジャーへの教育
- (5) リスクマネジャーへの助言、相談

インシデント・アクシデントレポートの報告は、令和元年度は計1,509件であった。その内訳は、薬剤347件、輸血10件、治療・処置70件、医療機器等35件、ドレーン・チューブ類304件、検査161件、転倒・転落272件、療養上の世話189件、医師報告事項は21件、苦情・クレーム3件、その他97件であった。

患者影響レベルは、レベル0:31件、レベル1:614件、レベル2:637件、レベル3a:203件、レベル3b以上:24件であった。インシデント・アクシデントレポート提出後、事故の事実関係を把握し、当該部署へ助言しながら問題の解決にあたっている。また、重要事例については医療安全カンファレンスで検討した。当該部署には、改善対策報告書の提出を依頼し、現場評価や対

策への助言を行った。そして医療安全管理委員会に報告し、改善策を検討、リスクマネジャーを通じて各部署への周知徹底を図った。さらに安全管理ニュースにて職員へ情報周知を行った。事例検討を行うにあたり、ImSAFER分析手法を用い、事故の再発防止策を検討する部署への助言を行った。

平成31年3月に発生した事例について、医療事故調査・支援センターへの報告を行い、外部委員を含めて院内事故調査を実施した。協議を重ね、再発防止策を策定し、安全体制の改善を行った。医療事故報告会を開催し、事故調査委員会からの提言を共有した。

4月からの新入職者対象に医療安全について教育研修を行った。全体研修としては、講演会と医療安全カンファを行った。講演会は、宮澤潤法律事務所の弁護士である柴田崇先生を迎え「医療事故をいかに防ぐか〜患者家族への説明の仕方〜」（参加者105名）を実施した。医療安全カンファは「患者急変時皆さんはどうしますか」（補足研修合わせ参加率96.1%）「アレルギー情報を共有しよう」（補足研修合わせ参加率99%）を実施した。7月には、山梨大学医学部附属病院医療の質・安全管理部特任教授である荒神裕之先生を迎え「医療コンフリクトマネジメント研修」を開催した。医師をはじめ各部署から39名が参加した。7月〜1月にかけて第7回リスクマネジャー養成研修会を開催し24名が修了した。研修を修了したリスクマネジャーは計157名となった。12月には、ImSAFER研究会シニアインストラクターの川井ひで子先生によるImSAFER分析手法の研修会を開催

した。

11 月厚生労働省主催医療安全推進週間では、職員、患者が作成した医療安全川柳や院内危険箇所等の写真を掲示し、患者家族への情報提供の機会とした。また、ミニ健康教室を 42 回開催した。

医療安全対策の地域連携として、群馬中央病院と相互評価を行い、また、青木病院へ訪問した。各病院の取り組みを参考に、医療安全管理体制の整備につなげた。

11 月、日本医療機能評価機構「医療安全文化に関する調査」を実施した。調査結果を医療安全管理委員会で報告し、安全文化の醸成に向けた課題を抽出した。

3. 今後の目標

- (1) インシデント・アクシデント報告の徹底
- (2) 医療安全カンファレンスの充実、情報提供の促進
- (3) リスクマネジャーの能力向上
- (4) IC 内容充実
- (5) 安全文化の醸成
- (6) 医療安全の地域連携推進
- (7) メディエーションを活用した対応力の向上

<感染管理>

2. 業務の現況

- (1) 感染対策に関する啓発及び知識の普及
- (2) 医療関連感染の原因究明と対策立案
- (3) アウトブレイクの早期発見と介入
- (4) 感染対策関連サーベイランスの実施
- (5) 職業感染防止への取り組み
- (6) 感染管理に必要な環境整備
- (7) ICT（感染対策チーム）/AST（抗菌薬適正支援チーム）の活動調整

上記を主な活動とし、医療関連感染の低減と薬剤耐性菌の低減を目指している。令和元年度は、アウトカム指標である医療関連感染率、耐性菌分離率は概ねベンチマークと比較し低い傾向にあり、良好に管理されているといえる。

プロセスで重要となる職員教育は、研修医、新人、リンクナースなどターゲット研修のほか、全職員対象に ICT メンバーによる「全職員で取り組むインフルエンザ対策」について行った。また、インフルエンザワクチンプログラムを利用し「サージカルマスクの正しいつけ方」について考える機会を設けた。前者は追加研修を含め 95.9%、後者は 97.7%の出席率であった。抗菌薬適正使用に関する研修を e-Learning で行い出席率は 89.2%だった。

2019 年 11 月末に中国湖北省武漢市で非定型肺炎の新興感染症の報告がされた。これを受け、日本でも水際対策が行われている。保健福祉事務所や近隣施設と協働し地域発生に対する取り組みと共に院内感染を防ぐシステムを構築、現場指導に取り組んでいる。

サーベイランスでは、看護部リンクナースの協力を得て、中心ラインカテーテル関連血流感染サーベイランスを開始、データ収集と現場へのフィードバックを行った。引き続き PDCA サイクルを回し、改善活動に繋げていく。

そのほかチーム医療の推進に関連し排尿ケアチームとの協働によるカテーテル関連尿路感染の低減、RST と共に肺炎予防に取り組んでいる。次年度以降も継続し医療の質向上を目指す。

今後の課題として、新興感染症に対する対応と感染対策の基本となる手指衛生等の感染防止技術の遵守率向上に向けた取り組み、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の介入内容の充実、感染症発生动向に関する情報共有と耐性菌分離率低減に関連する地域連携、感染管理に携わる人材の育成などに取り組んでいく。

3. 今後の目標

- (1) 新興感染症に対する体制整備
- (2) 手指衛生遵守率向上
- (3) 感染対策の地域連携推進
- (4) AST 活動の充実
- (5) 感染管理に携わる人材の育成
- (6) サーベイランスの充実

<褥瘡管理>

2. 業務の現況

- (1) 褥瘡対策に関する啓発及び知識の普及
- (2) 褥瘡発生時の対応策の検討
- (3) 褥瘡ハイリスク患者への対応
- (4) 褥瘡回診の実施
- (5) 褥瘡対策に必要な環境調整
- (6) 医療関連機器圧迫創傷への対応

上記を主な活動とし、院内の褥瘡発生数の減少と褥瘡の早期改善をめざしている。令和元年度の褥瘡推定発生率は平均 0.8%、褥瘡有病率は平均 2.7%であった。褥瘡発生数は 110 名であり、持ち込み褥瘡数は 179 名であった。褥瘡ハイリスク患者ケア加算では 828 件の介入を行った。

院内褥瘡対策委員会・院内褥瘡対策小委員会と連携をはかり、院内で褥瘡発生時には原因に対する対応策の検

討を行い、褥瘡回診時には創部の評価を行いケア方法の検討を行った。また、褥瘡を保有して施設や在宅へと移行する患者に関しては、退院前カンファレンスに参加し、褥瘡の評価やケア方法の伝達、体圧分散用具についての検討を行った。院内で使用している体圧分散用具に関して、令和元年度は対応年数を超えて使用しているコンフォートBの買換を行った。今後も体圧分散用具の使用状況の確認を行いながら、体圧分散用具の効果的な使用方法について知識の普及に努めていく。令和元年度は褥瘡保有者のNST介入数は7件であった。介入数は少ないが週に2回行われているNST回診に参加、NST対象患者の栄養投与法や栄養投与量の検討を行った。令和元年度の医療関連機器圧迫創傷は合計47件の報告があった。医療関連機器の管理方法と共に個々の症例について対応策の検討を行った。

職員教育では、新人研修で褥瘡の発生原因、危険因子の評価、体位変換・背抜き、創部の洗浄方法など褥瘡対策に関する基本的な知識の普及を行った。また、6月と

10月に専任看護師の教育とともに半年間以上の看護経験を有する看護師を対象に、褥瘡対策に関する診療計画書とDESIGN-Rについての研修を行った。さらに、12月にラダーステップIV以上の看護師を対象にポジショニングについての研修を2回行った。加えて、全体研修として8月に院内職員を対象に、褥瘡管理係が「褥瘡の予防と看護-伊勢崎市民病院における見逃しやすい危険因子-」を開催し、131人が参加した。

3. 今後の目標

- (1) 褥瘡予防対策の標準化
- (2) ポジショニング技術の向上・体圧分散用具の整備
- (3) 褥瘡予防対策マニュアルの定期的な改正
- (4) 褥瘡委員の能力向上
- (5) 地域医療機関等との連携

(前田 昇三)

X 会議・委員会・研究会・研修会等

X 会議・委員会・研究会・研修会等

1. 会議

会議名	目的	開催
幹部会議	病院の最重要事項を審議し、 基本の方針を決定する。	月2回 (第1水曜日、 第3水曜日)
M C (経営会議)	病院の管理、運営における重要事項 を審議するとともに、病院事業の充 実発展及び業務を円滑に遂行する ための調整を行う。	年4回
医療運営会議	医療業務を遂行する上での関連事 項の協議、調整及び情報の交換伝達 を行い、適切な業務運営を図る。	月1回 (第1木曜日)

〔院内任意会議〕

会議名	目的	開催
医療部会議	医療部における連絡調整	随時
診療科 責任者会議	各部局又は各課(科)等の関連事項 の協議、調整及び情報の交換伝達を 行い円滑な業務運営を図る。	月1回 (第4金曜日)
看護長会議	看護業務を遂行する上での関連事 項の協議、調整及び情報の交換伝達 を行い、適切な業務運営を図る。	月1回 (第3火曜日)

2. 委 員 会

委員会名	目 的	開 催
診療報酬対策委員会	医療保険制度の円滑な運用と診療業務の効率的運営を図る。	年11回
物流管理運営委員会	物品供給及び保管、新規医療材料の採否について審議し、もって有効かつ効率的な物流管理を図る。	年5回
病床機能分化検討委員会	病床機能を効果的に運用するための調査、検査を目的とする。	年3回
重症度、医療・看護必要度委員会	院内における重症度、医療・看護必要度の適切な評価を行うことを目的とする。	年7回
重症度、医療・看護必要度小委員会	重症度、医療・看護必要度の適切な評価を行い、看護職者の適正配置することを目的とする。	年18回
医療安全管理委員会	安全な医療を提供するための調査及び分析、評価等を行い医療事故防止や予防対策の推進を図る。	年12回
リスクマネージャー会	医療安全管理に関する取組みを推進する。	年22回
透析機器安全管理（水質管理）委員会	透析機器の安全管理を図る。	月12回
虐待対策委員会	院内における虐待に関する対応、方針を明確にし、被害者の権利の擁護に資することを目的とする。	年5回
感染対策委員会	院内における病原微生物の感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期する。	年12回
輸血療法委員会	院内で使用する血液の取扱いについて検討し、血液管理の円滑化を図る。	年6回
院内褥瘡対策委員会	病院内における褥瘡対策を討議・検討し、効率的な褥瘡予防の推進を図る。	年12回
院内褥瘡対策小委員会	院内褥瘡対策委員会と連携し、褥瘡ケアの質の向上を図り、院内の褥瘡推定発生率の低下を図る。	年12回
緩和ケア委員会	悪性腫瘍など生命を脅かす疾患に対し、身体・精神・社会・スピリチュアル等の苦痛緩和と、QOLの向上に向けて院内外の知識・技術の向上を図る。	年9回
緩和ケア小委員会	緩和ケア委員会と連携し、院内の緩和医療に対する意識を高め、緩和医療の知識・技術の向上を図り、看護実践の共有・改善、教育に関することなどを検討する。	年12回

委員会名	目的	開催
クリニカルパス委員会	医療の標準化、効率化を図ることで患者により良い医療を提供し、病院業務の円滑な運営を図る。	年10回
クリニカルパス小委員会	現場でのクリニカルパス作成と分析後の変更等を推進する。	年20回
救急医療対策委員会	救急患者に対する良質で適正な医療サービスを提供するため、診療機能体制の円滑な運営を図る。	年10回
栄養管理委員会	理想的な栄養管理を確立し、医療の質の向上を図る。	年11回
NST委員会	患者の栄養状態及び治療成績、QOL（生活の質）の改善を図るとともに、チーム医療の推進による医療の質の向上を目的として、適切な栄養アセスメント及び栄養指導を行う。	年10回
がん診療委員会	地域がん診療連携拠点病院として、地域における予防活動及びがんの早期発見と治療の向上を図る。	随時
がん化学療法委員会	化学療法のレジメンの安全性などについて厚生労働省が承認した薬剤に基づき審査、管理、承認する。	年9回
病棟業務委員会	病棟の運営と、病床管理の適正化及び合理的かつ効率的運用を図る。	年12回
外来業務委員会	外来管理の適正化及び合理的かつ効率的運用を図る。	年8回
看護外来小委員会	通院治療を要する患者のQOL向上のために、看護外来の効率的運用と、看護外来の質の向上を図る。	年10回
慢性疾患療養指導委員会	慢性疾患療養指導に関する円滑な運営を図る。	年1回
糖尿病療養チーム小委員会	糖尿病の治療・指導を討議・検討し、その向上を図る。	年12回
腎臓病療養チーム小委員会	腎臓病の治療・指導を協議・検討し、その向上を図る。	年5回
呼吸器療養チーム小委員会	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の指導・教育及び人工呼吸、酸素療法についての職員研修体制を確保し、安全な看護を提供する。	年4回
放射線安全管理委員会	放射性同位元素等の安全管理を図り、放射線障害の発生を防止する。	年1回

委員会名	目的	開催
医療の質評価向上委員会	質の高い医療の実践に役立てるために、臨床指標などの評価指数を活用して、当院の医療の質を評価する。	随時
病院機能評価委員会	病院の問題点を明確にし、その改善に向けて協議検討し、第三者による病院機能評価を受審し、医療の質の向上と地域住民の信頼を確保する。	年4回
伊勢崎市民病院先進医療審査委員会	厚生労働省が定める先進医療の当院での実施について、審査、検討を行う。	随時
治験審査委員会	治験薬等の臨床試験の実施について倫理的、科学的及び医学的妥当性について審査等を行う。	随時
伊勢崎市民病院倫理委員会	患者等の人権及び生命の擁護について、法律及び医学又は医療の倫理に照らし、適切な医療及び医学研究等が行われるよう審議する。	随時
伊勢崎市民病院地域医療支援委員会	地域における医療の確保のために必要な支援を行う。	年2回
伊勢崎市民病院群初期臨床研修管理委員会	当病院を基幹型臨床研修病院とする医師の臨床研修の実施について、適切な指導及び管理運営を図る。	年2回
伊勢崎市民病院新専門医制度委員会	新専門医制度の基本理念の下、伊勢崎市民病院を基幹施設とする新専門医制度の充実を図ることを目的とする。	年2回
情報システム委員会	医療情報システムで使用される機器ソフトウェア及び運用に必要な仕組み全般についての安全で適切な管理運営を図る。	年1回
診療情報開示検討委員会	診療情報の開示依頼があった場合、開示について検討する。	随時
薬事委員会	病院で使用する医薬品等の副作用、薬効再評価情報、新規薬品の購入、在庫薬品の取扱いを検討し、より適正な病院経営及び診療・調剤の円滑化を図る。	年4回
地域医療連携室運営委員会	地域中核病院として関係機関との連携強化推進と、入退院患者の支援体制及び業務効率化の推進を図る。	年9回
退院支援委員会	患者の自己決定を尊重し、退院支援および退院調整を図ることを目的とする。	年11回
中央手術室運営委員会	各科との連絡調整と手術室の効率的利用について協議し、業務の円滑な運営を図る。	年4回
集中治療室運営委員会	集中治療室（ICU）の円滑な運営と高度な医療を提供することを目的とする。	年1回

委員会名	目 的	開 催
中央放射線科運営委員会	診療部門の連絡を緊密にし、中央放射線業務の充実と業務の円滑な運営を図る。	年3回
中央材料室運営委員会	医療機器等々の再処理を安全かつ効率的に供給する。	年2回
診療記録管理委員会	診療記録及び病歴管理について審議する。	年6回
検査業務委員会	診療部門の連絡を緊密にし、検査業務の充実向上と業務の円滑な運営を図る。	年4回
検診運営委員会	検診センターの適正かつ効率的運営を図る。	年4回
DPC/PDPS コーディング委員会	標準的な診断及び治療方法の周知並びに適切なコーディングを行う体制の確保を図る。	年4回
伊勢崎市民病院脳死判定委員会	本院で行われる臓器の提供を前提とした脳死判定に関する事項を審議する。	随 時
伊勢崎市民病院臓器提供対策委員会	院内で行われる臓器移植に関する事項を審議する。	随 時
臨床研修委員会	医師臨床研修の指導体制及び円滑な研修運営を図る。	年3回
接遇改善委員会	職員の接遇向上を図り患者サービスの充実を図る。	年4回
新人看護職員研修制度委員会	新人看護職員への臨床研修の企画・運営・評価を行う。	年22回
図書・学術支援・研修委員会	図書の有効利用と図書室の円滑な運営、研修の内容・方法等に関する事項を調査審議し、その推進を図る。	年1回
伊勢崎市民病院地域医療従事者等研修委員会	地域の医療従事者等の資質の向上のために策定した研修プログラムの評価・検討を行う。	年1回
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する。	年1回
個人情報保護対策委員会	個人情報の取り扱いについて、条例に基づき適正な管理運営を図る。	年1回
衛生委員会	職員の安全衛生及び健康管理について審議する。	年12回

委員会名	目 的	開 催
防火防災管理委員会	病院における防火防災管理の徹底を期し、もって火災及びその他の災害に因る物的、人的被害を軽減することを目的とする。	年2回
広報編集委員会	病院広報誌の作成及び病院ホームページの管理を行う。	年3回
年報編集委員会	病院年報の編集を行う。	年1回

3. 院内外定期研究会および抄読会

所 属	院内・院外定期研究会および抄読会	開 催
全 科	C.P.C 示説会	月1回
内 科	症例検討会 消化器内視鏡カンファレンス 呼吸器カンファレンス (内科、外科、放射線診断科、放射線治療科) 院外医師参加消化器症例検討会 (水曜会)	週1回 週1回 週1回 月1回
循環器内科	症例検討会 (内科系総合)、研修医カンファレンス 心臓病フォーラム、群馬県冠動脈治療懇談会、群馬心血管病態研究会	週1回 年1~2回
小 児 科	入院症例検討会 抄読会 (英文) 伊勢崎佐波小児科懇話会、伊勢崎佐波子ども健康教室	週1回 月2回 年1回
外 科	病棟カンファレンス、術前術後検討会、レントゲンカンファレンス、抄読会 呼吸器カンファレンス、消化器カンファレンス (消化管、肝、胆、膵)	週1回 週1回
整形外科	術前術後検討会、症例検討会 病棟カンファレンス (医師、看護師、作業・理学療法士、MSW) 群馬整形外科研究会	週1回 隔週 年2回
脳神経外科	病棟カンファレンス (医師、看護師)、症例検討会 (医師) リハビリテーションカンファレンス (医師、看護師、理学・作業・言語療法士) NST褥瘡カンファレンス (医師、看護師、薬剤師、栄養士、MSW)	週1回 月2回 週1回
心臓血管外科	心臓血管外科カンファレンス、術前症例検討会 伊勢崎佐波医師会循環器勉強会、伊勢崎血管ラボ研究会、群馬県末梢血管懇談会 三山循環器カンファレンス 北関東ハートフォーラム	週1回 年2回 年1回 年3回
皮 膚 科	術前検討会、皮膚病理組織検討会	週1回
泌尿器科	透析カンファレンス 病棟カンファレンス、入院症例検討会 (医師)	月1回 週1回
産 婦 人 科	入院症例検討会、術前検討会	週1回
耳鼻いんこう科	術前検討会	週1回
麻 酔 科	術前検討会	週5回
歯科口腔外科	術前検討会	週1回
緩和ケア内科	病棟カンファレンス (医師、看護師、うち臨床心理士 週3回・理学療法士 週1回・管理栄養士 週1回参加) (ミニデスカンファレンス 週2回) 合同カンファレンス	週5回 不定期
リハビリテーション科	リハビリテーション科内カンファレンス リハビリテーション勉強会	週1回 月1回

所 属	院内・院外定期研究会および抄読会	開 催
緩和ケアチーム	緩和ケアチームカンファレンス 多職種カンファレンス	週5回 週3回
中央放射線科	中央放射線科勉強会	月1回
中央検査科	臨床検査研究会	年1回
栄 養 科	NSTカンファレンス	週2回
看 護 部 門	看護会議、看護教育部会、病棟勉強会 病棟カンファレンス デスカンファレンス 看護研究発表会 臨床倫理事例報告会 コース研修発表会 I SCN (伊勢崎佐波認定看護管理者・専門看護師・認定看護師ネットワーク)	月1回 週4~5回 月1回 年2回 年2回 年1回 隔月
薬 剤 部	病棟カンファレンス 病棟薬剤業務・DI カンファレンス 群馬県病院薬剤師会研修会 部内新薬等説明会 伊勢崎佐波薬剤師会講演会 伊勢崎地区がん薬物療法勉強会	週1回 隔週 月1回 月1回 月1回 年1回
地域医療連携室	ボランティア活動研修会 群馬脳卒中医療連携の会 大腿骨頸部骨折地域連携パス合同委員会 群馬県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会 群馬県がん診療連携拠点病院連絡協議会地域連携パス部会 伊勢崎佐波地域医療連携実務者の会 症例検討会 患者サポートカンファレンス 伊勢崎市要保護児童対策地域協議会	年1回 年3回 年3回 年2回 年2回 年3回 年1~2回 週1回 月1回
医療安全管理室	医療安全カンファレンス 医療安全巡視 医療安全カンファ (全体研修) ICT/AST カンファレンス 伊勢崎感染対策カンファレンス	週1回 月2回 年2回 週1回 年5回

4. 院内講演会および研修会

年 月 日	演 題	講 師 名	受講者数	担 当 所 属
31.4.15 ～4.16	新規採用職員等研修会	病院長他	34	企画財政課
元.5.21	標準採血法ガイドラインと採血業務における基礎的な注意点	積水メディカル株式会社 須長 宏行	46	中央検査科
元.6.1	緩和ケア研修会	石原 真一 他	25	緩和ケア委員会
元.6.13	患者急変時 皆さんはどうしていますか？	前田 昇三 鈴木 一也 坂本 寿満子 竹部 久美子	895	医療安全管理委員会
元.7.19	緩和ケア講演会	NPO法人ほほえみの会 酒井 晃洋	院内 42 院外 44	緩和ケア委員会
元.7.24	放射線に関する知識を深めよう	樋口 啓子 徳永 真理 宇梶 智人 蓑輪 良太郎	40	放射線治療科 放射線診断科 中央放射線科
元.7.27	医療コンフリクトマネジメント研修	山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部特任 教授 荒神 裕之	41	医療安全管理委員会
元.8.19	褥瘡の予防と看護ー伊勢崎市民病院における見逃し やすい危険因子ー	岡崎美香	院内 131	院内褥瘡対策 委員会
元.8.27 ～8.28	チームSTEPPS研修	Team STEPPS Japan Allianceメンバー 新井 裕子	100	医療安全管理 委員会
元.11.13	医療講演会 「医療訴訟をいかに防ぐか～患者家族への説明の仕方～」	宮澤 潤法律事務所 柴田 崇	105	医療安全管理 委員会
元.11.14	緩和ケアネットワーク研修会	押本 直子 廣野 正法	院内 31 院外 40	緩和ケア委員会

年 月 日	演 題	講 師 名	受講者数	担 当 所 属
元. 11. 20	多職種で取り組みインフルエンザ対策	柴草 仁志 笹森 敏信 塩ノ谷 明彦 後藤 恵	912	感染対策委員会
元. 12. 14	事例分析研修Basic編	ImSAFER研究会シニアインストラクター 川井 ひで子	27	医療安全管理委員会
2. 1. 8	医薬品安全管理研修 「医薬品適正使用への課題 ～オピオイド持続皮下注による癌性疼痛治療～」	群馬県済生会前橋病院 緩和ケア内科代表部長 平山 功	28	薬事委員会 医薬品安全管理者
2. 2. 3 ～2. 7	患者のアレルギー情報を共有しよう	前田 昇三	880	医療安全管理委員会
2. 2. 5	新型コロナウイルス感染症における 対応について	小林 裕幸 柴草 仁志	228	感染対策委員会
2. 2. 17 ～2. 18	中級職員研修	株式会社行政マネジメン ト研究所 松江 澄江	71	企画財政課

(敬称略)

5. 院内看護部発表会

(1) 看護研究

年月日	テ ー マ	所 属	発 表 者	出席人数
元. 9. 20	終末期の療養先について患者の思いが反映されないことで感じる看護師のジレンマ ～看護師へのアンケート調査より～	9階A病棟	柿沼 美希	150
	攻撃的な言動や行動のあるBPSDを発症した患者への関わり～穏やかに入院生活を送れるようになるまでの介入を振り返って～	8階B病棟	田村 萌華	
	アドバンス・ケア・プランニングに関する医師と看護師の意識調査	8階A病棟	新井 千尋	
	医療用麻薬による疼痛マネジメントを行っているがん患者の家族が体験する困難と対処	外来	石井 美希	
	当病院を出産場所を選んだ理由についての実態調査～当病院で出産した褥婦へのアンケート調査より～	5階B病棟	塩谷咲也香	
	異動することによって気づいた助産師役割 ～総合病院で働く助産師～	5階B病棟	松井久美子	
	看護師の職務満足度調査からみた満足度の低い年齢層の傾向と支援～30歳から44歳の結果を子供の有無別に比較する～	緩和ケア病棟	下境 千絵	
看護職者の倫理事例分析から導いた倫理的行動～発表事例の分析結果を活用した看護実践行動の特徴～	集中治療室	石山真寿子		
2. 2. 14	血液透析患者への運動療法導入後の実態調査	腎センター	井上 祐子	132
	吸引が必要な患者を支える妻に対する病棟看護師の退院前訪問の効果	8階B病棟	亀山聖津子	
	当病院に勤務する手術室看護師が鏡視下手術に対して抱く苦手意識についての調査	中央手術室	齋藤 慎	
	集中治療室に緊急入床した生命の危機的状態にある患者の家族と初めてコミュニケーションを図る場面の看護師の関わり	集中治療室	荒木まどか	
	某急性期病院における口腔ケアの介助を要する入院患者の口腔内の実態	外来	黄木 智夏	
	看護管理者が勤務異動により直面する困難克服への対処方法～看護副長・看護主任を対象とした質問紙調査～	集中治療室	関根 和美	

6. 臨床研修および臨地実習指導

(1) 医療部

期 間	学 校 名	人 数	研 修 ・ 実 習 科 名			
臨 床 研 修 病 院 研 修 医	31.4.1~2.3.31	群 馬 大 学	4	初期臨床研修		2年次
	〃	福島県立医科大学	1	〃		2年次
	〃	島 根 大 学	1	〃		2年次
	〃	秋 田 大 学	1	〃		2年次
	〃	奈良県立医科大学	1	〃		2年次
	〃	自 治 医 科 大 学	1	〃		1年次
	〃	群 馬 大 学	8	〃		1年次
	〃	秋 田 大 学	2	〃		1年次
	〃	杏 林 大 学	1	〃		1年次
	〃	産 業 医 科 大 学	1	〃		1年次
	〃	愛 知 医 科 大 学	1	〃		1年次
医 学 生 実 習	元.5.7~元.5.31	自 治 医 科 大 学	1	内 科	臨床実習	
	元.5.13~元.6.7	群 馬 大 学	4	〃	〃	
	元.6.10~元.7.5	〃	2	〃	〃	
	元.11.25~元.12.20	〃	4	〃	〃	
	〃	〃	1	整 形 外 科	〃	
	〃	〃	1	心 臓 血 管 外 科	〃	
	〃	〃	1	麻 酔 科	〃	
	2.1.6~2.1.31	〃	4	内 科	〃	
	〃	〃	1	整 形 外 科	〃	
	〃	〃	1	泌 尿 器 科	〃	
	〃	〃	1	麻 酔 科	〃	
	2.2.3~2.2.28	〃	3	内 科	〃	
〃	〃	1	心 臓 血 管 外 科	〃		
病 院 見 学	元.5.30	群 馬 大 学	1	臨床研修希望者病院見学		
	元.6.13	〃	1	〃		
	元.6.24	山 形 大 学	1	〃		
	元.7.4	宮 崎 大 学	1	〃		
	〃	群 馬 大 学	1	〃		
	元.7.11	〃	2	〃		
	元.7.16	山 形 大 学	1	〃		
	〃	群 馬 大 学	1	〃		
	元.7.25	〃	1	〃		
	元.7.26	〃	1	〃		
	元.8.1	〃	2	〃		
	〃	山 形 大 学	1	〃		

期 間	学 校 名	人 数	研 修 ・ 実 習 科 名	
病 院 見 学	元. 8. 8	群 馬 大 学	1	臨床研修希望者病院見学
	元. 8. 15	山 形 大 学	2	〃
	元. 8. 22	自 治 医 科 大 学	1	〃
	元. 8. 26	島 根 大 学	1	〃
	元. 10. 31	金 沢 医 科 大 学	1	〃
	元. 11. 5	帝 京 大 学	1	〃
	〃	群 馬 大 学	1	〃
	元. 11. 14	〃	1	〃
	元. 11. 21	〃	3	〃
	元. 12. 24	〃	1	〃
	〃	秋 田 大 学	1	〃
	元. 12. 26	山 口 大 学	1	〃
	2. 2. 27	群 馬 大 学	1	〃
	2. 3. 12	〃	1	〃
	〃	秋 田 大 学	2	〃
	2. 3. 19	埼 玉 医 科 大 学	1	〃
	〃	福 井 大 学	1	〃
	2. 3. 26	秋 田 大 学	1	〃
〃	金 沢 大 学	1	〃	

(2) 歯科口腔外科

期 間	学 校 名 等	人 数	実 習 内 容
元. 6. 17～元. 6. 28	太 田 医 療 技 術 専 門 学 校	2	歯科衛生学科
元. 7. 10～元. 7. 24	太 田 医 療 技 術 専 門 学 校	2	歯科衛生学科

(3) リハビリテーション科

期 間	学 校 名 等	人 数	実 習 内 容
元. 5. 20～元. 6. 28	目 白 大 学 保 健 医 療 学 部 言 語 聴 覚 学 科	1	言語療法総合実習 4年生
元. 6. 3～元. 7. 19	目 白 大 学 保 健 医 療 学 部 理 学 療 法 学 科	1	理学療法総合実習 4年生
元. 8. 19～元. 10. 11	高 崎 健 康 福 祉 大 学 保 健 医 療 学 部 理 学 療 法 学 科	1	理学療法総合臨床実習 I 4年生
元. 9. 9～元. 9. 14	人 間 総 合 科 学 大 学 保 健 医 療 学 部 リハビリテーション学科理学療法専攻	1	理学療法学見学実習 2年生
元. 10. 21～元. 12. 14	群 馬 大 学 医 学 部 保 健 学 科 理 学 療 法 学 専 攻	1	理学療法総合臨床実習 4年生
元. 10. 21～元. 12. 14	群 馬 大 学 医 学 部 保 健 学 科 作 業 療 法 学 専 攻	1	作業療法総合臨床実習 4年生
2. 2. 17～2. 3. 5	群 馬 大 学 医 学 部 保 健 学 科 理 学 療 法 学 専 攻 大 学	1	理学療法臨床実習 3年生
2. 2. 25～2. 3. 13	高 崎 健 康 福 祉 大 学 保 健 医 療 学 部 理 学 療 法 学 科	1	理学療法機能・能力診断学実習 3年生

(4) 中央放射線科

期 間	学 校 名 等	人 数	実 習 内 容
31. 4. 9～元. 7. 12	群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部	19	診療画像技術学実習 4年生
2. 2. 10～2. 2. 14	群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部	9	診療放射線技術学導入実習 1年生

(5) 中央検査科

期 間	学 校 名 等	人 数	実 習 内 容
31. 4. 1～元. 7. 31	東武医学技術専門学校	1	臨床検査実習 3年生
元. 5. 13～元. 7. 5	群馬パース大学	2	臨床検査実習 4年生

(6) 臨床工学科

期 間	学 校 名 等	人 数	実 習 内 容
元. 9. 2～元. 10. 7	太田医療技術専門学校	2	臨床工学技士臨床実習 3年生

(7) 栄養科

期 間	学 校 名 等	人 数	実 習 内 容
元. 7. 1～元. 7. 12	高崎健康福祉大学	2	臨床栄養学実習 4年生
2. 3. 2～2. 3. 13	桐 生 大 学	2	臨床栄養学実習 3年生

(8) 看護部

期 間	学 校 名 等	人 数	研修・実習科名
31. 4. 25	伊勢崎敬愛看護学院	45	病院オリエンテーション 1年生
元. 5. 7～元. 7. 26	高崎健康福祉大学	20	成人看護学実習Ⅰ 3年生
元. 5. 7～元. 9. 13	伊勢崎敬愛看護学院	30	母性看護学実習 3年生
元. 5. 13	本庄児玉看護専門学校	19	病院オリエンテーション 3年生
元. 5. 13～元. 8. 9	伊勢崎敬愛看護学院	30	母性看護学(外来) 3年生
元. 5. 14～元. 8. 2	上武大学	18	急性期成人看護学実習 4年生
元. 5. 20～元. 9. 20	伊勢崎敬愛看護学院	30	小児看護学実習 3年生
元. 5. 27～元. 5. 28	伊勢崎敬愛看護学院	10	基礎看護学Ⅰ—① 1年生
元. 5. 28～元. 10. 10	本庄児玉看護専門学校	6	成人看護学実習Ⅰ 3年生
元. 6. 24～元. 7. 5	群馬県立県民健康科学大学	5	看護専門職の役割と機能Ⅱ-1 (総合実習) 4年生
元. 6. 25～元. 9. 12	本庄児玉看護専門学校	7	成人看護学実習Ⅱ 3年生
元. 7. 16～元. 7. 24	群馬県立県民健康科学大学	10	保健医療チーム連携論Ⅱ実習 4年生
元. 7. 22～元. 10. 4	群馬パース大学 助産専攻	1	助産学実習
元. 7. 23～元. 7. 25	桐生大学	20	早期体験合同実習 1年生

期 間	学 校 名 等	人 数	研 修・実 習 科 名
元. 8. 19～元. 9. 10	高崎健康福祉大学	40	基礎看護学実習Ⅱ 2年生
元. 8. 19～元. 9. 11	桐生大学	12	看護セミナー 4年生
元. 8. 26～元. 8. 30	伊勢崎敬愛看護学院	10	基礎看護学Ⅰー② 1年生
元. 8. 27～元. 9. 5	本庄児玉看護専門学校	6	小児看護学実習 3年生
元. 9. 16～元. 9. 27	群馬県立県民健康科学大学	7	看護学研究Ⅱ (EBP) 4年生
元. 9. 30～元. 11. 8	伊勢崎敬愛看護学院	25	成人看護学習Ⅲ 3年生
元. 9. 30～元. 12. 20	群馬県立県民健康科学大学	30	生涯発達看護学 (母胎期実習) 3年生
元. 10. 7～元. 10. 18	桐生大学	10	小児看護学実習 3年生
元. 10. 7～元. 12. 20	桐生大学 助産専攻	2	助産学実習
元. 10. 21～2. 2. 14	東群馬看護専門学校	15	小児看護学実習 3年生
元. 11. 11～元. 11. 22	桐生大学	27	基礎看護学実習Ⅱ 2年生
元. 11. 18～元. 12. 6	伊勢崎敬愛看護学院	12	基礎看護学実習Ⅱ 1年生
元. 11. 25～元. 12. 6	上武大学	25	受け持ち看護実習 2年生
元. 12. 9～元. 12. 20	上武大学	50	看護体験実習 1年生
元. 12. 10	上武大学	50	病院オリエンテーション 1年生
2. 1. 6～2. 1. 31	群馬県立県民健康科学大学	11	生涯発達看護学 (乳幼児期・学童期) 3年生
2. 1. 6～2. 2. 14	上武大学	41	慢性期成人看護学実習 3年生
2. 1. 13～2. 3. 6	東群馬看護専門学校	18	母性看護学実習 2年生
2. 2. 4～2. 2. 14	東群馬看護専門学校	5	小児看護学実習
2. 2. 10～2. 2. 14	群馬県立県民健康科学大学	12	導入実習 1年生
2. 2. 14	高崎健康福祉大学	71	病院オリエンテーション 1年生
2. 2. 17～2. 2. 21	桐生大学	27	基礎看護学実習Ⅰ 1年生
2. 2. 25～2. 2. 28	高崎健康福祉大学	71	基礎看護学実習Ⅰ 1年生

(9) 薬 剤 部

期 間	学 校 名 等	人 数	実 習 内 容
31. 4. 25	北 里 大 学	1	病院見学 6年生
元. 8. 26	河 北 総 合 病 院	1	病院見学 薬剤師
元. 11. 22	立 命 館 大 学	1	病院見学 5年生
元. 11. 25～2. 2. 14	高 崎 健 康 福 祉 大 学	3	薬学部実務実習 5年生

(10) 医療サービス課

期 間	学 校 名 等	人 数	実 習 内 容
元. 8. 19～元. 8. 30	高 崎 健 康 福 祉 大 学	2	診療情報管理業務実習 3年生

(11) 地域医療連携室

期 間	学 校 名 等	人 数	実 習 内 容
元. 8. 6～元. 9. 26	群 馬 医 療 福 祉 大 学	1	社会福祉相談援助実習 3年生

X I 研究業績

X I 研 究 業 績

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

1. 論 文 (原著・総説・著書など)

(1) 欧文論文

【内科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻 (号)	頁 (初頁終頁)	発行年月
Gen Takahashi	Hiroyuki Kobayashi, Yasuyuki Saito, Kuniaki Suzuki, Shinichi Ishihara, その他	Bacteriologically determined de novo tuberculosis during tumor necrosis factor- α inhibitor therapy.	Internal Medicine	第58巻 第24号	3593-3596	元年12月

【整形外科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻 (号)	頁 (初頁終頁)	発行年月
Takasawa E	Iizuka H	The Risk Factors for Rapidly Progressive Neurological Deterioration in Cervical Spondylotic Myelopathy	Spine (Phila Pa 1976)	第44巻 第12号	E723-730	元年6月
Kakuta Y	Iizuka H	Spontaneous functional full recovery from motor and sensory deficits in adult mice after mild spinal cord injury.	Heliyon	第5巻 第6号	e01847	元年6月
Sonoda H	Iizuka H	The retinol-retinoic acid metabolic pathway is impaired in the lumbar spine of a rat model of congenital kyphoscoliosis.	J Cell Biochem	第120巻 第9号	15007-15017	元年9月

【心臓血管外科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻 (号)	頁 (初頁終頁)	発行年月
Takao Miki	Satoshi Ohki, Tamiyuki Obayashi, Kiyomitsu Yasuhara, Shuichi Okonogi, Tadashi Umeno	Aortic and tricuspid valve infective endocarditis caused by Streptococcus suis	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals	第27巻 第9号	751-753	元年5月

【皮膚科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻(号)	頁(初頁終頁)	発行年月
Shimizu A	Hasegawa M, Tamura A, その他	Nail Squamous Cell Carcinoma: Hidden High-risk HPV Reservoir for Sexually Transmitted Infections	J Am Acad Dermatol	第81巻 第6号	1358-1370	元年12月

【泌尿器科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻(号)	頁(初頁終頁)	発行年月
Miyazawa Y	Takezawa Y, その他	An exploratory retrospective multicenter study of prognostic factors in mCRPC patients undergoing enzalutamide treatment: Focus on early PSA decline and kinetics at time of progression.	The Prostate	第79巻 第12号	1462-1470	元年12月

(2) 邦文論文

【内科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻(号)	頁(初頁終頁)	発行年月
柴崎 充彦	嶋田 靖, その他	日本人肝硬変患者における 肝性脳症へのリファキシミン の有効性と安全性の検討	肝臓	第61巻 第1号	1-10	2年1月

【小児科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻(号)	頁(初頁終頁)	発行年月
今井 朗	その他	生物学的製剤を変更しコン トロール良好となった小児 重症喘息の1例	アレルギー	第68巻 第7号	869-873	元年8月
西澤 拓哉	前田昇三	Down症候群とRSウイルス感 染症 パリビズマブ投与と の関連	小児科	第60巻 第12号	1707-1711	元年11月

【整形外科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻(号)	頁(初頁終頁)	発行年月
高澤 英嗣	飯塚 伯	脳・頸髄同時計測 fMRI 法を 用いたヒト皮質脊髄路の神 経機能調整システムの検討	日本整形外科学会 雑誌	第93巻	460-465	元年7月

【皮膚科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻(号)	頁(初頁終頁)	発行年月
長谷川 道子	田村敦志	経口金製剤による全身性接 触皮膚炎	日本皮膚科学会 雑誌	第129巻 第4号	543-547	31年4月
長谷川 道子		胸部異常陰影を合併した顔 面の紅色結節	総合診療	第29巻 第6号	641-642	元年6月

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻(号)	頁(初頁終頁)	発行年月
長谷川 道子		外用剤で治癒しない露光部の皮疹	総合診療	第29巻 第6号	655-656	元年6月
長谷川 道子		出血を伴う黒色結節	総合診療	第29巻 第6号	657-658	元年6月
田村 敦志		爪のケア	エビデンスに基づくスキンケア Q&A 新しい皮膚科治療へのアプローチ		200-218	元年6月
長谷川 道子	田村敦志	Eruptive vellus hair cyst との hybrid cyst がみられた右腋窩の localized steatocystoma multiplex	Skin Surgery	第28巻 第2号	100-103	元年6月
田村 敦志	長谷川道子	爪疾患 病理組織のみかた	皮膚病診療	第41巻 第9号	807-811	元年9月
日高 太陽	長谷川道子、 田村敦志	増殖性外毛根鞘性腫瘍を生じた頭部の巨大外毛根鞘囊腫の1例	臨床皮膚科	第73巻 第10号	773-777	元年9月
田村 敦志	長谷川道子	爪疾患の小手術	Monthly Book Derma	第288巻	57-68	元年10月
長谷川 道子	田村敦志	臨床的に悪性腫瘍との鑑別を要した大型の clear cell acanthoma の1例	臨床皮膚科	第73巻 第13号	1081-1087	元年12月
日高 太陽	長谷川道子、 田村敦志	足底に単発した大型伝染性軟属腫の1例	臨床皮膚科	第74巻 第2号	181-184	2年2月
田村 敦志		手術チームの準備	皮膚外科学 改訂第2版		37-45	2年2月
田村 敦志	長谷川道子	爪の異常	内科	第125巻 第3号	431-433	2年3月
長谷川 道子	田村敦志、その他	爪白癬様の臨床像を呈した爪部 Bowen 病	日本皮膚科学会雑誌	第130巻 第3号	375-379	2年3月

【泌尿器科】

筆頭者名	共著者名	論文名	雑誌名	巻(号)	頁(初頁終頁)	発行年月
竹澤 豊	牧野武朗、悦永徹、 齋藤佳隆、 小林幹男	腎がん地域連携クリニカルパスの作成と初期運用実績	THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL	第69巻 第3号	191-194	元年8月
竹澤 豊	中澤峻、富田健介、 牧野武朗、悦永徹、 齋藤佳隆、 小林幹男、その他	クリニカルパスを利用して周術期管理を行なったロボット支援膀胱全摘除術の初期3例の検討	THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL	第69巻 第4号	335-340	元年11月

2. 学会発表

(1) 座長・司会

【内科】

氏名	担当内容	学会名	年月	開催地
松井 綾子	座長 研修医Ⅶ(肝・胆・膵)	日本消化器病学会関東支部第354回例会	31年4月	東京
石原 真一	座長 感染症	第657回日本内科学会関東地方会	2年2月	東京

【外科】

氏名	担当内容	学会名	年月	開催地
保田 尚邦	座長 大腸癌切除術播種	第74回日本大腸肛門病学会学術集会	元年10月	東京
保田 尚邦	座長 アウトカム検討・評価	第20回日本クリニカルパス学会学術集会	2年1月	熊本

【整形外科】

氏名	担当内容	学会名	年月	開催地
飯塚 伯	座長 特別講演	第38回群馬県整形外科医会	31年4月	前橋
飯塚 伯	座長 頸椎後方手術1	第48回日本脊椎脊髄病学会学術集会	31年4月	横浜
飯塚 伯	座長 CSA、転移性脊椎腫瘍	第92回日本整形外科学会学術総会	元年5月	横浜
飯塚 伯	座長 脊椎2	第34回日本整形外科学会基礎学術集会	元年10月	横浜

【心臓血管外科】

氏名	担当内容	学会名	年月	開催地
安原 清光	座長	第27回日本血管外科学会関東甲信越地方会	元年9月	埼玉
安原 清光	座長 TEVER・EVARの大技・小技	Complex Cardiovascular Therapeutics 2019	元年10月	兵庫

【皮膚科】

氏名	担当内容	学会名	年月	開催地
田村 敦志	座長 BCC1	第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	元年5月	兵庫
田村 敦志	座長 周術期管理	第34回日本皮膚外科学会総会・学術集会	元年9月	栃木
田村 敦志	座長 皮膚外科：実践編	第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会	元年11月	東京

【中央放射線科】

氏名	担当内容	学会名	年月	開催地
武田 久	座長 CT X線CT II-画像	2019年度関東甲信越診療放射線技術学術大会	元年6月	東京
橋本 真衣子	座長 MRI (Synthetic・DIXON)	第47回日本放射線技術学会秋季学術大会	元年10月	大阪

【中央検査科】

氏名	担当内容	学会名	年月	開催地
金井 俊吾	座長 免疫・輸血検査、基礎研究	第64回群馬県医学検査学会	元年10月	前橋
峯村 博香	座長 血液検査	第64回群馬県医学検査学会	元年10月	前橋
熊川 慎一郎	座長 微生物検査、基礎研究	第64回群馬県医学検査学会	元年10月	前橋

【看護部】

氏名	担当内容	学会名	年 月	開催地
栗田 靖子	座長 DMチーム！各部署の活動報告	第25回糖尿病療養支援ネットワーク「ひまわり」研修会	31年4月	伊勢崎
福島 加代	座長 示説展示・発表	第15回群馬がん看護フォーラム	元年5月	前橋
小暮 志保	座長 第1部	令和元年群馬県小児保健会研究集会	元年9月	前橋
高橋 ひろみ	座長 第4群「患者教育」	第23回群馬県看護学会	元年11月	前橋

(2) 口演・示説

【内科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
江澤 一真	その他	気管支温熱療法後の好酸球増多を伴う気管支喘息と好酸球性副鼻腔炎に対してベンラリズマブが著効した1例	第59回日本呼吸器学会学術講演会	31年4月	東京	示説
宇野 翔吾	その他	悪性腫瘍がサルコイドーシスに及ぼす影響についての当院312例の後方視的検討	第59回日本呼吸器学会学術講演会	31年4月	東京	示説
解良 恭一	石原 真一、その他	EGFR遺伝子変異を有する高齢者非小細胞肺癌に対するアファチニブの第2相臨床試験	第59回日本呼吸器学会学術講演会	31年4月	東京	口演
朝比奈 諒	鈴木 邦明、澤田 友里、石原 真一、小林 裕幸、その他	悪性胸膜中皮腫の再発に対してニボルマブ投与後に全身性血管炎を発症した一例	第234回日本呼吸器学会関東地方会	元年5月	東京	口演
増尾 貴成	小坂橋佑輔、石原 眞悟、関口 雅則、その他	高齢者に発症した潰瘍性大腸炎関連腫瘍の1例	第108回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	元年6月	東京	口演
吉成 夫希子	松井 綾子、増田 淳、その他	ディスポーザブルスライディングチューブ併用が有用であった後方斜視鏡十二指腸挿入困難の1例	第55回日本胆道学会学術集会	元年10月	愛知	示説
柴崎 充彦	嶋田 靖、その他	Efficacy and safety of Rifaximin Treatment for Japanese Patients with Hepatic Encephalopathy	JHS国際刊蔵カンファレンス	元年10月	大阪	示説
増尾 貴成	その他	高齢者における潰瘍性大腸炎手術例の検討	JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間	元年11月	兵庫	示説
石原 眞悟	嶋田 靖、吉成夫希子、小坂橋佑輔、一色 綾希、堤 俊之、関口 雅則、増尾 貴成、その他	好酸球性消化管疾患 (EGID) 疑い症例の生検結果はどのような意味をもつか	JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間	元年11月	兵庫	示説
吉成 夫希子	増田 淳、その他	後方斜視鏡十二指腸挿入困難例に対するディスポーザブルスライディングチューブ併用の有用性の検討	JDDW 2019 KOBE 第27回日本消化器関連学会週間	元年11月	兵庫	示説

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
宇野 翔吾	その他	特発性肺線維症の急性増悪の治療中に、下痢を主症状として発症した侵襲性肺炎アスペルギルス症の一割検例	第237回日本呼吸器学会関東地方会	元年11月	東京	口演
都丸 翔太	一色 綾希、小坂橋佑輔、渋澤 恭子、堤 俊之、石原 眞悟、関口 雅則、増尾 貴成、その他	小腸腫瘍の術後4年目に診断に至った好酸球性胃腸炎 (EGE) の一例	第57回日本小腸学会学術集会	元年11月	大阪	口演
小坂橋 佑輔	吉成夫希子、一色 綾希、松井 綾子、渋澤 恭子、堤 俊之、石原 眞悟、関口 雅則、増尾 貴成、その他	腸重積を契機に診断し、保存的加療で軽快した腸管嚢胞様気腫症の1例	第109回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	元年12月	東京	口演
柴崎 充彦	甲賀 達也、上野 敬史、嶋田 靖、塚越 律子、鈴木 秀樹、その他	混合型肝癌術後多発再発に対しレンパチニブが抗腫瘍効果を示した一例	第43回日本肝臓学会西部会	元年12月	山口	口演
峯村 浩之	石原 真一、その他	高齢者に対する免疫チェックポイント阻害薬の有効性と安全性に関する後ろ向き解析	第60回日本肺癌学会学術集会	元年12月	大阪	口演
宇野 航	関口 雅則、一色 綾希、小坂橋佑輔、渋澤 恭子、堤 俊之、石原 眞悟、増尾 貴成、小林 裕幸	急速な経過をたどった好酸球性胃腸炎の1例	日本内科学会関東支部主催657回関東地方会	2年2月	東京	口演
申 悠樹	小林 裕幸、澤田 友里、齋藤 康之、鈴木 邦明、石原 真一、その他	第4世代HIVスクリーニング検査が偽陽性となった伝染性紅斑の成人例	日本内科学会関東支部主催657回関東地方会	2年2月	東京	口演

【神経内科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
長嶺 俊	櫻井 篤志、その他	単純ヘルペス脳炎との鑑別を要した自己免疫性大脳皮質性脳炎の60歳男性例	第229回日本神経学会関東・甲信越地方会	元年6月	東京	口演
高橋 怜真	朝比奈 諒、長嶺 俊、櫻井 篤志、その他	左側優位の下肢筋力低下、高CK血症を呈した53歳女性例	第230回日本神経学会関東・甲信越地方会	元年9月	東京	口演
高橋 怜真	長嶺 俊、櫻井 篤志、その他	糖尿病性腎臓病の経過中に亜急性進行性の意識障害、parkinsonismを呈し、自然経過で改善した60歳男性例	第231回日本神経学会関東・甲信越地方会	元年12月	東京	口演

【小児科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
平形 絢子	その他	血栓性血小板減少性紫斑病を契機に診断された全身性エリテマトーデスの小児例	第41回日本血栓止血学会学術集会	元年6月	三重	口演
小針 靖子	平形 絢子、今井 朗、高野 洋子、前田 昇三	新生児TSS様発疹症(NTED)症状を呈した新生児仙骨部皮下腫瘍の一例	第210回日本小児科学会群馬地方会	元年7月	高崎	口演
小針 靖子	高野 洋子、その他	タクロリムスによる薬剤性糖尿病に対しDPP-4阻害薬がインスリン分泌能を改善した一例	第53回日本小児内分泌学会学術集会	元年9月	京都	示説
小針 靖子	平形 絢子、今井 朗、高野 洋子、前田 昇三	著名な齲歯と貧血、低蛋白血症を来した先天性食道裂孔ヘルニアに伴う胃食道逆流症(GERD)の一例	第211回日本小児科学会群馬地方会	元年12月	前橋	口演

【外科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
田中 司玄文	飯島 岬、渡辺 裕、塚越 律子、家田 敬輔、諸原 浩二、大澤 秀信、片山 和久、鈴木 秀樹、富澤 直樹、保田 尚邦、その他	肺癌術後のフォローにおける検診・ドックの有用性	第119回日本外科学会定期学術集会	31年4月	大阪	示説
富澤 直樹	田中司玄文、保田 尚邦、諸原 浩二、渡辺 裕、その他	大腸癌に対するNOSE (Natural orifice specimen extraction) による完全腹腔鏡下手術の成績	第119回日本外科学会定期学術集会	31年4月	大阪	示説
片山 和久	塚越 律子、その他	ジャパン・マンモグラフィ・サンデーに参加して見えた乳がん検診の課題	第27回日本乳癌学会学術総会	元年7月	東京	示説
片山 和久	その他	がんサバイバーシップとしてがん哲学外来「なごみカフェ」の取り組み	第4回日本がんサポーターケア学会学術集会	元年9月	青森	示説
片山 和久	塚越 律子、飯島 岬、渡辺 裕、家田 敬輔、諸原 浩二、大澤 秀信、鈴木 秀樹、富澤 直樹、保田 尚邦、田中司玄文、その他	乳癌悪性胸水へのタルク胸膜癒着術とベシズマブ+パクリタキセル療法	第57回日本癌治療学会学術集会	元年10月	福岡	示説

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
保田 尚邦	諸原 浩二、渡辺 裕、 飯島 岬、塚越 律子、 片山 和久、家田 敬輔、 鈴木 秀樹、大澤 秀信、 富澤 直樹、田中司玄文	イギリス留学回想録	第81回日本臨床外科 学会総会	元年11月	高知	口演
家田 敬輔	大澤 秀信、渡辺 裕、 飯島 岬、塚越 律子、 諸原 浩二、片山 和久、 鈴木 秀樹、富澤 直樹、 保田 尚邦、田中司玄文、 その他	偶発的に発見された子宮円靱 帯に連続する鼠径部平滑筋腫 の1例	第81回日本臨床外科 学会総会	元年11月	高知	示説
塚越 律子	渡辺 裕、飯島 岬、 家田 敬輔、諸原 浩二、 大澤 秀信、片山 和久、 鈴木 秀樹、富澤 直樹、 保田 尚邦、田中司玄文	女性外科医が活躍するために 必要なこと ～独身女医の負 け犬の遠吠え～	第81回日本臨床外科 学会総会	元年11月	高知	口演
佐藤 公洋	富澤 直樹、諸原 浩二、 渡辺 裕、飯島 岬、 塚越 律子、家田 敬輔、 片山 和久、大澤 秀信、 鈴木 秀樹、保田 尚邦、 田中司玄文	経膈的標本摘出法による完全 腹腔鏡下手術を施行した巨大 結腸症の1例	第81回日本臨床外科 学会総会	元年11月	高知	示説
藤井 孝成	富澤 直樹、諸原 浩二、 渡辺 裕、飯島 岬、 塚越 律子、家田 敬輔、 片山 和久、大澤 秀信、 鈴木 秀樹、保田 尚邦、 田中 司玄文	Kock Pouchに発生した小腸癌の 1切除例	第81回日本臨床外科 学会総会	元年11月	高知	口演
富澤 直樹		Results of the totally laparoscopic colectomy using Natural orifice specimen extraction (NOSE) & intracorporal anastomosis	ELSA 2019 第15回ア ジア内視鏡外科・腹 腔鏡外科学会	元年11月	タイ	示説
諸原 浩二	渡辺 裕、飯島 岬、 家田 敬輔、大澤 秀信、 鈴木 秀樹、富澤 直樹、 保田 尚邦、田中 司玄文	当院における直腸癌に対する ロボット支援下手術の導入	第32回日本内視鏡外 科学会総会	元年12月	神奈川	口演
保田 尚邦		群馬クリニカルパス研究会 gscp2004.com	第20回日本クリニカ ルパス学会学術集会	2年1月	熊本	口演

【整形外科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
飯塚 陽一	飯塚 伯、その他	日本人における Sacro-Femoral-Pubic (SFP) Angle による Pelvic Tilt (PT) の予測	第 48 回日本脊椎骨髄病学会学術集会	31 年 4 月	神奈川	示説
飯塚 陽一	飯塚 伯、その他	Spinopelvic parameters はロコモ、精神症状、健康関連 QOL と関連するか	第 91 回日本整形外科学会学術総会	元年 5 月	神奈川	口演
伊藤 俊介	その他	頸椎脱臼骨折における頸椎動態 CT の有用性	第 45 回日本骨折治療学会	元年 6 月	福岡	口演
飯塚 伯	小林 亮一、伊藤 俊介	The relationship between the degree of displacement of the atlas to axis and the clinical data in atlanto-axial subluxation	European Orthopaedic Research Society 2019	元年 10 月	オランダ	示説
伊藤 俊介	小林 亮一、飯塚 伯	A cadaveric study of the cervical nerve roots and spinal segments	European Orthopaedic Research Society 2019	元年 10 月	オランダ	口演

【心臓血管外科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
三木 隆生	安原 清光、梅野 惟史、平井 英子、小此木修一、大木 聡、大林 民幸	EVAR における瘤内高濃度ブドウ糖液注入手技の、術後 type2 EL 発生抑制効果の検討～EVAR の長期成績改善に向けて	第 47 回日本血管外科学会学術総会	元年 5 月	愛知	示説
三木 隆生	大林 民幸、梅野 惟史、平井 英子、小此木修一、安原 清光、大木 聡	右小開胸、胸腔鏡補助下に経左房的に心尖部血栓摘出した一例	第 180 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	元年 6 月	東京	口演
大木 聡	大林 民幸、安原 清光、小此木修一、平井 英子、三木 隆生、梅野 惟史	僧帽弁後尖形成術における resection and suture と人工腱索再建の早期、中期成績	第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会	元年 10 月	京都	示説
安原 清光	大林 民幸、大木 聡、小此木修一、平井 英子、三木 隆生、梅野 惟史	慢性大動脈瘤嚢胞に対する TEVAR の治療成績	第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会	元年 10 月	京都	口演
小此木 修一	大林 民幸、大木 聡、安原 清光、平井 英子、三木 隆生、梅野 惟史	上行大動脈にエントリーを有する急性 A 型大動脈嚢胞に対する大動脈置換範囲の検討	第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会	元年 10 月	京都	口演
三木 隆生	大林 民幸、大木 聡、安原 清光、小此木修一、平井 英子、梅野 惟史	当院における自己心膜を用いた大動脈弁再建術(尾崎法) の治療成績	第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会	元年 10 月	京都	示説

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
梅野 惟史	大木 聡、安原 清光、 三木 隆生、平井 英子、 小此木修一、大林 民幸	当科における TEVAR 後再治療の 検討	第 72 回日本胸部外 科学会定期学術集会	元年 10 月	京都	示説
安原 清光		分枝領域への TEVAR Surgeon-Modified Fenestrated and Branched Stent Graft	Complex Cardiovascular Therapeutics 2019	元年 10 月	兵庫	口演
三木 隆生		小児期の VSD 術後に生じた Phosphoglyceride Crystal Deposition Disease の一例	Complex Cardiovascular Therapeutics 2019	元年 10 月	兵庫	口演
三木 隆生	安原 清光、平井 英子、 小此木修一、大木 聡、 大林 民幸	EVAR 術中に併施する瘤内高濃 度ブドウ糖液注入手技の、術後 type2EL 発生抑止効果の検討	第 60 回日本脈管学 会総会	元年 10 月	東京	口演
安原 清光		New-Development for Dorfic Endografting	HEART & AORTIC TEAM	元年 11 月	イタリア	口演
三木 隆生	大木 聡、平井 英子、 小此木修一、安原 清光、 大林 民幸	小児期の心室中隔欠損孔閉鎖 術後に生じた、 Phosphoglyceride Crystal Deposition Disease に対する一 手術例	第 181 回日本胸部外 科学会関東甲信越地 方会	元年 11 月	東京	口演
安原 清光	大林 民幸、大木 聡、 小此木修一、平井 英子、 長澤 綾子、三木 隆生	胸腹部大動脈瘤に対する surgeon modified fenestrated and branch stentgraft (Inner-Sleeve Technique) の 1 例	第 34 回心臓血管外 科ウィンターセミナ ー学術集会	2 年 2 月	岩手	口演
小此木 修一	大林 民幸、大木 聡、 安原 清光、平井 英子、 三木 隆生	胸部大動脈手術における hydrofit とサージセル綿型を 併用した止血法の有用性	第 34 回心臓血管外 科ウィンターセミナ ー学術集会	2 年 2 月	岩手	口演

【皮膚科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
長谷川 道子	田村 敦志、その他	爪白癬様の臨床像を呈した爪 部 Bowen 病	第 35 回日本皮膚悪 性腫瘍学会学術大会	元年 5 月	兵庫	口演
齋藤 龍一	長谷川道子、田村 敦志	多発性ケロイドを呈した eruptive vellus hair cyst	第 118 回日本皮膚科 学会総会	元年 6 月	愛知	示説
清水 晶	長谷川道子、田村 敦志、 その他	発癌ハイリスク HPV リザーバー および性感症としての爪部 有棘細胞癌	第 118 回日本皮膚科 学会総会	元年 6 月	愛知	口演 示説
齋藤 龍一	長谷川道子、田村 敦志、 その他	巨大皮下膿瘍と菌血症を呈し た放線菌症	第 102 回日本皮膚科 学会群馬地方会	元年 7 月	前橋	口演
齋藤 龍一	長谷川道子、田村 敦志	Symplastic glomus tumor の 1 例	日本皮膚科学会第 390 回福岡地方会	元年 9 月	福岡	口演

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
齋藤 龍一	長谷川道子、田村 敦志、 その他	陰茎絞扼症状を呈し発瘡が疑 われた硬化性苔癬	第34回日本皮膚外 科学会総会・学術集 会	元年9月	栃木	口演
長谷川 道子	齋藤 龍一、田村 敦志	顔面の片側に生じた lichen planus pigmentosus	第83回日本皮膚科 学会東京・東部支部 合同学術大会	元年11月	東京	口演 示説
齋藤 龍一	長谷川道子、田村 敦志	炎症により皮膚の色素沈着を 残した pigmented pilomatricoma	第103回日本皮膚科 学会群馬地方会	元年11月	前橋	口演

【泌尿器科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
宮澤 慶行	竹澤 豊、その他	Exploratory study of prognostic factors in mCRPC patients who administered Enzalutamide focusing on early PSA decline and PSA kinetics at PSA progression; results of retrospective multicenter study	17th Urological Association of Asia Congress	元年8月	マレーシア	示説
宮澤 慶行	竹澤 豊、その他	CRPCに対する Enzalutamide の 効果と血中アンドロゲン濃度 の関連についての前向き研究	第57回日本癌治療 学会学術集会	元年10月	福岡	口演
宮澤 慶行	竹澤 豊、その他	CRPCに対する Enzalutamide の 効果と血中アンドロゲン濃度 の関連についての前向き研究	日本泌尿器腫瘍学会 第5回学術集会	元年10月	福岡	口演
悦永 徹	中澤 峻、富田 健介、 牧野 武朗、齋藤 佳隆、 竹澤 豊、小林 幹男	低位前方切除術既往症例に対 するロボット支援前立腺全的 術の経験	第71回西日本泌尿 器科学会総会	元年11月	島根	示説
遠藤 孝則	中澤 峻、富田 健介、 牧野 武朗、悦永 徹、 齋藤 佳隆、竹澤 豊、 小林 幹男	ロボット支援前立腺全摘後膀 胱内にクリップが迷入した一 例	第71回西日本泌尿 器科学会総会	元年11月	島根	示説
中澤 峻	富田 健介、牧野 武朗、 悦永 徹、齋藤 佳隆、 竹澤 豊、小林 幹男	尿管鏡生検後に発症した粟粒 結核の1例	第83回日本泌尿器 科学会群馬地方会	元年11月	前橋	口演
吉原 忠寿	富田 健介、牧野 武朗、 悦永 徹、齋藤 佳隆、 竹澤 豊、小林 幹男、 中澤 峻、その他	集学的治療が奏功した難治性 精巣腫瘍の1例	第83回日本泌尿器 科学会群馬地方会	元年11月	前橋	口演

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
牧野 武朗	竹澤 豊、中澤 峻、 富田 健介、悦永 徹、 齋藤 佳隆、小林 幹男	過去10年間における腹腔鏡下 腎摘除術の術期合併症の臨 床的検討	第33回日本泌尿器 内視鏡学会総会	元年11月	京都	示説
根本 奏子	牧野 武朗、中澤 峻、 富田 健介、悦永 徹、 齋藤 佳隆、竹澤 豊、 小林 幹男、渡辺 裕、 諸原 浩二、保田 尚邦	右完全重複腎盂尿管症例に 対する回腸導管造設術の経 験	第71回西日本泌尿 器科学会総会	元年11月	島根	示説
吉原 忠寿	富田 健介、牧野 武朗、 悦永 徹、齋藤 佳隆、 竹澤 豊、小林 幹男	直腸低位前方切除歴のある 患者にロボット支援前立腺 全摘除術を施行した一例	第84回日本泌尿器 科学会群馬地方会	2年2月	前橋	口演

【産婦人科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
村上 麻耶	その他	甲状腺機能亢進症を発症し、肺 高血圧症及び高心拍出性心不 全になった先天性心疾患既往 妊婦の一例	第55回日本周産期・ 新生児医学会学術集 会	元年7月	長野	示説
阿美 寛人	六川 俊一、村上 麻耶、 狩野 智	再手術を要した帝王切開後筋 膜下血腫の一例	第138回関東連合産 科婦人科学会総会・ 学術集会	元年10月	前橋	口演

【麻酔科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
本吉谷 真理子		術中異常高血圧をきたし異所 性褐色細胞腫が疑われた患者 の麻酔症例	日本麻酔科学会関東 甲信越・東京支部第 59回合同学術集会	元年9月	東京	示説
飯塚 紗希	その他	脳死下臓器摘出術の管理経験	日本臨床麻酔学会第 39回大会	元年11月	長野	口演

【歯科口腔外科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
五味 暁憲	その他	群馬県歯科総合衛生センター で病理組織学的検査を施行し た患者の実態調査	第73回NPO法人日本 口腔科学会学術集会	31年4月	埼玉	示説
境野 才紀	その他	Relationship between oral carcinogenesis and lifestyle habits in Gunma	Global Tobacco Free Summit TID 15th ANNUAL CONFERENCE	元年10月	東京	示説

【救急科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
青山 大貴	小林 未奈、小林 裕幸、 鈴木 一也、剣持いづみ	当院の救急外来48時間以内の 再受診症例の検討	第27回群馬県救急医 療懇談会	元年9月	中之条	口演

【外来化学療法センター】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
吉田 武史	その他	The prognostic significance of pretreatment parameters of FDG PET in patients with diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL)	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会	元年7月	京都	示説

【中央放射線科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
杉山 和代	高橋 雅彦 その他	脳脊髄液等隣接微小脳梗塞ファントムの作製	第47回日本磁気共鳴医学会大会	元年9月	熊本	口演

【中央検査科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
渡辺 早貴	石原 領、村上 有希、増田 裕太、後藤 七海、笠松 哲光、斎藤 貴之、村上 博和、半田 寛	多発性骨髄腫においてLong non-coding RNA NEAT1はDNA損傷応答に関与する	第20回日本検査血液学会学術集会	元年7月	奈良	口演
渡辺 早貴	鶴田 誠司、並木 宏暢、飯塚 渉、野本 豊、松島 秀子	穿刺吸引細胞診でMALTリンパ腫を疑った甲状腺悪性リンパ腫の1症例	第64回群馬県医学検査学会	元年10月	前橋	口演
武井 謙	藤原 悠基、谷山 麻利子、鶴田 誠司、松島 秀子	当病院におけるBladder Tumor Antigen 検査の活用法	第64回群馬県医学検査学会	元年10月	前橋	口演

【栄養科】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
千木良 彩華	後藤 薫歩 齋藤 克哉 富澤 直樹 増尾 高成	当院におけるIBDサポートワーキングチームにおける取り組みと今後の課題	第7回日本静脈経腸栄養学会 関東甲信越支部学術集会	元年9月	新潟	口演

【看護部】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
須永 知香子	高久 しのぶ	家族に焦点を当てたミニデスカンファレンスへの取組と課題	第15回群馬がん看護フォーラム	元年5月	前橋	口演
根岸 雅子	木村 知佳、伊津 瞳、大澤 里美、入澤 のり子、矢沼 久美子	小児科病棟と産科病棟へつなぐクリニカルパス～	第16回群馬クリニカルパス研究会	元年6月	前橋	口演
千本木 美貴	伊津 瞳、新井 静江、矢沼 久美子	血液透析予定導入クリニカルパス改訂への取り組み	第16回群馬クリニカルパス研究会	元年6月	前橋	口演

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
設楽 咲也香	高橋 美鈴 金井 靖子	出産場所に選んだ理由についての実態調査～A病院で出産した褥婦へのアンケート調査より～	第55回日本周産期・新生児医学会学術集会	元年7月	長野	口演
下境 千絵	金井 靖子	看護師の職務満足度調査からみた満足度の低い年齢層の傾向と支援～30歳から44歳の結果を子供の有無別に比較する	第21回日本医療マネジメント学会学術集会	元年7月	愛知	口演
中島 博子	伊藤 佑司 大塚 明子 石山 真寿子	ICDSC導入後のせん妄に対する看護実践の現状調査～集中治療室看護師へのアンケート結果から～	日本集中治療医学会 第3回関東甲信越支部学術集会	元年7月	山梨	口演
坂本 佳津江	竹部 久美子 天田 寿江 石山 真寿子	集中治療室入室中の患者に発生した医療関連機器玉迫創傷の危険因子の検討～発生概念図に基づいて～	日本集中治療医学会 第3回関東甲信越支部学術集会	元年7月	山梨	口演
田中 美奈	栗田 靖子、根岸 明香 小野 めぐみ 入澤 のり子	特別養子縁組で初めて親となった母親への不安軽減支援に関する一考察	群馬県小児保健会総会並びに研究集会	元年8月	前橋	口演
須賀 安理沙	八木 明枝 赤澤 早織 入澤 のり子	未熟児室に入院する患児の両親が抱く直接面会への思い～A病院の直接面会の現状と今後の課題の明確化	群馬県小児保健会総会並びに研究集会	元年8月	前橋	口演
黄木 智夏	柳澤 里江、沢田 恵子 川岸由美子、石井 美希 長岡 陽子、五味 暁憲 境野 才紀	某急性期病院における口腔ケアの介助を要する入院患者の口腔内の実態	日本歯科衛生学会 第14回学術大会	元年9月	愛知	口演
田村 萌華	福田 慶子、須藤 真弓、 箱田 千恵、中野 恵美子	攻撃的な言動や行動のあるBPSDを発症した患者への関わり	第23回群馬県看護学会	元年11月	前橋	口演
柿沼 美希	高橋 美鈴 金井 靖子	終末期の療養先について、患者の思いが反映されないことで感じる看護師のジレンマ～看護師へのアンケート調査より～	第23回群馬県看護学会	元年11月	前橋	口演
尾内 麻里	鳥島 郁美 松浦 みさ子 安部 美和子	A病院B病棟の臨地実習への関わりに関する調査～臨床経験年数における関わりを比較して～	第23回群馬県看護学会	元年11月	前橋	口演

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
町田 千恵	高橋 美鈴 金井 靖子	A病院の看護師が自施設を分 娩施設として選択してもらう ための課題を見出す～未就学 児を持つ看護師を対象とした アンケート結果より～	令和元年度群馬県母 性衛生学会総会並び に研究集会	元年12月	前橋	口演
高橋 大介	阿久津 瑞恵 坂本 雅子 井上 歩美 石山 真寿子	A病院集中治療室における広 域災害発生を想定した災害訓 練の有効性～第1回・第2回災 害訓練の看護師の行動を比較 する～	第70回日本救急医 学会関東地方会学術 集会	2年1月	前橋	口演
瀧川 未沙都	下田 真佐子 金井 靖子	新人看護師が必要とするイン シデント、アクシデントに関す る先輩看護師からの支援内容 を明らかにする	日本医療マネジメン ト学会 第9回群馬 県支部学術集会	2年1月	藤岡	示説
関根 和美	石原 さおり 天田 寿江 石山 真寿子	看護管理者が勤務異動により 直面する困難克服への対処行 動～看護副長・看護主任を対象 とした質問紙調査～	日本医療マネジメン ト学会 第9回群馬 県支部学術集会	2年1月	藤岡	口演
茂木 由里	石山 真寿子	病棟内の看護管理者が行う会 議の実態調査～認定看護管理 者教育課程の教科目に基づき 討論内容を振り返る～	日本医療マネジメン ト学会 第9回群馬 県支部学術集会	2年1月	藤岡	口演
須田 徳子	小暮 志保	7年間の看護助手研修からみえ る課題～研修終了後のアン ケートから～	日本医療マネジメン ト学会 第9回群馬 県支部学術集会	2年1月	藤岡	口演
後藤 久美子	南 恵理香 伊藤 佑司 石山 真寿子	患者が自己申告する痛みと看 護師が客観的に評価する痛み の相違 前立腺全摘術後の患 者にNRS と CPOT を使用して	日本医療マネジメン ト学会 第9回群馬 県支部学術集会	2年1月	藤岡	口演

【薬剤部】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
岡村 晃義	塩ノ谷 明彦 大和 由美子	当院で経験した下肢切断を伴 う壊死性筋膜炎の2症例	日本病院薬剤師会 第49回関東ブロック 学術大会	元年8月	甲府	示説
星野 英司	名坂 輝子 大和 由美子	当院におけるシスプラチン ショートハイドレーションレ ジメン導入による影響	日本病院薬剤師会 第49回関東ブロック 学術大会	元年8月	甲府	示説
名坂 輝子	大和 由美子 吉田 武史	当院における大腸癌患者の栄 養評価と化学療法の関連性	第35回日本臨床栄養 代謝学会学術集会	2年2月	京都	口演

【医療安全管理室】

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
前田 昇三		アナフィラキシー発生時の対応	日本医療機能評価機構第2回薬剤安全セミナー	元年12月	神奈川	口演

3. 講演

【内科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
宇野 翔吾	特発性肺線維症の急性増悪治療中に難治性下痢で発症した侵襲性肺炎スぺルギルス症の一例	第42回北関東胸部疾患研究会	ホテルラシーネ新前橋	令和元年6月1日
江澤 一真	気管支熱形成術後の好酸球増多を伴う気管支喘息増悪と好酸球性副鼻腔炎に対してベンラリズマブが著効した1例	第42回北関東胸部疾患研究会	ホテルラシーネ新前橋	令和元年6月1日
小坂橋 佑輔	腸重積を契機に発見し、高圧酸素療法が有効であった腸管囊胞様気腫症について	第33回群馬消化器内視鏡医の集い	ホテル1-2-3前橋マールキュリー	令和元年6月22日
関口 雅則	当院におけるシンポニーの初期投与経験	第1回群馬IBD EXPERT SEMINAR	群馬ロイヤルホテル	令和元年6月25日
増尾 貴成	当院におけるクローン病診療の現状と課題	USTEKINUMAB適応拡大2周年記念講演会 in 群馬	高崎モノリス	令和元年7月4日
齋藤 康之	当院における重症喘息の症例提示	伊勢崎呼吸器疾患Meeting	伊勢崎プリオパレス	令和元年7月9日
関口 雅則	大腸小腸の診断と治療法選択	第1回北関東消化器内視鏡低侵襲治療懇話会	ホテルラシーネ新前橋	令和元年8月1日
増尾 貴成	高齢者に発症した潰瘍性大腸炎関連腸重積の1例	第29回大腸IIC研究会	ベルサール汐留	令和元年9月21日
増尾 貴成	当院におけるシンポニーの臨床的検討	UC Therapy up to date 2019	ザ ロイヤルパークホテル 東京汐留	令和元年9月21日
小林 裕幸	市中病院で診る感染症	東毛感染症セミナー	太田グランドホテル	令和元年9月25日
鈴木 邦明	COPD症例の提示	呼吸器疾患 学術講演会 in 伊勢崎佐波	伊勢崎プリオパレス	令和元年9月25日
鈴木 邦明	Nivolumabの使用経験	肺癌 がん免疫療法セミナー in 太田	ティアラグリーンパレス	令和元年9月27日
小林 裕幸	喘息治療における最新の話	伊勢崎エリア呼吸器疾患セミナー	伊勢崎プリオパレス	令和元年10月23日
宇野 航	マレーシアから帰国し1週間後に発熱、皮疹、関節痛を呈した44歳男性	第10回新潟・群馬感染症治療カンファレンス	高崎ワシントンホテルプラザ	令和元年11月16日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
神宮 達也	5ヶ月前から難治性膿尿を認めた50歳代女性	第10回新潟・群馬感染症治療カンファレンス	高崎ワシントンホテルプラザ	令和元年11月16日
増尾 貴成	高齢者に発症した潰瘍性大腸炎関連腫瘍の1例	第92回大腸癌研究会	グランドプリンスホテル広島	令和2年1月23日
石原 眞悟	好酸球性消化管疾患は検査異常のない有症状者でも診断され得るか	第38回群馬消化器病研究会	ホテルラシーネ新前橋	令和2年2月1日
齋藤 康之	伊勢崎市民病院におけるドライバー変異検査の実際	気管支内視鏡検体勉強会	群馬ロイヤルホテル	令和2年2月4日
上野 敬史	レンバチニブの適正使用～医師の視点で語る副作用マネジメントの実践～	レンビマ適正使用セミナーin伊勢崎	伊勢崎プリオパレス	令和2年2月19日
関口 雅則	当院におけるトファシチニブの初期投与経験	第22回北関東炎症性腸疾患研究会	ホテルラシーネ新前橋	令和2年2月21日

【循環器内科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
山岸 高宏	ご存知ですか Staphylococcus luddunensis	第25回群馬県症例検討会	群馬ロイヤルホテル	令和元年12月7日

【小児科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
今井 朗	食物アレルギーとアトピー性皮膚炎の最新情報	伊勢崎佐波こども健康教室	伊勢崎市民プラザ	令和元年7月13日
小針 靖子	成長曲線の見方～子どもの健康をチェックしよう	伊勢崎佐波こども健康教室	伊勢崎市民プラザ	令和元年7月13日
前田 昇三	子供の救急	赤堀町子供健康教室	赤堀公民館	令和元年9月5日
今井 朗	気管支喘息発作との鑑別に難渋した咽頭軟化症、気管変形の一例	第73回小児喘息研究会	群馬ロイヤルホテル	令和元年10月24日
前田 昇三	保育所での食物アレルギー対応	伊勢崎市立保育園会研修会	伊勢崎市役所	令和元年11月28日
前田 昇三	子どもの病気、他	伊勢崎ファミリーサポート研修会	あかひし保育園	令和元年11月30日
前田 昇三	アナフィラキシー発症時の対応	医療安全評価機構第2回薬剤安全セミナー	はまぎんホール	令和元年12月6日

【外科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
片山 和久	乳腺疾患とVTE治療について	乳腺疾患合併症マネジメント講演会	太田市医師会館	平成31年4月12日
塚越 律子	「おひとりさま」乳がんの本音に迫る～誰を想って、あなたは治療しますか～	青森市民公開講座	青森県観光物産館 アスパム	令和元年5月12日
片山 和久	当院でPalbocicrib後にeribulinを投与した治療経験	Gunma Breast Cancer Expert Forum 2019	群馬ロイヤルホテル	令和元年6月21日
塚越 律子	乳がん治療最前線～検診から遺伝まで～	公開講演会「がんと共に生きる」	緋の郷	令和元年11月30日
大澤 秀信	当院におけるロボット支援下胃切除術と短期成績	第24回群馬県内視鏡外科研究会	刀城会館	令和2年1月25日
諸原 浩二	当院における直腸癌に対するロボット支援下手術の短期成績	第24回群馬県内視鏡外科研究会	刀城会館	令和2年1月25日

【整形外科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
飯塚 伯	圧迫性脊椎症の診断と治療	疼痛マネジメントカンファレンス	ティアラグリーンパレス	令和元年6月29日
田中 宏志	骨粗鬆症による手足の骨折	骨粗鬆症市民公開講座	スマーク伊勢崎	令和元年9月28日
飯塚 伯	骨粗鬆症と背骨の骨折	骨粗鬆症市民公開講座	スマーク伊勢崎	令和元年9月28日
小林 亮一	市中総合病院における整形外科の魅力～他科連携も含めて～	整形外科オータムセミナー	エテルナ高崎	令和元年11月22日
飯塚 伯	脊柱変形の治療～小児から成人例まで～	高崎骨粗鬆症研究会	ホワイトイン高崎	令和2年1月21日

【心臓血管外科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
安原 清光	How to determine the device size for TBAD or TEVAR	旭川ステントグラフト研究会	アートホテル旭川	平成31年4月6日
三木 隆生	当院における自己心膜を用いた大動脈弁再建術 (AVNeo)の中期治療成績	伊勢崎佐波医師会学術講演会	伊勢崎敬愛看護学院	令和元年6月14日
安原 清光	Treatment of Chronic type B aortic dissection	LEAD 2019	ロワジュールホテル那覇	令和元年7月20日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
安原 清光	大動脈治療におけるAFXの有用性	第32回北大血管疾患研究会	北海道大学	令和元年9月14日
安原 清光	大動脈治療におけるAFXの有用性	第3回 kyushu Aortic Therapeutics Symposium	ホテル日航福岡	令和元年9月21日
安原 清光	AORFIX AAA スtentグラフトの使用経験	AORFIX Meeting in Tokyo	TKP ガーデンシティ PREMIUM京橋	令和元年10月5日
安原 清光	Volumetry で PETTICOAT の remodeling を再評価する	Zconference	コンラッド大阪	令和元年10月19日
安原 清光	Volumetry で PETTICOAT の remodeling を再評価する	Zconference Okinawa	ハイアット リージェンシー 那覇 沖縄	令和元年11月9日
安原 清光	ここまで進んだ大動脈カテーテル治療	第12回群馬クリティカルケア研究会	ニューサンピア	令和元年11月16日
大木 聡	低左心機能を伴った虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対して、乳頭筋サンドイッチ法が有用であった1例	Heart Failure Seminar In Gunma	ホテルサンダーソン	令和元年11月29日

【皮膚科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
田村 敦志	爪の病理 (爪疾患を正しく理解した上で治療を考える)	第118回日本皮膚科学会総会	名古屋国際会議場	令和元年6月6日
田村 敦志	動画による皮弁術の実際 (皮膚外科：実践編)	第83回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会	京王プラザホテル	令和元年11月16日

【泌尿器科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
悦永 徹	当院における腎細胞癌薬物療法とチーム医療	西毛地区 腎細胞癌研究会	ホワイトイン高崎	令和元年5月10日
悦永 徹	当院におけるパップニブの使用経験	RCC Forum East Japan 2019	東京ミッドタウン	令和元年5月25日
竹澤 豊	私が泌尿器科医になった理由	群馬泌尿器科セミナー	ホテルラシーネ新前橋	令和元年6月6日
中澤 峻	当院で経験した精巣腫瘍の一例	群馬泌尿器科セミナー	ホテルラシーネ新前橋	令和元年6月6日
牧野 武朗	光線力学診断用剤アラグリオの使用経験	膀胱腫瘍研究会	エテルナ高崎	令和元年6月20日
牧野 武朗	伊勢崎市民病院における慢性腎臓病 (CKD) 地域連携パスの取り組み	腎疾患を考える会	群馬ロイヤルホテル	令和元年7月12日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
牧野 武朗	当院におけるエンザルタミドの使用経験	西毛・伊勢崎泌尿器科セミナー	エテルナ高崎	令和元年9月20日
悦永 徹	腎細胞癌における治療戦略～手術療法を中心に～	腎細胞癌治療セミナー	ホワイトイン高崎	令和元年11月1日
悦永 徹	当院のオブジーボ・ヤーボイ併用療法の治療経験	腎細胞癌治療セミナー	ホワイトイン高崎	令和元年11月1日
牧野 武朗	カバジタキセルの位置付けについて	第9回群馬前立腺癌化学療法講演会	群馬ロイヤルホテル	令和元年11月28日
牧野 武朗	伊勢崎市民病院泌尿器科におけるロボット支援手術教育の実際	第24回群馬県内視鏡外科研究会	刀城会館	令和2年1月25日

【産婦人科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
村上 麻耶	経産分娩後分娩後5日目に子宮動脈破裂を生じ緊急動脈塞栓術を要した1例	群馬産科婦人科学会群馬県産婦人科医会集談会（第169回）	群馬メディカルセンター	令和元年11月30日

【歯科口腔外科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
五味 暁憲	歯科口腔領域の漢方について	日本漢方医学教育振興財団 2019年度漢方医学教育推進事業漢方研修会（第27回）	東北大学	令和2年1月31日

【緩和ケア内科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
押本 直子	在宅における緩和ケア科～疼痛管理を中心に～	伊勢崎佐波在宅医療介護連携支援部会学術講演会	伊勢崎プリオパレス	令和元年6月4日

【外来化学療法センター】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
吉田 武史	当院における外来化学療法の副作用対策について	第12回東群馬大腸がん懇話会	ニューいづみ	令和2年2月21日

【リハビリテーション科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
長岡 秀哉	「がん医療の現場から」 急性期病院・理学療法士の立場から	臨床心理学特別講義	群馬医療福祉大学	令和2年1月20日

【中央放射線科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
高橋 雅彦	磁気共鳴専門技術者認定試験解説	磁気共鳴専門技術者認定試験	群馬県立県民健康科学大学	令和元年8月31日 令和元年9月1日

【中央検査科】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
藤原 悠基	がんの告知 ロールプレイング	ステップアップサポート事業	伊勢崎興陽高校	令和元年11月12日
藤原 悠基	がん医療の現場から 臨床検査技師が経験した症例	臨床心理学 特別講義	群馬医療福祉大学	令和2年1月20日

【看護部】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
高橋 美鈴	助産管理	看護学科 前期講義	群馬パース大学	令和元年5月16日
原 有里子	助産診断技術学VI	看護学科 前期講義	群馬パース大学	令和元年5月17日
石井 美希	がん性疼痛看護 疼痛看護のトピックス	群馬がん看護専門看護師会 研修会	伊勢崎市民病院	令和元年6月15日
箱田 千恵	認知症看護	日本精神科看護協会 群馬県支部 研修会	前橋テルサ	令和元年6月17日
高橋 美鈴	年長だって甘えたい、年齢にあった 甘え方	保育参観 講演会	かしま保育園	令和元年6月22日
福島 加代	成人看護援助論Ⅱ 乳がん患者へのケア	看護学科 講義	学校法人昌賢学園 群馬医療福祉大学	令和元年6月24日
井上 歩美 栗原 理恵 渡辺 尚彦 原島 有希枝	災害医療概論～災害現場における 諸機関との連携 (座学、机上シミュ レーション、想定実践訓練)	第7回群馬局地DMAT研修	前橋赤十字病院	令和元年7月13日 令和元年7月14日
坂本 寿満子	フィジカルアセスメント	令和元年度訪問看護研修 ステップ1	群馬県看護協会 看護教育センター	令和元年7月24日
手島 可奈	ボランティア活動と職場との関連 についての講話	看護学部 ボランティア活 動と自己省察の授業	群馬医療福祉大学	令和元年7月26日
後藤 恵	医療安全管理室と共に取り組む感 染対策	テルモ株式会社 ぐんま感染対策セミナー	ホテル サンダーソン	令和元年9月6日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
宮田 奈津紀	ストーリー術前管理	第12回群馬ストーリーマリハビリテーション講習会	群馬大学医学部附属病院内 刀城会館	令和元年9月14日 ～16日
木村 恭子	資源管理Ⅱ 看護管理における情報管理	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	群馬県看護協会 看護教育センター	令和元年9月27日
石井 美希	がん患者に寄り添う意志決定支援	群馬県看護協会 令和元年教育研修	群馬県看護協会 看護教育センター	令和元年10月16日
小屋原 仁美	当院における療養指導の取り組み ：コメディカルの立場から	群馬糖尿病連携セミナー	群馬ロイヤルホテル	令和元年10月1日
中村 小枝子	統合演習 (ファシリテーター)	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	群馬県看護協会 看護教育センター	令和元年10月1日～ 令和元年11月26日
石倉 美穂子	実技「爪切り」	第1回ぐんま足を運ぶ会	群馬県公社総合ビル	令和元年10月27日
小谷野 春美	診療の補助技術	看護科 講義	伊勢崎敬愛看護学院	令和元年10月31日 令和元年11月7日
須永 知香子	成人看護学援助論Ⅳ (がん看護)	看護科 講義	SUBARU健康保険組合 太田高等看護学院	令和元年11月20日 令和元年11月27日
石井 美希	現状の活動とキャリアをどう考えるか	2019年度 がん性疼痛看護 研究会定例講習会	東京女子医科大学病院	令和元年11月24日
小暮 志保	地域包括ケアシンポジウム ～住み慣れた地域で自分らしく～	令和元年度教育研修	群馬県看護協会 看護教育センター	令和元年11月30日
石倉 美穂子	症例から学ぶアセスメント	第2回ぐんま足を運ぶ会	群馬県公社総合ビル	令和元年12月8日
荒牧 敦子	身体拘束を第一選択としないために 実践したこと～取り組みの実践 報告～	高崎健康福祉大学看護実践 開発センター研修会	高崎健康福祉大学	令和元年12月14日
坂本 寿満子	こんな時は救急外来へ行こう！！ 命の危険を見抜くための第一歩	出前ミニ講座	赤堀公民館	令和元年12月13日
竹部 久美子 伊藤 佑司	看護実践におけるアセスメント能力を高めよう～せん妄に関連した スケールの理解と実践講座～	第6回群馬クリティカル研究会 集中ケア認定看護師研修 会	群馬県済生会前橋病院	令和元年12月14日
保坂 拓郎	仕事内容ややりがいなど	キャリア教育 同窓生による職業講話	群馬県立伊勢崎高等学校	令和2年1月10日
福島 加代	看護学研究へのチャレンジ～研究 計画書を書いてみよう！研究目的 の具体化に向けて～	群馬がん看護研究会2019年 度教育委員会研修	群馬県立県民健康科学大学	令和2年1月15日

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
石倉 美穂子	透析看護の実際	看護学概論（臨床工学科）	群馬パース大学	令和2年1月28日

【薬剤部】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
塩ノ谷 明彦	抗菌薬の選択・肺炎編	群馬県病院薬学研修会	群馬大学附属病院	令和元年12月12日
桐生 雅史	レンバチニブの適正使用 ～薬剤師の視点で語る副作用マネジメントへの関わり～	レンバチニブ適正使用セミナーin伊勢崎	伊勢崎プリオパレス	令和2年2月19日

【医療安全管理室】

演者名	演題名	講演会名	開催場所	開催年月日
柴草 仁志	感染予防（新卒者） ～効果的な感染管理の実際～	新人看護職員他施設合同研修	群馬県看護協会	令和元年6月11日
岡崎 美香	人工肛門	成人看護学方法論II	本庄児玉看護専門学校	令和元年7月2日
塚原 みどり	看護サービスの安全管理	看護管理者ファーストレベル教育課程	群馬県看護協会	令和元年8月1日
柴草 仁志	感染対策について	准看護師スキルアップ研修事業	群馬県看護協会	令和元年10月6日
後藤 恵 柴草 仁志	吐物処理について	IICC吐物研修会	伊勢崎保健福祉事務所	令和元年10月23日
柴草 仁志	新型コロナウイルス感染症について	新型コロナウイルス感染症対策説明会/現地対策会議	伊勢崎医師会	令和2年2月14日

4. C. P. C. (示説会) 記録

(1) 剖検状況

①年度別剖検状況

区分\年度	27	28	29	30	元
死亡患者数 ()は48時間以内死亡患者を含めた数です。	513 (668)	541 (694)	485 (635)	491 (634)	502 (627)
剖検数	12	10	5	9	8
剖検率 (%)	2.3	1.8	1.0	1.8	1.6

②死亡患者数・剖検数の疾患分類

種別	疾 患 分 類											計										
	I 感染症および寄生虫症	II 新生物	III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	IV 内分泌、栄養および代謝疾患	V 精神および行動の障害	VI 神経系の疾患	VII 眼および付属器の疾患	VIII 耳および乳様突起の疾患	IX 循環器系の疾患	X 呼吸器系の疾患	XI 消化器系の疾患		XII 皮膚および皮下組織の疾患	XIII 筋骨格系および結合組織の疾患	XIV 腎尿路生殖器系の疾患	XV 妊娠、分娩および産じよく(褥)	XVI 周産期に発生した病態	XVII 先天奇形、変形および染色体異常	XVIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	IX 損傷、中毒およびその他の外因	XX 傷病および死亡の外因	XXI および保健サービスの利用
合計	20	278	1	6		5			44	80	32	1	1	20			1	11	2			502
内 科	16	98	1	4		1			16	71	23	1	1	10			1	9	2			254
精 神 科																						
神 経 内 科		1		1		4			2													8
循 環 器 内 科	2	4		1					19	3				2								31
小 児 科																						
外 科		26						1	2	6												35
整 形 外 科																						
脳 神 経 外 科																						
心 臓 血 管 外 科		1						6	2				2				1					12
皮 膚 科																						
泌 尿 器 科		8							1	1			6									16
産 婦 人 科		8								1												9
眼 科																						
耳 鼻 いんこう科																						
放 射 線 科																						
麻 酔 科																						
緩 和 ケ ア 内 科	2	131								1												134
救 急 科		1							1									1				3
歯 科 口 腔 外 科																						
合計		1				2		1	2								2					8
内 科						1			2								1					4
精 神 科																						
神 経 内 科		1				1		1														3
循 環 器 内 科																						
小 児 科																						
外 科																						
整 形 外 科																						
脳 神 経 外 科																						
心 臓 血 管 外 科																						
皮 膚 科																						
泌 尿 器 科																						
産 婦 人 科																						
眼 科																						
耳 鼻 いんこう科																						
放 射 線 科																						
麻 酔 科																						
緩 和 ケ ア 内 科																						
救 急 科																		1				1
歯 科 口 腔 外 科																						

*死亡患者数は、48時間以内死亡を除いた数である。

(2) C. P. C (示説会) 記録

C. P. C 回数	剖 番 号	年 性 別	科 名	臨 床 診 断	病 理 解 剖 学 的 所 見
411 (10.1)	S.1918	77歳 男	内 科	特発性間質性肺炎	1. 特発性間質性肺炎 (UIP パターン) / 急性増悪 2. 前立腺癌小線源治療後
〃	S.1920	70歳 男	内 科	肺炎 (肺炎球菌性) ALS 疑い	1. 両側気管支肺炎、うっ血水腫、肺気腫 (右肺上葉) 2. 下位運動ニューロン障害の疑い
412 (1.21)	S.1921	60歳 男	内 科	肝細胞癌 多発骨転移 アルコール性肝硬変 慢性心不全	1. 混合型肝癌 多発転移・アルコール性肝硬変 2. 肺水腫
〃	S.1922	66歳 男	内 科	レジオネラ肺炎	1. 気管支肺炎・肺気腫
〃	S.1925	85歳 女	内 科	大腿穿刺部出血 出血性ショック	1. 肝硬変、肝細胞癌治療後、HCV 陽性 2. 胃静脈瘤治療後、右鼠径部皮下血腫
413 (3.17)	S.1923	82歳 女	内 科	間質性肺炎急性増悪	1. びまん性肺泡傷害及びび間質性肺炎 2. 大動脈弁狭窄症術後・心肥大
〃	S.1928	76歳 男	内 科	肝不全	1. 肝硬変
〃	S.1929	57歳 男	内 科	多系統萎縮症	1. 誤嚥性肺炎 2. 多系統萎縮症

X II 介護老人保健施設 ひまわり

XII 介護老人保健施設 ひまわり

1. 業務概要

1. スタッフ

施設長1名（伊勢崎市民病院院長併任）、課長1名（兼務）、係長1名、係長代理1名、支援相談員2名（非常勤一般1名）、看護長1名、看護主任2名、看護副主任2名、看護員3名、理学療法士4名（兼務3名）、作業療法士4名（兼務2名、臨時2名）、言語聴覚士1名（兼務）、介護副主任4名、介護福祉士14名（非常勤一般4名）、介護補助員1名（非常勤一般1名）、非常勤一般事務員2名（兼務）、医師（兼務）8名、薬剤師（兼務）1名、管理栄養士（兼務）2名、調理師（兼務）2名、計57名。

2. 業務の現況

入所サービスにおいては、在宅復帰支援を継続的に行った結果、在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）の算定要件を引き続き維持することが出来た。

結果、1日平均入所者が、43.3人、利用率86.6%となった。

通所リハビリテーションサービスにおいては、年間を通じて順調に利用者を確保できた。

結果、1日平均利用者が11.7人、利用率78.0%となった。

3. 今後の目標

超高齢社会の中で、老健施設の役割は益々重要視されている。多様化する施設サービス事業者の中から、利用者に信頼され選ばれる施設を目指す。また、利用者のニーズに応えられるよう努力するとともに、限られた利用者定数の中で医療機関や居宅介護支援事業所との連携を密にして、在宅復帰を支援しながら継続的に利用率の向上を図り、経営努力を推進して行きたい。

（小此木 聡）

2. 経営状況

（1）損益計算書

（単位 千円、%）

科 目	27		28		29		30		元	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
運 営 事 業 収 益	236,749	102.6	235,263	99.4	244,553	103.9	239,747	98.0	241,610	100.8
施設介護料収益	156,489	99.9	150,116	95.9	154,980	103.2	151,492	97.7	152,096	100.4
居宅介護料収益	58,213	111.7	61,584	105.8	64,006	103.9	63,341	99.0	61,865	97.7
利用者等利用料収益	22,047	100.3	23,563	106.9	25,567	108.5	24,914	97.4	27,649	111.0
その他運営事業収益	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
運 営 事 業 外 収 益	1,010	101.9	1,501	148.6	1,019	67.9	849	83.3	636	74.9
受取利息配当金	260	95.2	257	98.8	170	66.1	100	58.8	70	70.0
その他運営事業外収益	750	104.5	1,244	165.9	849	68.2	749	88.2	566	75.6
特 別 利 益	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
個定資産売却益	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
過年度損益修正益	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
その他特別利益	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
収 入 計	237,759	102.6	236,764	99.6	245,572	103.7	240,596	98.0	242,246	100.7
運 営 事 業 費 用	247,121	99.2	236,179	95.6	239,579	101.4	247,944	103.5	248,618	100.3
給 与 費	181,403	99.1	178,819	98.6	178,781	100.0	185,362	103.7	185,569	100.1
材 料 費	9,102	85.2	9,457	103.9	10,099	106.8	9,727	96.3	10,234	105.2
経 費	37,169	99.5	34,669	93.3	36,981	106.7	39,014	105.5	39,523	101.3
減 価 償 却 費	18,334	104.2	12,567	68.5	13,404	106.7	13,404	100.0	13,051	97.4
資 産 減 耗 費	0	-	244	皆増	0	皆減	0	-	0	-
研 究 研 修 費	1,113	320.7	423	38.0	314	74.2	428	136.3	241	56.3
運 営 事 業 外 費 用	24	2,400.0	0	皆減	1	皆増	2	200.0	2	100.0
支払利息及び企業債取扱諸費	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
雑 損	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
その他運営事業外費用	24	2,400.0	0	皆減	1	皆増	2	200.0	2	100.0
特 別 損 失	0	皆減	0	-	0	-	0	-	0	-
固 定 資 産 売 却 損	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
過年度損益修正損	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
その他特別損失	0	皆減	0	-	0	-	0	-	0	-
支 出 計	247,145	94.7	236,179	95.6	239,580	101.4	247,946	103.5	248,620	100.3
収 支 差 引	△9,386	32.0	585	-	5,992	1024.3	△7,350	-	△6,374	-

(2) 貸借対照表

(単位 千円, %)

科目	年度	27		28		29		30		元	
		金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産		260,391	95.0	251,888	96.7	238,485	94.7	225,971	94.8	216,786	95.9
有形固定資産		260,318	95.0	251,815	96.7	238,412	94.7	225,898	94.8	216,713	95.9
償却資産		553,739	100.8	553,161	99.9	553,161	100.0	553,870	100.1	557,737	100.7
減価償却累計額(Δ)		293,421	106.7	301,346	102.7	314,749	104.4	327,972	104.2	309,622	94.4
無形固定資産		73	100.0	73	100.0	73	100.0	73	100.0	73	100.0
流動資産		244,171	100.5	254,244	104.1	276,024	108.6	286,918	103.9	293,860	102.4
現金及び預金		204,439	100.8	213,428	104.4	237,578	111.3	249,792	105.1	255,765	102.4
未収金		35,732	98.7	36,816	103.0	34,769	94.4	33,126	95.3	34,094	102.9
有価証券		4,000	100.0	4,000	100.0	4,000	100.0	4,000	100.0	4,000	100.0
資産合計		504,562	97.6	506,132	100.3	514,509	101.7	512,889	99.7	510,646	99.6
固定負債		12,624	114.0	14,173	112.3	15,724	110.9	19,794	125.9	24,444	123.5
退職給付引当金		12,624	114.0	14,173	112.3	15,724	110.9	19,794	125.9	24,444	123.5
流動負債		21,707	82.1	21,143	97.4	21,977	103.9	23,638	107.6	47,562	201.2
未払金		4,867	50.6	3,848	79.1	4,520	117.5	5,315	117.6	3,923	73.8
引当金		12,045	99.6	12,587	104.5	12,735	101.2	13,610	106.9	14,517	106.7
その他流動負債		4,795	101.7	4,708	98.2	4,722	100.3	4,713	99.8	4,678	99.3
負債合計		34,331	91.5	35,316	102.9	37,701	106.8	43,432	115.2	47,562	109.5
資本		508,718	100.0	508,718	100.0	508,718	100.0	508,718	100.0	508,718	100.0
剰余金		△38,487	△132.2	△37,902	98.5	△31,911	84.2	△39,261	△123.0	△45,635	△116.2
利益剰余金		△38,487	△132.2	△37,902	98.5	△31,911	84.2	△39,261	△123.0	△45,635	△116.2
資本合計		470,231	98.0	470,816	100.1	476,808	101.3	469,457	98.5	463,084	98.6
負債資本合計		504,562	97.6	506,132	100.3	514,509	101.7	512,889	99.7	510,646	99.6

3. 業務統計

(1) 月別延べ利用者数

(入所実日数 366日)

(通所実日数 254日) (単位:人)

月	3階 (短期入所再掲)		4階 (短期入所再掲)		入所延べ人数	入所			退所			通所者	平均 入所者数	平均 通所者数
	3階	4階	計	3階		4階	計	3階	4階	計				
4月	633	(73)	660	(113)	1,293	17	25	42	17	23	40	275	43.1	12.5
5月	654	(83)	669	(125)	1,323	23	26	49	24	26	50	288	42.7	12.5
6月	594	(62)	666	(120)	1,260	15	24	39	14	24	38	198	42.0	13.2
7月	623	(73)	625	(131)	1,248	18	32	50	18	35	53	261	40.3	11.3
8月	683	(85)	746	(140)	1,429	17	37	54	16	30	46	266	46.1	12.1
9月	628	(61)	757	(139)	1,385	16	26	42	17	30	47	268	46.2	12.8
10月	636	(118)	724	(132)	1,360	28	31	59	28	30	58	287	43.9	12.5
11月	545	(142)	699	(124)	1,244	24	33	57	28	35	63	248	41.5	11.8
12月	561	(131)	683	(109)	1,244	33	27	60	30	24	54	271	40.1	12.3
1月	676	(145)	761	(117)	1,437	26	26	52	23	26	49	221	46.4	11.1
2月	628	(79)	681	(92)	1,309	16	22	38	17	23	40	212	45.1	10.6
3月	673	(72)	659	(98)	1,332	15	20	35	17	23	40	189	43.0	8.6
合計	7,534	(1,124)	8,330	(1,440)	15,864	248	329	577	249	329	578	2,984	43.3	11.7

許可数: 50床 (3階24床・4階26床)

通所定員: 15人/日

※入所延べ人数は当日退所の数を含む

(2) 年度別延べ利用者数

(単位：人)

月	入所延べ人数				通所延べ人数				平均入所者数				平均通所者数			
	28	29	30	元	28	29	30	元	28	29	30	元	28	29	30	元
4月	1,054	1,085	1,302	1,293	238	252	257	275	35.1	36.2	43.4	43.1	11.3	12.6	12.2	12.5
5月	1,203	1,273	1,274	1,323	254	311	277	288	38.8	41.1	41.1	42.7	11.5	13.5	12.0	12.5
6月	1,270	1,323	1,296	1,260	278	309	264	198	42.3	44.1	43.2	42.0	12.6	14.0	12.6	13.2
7月	1,338	1,352	1,331	1,248	245	258	286	261	43.2	43.6	42.9	40.3	11.7	12.3	13.0	11.3
8月	1,208	1,377	1,343	1,429	273	258	305	266	39.0	44.4	43.3	46.1	11.9	11.2	13.3	12.1
9月	1,117	1,172	1,255	1,385	263	271	265	268	37.2	39.1	41.8	46.2	12.0	12.9	13.3	12.8
10月	1,190	1,243	1,234	1,360	265	273	274	287	38.4	40.1	39.8	43.9	12.6	12.4	11.9	12.5
11月	1,282	1,365	1,273	1,244	251	273	300	248	42.7	45.5	42.4	41.5	11.4	12.4	13.6	11.8
12月	1,399	1,459	1,333	1,244	257	265	283	271	45.1	47.1	43.0	40.1	11.7	12.6	14.2	12.3
1月	1,392	1,480	1,379	1,437	242	252	251	221	44.9	47.7	44.5	46.4	12.1	12.6	12.6	11.1
2月	1,237	1,331	1,261	1,309	238	246	251	212	44.2	47.5	45.0	45.1	11.9	12.3	12.6	10.6
3月	1,403	1,313	1,364	1,332	258	255	266	189	45.3	42.4	44.0	43.0	11.2	11.6	12.7	8.6
合計	15,093	15,773	15,645	15,864	3,062	3,223	3,279	2,984	41.4	43.2	42.9	43.3	11.8	12.5	12.8	11.7

4. 会議・委員会・研究会等

(1) 委員会

委員会名	委員数	委員会の目的
判定委員会	9	施設利用希望者（入所・通所）及び一定期間利用が経過している者の継続利用について適切であるか審査し、施設の効率的利用を図る。
行事・余暇・編集担	3	行事・慰問・余暇等を企画・実施し、利用者の心身の安定・向上を図り充実した施設生活を送ってもらう。また、「ひまわり通信」を発行し、家族や地域への広報活動を行う。
抑制廃止委員会	3	身体拘束がもたらす悪影響を理解し、身体拘束を行わないケアを継続するため、問題提起と職員教育を行う。
安全推進委員会	4	良質な医療・看護・介護を提供するために、職員の安全に対する意識を高め、安全管理、事故防止の徹底を図る。
給食委員会	4	利用者の栄養状態や嚥下状態に留意するとともに、個々にあった食事の提供ができるように食事に関する問題点を明確にし、検討改善を図る。
褥創対策委員会	4	入所者の褥創に関する問題点を明確にし、改善を図る。褥創の予防、対策に関する情報収集及び職員教育を行う。
教育・研究担当	3	年間の教育プログラムを作成し勉強会を通して、知識・技術の向上を図り、実践出来るようにする。研究活動を活性化し、施設内外の発表に向けて支援する。
ケアマネジメント・カルテ・R4担当	4	多様化する利用者が増える中で、個々のニーズに対応したケアマネジメントを行う。日々のケアマネジメント業務の見直しを行い、効率良く業務が行えるよう改善していく。
学生指導担当	4	充実した学習が行えるよう、学校等と協力し、実習環境を整える。

委員会名	委員数	委員会の目的
感染対策委員会	3	職員の感染についての知識の向上を図り、感染予防に努める。また、感染発生時の対応を行い、集団感染を予防し、被害を最小限にする。
福祉用具管理・整備担当	5	福祉用具機器を安全かつ清潔な状態で提供できる。
認知症ケア委員会	3	認知症について理解を深め、認知症患者それぞれに合った適切なケアを行う。
サービス向上委員会	4	利用者及び家族が安心して利用できる環境を作り、職員が接遇意識をもって働くことができる。

(2) 実習指導

期 間	依 頼 先	人数	実 習 内 容
平成31年 4月 1日 ～ 2年 3月 31日	群馬県立伊勢崎興陽高等学校	1名	分散介護実習 (3年)
平成31年 4月 1日 ～ 2年 3月 31日	群馬県立伊勢崎興陽高等学校	1名	分散介護実習 (2年)
令和元年 7月 8日 ～ 元年 8月 5日	東京福祉大学	1名	介護実習「Ⅱ」
令和元年 10月 9日 ～ 元年 11月 2日	高崎健康福祉大学	2名	認知症看護認定看護師教育課程
令和元年 11月 11日 ～ 元年 11月 22日	群馬大学	2名	介護等体験

(3) 研究業績・学会発表

①口演・示説

演者名	共同演者名	演題名	学会名	口演年月	開催地	口演/示説
鈴木 佐智子	飯塚 敦子 田中 裕子	転倒転落事故等に対する職員全体の意識向上への取り組み ～気付きの共有による事故予防～	第29回群馬県老人保健施設大会	元年12月	群馬	口演

(4) 行 事

月	行事名	慰問者等	概要
4月	公園散歩 (西部公園)		季節の変化を肌で感じよう
5月	おやつ作り		「チョコバナナ」「チョコレートムース」作り
6月	地域交流会	連取本町区長寿会・子供育成会・老人会 コーラスグループ	老健施設で交流しよう
7月	安来節 (慰問)		安来節を楽しもう
8月	おやつ作り		「かき氷」作り
9月	敬老会	太極拳、南京玉すだれ	みんなで楽しもう
10月	公園散歩 (西部公園)		季節の変化を肌で感じよう
11月	運動会		みんなで元気に体を動かそう
12月	クリスマス会	コーラスグループ、なかよし保育所	季節の歌を楽しもう
1月	新年会	ひばり保育園	みんなで楽しもう
2月	節分 (職員劇) 大衆演劇 (慰問)		職員と利用者の寸劇 大衆演劇を楽しもう
3月	カラオケ大会		みんなで楽しく歌おう

※毎月開催：誕生日会、書道クラブ、映画鑑賞

ⅩⅢ 訪問看護ステーションいせさき

XIII 訪問看護ステーション いせさき

1. 業務概要

1. スタッフ

所長1名、看護副長1名、看護副主任3名、看護師1名、課長1名(兼務)、係長1名(兼務)、主任1名(兼務)、非常勤一般職員2名 計11名

2. 業務の現況

当ステーションは、介護主体の利用者、医療器機装着の利用者、ターミナル等、幅広く対応している。紹介元は併設する伊勢崎市民病院からの依頼が約65.1%、ケアマネジャー30.2%、開業医からの依頼は4.7%と前年度並だった。また、ターミナル療養費・ターミナルケア加算の算定数は13件と前年度並み、在宅看取9件で前年度より1件減少した。

利用者の訪問開始数と訪問のべ回数の減少により、令和元年度の収益は3,191千円の赤字であった。

ステーションの基本理念として「利用者に対し安全、安楽な看護を提供する」を掲げ、利用者および家族の意思を尊重し、看護に取り組んでいる。今後も利用者からの苦情、要望に耳を傾け看護を行って行きたい。また利用者の獲得については、今後も病院及び地域との連携を強化していきたい。

3. 今後の目標

- (1) スタッフの個々の教育に力を注ぎながら、訪問看護ステーションとして組織のケア力を高めていく。
- (2) 選ばれる居宅サービス事業者として、また、病院併設の居宅サービス事業者として、各関連機関と良い協力関係を継続し、信頼される質の良い看護を提供して行きたい。

(登山 寿美江)

2. 経営状況

(1) 損益計算書

(単位:千円, %)

科 目	27		28		29		30		元	
	金額	前年比								
運 営 事 業 収 益	56,213	106.0	53,120	94.5	54,095	101.8	52,021	96.2	50,119	96.3
介護保険収益	31,210	102.6	32,153	103.0	30,669	95.4	30,526	99.5	26,764	87.7
医療保険収益	24,291	110.3	20,325	83.7	22,764	112.0	20,827	91.5	22,675	108.9
その他利用料収益	712	116.0	642	90.2	662	103.1	668	100.9	680	101.8
運 営 事 業 外 収 益	167	70.8	189	113.2	177	93.7	135	76.3	273	202.2
受取利息配当金	94	101.1	91	96.8	30	33.0	40	133.3	9	22.5
その他運営事業外収益	73	51.0	98	134.2	117	119.4	95	81.2	264	277.9
特 別 利 益	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
固定資産売却益	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
過年度損益修正益	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
その他特別利益	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
収 入 計	56,380	105.8	53,309	94.6	54,272	101.8	52,156	96.1	50,392	96.6
運 営 事 業 費 用	52,349	98.7	50,850	97.1	51,782	101.8	52,999	102.4	53,583	101.1
給 与 費	49,203	98.9	47,955	97.5	48,278	100.7	49,649	102.8	50,469	101.7
材 料 費	204	83.6	185	90.7	272	147.0	235	86.4	249	106.0
経 費	2,032	83.2	1,553	76.4	2,057	132.5	1,861	90.5	1,931	103.8
減 価 償 却 費	874	198.6	1,128	129.1	1,030	91.4	1,182	114.8	844	71.4
資 産 減 耗 費	0	皆減	0	-	48	皆増	0	皆減	49	皆増
研 究 研 修 費	36	57.1	29	80.6	96	331.9	72	75.0	41	56.9
運 営 事 業 外 費 用	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
支払利息及び企業債取扱諸費	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
雑 損	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
その他運営事業外費用	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
特 別 損 失	0	皆減	0	-	0	-	0	-	0	-
固定資産売却損	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
過年度損益修正損	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
その他特別損失	0	皆減	0	-	0	-	0	-	0	-
支 出 計	52,349	91.6	50,850	97.1	51,782	101.8	52,999	102.4	53,583	101.1
収 支 差 引	4,031	205.2	2,459	61.0	2,490	101.3	△843	-	△3,191	-

(2) 貸借対照表

(単位：千円, %)

科 目	27		28		29		30		元	
	金 額	前年比								
固 定 資 産	—	195.8	7,069	118.2	7,210	102.0	7,210	100.0	1,222	16.9
有 形 固 定 資 産	3,306	68.1	3,268	98.9	3,297	100.9	2,115	64.1	1,222	57.8
償 却 資 産	3,306	68.1	3,268	98.9	3,297	100.9	2,115	64.1	6,231	294.6
減価償却累計額(△)	2,673	148.6	3,801	142.2	3,913	102.9	5,095	130.2	5,009	98.3
流 動 資 産	98,538	106.2	103,082	104.6	107,913	104.7	110,504	102.4	110,958	100.4
現 金 及 び 預 金	81,551	106.1	86,352	105.9	91,973	106.5	95,191	103.5	94,465	99.2
未 収 金	8,987	114.2	8,730	97.1	7,940	91.0	7,313	92.1	8,493	116.1
有 価 証 券	8,000	100.0	8,000	100.0	8,000	100.0	8,000	100.0	8,000	100.0
資 産 合 計	101,844	106.3	106,350	104.4	111,210	104.6	112,619	101.3	112,180	99.6
固 定 負 債	21,696	111.6	23,954	110.4	26,212	109.4	28,470	108.6	30,728	107.9
退 職 給 付 引 当 金	21,696	111.6	23,954	110.4	26,212	109.4	28,470	108.6	30,728	107.9
流 動 負 債	12,478	98.0	12,302	98.3	12,379	100.9	12,372	99.9	12,867	104.0
未 払 金	569	145.3	365	64.1	409	111.9	418	102.2	484	115.8
引 当 金	3,682	89.5	3,710	100.8	3,763	101.4	3,737	99.3	4,175	111.7
そ の 他 流 動 負 債	8,227	100.0	8,191	99.6	8,207	100.2	8,217	100.1	8,208	99.9
負 債 合 計	34,174	106.2	36,220	106.0	38,591	106.5	40,842	105.8	43,595	106.7
資 本 金	50,638	100.0	51,765	102.2	52,854	102.1	53,963	102.1	53,963	100.0
剰 余 金	17,032	131.0	18,365	107.8	19,765	107.6	17,814	90.1	14,622	82.1
利 益 剰 余 金	17,032	131.0	18,365	107.8	19,765	107.6	17,814	90.1	14,622	82.1
資 本 合 計	67,670	106.3	70,130	103.6	72,619	103.6	71,777	98.8	68,585	95.6
負 債 資 本 合 計	101,844	106.3	106,350	104.4	111,210	104.6	112,619	101.2	112,180	99.6

3. 業 務 統 計

(1) 訪問実人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	48	44	44	47	50	45	50	50	50	48	47	49	572
医療保険	28	25	27	32	25	27	26	29	31	33	31	31	345
合 計	76	69	71	79	75	72	76	79	81	81	78	80	917

(2) 訪問延べ回数

(単位：回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	236	245	234	261	260	233	255	226	253	233	218	231	2,885
医療保険	186	145	164	187	143	139	168	156	203	190	147	213	2,041
合 計	422	390	398	448	403	372	423	382	456	423	365	444	4,926

(3) 疾患別対象者

(単位：人)

疾患名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
悪性腫瘍	29	24	26	32	22	27	27	29	30	32	28	25	331
脳・神経	6	6	6	6	6	6	7	7	5	5	5	4	69
呼吸器	8	8	8	8	9	9	10	11	11	9	8	9	108
循環器	12	11	11	11	13	14	14	12	13	13	13	16	153
消化器	6	6	5	7	9	6	5	5	7	6	6	6	74
泌尿器疾患	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4	4	4	39
整形外科	3	3	4	3	3	3	3	3	4	4	4	4	41
内分泌	3	2	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	36
認知症	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
難病	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	37
その他	3	3	3	3	2	2	2	2	3	4	4	4	35
合計	77	70	73	81	75	78	80	83	85	85	80	80	947

*重複計上

(4) 年齢別対象者

(単位：人)

年齢別	～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～
	91	21	34	68	169	183	218	131

(5) 訪問内容

(単位：回)

訪問内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保清の援助	213	205	216	207	239	209	238	208	240	202	179	231	2,587
排泄の援助	157	133	155	165	165	133	165	128	155	157	148	160	1,821
医療器具の管理	174	167	157	152	145	149	163	162	178	188	157	209	2,001
褥創処置	114	89	70	82	65	65	67	67	96	54	52	73	894
リハビリ	16	16	17	20	29	26	26	29	26	24	16	31	276
内服・処置・介護指導	421	383	383	435	399	356	406	347	451	417	345	441	4,784
福祉サービスのすすめ	2	5	23	10	12	12	6	11	10	3	9	7	110
精神的ケア	422	387	398	448	403	372	423	382	456	423	365	444	4,923
整容の援助	137	91	109	105	118	93	112	109	159	131	109	172	1,445
ターミナルケア	44	40	69	91	63	49	46	57	65	79	58	73	734
他部門との連絡	53	44	53	79	69	76	61	71	70	66	72	84	798
I V H 管理	4	2	6	11	9	17	0	6	19	26	16	14	130
注射・採血・検査	23	32	48	32	27	52	50	51	51	46	39	30	481
死後の処置	0	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	1	6
合計	1,780	1,595	1,704	1,837	1,744	1,610	1,763	1,629	1,977	1,816	1,565	1,970	20,990

*重複計上

(6) 訪問時間（介護保険利用者のみ）

(単位：回)

時間	30分未満	30～60分	60～90分	90～120分	120分以上
	1,152	1,610	38	85	0

(7) 医療機器装着者数

(単位:人)

医療機器名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
酸素療法	9	8	8	11	10	10	10	12	10	10	10	9	117
吸引器	5	4	3	5	7	6	5	5	3	3	4	3	53
C V ポート	2	1	1	3	3	4	3	3	5	6	6	4	41
経管栄養	6	5	4	6	5	5	5	5	4	4	6	4	59
留置カテーテル	7	8	7	8	8	6	6	9	8	9	8	8	92
人工呼吸器	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	15
気管カニューレ	3	3	2	3	2	2	2	2	1	1	2	1	24
人工肛門	6	7	7	7	7	5	5	6	6	8	7	8	79
人工膀胱	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	37
盲腸ポート	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	45	42	37	48	47	43	41	47	42	46	48	43	529

※重複計上

(8) 利用者の開始(紹介)状況:保険別

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
市民病院	医療保険	5	4	5	7	2	5	4	6	6	6	4	2	56
	介護保険	0	1	1	2	4	1	3	0	0	0	0	1	13
開業医	医療保険	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4
	介護保険	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	1	4	9
施設	医療保険	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護保険	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	4
合計	5	5	7	10	6	6	8	8	9	6	6	10	86	

(9) 訪問終了状況:保険別

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
入院	医療保険	7	3	2	5	4	4	2	5	1	3	7	2	45
	介護保険	3	0	0	0	0	2	1	2	2	1	0	2	13
施設入所	医療保険	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	4
	介護保険	3	0	0	1	0	0	0	0	1	2	3	0	10
在宅死亡	医療保険	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	2	8
	介護保険	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
軽快	医療保険	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	介護保険	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	6
合計	15	4	2	10	6	7	3	9	7	7	11	8	89	

(10) 時間外携帯電話利用状況

(単位：回)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間外	5:00~8:30	2	1	1	6	2	2	3	7	2	1	1	5	33
	17:15~22:00	3	0	4	13	4	2	6	5	4	7	4	13	65
	22:00~5:00	4	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	8
	小計	9	1	5	19	7	4	10	12	6	9	5	19	106
土曜	5:00~8:30	3	1	3	6	1	1	1	1	1	2	6	1	27
	8:30~17:15	10	10	6	12	7	9	7	19	10	20	26	11	147
日曜	17:15~22:00	10	5	1	5	2	0	0	4	4	1	2	3	37
	22:00~5:00	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	8	1	13
祝日	小計	23	16	11	23	10	10	9	24	16	24	42	16	224
計		32	17	16	42	17	14	19	36	22	33	47	35	330

(11) 緊急訪問件数

(単位：回)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	8:30~17:15	3	0	3	5	0	3	9	3	4	5	0	10	45
時間外	5:00~8:30	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3
	17:15~22:00	1	0	2	3	2	0	1	1	1	0	1	3	15
	22:00~5:00	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	5
土曜	5:00~8:30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8:30~17:15	4	2	6	5	2	2	6	8	3	6	8	5	57
日曜	17:15~22:00	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	22:00~5:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計		12	2	11	14	5	7	16	13	9	11	9	21	130

4. 実習

(1) 実習指導

期 間	学 校 名	人 数	実 習 内 容
元年5月13日~10月3日	桐生大学看護学科	14	在宅看護論 3年生
元年8月1日~9月18日	伊勢崎市市民病院	27	退院支援看護師育成研修

XIV 群馬県立赤城特別支援学校
伊勢崎市民病院内教室

XIV 群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室

1. 開設の趣旨

昭和52年度から地域医療の充実を図るための一環として小児科医師を2名から4名に増員し、5月1日小児科専門病棟を開設した。小児慢性疾患等のため長期入院治療を必要とする患者の増加に伴い、地域住民から病弱学級を設置して就学に対する不安を解消し、継続して入院治療を受けられるよう強い要望があり、10月18日県知事、県教育委員会に陳情した。その結果、関係者の小児長期入院患者の教育問題に対する熱心な配慮が実を結び、昭和53年4月1日群馬県立養護学校伊勢崎分教室が開設された。

2. 沿革

昭和53年3月	伊勢崎病院西1階病棟8部屋 222.15㎡（共用部分を含む）を伊勢崎病院分教室として建物使用許可
昭和53年4月1日	群馬県立養護学校伊勢崎病院分教室開設 許可学級 3（複々式学級 小2・中1） 教職員 教諭3 教室等 普通教室3、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和53年4月8日	入学式 児童生徒数 17名
昭和54年4月1日	群馬県立東毛養護学校伊勢崎市民病院分教室に名称変更
昭和55年4月1日	群馬県立東毛養護学校伊勢崎分校昇格 許可学級 4（複々式学級 小2・中2） 教職員 教頭1 教諭3 教室等 普通教室4、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和56年4月1日	許可学級 5（複式学級 小3・中2） 教職員 教頭1 教諭4 教室等 普通教室5、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和58年4月1日	許可学級 6（複式学級 小3・単式学級 中3） 教職員 教頭1 教諭5 教室等 普通教室6、理科室、実技室、プレイルーム、職員室、教具室
昭和61年4月1日	教職員 教頭1 教諭6
昭和62年4月1日	教職員 教頭1 教諭7
平成元年4月1日	教職員 教頭1 教諭8
平成3年4月1日	伊勢崎市民病院東1階病棟に移転、141.52㎡建物使用許可 教室等 普通教室6、職員室
平成9年4月1日	群馬県立赤城養護学校伊勢崎分校に名称変更
平成10年12月18日	伊勢崎市民病院南棟1階に移転、341.26㎡建物使用許可 教室等 普通教室6、理科家庭科室、多目的室、プレイホール、職員室
平成27年4月1日	群馬県立赤城特別支援学校伊勢崎市民病院内教室に名称変更 認可学級5 教職員 教諭5

3. 児童生徒数

年間在籍者数（単位 人）

学年 年度	小 学 部							中 学 部				合 計		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	男	女	計
27	4	1	2	4	4	2	17	4	1	0	5	17	5	22
28	0	1	0	0	0	0	1	4	2	0	6	3	4	7
29	0	2	0	1	1	4	8	3	2	2	7	7	8	15
30	0	0	0	0	0	2	2	2	0	2	4	5	1	6
元	0	0	0	2	0	1	3	6	2	1	9	6	6	12

4. 教育目標

児童生徒一人一人が、自己を大切にするとともに自立と社会参加を目指して自ら学び、好ましい人間関係の中で明るく元気に明日へ向かって生きる豊かな人間性を身に付ける。

5. 学校病院連絡会議

学校病院連絡会議は、学校側と病院側の職員が参加し、学校・病院運営の相互の理解、学校行事、学習指導、生活指導、児童生徒の病状等の事項を連絡協議して連携を図り、協力の充実に努める。

XV 編集委員名簿

XV 編集委員名簿

□■編集委員■□

委員長	病 院 長	小林 裕 幸
副委員長	副院長兼経営企画部長	大 和 克 弘
委 員	副 院 長	大 林 民 幸
	看 護 部 長	木 村 恭 子
	薬 剤 部 長	大和 由美子
	リハビリテーション科技師長	丸 橋 俊 弘
	中央放射線科技師長	武 田 久
	中央検査科技師長	松 島 秀 子
	栄 養 科 主 任	齋 藤 克 哉
	企 画 財 政 課 長	小此木 聡
	医療サービス課長	松 原 弘 和
	地域医療連携室長	大 下 洋 美

□■事務局■□

企 画 財 政 課	桑 名 隆 毅
	大 月 剛
	福 島 将 志
	須 藤 慎 浩
	小 林 文 雄

伊勢崎市民病院年報

第 43 号

令和 3 年 3 月 1 日

編集発行

伊勢崎市民病院

〒372-0817 伊勢崎市連取本町 12 番地 1

電話 (0270) 25-5022

印刷所

第一印刷株式会社

〒372-0812 伊勢崎市連取町 1344

電話 (0270) 25-0919